2025

SYLLABUS

OMPU

Osaka Medical and Pharmaceutical University

目　　次

建学の精神・学是 …… 4
理念・目的 …… 5
３つのポリシー …… 6
コンピテンシー達成レベル表 …… 10
コンピテンシーズレベルマトリクス …… 11
医学部カリキュラムマップ …… 19
医学部カリキュラムツリー …… 20
順次性のある体系的なカリキュラムの編成と科目ナンバリング制度の導入 …… 21
医学部2024年度以降入学者用カリキュラムナンバリングコード一覧 …… 23
キャンパスマップ …… 24
学事予定表 …… 26
授業準備学習（予習・復習）について …… 27
三学部合同科目 …… 28
生成 AI の取り扱いに関する基本方針について …… 30

［1年］
人間科学 文学入門 …… 48
人間科学 宗教学 …… 49
人間科学 哲学 …… 50
情報科学 …… 51
セミナー A/B …… 55
スポーツ健康科学 …… 91
数理科学 …… 93
生命誌 …… 95
国際言語文化 1 （英語） …… 99
国際言語文化 2 （独語） …… 102
生命科学 1 （物理学） …… 104
生命科学 2 （化学） …… 107
生命科学 3 （生物学） …… 110
生命科学実習 …… 113
物理学（力学）初歩 …… 117
基礎物理学 …… 119
化学通論 …… 122
生物学入門 …… 125
人体の構造 1 （肉眼解剖学） …… 127
人体の構造 2 （神経解剖学） …… 133
データサイエンス 1 …… 138
コミュニケーション学 …… 141
医学概論 …… 144
医学心理学・行動科学 …… 149
早期体験実習 1 …… 153
多職種連携論 1 - 医療人マインド …… 158
インタラクティブ・イングリッシュⅠ …… 163
インタラクティブ・イングリッシュⅡ …… 164
医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都 …… 165
グローバル・スタディーズ …… 167

［2年］

医学英語 1 …… 183
人体の構造 3 （組織学） …… 186
人体の構造 4 （人体発生学） …… 191
人体の機能 1 （分子生物学） …… 196
人体の機能 2 （生理学） …… 199
人体の機能 3 （生化学） …… 206
病気の成り立ち 1 …… 210
薬物療法 1 …… 214
病原体・生体防御 1 …… 217
病原体・生体防御 2 …… 220
病原体・生体防御 3 …… 225
診断学入門 …… 233
データサイエンス 2 …… 243
早期体験実習 2 …… 246
多職種連携論 2 - 医療と専門職 …… 251
インタラクティブ・イングリッシュⅠ …… 254
インタラクティブ・イングリッシュⅡ …… 255
医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都 …… 256
グローバル・スタディーズ …… 258

［3年］

医学英語 2 …… 269
病気の成り立ち 2 …… 272
薬物療法 2 …… 275
病原体・生体防御 3 …… 277
診断学入門 …… 285
循環器 …… 292
腎尿路・男性生殖器 …… 297
女性生殖器・婦人科腫瘍 …… 304
呼吸器 …… 308
消化器 …… 313
血液 …… 319
内分泌・代謝 …… 326
アレルギー・免疫 …… 330
皮膚 …… 334
運動器 …… 341
神経 …… 346
精神・行動 …… 353
妊娠・出産 …… 363
成長・発達 …… 367
思春期・ホルモン …… 372
加齢・高齢者 …… 376
臨床技能 1 …… 380
医学・医療と社会Ⅰ …… 384
医学・医療と社会Ⅱ …… 388
医療プロフェッショナリズム・コア 1 …… 392
インタラクティブ・イングリッシュⅠ …… 402

インタラクティブ・イングリッシュⅡ …… 403
医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都 …… 404

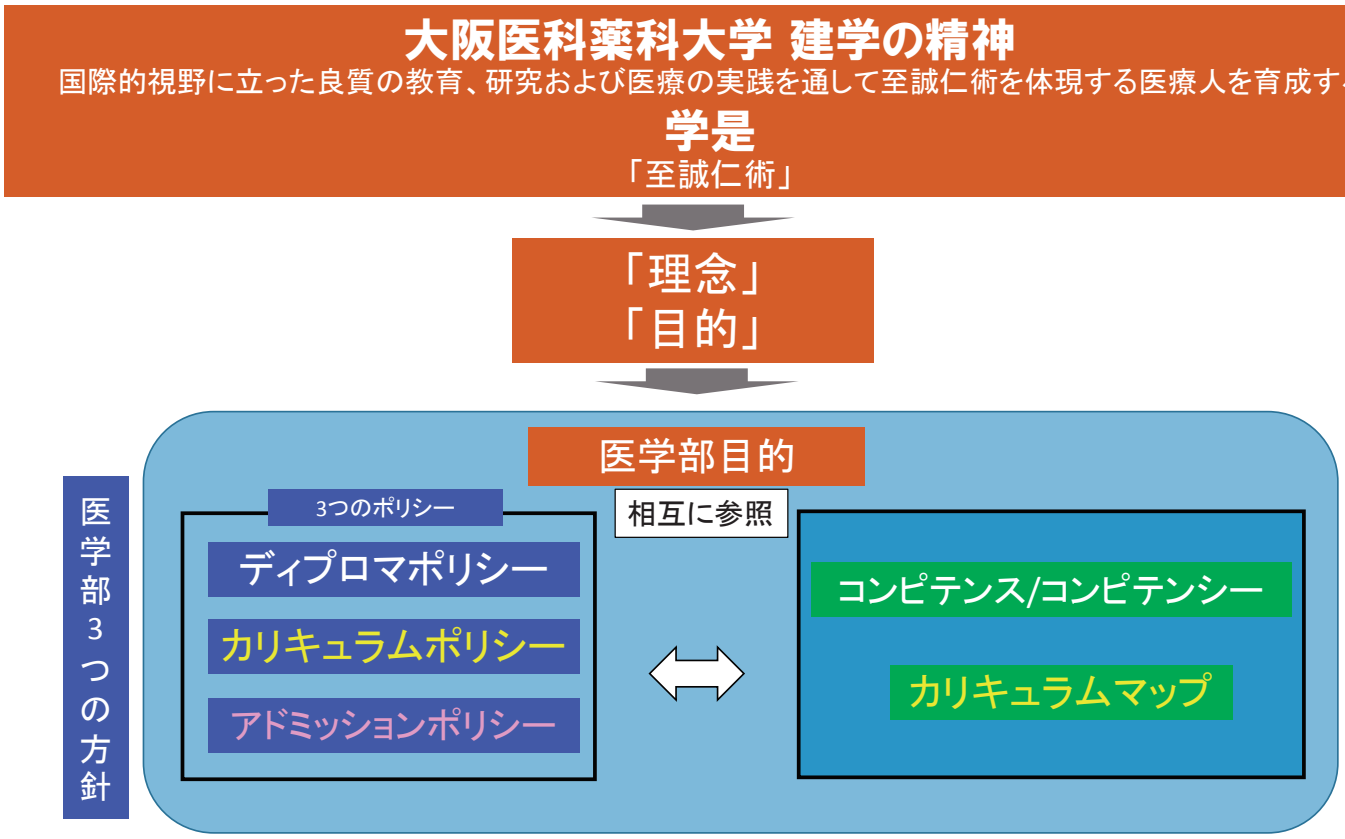
［4年］
薬物療法3 …… 417
感覚器1（眼科）…… 419
頭頸部・感覚器2（耳鼻科）…… 429
妊娠・出産 …… 433
成長・発達 …… 437
思春期・ホルモン …… 442
加齢・高齢者 …… 446
麻酔 …… 451
救急 …… 458
リハビリテーション …… 463
放射線治療・放射線障害 …… 470
腫瘍 …… 475
感染症 …… 484
診断学 …… 489
臨床技能2 …… 495
地域・産業保健 …… 499
死と科学 …… 502
医学英語3 …… 506
学生研究3 …… 509
医療プロフェッショナリズム・コア2 …… 512
臨床実習前客観的臨床能力試験（Pre-CC OSCE）…… 516
多職種連携論3 - 医療倫理 …… 517
インタラクティブ・イングリッシュⅠ …… 518
インタラクティブ・イングリッシュⅡ …… 519
医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都 …… 520

［5年］
多職種連携論4 - 医療安全 …… 532
データサイエンス3 …… 533
インタラクティブ・イングリッシュⅠ …… 536
インタラクティブ・イングリッシュⅡ …… 537

［6年］
臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）…… 546
インタラクティブ・イングリッシュⅠ …… 547
インタラクティブ・イングリッシュⅡ …… 548

学則 …… 549
医学部規程 …… 567
医学部授業科目履修認定方法及び学習の評価・進級・卒業に関する細則 …… 580
2025年度開講科目一覧（実務経験教員一覧）…… 584
2025年度開講科目一覧（SDGs一覧）…… 589

1．建学の精神・学是


大阪医科薬科大学 建学の精神
国際的視野に立った良質の教育、研究および医療の実践を通して至誠仁術を体現する医療人を育成する
学是
「至誠仁術」
「理念」
「目的」
医学部目的
医学部3つの方針
3つのポリシー
ディプロマポリシー
カリキュラムポリシー
アドミッションポリシー
相互に参照
コンピテンス/コンピテンシー
カリキュラムマップ

理念・目的

理　念

大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。（学則第１条）

大阪医科薬科大学　目的

本学は、前条の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。
（学則第２条）

1．人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材
2．変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材
3．地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

医学部　目的

学則に定める本学の目的に基づき、医学部医学科の目的は、次の各号のとおりとする。
（医学部規程第２条）

1．生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。
2．多様な人材と共同し、医学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。
3．科学的知識と倫理的判断に基づき、疾病および治療に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。
4．医師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。
5．医師として専門能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

大阪医科薬科大学医学部３つのポリシー

アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

大阪医科薬科大学は、建学の精神および学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成するため、次のような人材を求めています。

(1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材
(2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材
(3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材

そこで医学部では、次のような学生を求めています。

求める学生像

1．医学を学ぶ明確な目的と意欲をもっている人
2．医学を学ぶために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力をもっている人
3．人に対する思いやりと豊かな人間性、および高い倫理性をもっている人
4．他の人の意見を尊重し、コミュニケーション能力を涵養できる人
5．知的好奇心と探究心をもって、自ら生涯にわたり課題の発見と解決に取り組むことのできる人
6．柔軟な思考ができ、多様化と国際化に向かう現代社会に適応できる人

大学入学までに身につけておくべき教科・科目等

1．数学：知識に加え、数学的・論理的に思考し表現する能力
2．理科：物理、化学、生物についての知識、科学的知識・思考にもとづいた判断力と探求心
3．外国語：英語についての読解力・表現力と英語による基礎的なコミュニケーション能力
4．国語：日本語文章の読解力・構成力、および日本語による表現力
5．地理歴史・公民：基礎的な知識に加え、物事を社会的視点から理解する能力

入学者選抜の基本方針

以上のような学生を選抜するため、以下の選抜を実施し、様々な要素を評価します。

・一般選抜では、知識・技能に加え、提出書類や面接等により思考力・判断力・表現力等の資質を評価します。
・総合型選抜では、知識・技能に加え、提出書類や面接等により主体性・協働性、思考力・判断力・表現力等の資質、また本学及び医学への関心・意欲を評価します。
・学校推薦型選抜では、知識・技能に加え、提出書類や面接等により主体性・協働性、思考力・判断力・表現力等の資質、また本学及び医学への関心・意欲を評価します。

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

大阪医科薬科大学の理念、および医学部医学科の目的のもと、ディプロマポリシーに示された学修成果を学生が達成することを目的として、教育課程編成の方針を以下のように定めます。

１．初期教育

教養教育科目や医学準備教育科目の講義、セミナー、実習を通して、医学・医療を学修するために必要な知識、態度、技術を修得します。

２．基礎医学教育

基礎医学科目の講義と実習を通して、社会医学、臨床医学に活用できる体系的な知識を修得します。

３．社会医学・臨床医学教育

医療経済、医療保険、医療法規などの講義を通して、代表的な疾患の病態、診断、治療・予防についての知識を修得します。

４．臨床実習

コア・クリニカル・クラークシップでは、大学病院の各診療科において実習を行い、アドバンスト・クリニカル・クラークシップでは、主に地域の医療機関で臨床実習を行い、医療の現場を教室として患者から学ぶことにより、実践的な診療能力を獲得します。

５．医療プロフェッショナリズム

早期体験実習から参加型臨床実習を通して、医療の全体的な流れを体験的に学びつつ、医療人に必要な倫理やチーム医療でのコミュニケーション能力等を修得します。また、地域医療実習などを通して、医療人として地域固有の課題を見つけ解決する能力を獲得します。

６．語学・国際交流

医療面接や海外との情報受発信に必要な語学力を修得します。国際交流や海外研修の機会により、国際性豊かな医療人を育成します。

７．リサーチマインド

リサーチマインドを醸成し、自ら課題を発見し、それを解決する姿勢を獲得します。また、EBM（evidence-based medicine）を実践する能力を獲得します。

８．データサイエンス

データサイエンスおよびAI導入により激動する未来の医療界における自らの在り方を省察し、未来における諸問題を解決する能力を獲得します。数理科学に基づいた統計的アプローチやデータ分類、解釈、解析、表現法について学び、データを正しく評価、活用する基盤となるリテラシーを身に着けます。

９．多職種連携

医薬看融合教育を含む、他学部の学生とともに学び討論する教育を通し、チーム医療を実践する能力を獲得します。

上記の方針をもとに編成した教育課程では、講義、演習、実習等の教育内容に応じて、アクティブラーニング、体験型学修、オンライン教育なども活用した教育、学修を実践します。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

建学の精神・学是に則り、種々の活動を通じて強い倫理観、責任感、および指導力を涵養しつつ、医学を中心とした諸科学の知識を身につけ、医師や医学研究者としての資質と能力を将来にわたって発揮できる人材の育成を目指しています。必要な所定の単位を修得し、以下の能力を獲得した学生に対して卒業を認定し、学士（医学）を授与します。

１．倫理とプロフェッショナリズム

高い倫理性と誇りをもって、自己管理能力とリーダーシップを有し、他者に敬意をもって接することができる。

２．医学・科学的知識

医学における科学的知識について十分に理解し、診療や研究に活用できる。

３．実践的診療能力

統合された医学・科学的知識、技能に基づいて、高い倫理観を有し、患者に敬意と思いやりをもって、医療行為を実践できる。

４．自律的探求能力

医師や医学研究者としての能力の向上を目指し、生涯にわたって自ら学習することができる。

５．多職種連携とコミュニケーション

他の医療職の立場や考え方を理解、尊重しながら自分の考えを伝え、チーム医療において良好な人間関係を構築することができる。

６．医療の社会性と国際性

医療の社会性に関する基本的な知識を身につけたうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。また医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者・研究者や患者とコミュニケーションを取ることができる。

アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

大阪医科薬科大学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、各学部で定めたアドミッションポリシー（入学者受入の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）、ディプロマポリシー（学位授与の方針）を踏まえた指標に基づき学生の学修成果を測定・評価します。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行います。

アセスメントポリシーに基づく点検評価によって「教学マネジメント」を確立させ、不断の教育改善に取り組みます。

【評価の目的】

学修成果を可視化することにより、学修支援及び教育課程の改善等を恒常的に行います。

・学位授与の方針に掲げられている資質と能力の修得状況を把握するために、評価を実施します（教育課程レベルにおける学修成果の可視化）。

・各科目において示された学習目標の達成状況を把握するために、評価を実施します（科目レベルにおける学修成果の可視化）。

医学部医学科のアセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル（学部レベル）	入学試験 入学時調査 入試制度評価	・修得単位数 ・ＧＰＡ ・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・ＤＰ到達度調査） ・進級率、休学率、退学率 ・学年総合試験成績 ・共用試験成績 ・ポートフォリオ ・入試制度別成績、態度	・卒業要件：修得単位数 ・資格取得：国家試験合格率 ・ＧＰＡ（通算） ・進級率、休学率、退学率、ストレート率 ・就職率 ・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・ＤＰ到達度調査） ・入試制度別成績、態度
科目レベル		・各科目評価（講義・演習・実習）…出席、試験成績、レポート、ポートフォリオ、語学アセスメントテスト成績等 ・授業評価アンケート	・各科目成績（講義・演習・実習）

コンピテンシー達成レベル表

レベル（達成度）	Advanced	Applied	Basic	Basic		
倫理とプロフェッショナリズム						
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に:	A	B	C	D	E	F
高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	高度専門職人としての態度・価値感を現場で実践できることが単位認定の要件である	高度専門職人としての態度・価値感を模擬的に示せることが単位認定の要件である	基盤となる態度・価値観を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	経験する機会はあるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
医学科学的知識						
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に:	A	B	C	D	E	F
医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	実践の場で問題解決に応用できることが単位認定の要件である	問題解決に応用できる知識を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識の出典、引用方法、信頼度を示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	修得する機会があるが、単位認定に関係ない	修得する機会がない
実践的診療能力						
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に:	A	B	C	D	E	F
統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	診療の一部として実践できることが単位認定の要件である	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
自律的探求能力						
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に:	A	B	C	D	E	F
基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	実践できることが単位認定の要件である	研究計画の立案、研究の見学、参加が単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
多職種連携とコミュニケーション						
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に:	A	B	C	D	E	F
他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	診療の一部として実践することが単位認定の要件である	模擬診療を実施できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない
医療の社会性と国際性						
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に:	A	B	C	D	E	F
本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	実践できることが単位認定の要件である	模擬的に実践できることが単位認定の要件である	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である	経験する機会があるが、単位認定に関係ない	経験する機会がない

第１学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第1学年	情報科学	数理科学	生命論	国際言語文化１（英語）	国際言語文化２（独語）	生命科学　１（物理学）	生命科学　２（化学）	生命科学　３（生物学）	生命科学実習	物理学（力学）初歩	基礎物理学	化学通論	生物学入門	人体の構造１（肉眼解剖学）	人体の構造２（神経解剖学）	データサイエンス１	コミュニケーション学	医学概論	医学心理学・行動科学	早期体験実習１	多職種連携論１－医療人マインド
倫理とプロフェッショナリズム																					
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。 卒業生は：																					
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。														C	D		D	C		D	D
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	E													C	D					E	D
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。																		D			E
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D													C	D	D				E	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。																				E	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。																				E	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。			D														D			E	E
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。			D															D	D	E	E
医学・科学的知識																					
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。 卒業生は：																					
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。		D	D			D	D	D	D	D	D	D	D	D	D			D			
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	E																				E
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。																	D	D	D	E	E
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。														D	D			D			
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。																		D			
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。																					
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。																					
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集してEBM実践に活用できる。																					
実践的診療能力																					
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。 卒業生は：																					
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。																			D		
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。																					
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。																					
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。																					
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。																					
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。			D																		
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。																					
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。																					
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。																					
10. ICTを活用し、EBMを重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。																					
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。																D				E	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。																					
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。																					
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。																					

第１学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第1学年	情報科学	数理科学	生命倫	国際言語文化１（英語）	国際言語文化２（独語）	生命科学　１（物理学）	生命科学　２（化学）	生命科学　３（生物学）	生命科学実習	物理学（力学）初歩	基礎物理学	化学通論	生物学入門	人体の構造１（肉眼解剖学）	人体の構造２（神経解剖学）	データサイエンス１	コミュニケーション学	医学概論	医学心理学・行動科学	早期体験実習１	多職種連携論１－医療人マインド
自律的探求能力																					
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。 卒業生は：																					
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。		D	D			D	D		D	D	D	D		C	D			C	D	E	D
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。						E	E		D	E	E	E						D			
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。															D			D		E	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。			D															C		E	D
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。			D															D			
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。																					
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D																	D			
多職種連携とコミュニケーション																					
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。 卒業生は：																					
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。																		D		E	D
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。																	D				D
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。																	D	D		E	D
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。																	D			E	D
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。																					E
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。																				E	E
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。																				E	D
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。														C						E	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。														C						E	
医療の社会性と国際性																					
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。 卒業生は：																					
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。																			D		E
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。																					
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。																		D			
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。																					
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。																			D		
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。																D					
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。																					
国際性: 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。																			D		
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。				C	D									D							
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。				C	D																

第 2 学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第2学年	医学英語1	人体の構造3（組織学）	人体の構造4（人体発生学）	人体の機能1（分子生物学）	人体の機能2（生理学）	人体の機能3（生化学）	病気の成り立ち1	薬物療法1	病原体・生体防御1	病原体・生体防御2	病原体・生体防御3	診断学入門	データサイエンス2	早期体験実習2	多職種連携論2－医療と専門職
倫理とプロフェッショナリズム															
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。 卒業生は：															
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。											C	D		D	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。												D		E	D
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。											D	D			
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。												D	D	E	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。												D		D	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。											D	D		E	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。												D		E	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。												D		E	
医学・科学的知識															
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。 卒業生は：															
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。		D	D	D	D	D	D	D		D		D			
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。		D				D	D				D	D		E	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。												D		E	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。		D	D		D	D	D		D	D	D	D			
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。							D		D	D	C	D			
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。							D		D	D	C	D			
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。											C	D			
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集してEBM実践に活用できる。												D			
実践的診療能力															
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。 卒業生は：															
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。												D			
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。											D	D			
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。											C	D			
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。									D	D	C	D			
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。											D	D			
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。									D	D		D			
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。											D	D		E	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。												D			
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。												D			
10. ICTを活用し、EBMを重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。												D	D		
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。										D		D	D	E	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。										D		D			
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。												D			
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。												D			

第 2 学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第2学年	医学英語1	人体の構造3（組織学）	人体の構造4（人体発生学）	人体の機能1（分子生物学）	人体の機能2（生理学）	人体の機能3（生化学）	病気の成り立ち1	薬物療法1	病原体・生体防御1	病原体・生体防御2	病原体・生体防御3	診断学入門	データサイエンス2	早期体験実習2	多職種連携論2－医療と専門職
自律的探求能力															
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。 卒業生は：															
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。		D	E	D	D	D	E			D				E	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。			E			D					C	D		E	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。		D				D				D	D	D			
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。					D		E			D				E	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。				D	D			E		D	D	D			
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。					D							D			
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。					D							D			
多職種連携とコミュニケーション															
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。 卒業生は：															
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。												D		E	C
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。											D	D			C
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。												D		D	C
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。					E						C	D		E	C
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。												D		E	D
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。											D			D	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。														E	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。												D		E	D
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。												D		E	
医療の社会性と国際性															
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。 卒業生は：															
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供でき												D			
2.地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。					E							D			
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。												D		E	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。											C	D			
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。											D				
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。											D		D		
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。										D	D				
国際性: 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。															
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C														
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	C														

第３学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第3学年	医学英語2	病気の成り立ち2	薬物療法2	病原体・生体防御3	診断学入門	循環器	腎尿路・男性生殖器	女性生殖器・婦人科腫瘍	呼吸器	消化器	血液	内分泌・代謝	アレルギー・免疫	皮膚	運動器	神経	精神・行動	妊娠・出産	成長・発達	思春期・ホルモン	加齢・高齢者	臨床技能1	医学・医療と社会I	医学・医療と社会II	医療プロフェッショナリズム・コア1
倫理とプロフェッショナリズム																									
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。 卒業生は：																									
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。				C	D		C			C	C			C	D	C	C								D
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。					D		D									D	C				D				D
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。				D	D		D			D	D			D		D	D				D				D
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。					D											D	C								D
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接または間接的に貢献できる。					D											C	C								D
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。				D	D		D			D	D			D		C	C					C			D
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。					D											C	C								D
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。					D												C						D	D	D
医学・科学的知識																									
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。 卒業生は：																									
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。			D				D									D	D	D	C	C	D				D
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。				D	D	D	D	D		C	D		D	D	D	D	D		C	C	D		D	D	D
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。																	D		C	C	D				D
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。		E		D		D	D	D	D	D	D	D	C	D	D	D	D	D	C	C	D				D
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。		D		C		D	C	C	C	C	C	D	C	C	D	C	C	D	C	C	D				D
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。		E		C		C	C	C	C	C	C	C	C	C	D	C	C	D	C	C	D				D
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。				C		C	C			C	C		C	C	D	C	C	D	C	C	D	C			D
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集してEBM実践に活用できる。																	C		C	C					D
実践的診療能力																									
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。 卒業生は：																									
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。					D		C										D					B			D
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。				D		D	D			D	D		D	D	D	D	D								D
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。				C	D	C	C	C		C	C		C	C	D	C	C								D
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。				C	D	C	C	D		C	C		C	C	C	C	C								D
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。				D	D		D			D	C		D	D	D	D	D					C			D
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。					D												D					C			D
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。				D	D		D			D	D	D	D	D		D	D					C			D
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。																	C								D
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。					D												C								D
10. ICTを活用し、EBMを重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。					D												D								D
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。					D												D					C			D
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。																	D								D
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。																	C								D
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。					D												D								D
自律的探求能力																									
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。 卒業生は：																									
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。							C				C						D						D	D	D
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。				C		D	C			C	C			C	D	C	D								D
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。				D		D	D			D	D			D	D	D	D								D
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。																	C								D
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。				D			D			D	D			D		D	C								D
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。																	C								D
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。																	C								D

第３学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第3学年	医学英語2	病気の成り立ち2	薬物療法2	病原体・生体防御3	診断学入門	循環器	腎尿路・男性生殖器	女性生殖器・婦人科腫瘍	呼吸器	消化器	血液	内分泌・代謝	アレルギー・免疫	皮膚	運動器	神経	精神・行動	妊娠・出産	成長・発達	思春期・ホルモン	加齢・高齢者	臨床技能1	医学・医療と社会I	医学・医療と社会II	医療プロフェッショナリズム・コア1
多職種連携とコミュニケーション																									
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。 卒業生は：																									
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。				D		C									D		D								D
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。				D	D	D	D			D	D			D		D	D					C	C	C	D
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。					D												C						D	D	D
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。				C	D	D	C			C	C			C		C	D								D
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。					D												C								D
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。				D						D	D			D		D	C					B			D
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。																	C								D
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。					D												C								D
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。																	D								D
医療の社会性と国際性																									
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。 卒業生は：																									
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。					D		C										D				D				D
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。					D												D				D				D
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。					D		C										C				D				D
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。				C	D		C			C	C			C		C	D				D		C	C	C
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。				D			D		D	D	D			D		D	B						D	D	D
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。				D		D	D			D	D			D		D	D						D	D	D
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。				D		D	D			D	D			D		D	D						D	D	D
国際性： 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。																	D								
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C																C								
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	C																A								

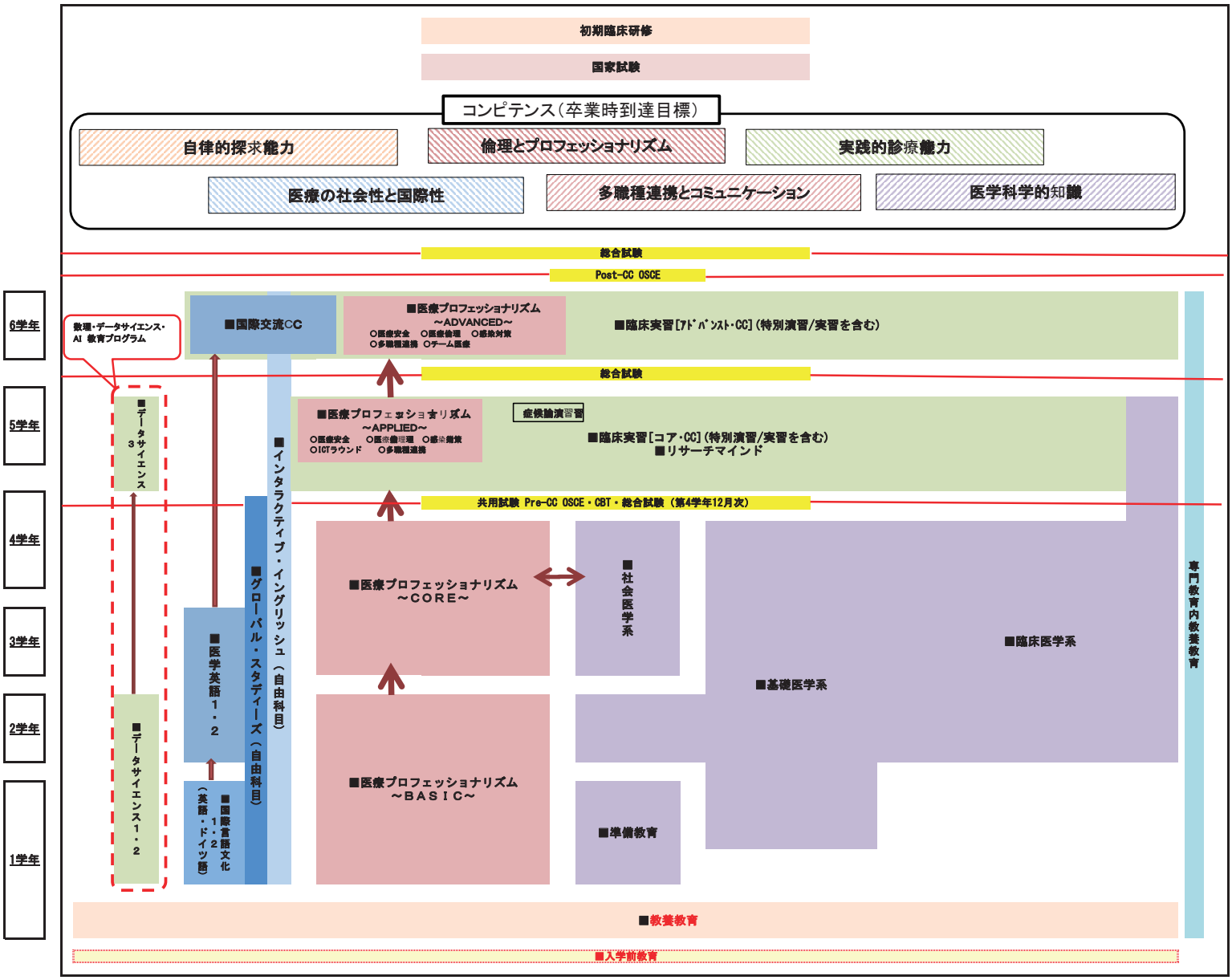
第４学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第4学年	薬物療法3	感覚器1（眼科）	頭頸部・感覚器2（耳鼻科）	妊娠・出産	成長・発達	思春期・ホルモン	加齢・高齢者	麻酔	救急	リハビリテーション	放射線治療・放射線障害	置痛	感染症	診断学	臨床技能2	地域・産業保健	死と科学	医学英語3	学生研究3	医療プロフェッショナリズム・コア2
倫理とプロフェッショナリズム																				
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。 卒業生は：																				
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。		D						B	D			C			C	B				C
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。		D					D	B	D			C					D			C
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。		D					D	C	D	D	D	C					D			C
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。		D						B	D			C		C						C
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。		D						C	D	D	D	C								
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。		D	D						D	D	D									C
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。		D							D					C						C
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。		D							D			C		C			D			C
医学・科学的知識																				
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。 卒業生は：																				
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D	D		D	C	C	D	C	D	D	D	C	D							
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。		D			C	C	D	B	D	D	D	C		C		D	D			
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。		D			C	C	D	B	D	D		C								D
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。		D	D	D	C	C	D	C	D	D	D	C								
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。		D	D	D	C	C	D	B	D	D	D	C	D				D			
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。		D	D	D	C	C	D		D	D	D	C	D							
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。		D	C	D	C	C	D		D	D	D	C	D				D			
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集してEBM実践に活用できる。		D			C	C			D	D	D	C	D							
実践的診療能能																				
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。 卒業生は：																				
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。		D								D		C			C					
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。		D								D		C			B		D			
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。		D						C		D		C		C	C		D			
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。		D	D					C		D		C	D	C	C					
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。		D	D					C		D		C	D		B					
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。		D								D	D	D								
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。		D	D							D	D	C								
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。		D								D		C								
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。		D								D		C								
10. ICTを活用し、EBMを重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。		D										C								
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。		D											C		B					
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。		D										C	C							
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。		D								D		C			C					
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。		D								D		C								

第４学年コンピテンシーズレベルマトリクス

第4学年	薬物療法3	感覚器1（眼科）	頭頸部・感覚器2（耳鼻科）	妊娠・出産	成長・発達	思春期・ホルモン	加齢・高齢者	麻酔	救急	リハビリテーション	放射線治療・放射線障害	腫瘍	感染症	診断学	臨床技能2	地域・産業保健	死と科学	医学英語3	学生研究3	医療プロフェッショナリズム・コア2
自律的探求能力																				
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。 卒業生は：																				
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。		D						C		D		C	C						A	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。		D						C		D		C		C					A	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。		D	D					C		D				C					A	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。		D						C		D		C	C						A	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。		D						C		D		C							A	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。		D										C				A			A	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。		D										C							A	
多職種連携とコミュニケーション																				
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。 卒業生は：																				
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。		D						D		D		C	D							C
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。		D						D		D		C								C
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。		D						D		D		C								
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。		D								D		C								
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。		D								D		C								
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。		D										C								
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。		D						D		D		C			B					
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。		D						B				C								
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。		D										C			C					
医療の社会性と国際性																				
大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。 卒業生は：																				
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。		D					D		D	D		C				E				
2.地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。		D					D			D		C								
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。		D					D	D			D	C					D			
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。		D					D	D		D		C								
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。		D							D	D		C		C						
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。		D										C								
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。		D										C	D							
国際性: 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。		D											D							
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。		D																C		
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。		D																C		

大阪医科薬科大学　医学部カリキュラム・マップ（2024年度以降入学生）



大阪医科薬科大学　医学部カリキュラムツリー（2024年度以降入学生）

○自由科目

	教育課程	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
総合教育	教養教育	人間科学 情報科学 セミナーA/セミナーB 大学コンソーシアム京都・大阪/医工薬連携科学道場講座 スポーツ健康科学 数理科学 生命論					
	国際言語文化	国際言語文化１（英語） 国際言語文化２（独語） ○インタラクティブ・イングリッシュⅠ ○インタラクティブ・イングリッシュⅡ ○グローバル・スタディーズ	医学英語１	医学英語２			
	準備教育	生命科学１（物理学） 生命科学２（化学） 生命科学３（生物学） 生命科学実習 ○物理学（力学）初歩 ○基礎物理学 ○化学通論 ○生物学入門					
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学） 人体の構造２（神経解剖学）	人体の構造３（組織学） 人体の構造４（人体発生学） 人体の機能１（分子生物学） 人体の機能２（生理学） 人体の機能３（生化学） 病気の成り立ち１ 薬物療法１ 病原体・生体防御１ 病原体・生体防御２ 病原体・生体防御３	病気の成り立ち２ 薬物療法２	薬物療法３		
	臨床医学系		診断学入門	循環器 腎泌尿・男性生殖器 女性生殖器・婦人科腫瘍 呼吸器 消化器 血液 内分泌・代謝 アレルギー・免疫 皮膚 運動器 神経 精神・行動 妊娠・出産 成長・発達 思春期・ホルモン 加齢・高齢者 感覚器１（眼科） 頭頸部・感覚器２（耳鼻科） 救急 リハビリテーション	麻酔 放射線治療・放射線腫瘍 腫瘍 感染症 診断学 臨床技能	臨床病理学演習	
	社会医学系			医学・医療と社会Ⅰ 医学・医療と社会Ⅱ	地域・産業保健 死と科学		
	リサーチマインド					リサーチマインド	
	データサイエンス	データサイエンス１	データサイエンス２			データサイエンス３	
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学 医学概論 医学心理学・行動科学 早期体験実習１ 多職種連携論１ −医療人マインド−	早期体験実習２ 多職種連携論２ −医療と専門職−		医療プロフェッショナリズム・ケアマインド		
臨床実習	コア・CC					臨床実習（コア・CC）（特別演習/実習を含む）	
	アドバンスト・CC						臨床実習（アドバンスト・CC）（特別演習/実習を含む）

医学部ページ

ナンバリングコードのシステムと構造（医学部）

M-01-01-A

① ② ③ ④

①学部コード
②領域・分野コード
③領域・分野別通し番号
④水準コード

■各コード説明

①学部コード

学部	コード
医学部	M
看護学部	N

②領域・分野コード

領域・分野	コード
教養教育	1
国際言語文化	2
準備教育	3
基礎医学系	4
医療プロフェッショナリズム	5
臨床医学系	6
リサーチマインド	7
社会医学系	8
臨床実習	9
データサイエンス	10

③領域・分野別通し番号

医学部カリキュラム各領域・分野内での通し番号を示す。

④水準コード

水準（達成度）	コード	内容
Advanced（上級）	A	・倫理とプロフェッショナリズム：高度専門職人としての態度・価値感を現場で実践できる。 ・医学科学的知識：実践の場で問題解決に応用できる。 ・実践的診療能力：診療の一部として実践できる。 ・自律的探求能力：実践できる。 ・多職種連携とコミュニケーション：診療の一部として実践できる。 ・医療の社会性と国際性：実践できる。
Applied（中級）	B	・倫理とプロフェッショナリズム：高度専門職人としての態度・価値感を模擬的に示すことができる。 ・医学科学的知識：問題解決に応用できる知識を示すことができる。 ・実践的診療能力：模擬診療を実施できる。 ・自律的探求能力：研究計画の立案、研究の見学、参加。 ・多職種連携とコミュニケーション：模擬診療を実施できる。 ・医療の社会性と国際性：模擬的に実践できる。
Basic（初中級）	C	・倫理とプロフェッショナリズム：基盤となる態度・価値観を示すことができる。 ・医学科学的知識：基盤となる知識の出典、引用方法、信頼度を示すことができる。 ・実践的診療能力：基盤となる態度、スキルを示すことができる。 ・自律的探求能力：基盤となる態度、スキルを示すことができる。 ・多職種連携とコミュニケーション：基盤となる態度、スキルを示すことができる。 ・医療の社会性と国際性：基盤となる態度、スキルを示すことができる。
Basic（初級）	D	・倫理とプロフェッショナリズム：基盤となる知識を示すことができる。 ・医学科学的知識：基盤となる知識を示すことができる。 ・実践的診療能力：基盤となる知識を示すことができる。 ・自律的探求能力：基盤となる知識を示すことができる。 ・多職種連携とコミュニケーション：基盤となる知識を示すことができる。 ・医療の社会性と国際性：基盤となる知識を示すことができる。

令和６（2024）年度以降入学者用カリキュラム ナンバリングコード一覧

教育課程		授業科目	学部	領域分野	ナンバー	水準	ナンバリングコード	ナンバリングコード	受講学年次及び単位数 第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	必修・選択・自由
総合教育	教養教育	人間科学	M	01	01	D	M0101D	M-01-01-D	1						1	必　修
		情報科学	M	01	02	D	M0102D	M-01-02-D	1						1	必　修
		セミナーA	M	01	03	B	M0103B	M-01-03-B	1						1	必　修
		セミナーB														
		大学コンソーシアム京都・大阪	M	01	04	D	M0104D	M-01-04-D	2						2	必　修
		医工薬連環科学遠隔講座	M													
		スポーツ健康科学	M	01	05	C	M0105C	M-01-05-C	1						1	必　修
		数理科学	M	01	06	D	M0106D	M-01-06-D	4						4	必　修
		生命誌	M	01	07	D	M0107D	M-01-07-D	1						1	必　修
	国際言語文化	国際言語文化１（英語）	M	02	01	D	M0201D	M-02-01-D	3						3	必　修
		国際言語文化２（独語）	M	02	02	D	M0202D	M-02-02-D	3						3	必　修
		医学英語１	M	02	03	C	M0203C	M-02-03-C		1					1	必　修
		医学英語２	M	02	04	C	M0204C	M-02-04-C			1				1	必　修
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ	M	02	05	C	M0205C	M-02-05-C	1						1	自　由
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ	M	02	06	C	M0206C	M-02-06-C	1						1	自　由
		グローバル・スタディーズ	M	02	07	C	M0207C	M-02-07-C	1						1	自　由
	準備教育	生命科学１（物理学）	M	03	01	D	M0301D	M-03-01-D	3						3	必　修
		生命科学２（化学）	M	03	02	D	M0302D	M-03-02-D	3						3	必　修
		生命科学３（生物学）	M	03	03	D	M0303D	M-03-03-D	3						3	必　修
		生命科学実習	M	03	04	C	M0304C	M-03-04-C	2						2	必　修
		物理学（力学）初歩	M	03	05	D	M0305D	M-03-05-D	1						1	自　由
		基礎物理学	M	03	06	D	M0306D	M-03-06-D	1						1	自　由
		化学通論	M	03	07	D	M0307D	M-03-07-D	1						1	自　由
		生物学入門	M	03	08	D	M0308D	M-03-08-D	1						1	自　由
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学）	M	04	01	C	M0401C	M-04-01-C	9						9	必　修
		人体の構造２（神経解剖学）	M	04	02	C	M0402C	M-04-02-C	1						1	必　修
		人体の構造３（組織学）	M	04	03	C	M0403C	M-04-03-C		6					6	必　修
		人体の構造４（人体発生学）	M	04	04	C	M0404C	M-04-04-C		1					1	必　修
		人体の機能１（分子生物学）	M	04	05	D	M0405D	M-04-05-D		2					2	必　修
		人体の機能２（生理学）	M	04	06	C	M0406C	M-04-06-C		7					7	必　修
		人体の機能３（生化学）	M	04	07	C	M0407C	M-04-07-C		7					7	必　修
		病気の成り立ち１	M	04	08	D	M0408D	M-04-08-D		4					4	必　修
		病気の成り立ち２	M	04	13	D	M0413D	M-04-13-D			1				1	必　修
		薬物療法１	M	04	09	D	M0409D	M-04-09-D		6					6	必　修
		薬物療法２	M	04	14	D	M0414D	M-04-14-D			1				1	必　修
		薬物療法３	M	04	15	D	M0415D	M-04-15-D				1			1	必　修
		病原体・生体防御１	M	04	10	D	M0410D	M-04-10-D		1					1	必　修
		病原体・生体防御２	M	04	11	D	M0411D	M-04-11-D		2					2	必　修
		病原体・生体防御３	M	04	12	D	M0412D	M-04-12-D		4					4	必　修
	臨床医学系	診断学入門	M	06	01	D	M0601D	M-06-01-D		3					3	必　修
		循環器	M	06	02	D	M0602D	M-06-02-D			3				3	必　修
		腎尿路・男性生殖器	M	06	03	D	M0603D	M-06-03-D			1				1	必　修
		女性生殖器・婦人科腫瘍	M	06	04	D	M0604D	M-06-04-D			2				2	必　修
		呼吸器	M	06	05	D	M0605D	M-06-05-D			2				2	必　修
		消化器	M	06	06	D	M0606D	M-06-06-D			2				2	必　修
		血液	M	06	07	D	M0607D	M-06-07-D			1				1	必　修
		内分泌・代謝	M	06	08	D	M0608D	M-06-08-D			2				2	必　修
		アレルギー・免疫	M	06	09	D	M0609D	M-06-09-D			2				2	必　修
		皮膚	M	06	10	D	M0610D	M-06-10-D			1				1	必　修
		運動器	M	06	11	D	M0611D	M-06-11-D			1				1	必　修
		神経	M	06	12	D	M0612D	M-06-12-D			2				2	必　修
		精神・行動	M	06	13	D	M0613D	M-06-13-D			1				1	必　修
		妊娠・出産	M	06	14	D	M0614D	M-06-14-D			1				1	必　修
		成長・発達	M	06	15	D	M0615D	M-06-15-D			1				1	必　修
		思春期・ホルモン	M	06	16	D	M0616D	M-06-16-D			1				1	必　修
		加齢・高齢者	M	06	17	D	M0617D	M-06-17-D			1				1	必　修
		感覚器１（眼科）	M	06	18	D	M0618D	M-06-18-D			1				1	必　修
		頭頸部・感覚器２（耳鼻科）	M	06	19	D	M0619D	M-06-19-D			1				1	必　修
		麻酔	M	06	22	D	M0622D	M-06-22-D				1			1	必　修
		救急	M	06	20	D	M0620D	M-06-20-D			1				1	必　修
		リハビリテーション	M	06	21	D	M0621D	M-06-21-D			1				1	必　修
		放射線治療・放射線障害	M	06	23	D	M0623D	M-06-23-D				1			1	必　修
		腫瘍	M	06	24	D	M0624D	M-06-24-D				1			1	必　修
		感染症	M	06	25	D	M0625D	M-06-25-D				1			1	必　修
		診断学	M	06	26	C	M0626C	M-06-26-C				3			3	必　修
		臨床技能	M	06	27	B	M0627B	M-06-27-B				1			1	必　修
		臨床病理学演習	M	06	28	B	M0628B	M-06-28-B					2		2	必　修
	社会医学系	医学・医療と社会Ⅰ	M	08	01	D	M0801D	M-08-01-D			3				3	必　修
		医学・医療と社会Ⅱ	M	08	02	D	M0802D	M-08-02-D			3				3	必　修
		地域・産業保健	M	08	03	C	M0803C	M-08-03-C				2			2	必　修
		死と科学	M	08	04	D	M0804D	M-08-04-D				4			4	必　修
	リサーチマインド	リサーチマインド	M	07	01	A	M0701A	M-07-01-A					4		4	必　修
	データサイエンス	データサイエンス１	M	10	01	D	M1001D	M-10-01-D	1						1	必　修
		データサイエンス２	M	10	02	C	M1002C	M-10-02-C		1					1	必　修
		データサイエンス３	M	10	03	C	M1003C	M-10-03-C					1		1	必　修
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学	M	05	01	D	M0501D	M-05-01-D	1						1	必　修
		医学概論	M	05	02	D	M0502D	M-05-02-D	1						1	必　修
		医学心理学・行動科学	M	05	03	D	M0503D	M-05-03-D	3						3	必　修
		早期体験実習１	M	05	04	D	M0504D	M-05-04-D	0.5						0.5	必　修
		早期体験実習２	M	05	06	D	M0506D	M-05-06-D		0.5					0.5	必　修
		多職種連携論１-医療人マインド	M	05	05	D	M0505D	M-05-05-D	1						1	必　修
		多職種連携論２-医療と専門職	M	05	07	D	M0507D	M-05-07-D		1					1	必　修
		医療プロフェッショナリズム・ケアマインド	M	05	08	B	M0508B	M-05-08-B				2			2	必　修
臨床実習	コア・CC	臨床実習［コア・CC］（特別演習/実習を含む）	M	09	01	A	M0901A	M-09-01-A					33		33	必　修
	アドバンスト・CC	臨床実習［ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC］（特別演習/実習を含む）	M	09	02	A	M0902A	M-09-02-A						19	19	必　修

本部 / 本部北キャンパス拡大図

本部キャンパス

- C01 - 総合研究棟
- C02 - 本館・図書館棟
- C03 - 講義実習棟
- C04 - 新講義実習棟
- C07 - 実験動物センター
- C08 - 第 2 研究館
- C09 - 第 3 研究館
- C10 - 管理棟
- C14 - 東門守衛室
- C15 - 歴史資料館
  （旧別館 / 登録有形文化財）

- H01 - 病院 1 号館
- H02 - 病院管理棟
- H03 - 病院 2 号館
- H04 - 病院外来棟
- H05 - 病院 3 号館
- H06 - 病院本館 A棟
- H08 - 病院 6 号館
- H09 - 病院 7 号館
- H10 - 病院西管理棟
- H11 - 訪問看護ステーション
- H12 - 関西 BNCT 共同医療センター

- H21 - 中央手術棟

本部北キャンパス

- C21 - 看護学部棟
- C22 - 看護学部研究棟
- C23 - 講堂
- C24 - 保育所
- C25 - 学生会館

北園第 1 キャンパス

- C32 - LDセンター

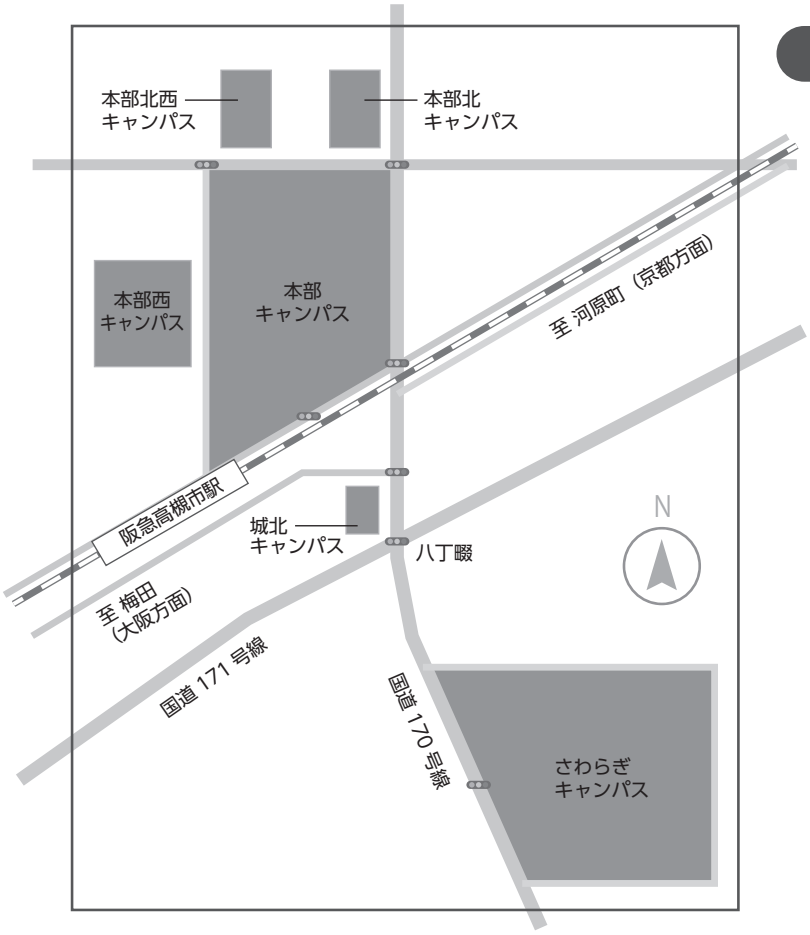
城北キャンパス

C41 - 弓道場

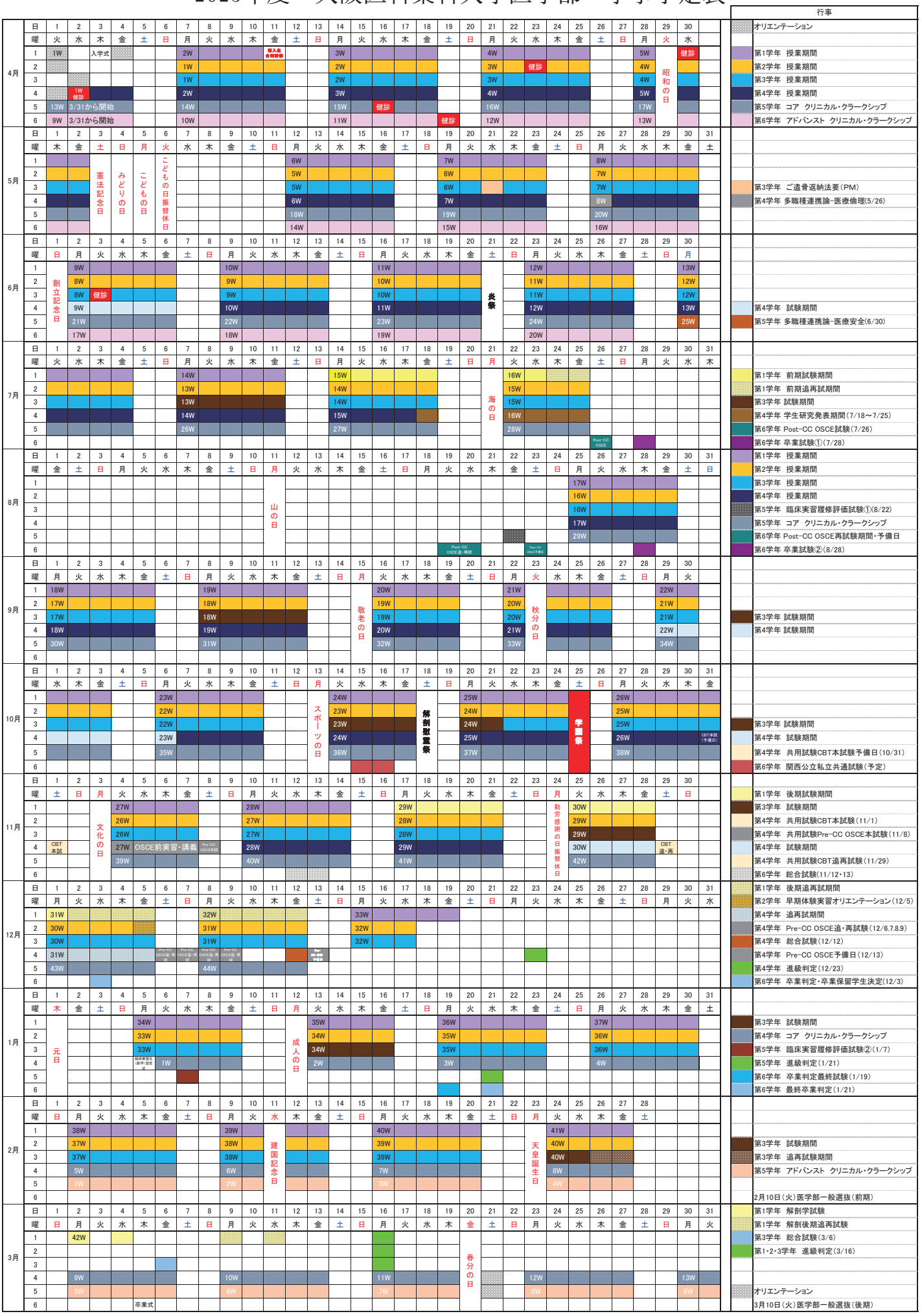
さわらぎキャンパス

C51 - 体育館
C52 - 運動場
C53 - クラブ棟
C54 - 空手道場

大学全体図



2025年度　大阪医科薬科大学医学部　学事予定表



授業準備学習（予習・復習）について

学修時間（授業、授業準備学習）と単位については
１単位の学修時間＝45 時間（学修時間＝授業時間＋授業準備学習時間）
授業（講義、演習など）には一定時間の授業準備学習（事前事後学習）時間が求められています。

授業形態	単位計算方法	１コマ４５分の授業に対して必要な学習時間
講　義	１単位　：　１５時間	事前学習１時間　＋　講義１時間＋　事後学習１時間
演　習	１単位　：　３０時間	事前学習１５分以上　＋　演習１時間＋　事後学習１５分以上
実　習	１単位　：　４５時間	

講義・演習の授業は、授業時間学習だけでは不十分であり、授業前後の準備学習（事前事後学習）をしっかりとすることが重要です。

三学部合同科目

大阪医科薬科大学では、下記のとおり三学部合同授業を実施しております。

■数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

本学の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムは、 「データを正しく評価、活用する基盤となるリテラシーを身に着け、Society5.0 における医療人として必要なデータサイエンスの基礎を修得する」「データサイエンスおよび AI 導入により激動する未来の医療界における自らの在り方を省察し、諸問題を解決する能力涵養」を学修目標としています。本学は、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの連携校として登録されています。Society5.0 における Sustainable Development Goals: SDGs（持続可能な達成目標）達成のためにデータサイエンス・AI プログラムの実践は必須であり、各学部共に必修科目として導入し、継続的質改善を図りたいと思います。

医学部該当科目

第 1 学年 :「データサイエンス 1」（必修）

第 2 学年 :「データサイエンス 2」（必修）

薬学部該当科目

第 1 学年「情報科学」（必修）、「情報科学演習」（必修）

第 2 学年「数理統計学」（必修）

第 3 学年「臨床統計」（必修）

第 4 学年「個別化医療」（必修）

看護学部該当科目

第 1 学年 :「情報リテラシー・データサイエンス」（必修）

第 1 学年 :「統計学」（必修）

※各学部とも入学年度等により各科目の名称や単位の取扱いが異なる場合があります（詳細は各学部のカリキュラムマップ等を参照してください）。

■多職種連携教育

本学では 専 門 職 連 携 教 育 [IPE : Inter Professional Education] の充実に注力しています。 医療人を目指す他学部の学生と合同で学び、 ディスカッションすることで、多様な考え方 に触れ、医療全体を俯瞰できるようになり、 その上で、自身のプロフェッショナリズムを 醸成していくことを大きな目的としています。

該当科目

多職種連携論１―医療人マインド

多職種連携論２―医療と専門職

多職種連携論３―医療倫理

多職種連携論４―医療安全

※学部、入学年度等により各科目の名称や単位の取扱いが異なる場合があります（詳細は各学部のカリキュラムマップ等を参照してください）。

■語学

インタラクティブ・イングリッシュⅠ／Ⅱ

この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーション をもとに、異文化や多様性を理解することを目的としています。具体的には、英語を聞くことと話すこと に重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction）」 するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指します。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識します。

■医工薬連環科学教育研究機構の双方向講義

医工薬連環科学

近年、生命科学分野の各学問領域が拡大し、医学、工学、薬学、看護学の学術交流が、益々、盛んになりつつあります。また、医療現場では、医師、薬剤師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が活躍の場を広げています。 関西大学と本学は、このような状況に対応すべく、医学、薬学だけでなく看護や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材の育成をめざし、両大学がそれぞれの特長を活かし、両大学共通講義科目「医工薬連環科学」を開設しています。独自の 基礎教育科目である本講義は、各学問分野の概略を鳥瞰し、それぞれの分野の特性を理解するとともに、各学問分野の融合によって発展できる学際領域についての知識を修得および醸成することを目的とします。

生成 AI の取り扱いに関する基本方針について

生成 AI は近年急速に発達し容易に利用することができる状況です。生成 AI はインターネット上に公開されている情報に加えて、利用者が入力した情報を学習し、日々成長し続けるもので、その功罪はそれぞれ極めて大きいものと考えられます。

生成 AI には様々な種類があり、それぞれに特徴があります。大学としては、自らが利用する生成 AI の仕組みを理解して、利点と欠点を研究し、「人間中心の利用」を模索しなければなりません。他方、入力情報が AI に蓄積・利用されるため、予期せぬ情報漏洩のリスクがあり、現時点では個人情報や秘密情報など機微な情報の入力は控える必要があります。また、生成 AI が利用した情報の中には著作権を有するものや誤ったものもあり、安易な利用は控えなければなりません。

そこで、本学での利用については、学部間協議会の下で教育機構、研究機構、学生生活支援機構および各センター等にて、それぞれの利用目的を明確にして、利用基準を定め、生成 AI の成長に従って利用基準を見直すこととします。

大阪医科薬科大学学生および大学院生の皆様へ

教育における生成ＡＩの取り扱いについて

本学の成績評価に係る試験や成果物作成過程における生成系人工知能（以下、生成 ＡＩという）の利用については、下記の方針といたします。

本学は、生成ＡＩのきわめて高い有用性を尊重し、授業担当教員から使用許可がある場合などは、その指示の範囲内で利用することを認めます。
ただし、生成ＡＩの利用が大学における教育・研究に与える影響も大きいことから、成績評価に係る試験や成果物作成過程において、生成 ＡＩを用いることは禁止します。本人が作成したものではないと発覚した場合には不正行為とみなします。
また、学位論文の作成にあたっては、生成ＡＩのみを用いた学位論文は許可しません。
遵守できない場合は、大阪医科薬科大学 学生等懲戒規程第４条１項７号に基づき、処分の対象となります。

【背景・理由】
生成ＡＩは近年急速に発達し容易に利用することができる状況です。生成ＡＩはインターネット上に公開されている情報に加えて、利用者が入力した情報を学習し、日々成長し続けるもので、その功罪はそれぞれ極めて大きいものと考えられます。
本学での利用については、教育機構、研究機構、学生生活支援機構およびセンター等にて、それぞれの利用目的を明確にして、利用基準を定め、生成ＡＩの成長に従って利用基準を見直すこととします。
学生の皆さんも新しい技術に基づいて開発された様々な製品や有用なサービスを今後利用する機会が増えることになるでしょう。しかしながら、同時に
・生成 ＡＩに入力した情報がＡＩの学習データとして使用される可能性があること
・生成 ＡＩやインターネット上の情報には個人情報や機密情報の漏洩など様々な課題を有していること、情報も必ずしも正しいものばかりではないこと
・生成ＡＩに入力した情報及び出力した情報が著作権に抵触する恐れがあること
などを心にとめておかなくてはなりません。
インターネットや生成ＡＩ等を利用して知識や回答を得るだけでは、真の学びとは言えず、学力向上にもつながりません。
大学における学びでは、課題発見・設定、仮説の構築・検証、実験や調査結果の分析と言ったプロセスが重要であり、その過程では人と人との対話や交流が欠かせません。そのような一つ一つのプロセスも大切にしてほしいと考えます。このことから、教育機構では上記の方針を示すこととします。

【参考】 大阪医科薬科大学 学生等懲戒規程第４条

（対象行為）
第４条 懲戒の対象となる行為は、次の各号に掲げるものとする。
(1) 社会的諸秩序に対する侵犯行為（犯罪行為）
(2) 重大な交通法規違反
(3) ハラスメント行為
(4) 情報倫理に反する行為
(5) 学問的倫理、研究倫理に反する行為
(6) 学生等の学習、研究及び教職員の教育研究活動等の正当な活動を妨害する行為
(7) 授業、試験等における不正行為
(8) その他、公序良俗に反する行為
２ 前項に掲げる対象行為の詳細及び該当する懲戒の種類は、別表１及び２に定める。

第　1　学　年

2025年度　第１学年授業時間割

※日々の時間割は変更する場合があります。①担当教員からの連絡 ②UNIPA を常に確認するようにしてください。

（講義場所：原則として講義実習棟第１講義室）

時間割表		１限目	２限目	３限目	４限目	休	５限目	６限目	７限目	８限目	９限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第1週	4/1(火)	オリエンテーション					オリエンテーション					
	4/2(水)											
	4/3(木)						入学式					
	4/4(金)						オリエンテーション					
第2週	4/7(月)	国際言語文化１(英語)		国際言語文化２(独語)			医学心理学・行動科学		生命科学３(生物学)		医工薬連環科学講座	
	4/8(火)	生命科学１(物理学)		人間科学			セミナーA・B オリエンテーション					
	4/9(水)	AB 早期体験実習１ オリエンテーション					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	4/10(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学２(化学)			AB 生命科学実習 オリエンテーション					
	4/11(金)	合同研修										
第3週	4/14(月)	AB 国際言語文化１(英語) CD 国際言語文化２(独語)		AB 国際言語文化２(独語) CD 国際言語文化１(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学３(生物学)		医工薬連環科学講座	
	4/15(火)	生命科学１(物理学)		人間科学			セミナーA					
	4/16(水)	AB 情報科学 オリエンテーション					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	4/17(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学２(化学)			AB 生命科学実習(生物学)					
	4/18(金)	AB 国際言語文化１(英語) CD 国際言語文化２(独語)		AB 国際言語文化２(独語) CD 国際言語文化１(英語)								

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第4週	4/21(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	4/22(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	4/23(水)	A 早期体験実習 1 B 情報科学					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	4/24(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学 2(化学)			B 生命科学実習(生物学)					
	4/25(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学)					
第5週	4/28(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	4/29(火) 祝	昭和の日										
	4/30(水)	A 情報科学 B 早期体験実習 1					健康診断(仮)					
	5/1(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学 2(化学)			A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)			A 自学自習 B 生命科学実習 (生物学)		
	5/2(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)			A 生命科学実習 (生物学) B 自学自習		
	5/5(月) 祝	こどもの日										
	5/6(火) 祝	こどもの日振替休日										
	5/10(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ オリエンテーション										

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:35	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第6週	5/12(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	5/13(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	5/14(水)	A 早期体験実習 1 B 情報科学					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	5/15(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学 2(化学)			A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)			A 生命科学実習(化学) B 自学自習		
	5/16(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)			A 自学自習 B 生命科学実習(化学)		
第7週	5/19(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	5/20(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	5/21(水)	A 情報科学 B 早期体験実習 1					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	5/22(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学 2(化学)			A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)					
	5/23(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)					
	5/24(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										
第8週	5/26(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	5/27(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	5/28(水)	A 早期体験実習 1 B 情報科学					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	5/29(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学 2(化学)			A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)					
	5/30(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)					
	5/31(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:40	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第9週	6/2(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	6/3(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	6/4(水)	A 情報科学 B 早期体験実習 1					数理科学				生物学入門 物理学(力学)初歩	
	6/5(木)	多職種連携論 1- 医療人マインド		生命科学 2(化学)			A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)			A 自学自習 B 生命科学実習 (生物学)		
	6/6(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)			A 生命科学実習 (生物学) B 自学自習		
第10週	6/9(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	6/10(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	6/11(水)	A 早期体験実習 1 B 情報科学					数理科学		物理学(力学)初歩			
	6/12(木)		生命科学 2(化学)				A 生命科学実習(化学) B 自学自習					
	6/13(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 自学自習 B 生命科学実習(化学)					
第11週	6/16(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	6/17(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	6/18(水)	A 情報科学 B 早期体験実習 1					基礎物理学					
	6/19(木)		生命科学 2(化学)				A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)					
	6/20(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)					
	6/21(土)	炎祭										

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:35	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第12週	6/23(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	6/24(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	6/25(水)	AB 早期体験実習 1 発表会					基礎物理学					
	6/26(木)		生命科学 2(化学)				A 生命科学実習(化学) B 生命科学実習(生物学)				A 生命科学実習(化学) B 自学自習	
	6/27(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(生物学) B 生命科学実習(化学)				A 自学自習 B 生命科学実習(化学)	
	6/28(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										
第13週	6/30(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命科学 3(生物学)		医工薬連環科学講座	
	7/1(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	7/2(水)		基礎物理学				医学心理学・行動科学					
	7/3(木)		生命科学 2(化学)				AB 生命科学実習(生物学) ※予備日					
	7/4(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			AB 生命科学実習(化学) ※予備日					
	7/5(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										
第14週	7/7(月)										医工薬連環科学講座 (オンデマンド予定)	
	7/8(火)	生命科学 1(物理学)		人間科学			セミナーA					
	7/9(水)			生物学入門			化学通論					
	7/10(木)			基礎物理学			化学通論					
	7/11(金)											

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:35	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第15週	7/14(月)		【前期試験】 生命科学1(物理学) 10:00～11:30					【前期試験】 国際言語文化1(月曜英語) 14:00～15:00			医工薬連環科学講座 (オンデマンド予定)	
	7/15(火)						【前期試験】 生命科学2(化学) 13:00～14:30					
	7/16(水)		【前期試験】 数理科学 10:00～11:30									
	7/17(木)						【前期試験】 生命科学3(生物) 13:00～14:00					
	7/18(金)			【前期試験】 国際言語文化2(金曜独語) 11:00～12:00				【前期試験】 国際言語文化1(金曜英語) 14:00～15:00				
第16週	7/21(月) 祝	海の日									医工薬連環科学講座 (オンデマンド予定)	
	7/22(火)						【前期試験】 国際言語文化2(月曜独語) 13:00～14:00					
	7/23(水)											
	7/24(木)		【再試験】 国際言語文化1(月曜英語) 10:00～11:00				【再試験】 生命科学2(化学) 13:00～14:30					
	7/25(金)		【再試験】 生命科学1(物理学) 10:00～11:30									
第17週	8/25(月)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌			
	8/26(火)	生命科学3(生物学)		データサイエンス1			セミナーB					
	8/27(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学		医学概論			
	8/28(木)	生命科学1(物理学)		生命科学2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	8/29(金)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第18週	9/1(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌			
	9/2(火)	生命科学 3(生物学)		データサイエンス 1			セミナーB					
	9/3(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学		医学概論			
	9/4(木)	生命科学 1(物理学)		生命科学 2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	9/5(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					
第19週	9/8(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌			
	9/9(火)	生命科学 3(生物学)		データサイエンス 1			セミナーB					
	9/10(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学		医学概論			
	9/11(木)	生命科学 1(物理学)		生命科学 2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	9/12(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					
第20週	9/15(月) 祝	敬老の日										
	9/16(火)	生命科学 3(生物学)		データサイエンス 1			セミナーB					
	9/17(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学		医学概論			
	9/18(木)	生命科学 1(物理学)		生命科学 2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	9/19(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					
	9/20(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ オリエンテーション										

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第21週	9/22(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌		医学概論 (レポート課題)	
	9/23(火) 祝	秋分の日										
	9/24(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学		医学概論			
	9/25(木)	生命科学 1(物理学)		生命科学 2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	9/26(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					
第22週	9/29(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌			
	9/30(火)	生命科学 3(生物学)		データサイエンス 1			セミナーB					
	10/1(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学					
	10/2(木)	生命科学 1(物理学)		生命科学 2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	10/3(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					
	10/4(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										
第23週	10/6(月)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌			
	10/7(火)	生命科学 3(生物学)		データサイエンス 1			セミナーB					
	10/8(水)	A スポーツ健康科学 B 自学自習		A 自学自習 B スポーツ健康科学			コミュニケーション学					
	10/9(木)	生命科学 1(物理学)		生命科学 2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)					
	10/10(金)	AB 国際言語文化 1(英語) CD 国際言語文化 2(独語)		AB 国際言語文化 2(独語) CD 国際言語文化 1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学					
	10/11(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:35	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第24週	10/13(月) 祝	スポーツの日										
	10/14(火)	生命科学3(生物学)		データサイエンス1			セミナーB					
	10/15(水)	A 自学自習 B スポーツ健康科学		A スポーツ健康科学 B 自学自習			コミュニケーション学		医学概論			
	10/16(木)	生命科学1(物理学)		生命科学2(化学)			A 数理科学 B 生命科学実習(物理学)		A 自学自習 B 生命科学実習(物理学)			
	10/17(金)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)			A 生命科学実習(物理学) B 数理科学		A 生命科学実習(物理学) B 自学自習			
	10/18(土)	解剖慰霊祭										
第25週	10/20(月)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)			医学心理学・行動科学		生命誌			
	10/21(火)	生命科学3(生物学)		データサイエンス1			セミナーB					
	10/22(水)	A 自学自習 B スポーツ健康科学		A スポーツ健康科学 B 自学自習			医学心理学・行動科学		医学概論			
	10/23(木)	生命科学1(物理学)		生命科学2(化学)								
	10/24(金)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)								
	10/25(土)	学園祭										
第26週	10/27(月)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)			医学心理学・行動科学					
	10/28(火)	生命科学3(生物学)		AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)			セミナーB					
	10/29(水)	A 自学自習 B スポーツ健康科学		A スポーツ健康科学 B 自学自習								
	10/30(木)	生命科学1(物理学)		生命科学2(化学)			B 生命科学実習(物理学)(予備日)					
	10/31(金)	AB 国際言語文化1(英語) CD 国際言語文化2(独語)		AB 国際言語文化2(独語) CD 国際言語文化1(英語)			A 生命科学実習(物理学)(予備日)					

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:35	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第27週	11/3(月) 祝	文化の日										
	11/4(火)	生命科学3(生物学)		AB国際言語文化2(独語) CD国際言語文化1(英語)			セミナーB					
	11/5(水)	A 自学自習 B スポーツ健康科学		A スポーツ健康科学 B 自学自習			医学心理学・行動科学					
	11/6(木)	生命科学1(物理学)		生命科学2(化学)			基礎物理学					
	11/7(金)	AB国際言語文化1(英語) CD国際言語文化2(独語)		AB国際言語文化2(独語) CD国際言語文化1(英語)			基礎物理学					
第28週	11/10(月)	AB国際言語文化1(英語) CD国際言語文化2(独語)		AB国際言語文化2(独語) CD国際言語文化1(英語)			国際言語文化1(英語)		国際言語文化2(独語)			
	11/11(火)	生命科学3(生物学)					セミナーB					
	11/12(水)	A 自学自習 B スポーツ健康科学		A スポーツ健康科学 B 自学自習								
	11/13(木)			生物学入門			化学通論					
	11/14(金)						化学通論					
	11/15(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										
第29週	11/17(月)							【後期試験】 生命科学2(化学) 14:00 ～ 15:30				
	11/18(火)			【後期試験】 生命科学3(生物学) 11:00 ～ 12:00					【後期試験】 国際言語文化1(月曜英語) 15:00 ～ 16:00			
	11/19(水)		【後期試験】 数理科学 10:00 ～ 11:30									
	11/20(木)						【後期試験】 医学心理学・行動科学 13:00 ～ 14:00					
	11/21(金)			【後期試験】 国際言語文化2(金曜独語) 11:00 ～ 12:00						【後期試験】 生命科学1(物理学) 15:30 ～ 17:00		
	11/22(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										

時間割表		1限目 9:00～ 9:45	2限目 9:50～ 10:35	3限目 10:40～ 11:25	4限目 11:30～ 12:15	休 12:15～ 13:00	5限目 13:00～ 13:45	6限目 13:50～ 14:35	7限目 14:40～ 15:25	8限目 15:30～ 16:15	9限目 16:20～ 17:05	10限目 17:05～ 17:50
第30週	11/24(月) 祝	勤労感謝の日振替休日										
	11/25(火)								【後期試験】 国際言語文化2(月曜独語) 15:00～16:00			
	11/26(水)			【後期試験】 スポーツ健康科学 11:00～12:00								
	11/27(木)											
	11/28(金)		【後期試験】 医学概論 10:00～終了時刻未定									
第31週	12/1(月)						【後期試験】 国際言語文化1(金曜英語) 13:00～14:00					
	12/2(火)						【再試験】 生命科学2(化学) 13:00～14:30					
	12/3(水)		【再試験】 数理科学 10:00～11:30									
	12/4(木)			【再試験(前期)】 生命科学3(生物学) 11:00～12:00								
	12/5(金)		【再試験】 国際言語文化2(金曜独語) 10:00～11:00									
第32週	12/8(月)		【再試験】 国際言語文化2(月曜独語) 10:00～11:00					【再試験】 国際言語文化1(月曜英語) 14:00～15:00				
	12/9(火)						【再試験】 生命科学1(物理学) 13:00～15:00					
	12/10(水)		【再試験】 スポーツ健康科学 10:00～11:00				【再試験】 医学心理学・行動科学 13:00～14:00					
	12/11(木)			【再試験(後期)】 生命科学3(生物学) 11:00～12:00								
	12/12(金)			【再試験】 国際言語文化1(金曜英語) 11:00～12:00				【再試験】 医学概論 14:00～終了時刻未定				

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第33週	12/15(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	12/16(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	12/17(水)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	12/18(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	12/19(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
第34週	1/5(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/6(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/7(水)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/8(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/9(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
第35週	1/12(月)祝	成人の日										
	1/13(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/14(水)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/15(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/16(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第36週	1/19(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/20(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/21(水)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/22(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/23(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
第37週	1/26(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/27(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/28(水)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/29(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	1/30(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
第38週	2/2(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/3(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/4(水)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/5(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/6(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15	16:20～17:05	17:05～17:50
第39週	2/9(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/10(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/11(水)祝	建国記念日										
	2/12(木)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/13(金)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
第40週	2/16(月)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/17(火)	人体の構造1(肉眼解剖学)					人体の構造1(肉眼解剖学)					
	2/18(水)	人体の構造2(神経解剖学)					人体の構造2(神経解剖学)					
	2/19(木)	人体の構造2(神経解剖学)					人体の構造2(神経解剖学)					
	2/20(金)	人体の構造2(神経解剖学)					人体の構造2(神経解剖学)					
第41週	2/23(月)祝	天皇誕生日										
	2/24(火)	人体の構造2(神経解剖学)					人体の構造2(神経解剖学)					
	2/25(水)	人体の構造2(神経解剖学)					人体の構造2(神経解剖学)					
	2/26(木)											
	2/27(金)											

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">時間割表</td><td>1 限目</td><td>2 限目</td><td>3 限目</td><td>4 限目</td><td>休</td><td>5 限目</td><td>6 限目</td><td>7 限目</td><td>8 限目</td><td>9 限目</td><td>10限目</td></tr>
<tr><td>9:00～
9:45</td><td>9:50～
10:35</td><td>10:40～
11:25</td><td>11:30～
12:15</td><td>12:15～
13:00</td><td>13:00～
13:45</td><td>13:50～
14:35</td><td>14:40～
15:25</td><td>15:30～
16:15</td><td>16:20～
17:05</td><td>17:05～
17:50</td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
42
週</td><td>3/2(月)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">【本試験】
人体の構造 1(肉眼解剖学)
14:00 ～終了時刻未定</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/3(火)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/4(水)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">【本試験】
人体の構造 2(神経解剖学)
14:00 ～終了時刻未定</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/5(木)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/6(金)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
43
週</td><td>3/9(月)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">【再試験】
人体の構造 1(肉眼解剖学)
13:00 ～終了時刻未定</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/10(火)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/11(水)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">【再試験】
人体の構造 2(神経解剖学)
13:00 ～終了時刻未定</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/12(木)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3/13(金)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>3/16(月)</td><td colspan="4">進級判定(発表時間は未定)</td><td></td><td colspan="5">進級判定(発表時間は未定)</td><td></td><td></td></tr>
</table>

人 間 科 学　文 学 入 門

【ナンバリングコード】　M-01-01-D

【教員名】
嘱託教員：中川　一成（語学）

【科目の概要】
テーマ：―言葉たちの森―　文学入門
　パンデミックや世界で相次いで起こる紛争や戦争、気候変動など、先行きの不安な時代を私たちは生きている。そんな日常にあって、過去の文学を読むことに今、どんな意味があるのだろうか？
　本講義ではドイツと日本の文学（ドイツ文学は翻訳を使用）から戦争や自然災害を主題にした作品を選び、紹介する。作品から特に印象深い場面、言葉を抽出し、その分析を通じて、作品に表現された人間的真実に迫りたい。
　講義は、毎回 100 字から 200 字程度の感想を課題として提出していただくことで、出来得る限りインタラクティブな授業を目指したい。

【科目のゴール】
1）個々の作品の時代的背景について、作品の内容と関連付けつつ、簡潔に述べることができる。
2）紹介された作品について、感想を論理的かつ簡潔に述べることができる。
3）講義内容についての評価、批評を論理的に述べることができる。

【方略】
講義及び演習形式

【評価】
授業参加度　20％
課題　20％
最終レポート課題　60％
課題として、受講者は毎授業後にその日の内容についての感想、コメントを提出することが求められる（提出されたコメントは次の授業時に受講者全員に向けてのフィードバックに用いる）。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書：ハンドアウト配布

【オフィスアワー】
担当教員氏名：中川　一成
E-mail：kazushige.nakagawa@ompu.ac.jp
内容：随時。希望者は先ずメールでご連絡ください。

【SDGs との関連】
4

人　間　科　学　　宗　教　学

【ナンバリングコード】　M-01-01-D

【教員名】
非常勤講師：安澤　幸代

【科目の概要】
テーマ：人間性の探求：宗教と人間
現代において「宗教とは何か」をあらためて問うことは重要である。宗教学とは、この問いに対して価値中立的な視点から学問的アプローチをするものである。本講義では、宗教現象を人類学的視点から捉えていく。とりわけ人間と自然や動物との関わりを宗教学の立場から考察していく。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）さまざまな宗教現象を客観的かつ複眼的にとらえることができる。
3）宗教的問題に対峙する時、広い視野からそれに関わることができる。
4）宗教を理解することが、人間の本質的なあり方の理解につながることに気づく。

【方略】
1．現象へのアプローチの方法
2．宗教の起源
3．宗教の原初形態
4．呪術
5．儀礼と神話
　＊国立民族学博物館より借出した視聴覚資料を随時使用。ディスカッションの材料としても活用する。

【評価】
① 100 点法による評価を行い、60 点以上が合格
② 評価の内訳　平常点（授業内での課題レポートの提出など）30％、筆記試験（持ち込みなし・論述式）70％
　＊授業内の課題レポートについて、コメントと採点により全体または個別にフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
授業中に必要に応じてプリント配布、参考書はそのつど指示する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：安澤　幸代
内容：授業の前後に対応する。

【SDGs との関連】
12、15、16

人　間　科　学　　哲　学

【ナンバリングコード】　M-01-01-D

【教員名】
教授：小林　道太郎（看護学部）

【科目の概要】
テーマ：人間とその世界
世界や人間、知識などに関わる哲学の諸問題は、究極的には〈よく生きるとはどのようなことか〉という問いにつながっている。本科目では哲学の基本的な諸問題のいくつかをとりあげ、ともに考えてみる。そのことによって、一般的な見方や自分自身の考え、あるいはそれらの暗黙の前提等をあらためて批判的に振り返り、検討し直すことのできる態度を養う。

【科目のゴール】
1）いくつかの哲学の主要な主張とその議論について理解し説明することができる。
2）それらの主張の意義や、私たちの考え方に対して与える影響について理解し説明することができる。
3）それらの主張について自分で考え、自分の意見を形成することができる。

【方略】
講義。毎回授業後に、内容に関連する各自の考え・意見を書いて moodle で提出する。その一部については次回授業で教員がコメントをすることでフィードバックとする。

【評価】
① 100 点満点で評価を行い、60 点以上を合格とする。
② 出席および毎回の提出物 50%、期末レポート 50%
③ 提出物は授業内容に関連する考え・意見の記述。期末レポートについては別途指示する。
④ 再試験・追試験は原則実施しない。
⑤ 提出物について教員が一部コメントすることでフィードバックとする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書なし。参考書として授業中に関連文献を指示する。授業資料は moodle で提示する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：小林　道太郎
内線・PHS：3058
E-mail：michitaro.kobayashi@ompu.ac.jp
開始時間：16:00
終了時間：17:00
内容：火曜日
　　看護学部研究棟小林研究室

【SDGs との関連】
5、16

情　報　科　学

【ナンバリングコード】　M-01-02-D

【教員名】

教　　授：藤枝　美穂（語学）（オーガナイザー）
　　本庄　かおり（社会・行動科学）
専門教授：境　晶子（化学）
　　原田　明子（生物学）
　　吉田　秀司（物理学）
准 教 授：橋口　康之（生物学）
　　古池　晶（物理学）
　　村川　武志（化学）
　　浅野　元子（語学）
講　　師：岩渕　功誠（生物学）
　　牧　泰史（物理学）

【科目の概要】

情報の取扱い、すなわち情報の獲得、整理、解析、保存、伝達等は以前から行われてきたことであるが、特に現代では情報通信技術（ICT）の発達が著しく、それを活用して情報処理をスムーズに進める能力が大学教育のみならず実社会においても必須のものとなっている。本科目では情報の基礎から実際の情報処理までを講義と演習を通して学ぶ。ここで身に付けたことは情報検索、データ解析、プレゼンテーション等に活用され、高学年まで続くアクティブラーニングを進める基盤となるものである。

【科目のゴール】

1）OS、ネットワーク、PC の基本的な構成を理解し、これらを正しく使うことができる。
2）UNIVERSAL PASSPORT（UNIPA）、Moodle、Zoom の構成を理解し、日常的に使うことができる。
3）自分のノート PC で、大学から支給されたメールアドレスを用いた電子メールの送受信ができる。
4）電子メールの基本的な書き方や正しい扱い方を理解し、実行することができる。
5）Word の基本操作（文字入力、レイアウト変更、表・図の設定等）を理解し、体裁の整った文書を作成することができる。
6）PowerPoint の基本操作（レイアウト設定、スライド作成、アニメーション設定等）を理解し、プレゼンテーション用の資料を作成することができる。
7）IoT などの情報技術がもたらす社会の変容と諸問題について説明することができる。
8）著作権や個人情報保護などに関する基本的な考え方を説明することができる。
9）サイバー犯罪の実態を知り、被害者にならないように自衛することができる。
10）実験データなどの取り扱いに関する責任について説明することができる。
11）Excel に関する基本用語がわかり、行列に数字や文字を入力し、その並べ替え（ソート）ができる。
12）Excel による表計算の仕組みがわかり、基本関数の取り扱いができる。
13）Excel を用いて基本的なデータ処理・グラフ作成ができる。
14）大阪医薬大・本部図書館のホームページから蔵書検索を行うことができる。
15）PubMed を利用して、学術論文の検索を行うことができる。
16）NCBI の遺伝子データベースの原理を理解した上で、データの検索・閲覧を行うことができる。
17）文献やインターネットなどの情報源から、有益な情報を収集し取捨選択できる。
18）収集した情報や結果を基に考察し、得られた結論を論理的にまとめて表現することができる。

【方略】
スキルを習得するために、最初に基本的な事柄を学んだ後、実際に情報収集やレポート作成、プレゼンテーション用の資料作成等の演習を行う。その際、アクティブラーニングで用いられる技法を積極的に導入する。全ての作業は自分ノート PC を用いて行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：提出物の点数 70％、授業参加度 30％として評価する。
③ 評価の形態：提出物と授業への参加度により評価を行う。
④ 再試験：試験は行わないが、必要があれば課題の再提出を課す。
⑤ 追試験：正当な理由で欠席した場合には、後日の課題提出を認める。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書・参考書の指定はない。
印刷資料及び PDF ファイルを配布する。

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：岩渕　功誠
内線・PHS：2963
E-mail：kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp
内容：内線 2963 に電話、もしくは kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学研究室 1（総合研究棟 11 階 1115 室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：藤枝　美穂
内線・PHS：2954
E-mail：miho.fujieda@ompu.ac.jp
内容：上記にメール連絡のうえ相談して日時を決める。
　　場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【SDGs との関連】
9

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	E
【学習アウトカム】 8)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-18)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D
【学習アウトカム】 8) 10)	

セミナー A、セミナー B

【科目の概要】

少人数のグループワークを通して、自然科学、人文科学、社会科学等の様々な学問分野に触れ、自ら学んで問題を解決する能力とともにコミュニケーション能力を身に付け、それらを通じてアクティブラーニング遂行のための素地をつくる。

【科目のゴール】

1）医療人の持つべき文化、歴史、人倫、社会現象に関する教養、あるいは医学の基礎を支える自然科学の発展的な内容に関心を持ち、これらを理解できる。
2）自ら問題を発見し、問題解決に向けた適切な手段や方法を探索できる。
3）得られた結果を分かり易くプレゼンテーションできる。
4）これらの作業を、グループ内のコミュニケーションを取って、共同作業として遂行することができる。

セミナー A/B A共同探求の方法としての哲学を学ぶ

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：安部　彰（哲学）

【科目の概要】
テーマ：共同探求の方法としての哲学を学ぶ
　医療とそれをとりまく環境の複雑化を背景に今日では「多様な意見・信念をもつ他者と共同して問題を探求していく力」としてのコミュニケーション力が医療者にはもとめられるようになっている。
　そこで、このセミナーでは哲学を学びながら問題の共同探求力を養いたい。またそのさい「倫理・道徳の問題」に取り組みたい。なぜなら共同探求にはメンバー間での問題共有が不可欠だが、誰もがその当事者になりうる倫理・道徳の諸問題はまさにその対象となるにふさわしいからだ。他方、このセミナーで学ぶ哲学の方法は「対話」である。対話の特質は「参加者の信念・意見の相互吟味」にある。したがってこの方法をとることで共同探求のダイナミックな深化が期待できる。また受講生はぜひ、このセミナーをつうじて「輪読」という共同探求力の方法にも慣れ親しんでほしい。輪読を経験することで君たちはきっと同一の対象（テキスト）にたいする各自の視点・理解が想像以上に多様であることに最初は驚き当惑しつつも、しだいにそれを共有して相互に深めあっていけるようになるだろう。
　かくして、このセミナーでは座学（講義）は極力排し、ピア・エデュケーション（受講生間での主体的・相互的な学び）を基調としたい。したがって、受講にあたっては事前の哲学的素養は一切不要であるが意欲だけは不可欠となる。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）哲学の目的や方法について理解し、説明できる。
3）テキストを精読できる。
4）自他の意見・信念を批判的に考察できる。他者の話を傾聴し、相手にあわせた伝え方で自分の考えを説明できる。
5）問題の解決方法を共同で探求する姿勢が身についている。

【方略】
演習

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出：平常点　100％
③ 評価の形態：平常点は、(1) ワーク（授業に取り組む姿勢・授業時の発表や発言の内容・グループワークへの貢献度）(2) 事後課題 (3) 到達度確認試験（詳細は授業時に説明）から成り、それぞれ評価をする。配点は (1) および (2) で 60 点、(3) で 40 点とする。
④ 再試験：合格点に達しなかった者を対象にレポートまたは筆記試験を課す。平常点は考慮せず、かつ合否だけを判定する。
⑤ 追試験：病気などにより評価基準を満たせなかった者には、診断書があるかぎりにおいてレポートか筆記試験を課す。平常点は考慮する。
⑥ 事後課題については、全員分の内容を集約しメールで共有のうえ、次回授業時にコメントする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
輪読に使用するテキストを購入してもらう。詳細は授業時に伝える。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：安部　彰
E-mail：akiradical@gmail.com
内容：授業終了後。メールでの質問・相談等も遠慮なくどうぞ。

【SDGs との関連】
16

セミナー A/B A法学の世界を覗く

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：黒正　美砂（法学）

【科目の概要】
テーマ：法学の世界を覗く
法は、私たち人間の様々な社会関係を一定の目的をもって規律しています。
法が難解に思えるのは慣れていない表現や考え方のためでしょうが、細かな知識よりも、その核心をつかむように意識して学べば、それほど恐れるものではありません。
本セミナーは、法学の入門であり、受講者は、自らに関わる法の見取り図を学びます。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる
2）法律の基本的な枠組みを理解することができる
3）相手に説得力ある主張をすることができる

【方略】
スケジュール表に従ってテキスト・配布プリントを読んでいく。
各テーマに沿った発表者による発表からディスカッションをする。
適宜小テストを行うことで知識の定着を測り、学期末試験で総合的に理解できているか確認する。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：学生による発表（2 回）30 点満点、筆記試験 60 点満点、授業態度 10 点満点
③ 評価の形態：試験は記述式である。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
松井茂記ほか『はじめての法律学：H と J の物語［第 6 版］』（有斐閣 2020 年）
※教科書については、配属が決定した後に各自購入すること（2 回目の授業から必要）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：黒正　美砂
内容：授業前後、担当教員に直接相談する

【SDGs との関連】
16

セミナー A/B A医療における「日本」的特色を知る

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：近藤　裕樹（日本史）

【科目の概要】
テーマ：医療における「日本」的特色を知る
　医学・医療・病という事象を単に「医学的」に捉えるのではなく、影響が派生する「政治的」「法律的」「経済的」「文化的」「哲学的」諸側面を包括して、「日本」的特色に着目することを目標とする。さらに、「病とは何故に治療されなければならないのか？」という、疑うことなく無意識に受容してきた「病は治癒すべきもの」との見解を今一度思考し直すことも試みる。
　また、あらゆる事象は歴史的過程を経て現在に至っており、医学・医療も例外ではない。ならば、現時に見られる事象は如何にして構築されてきたのか。その経過を詳らかにすることで、「日本」における更なる発展進歩を予想することも可能であり、同様な過失を繰り返さないという大切な教訓を得ることもできる。
　医学・医療は「社会的ツール」であって、治療とは「個人的」であると共に「社会的」でなければならない。人一人は、意識的・無意識的にも多くの他者と連関している。従って、医学知識を駆使し医療現場で治療に従事する医師は、様々な病やそれに対する治療が如何なる「社会的」影響を及ぼすか、また影響を受けているかを常に想定しなければならない。そうした想像力を養うためには、過去の歴史事象から学ぶことは重要である。
　上記の目標の下、本講義では学生によるテーマ選択のもと発表を行ってもらう。
　また、学生個々人の関心興味は多種多様であり、そうした自身によるテーマ模索が「なぜ（どのような）医師になりたいのか」を今一度考える機会となり得ることが望ましい。

【科目のゴール】
1）数多ある医史学的事象の中から、自己の関心ある問題を「選択」することができる。
2）そうした問題意識を持つとともに、それに対する主観的意見を「構築」することができる。
3）その主観的意見を柱として、過去の歴史および現在の他者との「対話」を試みることができる。
4）そうすることで、自己を相対化し客観視する能力を「修養」することができる。

【方略】
演習（発表および質疑応答、レポート作成）
① 発表者は、与えられた史料を要約し、理解してもらいやすいよう工夫してレジメを作成し、口頭にて明瞭明解な報告を試みる。
② 質問者は、発表者の問題意識を汲み取り、それに即応した内容の質問および感想を述べる。
③ 各学生自ら選択し発表した医療テーマにつきレポートを作成し、知識・理解をより一層深める。

【評価】
① 100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 講義への参加態度、発表および質問内容　70％
　学期末レポート　30％
③ 課題に対するフィードバック
・学生が発表者および質問者をそれぞれ体験することにより、自身の考えや意見を相手に伝えることの困難さを理解させ、医師・患者間におけるコミュニケーション能力養成へとフィードバックを行う。
・担当教員は、発表および質問内容に対して助言あるいは補足説明を行い、また関心ある医療テーマにつきレポート作成を課すことで、医師として不可欠な知識・態度を各学生にフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
なし

【オフィスアワー】
担当教員氏名：近藤　裕樹
内容：授業前後に、担当教員に直接相談する。
　　もしくは、Moodle を利用して、オンラインで相談する。

【SDGs との関連】
3

セミナー A/B A「宗教」を考える

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：杉村　靖彦（宗教学）

【科目の概要】
テーマ：「宗教」を考える
太古の昔から現代に至るまで、宗教は個々の人間の生を支え、社会の絆を作り、世界を理解するための見取図を与えてきた。その歴史を踏まえて、この授業では、(1)「宗教」の多様な姿についてできる限り包括的な知識を与えること、(2) 人間を「宗教」の次元に関わらせるさまざまな問いを浮かび上がらせることの両方に並行して取り組んでいきたい。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）古今にわたる宗教の多様なあり方について、幅広く見通しのよい知識を得る。
3）人間を宗教へと関わらせる様々な問いや困難を想像し、思索できるようにする。
4）宗教が人間にとってもつ意味と危険を公平に評価できるようにする。
5）文献・映像資料の解読や出席者間の討論を通して、他者の考えを理解し自分の考えを表現する力を身につける。

【方略】
授業時間中の筆記課題や発言を通して、出席者の能動的な授業参加を図る。提出された文章や発言については、教員が問題点を指摘し、さらなる思考を促すという形でフィードバックを図る。

【評価】
平常点（授業への取り組み態度、授業時の小レポート提出）80％＋学期末課題（論述）20％

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜指示する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：杉村　靖彦
E-mail：sugimura.yasuhiko.2v@kyoto-u.ac.jp
内容：授業前後、担当教員に直接相談する

【SDGs との関連】
4

セミナー A/B A個人と社会

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
特務講師：栃澤　健史（IR 室　社会学）

【科目の概要】
テーマ：個人と社会
　私たちは生まれながらにして社会的存在であるが、共同性や連帯といった人間の紐帯を常に意識して生きているとは限らない。実際、社会とは何か？と問われても返答に窮するものである。このセミナーでは、人が生まれたのち、人間としてどのように社会と接点を持ち、社会の一部となり、社会をつくっていくのかということを追体験を通じて学習する。とくに人間の学習のプロセスと専門家の役割に注目して議論を進める。この議論によって、社会的存在としての自己のあり方を再帰的に考え、主体的に社会を創造する基礎を築く。

【科目のゴール】
1）近代社会の成り立ちや原理を理解する。
2）現代の社会現象を分析し理解する力を身につける。
3）多様性を認め、他者と協働することができる。
4）事実と解釈の違いを理解し、自分の解釈を論理的に説明できるようになる。

【方略】
・ディスカッション、ディベート
・グループワーク
・プレゼンテーション
・実習、フィールドワーク

【評価】
① 100 点法により評価を行い、60 点以上を合格とする。
② 評価の内訳は、授業内活動への参加 50％、レポート等提出物 50％とする。
③ 授業内活動とは、アクティビティへの参加および議論での発表と発言を指す。レポート等提出物とは、レポートならびにワークシートを指す。
④ レポート等提出物については、教員が内容を評価し、全体ないしは個別にコメントを行うことで受講生へフィードバックする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
参考書は適宜、紹介する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：栃澤　健史
E-mail：takeshi.tochizawa@ompu.ac.jp
内容：火曜日 12:00 ～ 12:45　P304

【SDGs との関連】
1、4、5、8、10、16、17

セミナー A/B A英語コーパスを使った言語分析

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
教授：藤枝　美穂（語学）

【科目の概要】
テーマ：英語コーパスを使った言語分析
コーパスとは、ある特定の目的のために収集された電子化されたテキストの集合であり、大規模なものは辞書の編纂などに利用されている。本セミナーでは、将来の専門英語学習にも応用可能な、コーパスを用いた言語分析の手法を学ぶ。前半は各自が収集したテキストを分析し、公開されている代表的な英語コーパスを使って用例検索の演習を行う。後半は、メンバーが協力して英語医学論文の小規模コーパスを作成し、コンコーダンサと呼ばれるソフトウェアを用いて分析を行った結果をスライドにまとめて発表する。

【科目のゴール】
1）コーパスに関する基礎知識（定義、歴史、種類、分析単位、問題点）を習得する。
2）代表的な英語オンラインコーパスを利用して基本的な用例検索ができる。
3）自作コーパスの作成手順を理解し、新たなコーパスを作ったり、既存のものを拡充できる。
4）分析用ソフトの使用方法を理解し、基本的な分析の結果を正しく解釈できる。
5）自ら立てたテーマに沿って自作コーパスを分析し、その結果をプレゼンテーションとしてまとめる。

【方略】
演習
少人数の演習形式で、ペアワークやグループワークを多く取り入れる。この過程で、お互いに助け合ってコンピュータ操作に習熟していくよう促す。海外のウェブサイトや教育用ビデオ、Moodle など、積極的に ICT を活用する。

【評価】
課題 50％、2 回のプレゼンテーション 50％
提出物や個別の発表については、逐次口頭またはコメントを記してフィードバックする。他のメンバーからのコメントやフィードバックも授業中に行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書：授業時にハンドアウトを配布
参考書：石川慎一郎『ベーシックコーパス言語学　第 2 版』ひつじ書房（2021）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：藤枝　美穂
内線・PHS：2954
E-mail：miho.fujieda@ompu.ac.jp
内容：上記にメール連絡のうえ相談して日時を決める。
　　場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【SDGs との関連】

4

【備考】

コンピュータを用いた演習が中心となるので、各自がラップトップコンピュータを持参すること。

セ ミ ナ ー A/B A遺 伝 子

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
専門教授：境　晶子（化学）

【科目の概要】
遺伝子診断、遺伝子治療、iPS 細胞など「遺伝子」に関して各自が興味あるテーマを見つけ出し、「課題の設定、情報検索、発表・討論を通してプレゼンテーション力を身につけること」を目的とする。その際、自分を含む全員の発表について、良い点・改良すべき点をあげ、またその講評をフィードバックし自分のプレゼンテーションを改良していく。さらに、「論理的・批判的思考力を身につけること」「グループワーク」についてディベートを通して体感する。最終的に自分の発表能力（課題設定、情報収集力、プレゼンテーション資料作成、プレゼンテーション力）がどう変化したかなどセミナー全体に対するレポートを提出する。

【科目のゴール】
1）興味ある小テーマを設定し、自分が理解していることと理解できていないことを区別することができる。
2）正しい検索方法で必要な情報を収集し、それを正しく読み取り、情報の正誤を判断することができる。
3）調べたことを纏め、プレゼンテーションの資料をつくることができる。
4）伝えたいことが相手に分かるようにプレゼンテーションすることができる。
5）他人の発表を聞き、必要なメモを取り、質問・討論及び質問に対して答えることができる。
6）他人の発表について、良い点・改良すべき点を講評し他者評価をすることができる。
7）フィードバックされた講評を元に、次回の資料作成・発表に反映させ改良していくことができる。
8）以上で培った情報収集・分析・論理的説明の能力を基に、主観的な見方から切り離した客観的見方によって考えを纏め、グループワーク、ディベートを行うことができる。

【方略】
演習
発表ごとに他者のプレゼンテーションについて改良点などの他者評価を行う。評価の結果は次回纏めて配布し、その講評をフィードバックすることで自分のプレゼンテーションを改良する。ディベートをとおして、自分の考えを述べ、他者の意見を聞き、それに対し論理的・批判的思考力をもって反論する。

【評価】
① 合格点：100 点法による評価を行い、60 点以上を合格とする。原則として、全出席を前提とする。
② 評価点の算出・内訳：セミナーへの参加度と向上度（90％）、レポート（10％）による評価を行う。
③ 評価の形態：セミナーへの参加度（遅刻状況・態度・やる気）、プレゼンテーション力の向上度及びレポートによって評価する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書・参考書の指定はない。
講義資料は必要に応じて Moodle にアップロードするほか、適宜印刷資料を配布する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：境　晶子
E-mail：akiko.sakai@ompu.ac.jp
内容：akiko.sakai@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。
　　場所：化学研究室 2（総合研究棟 11 階 1116 室）

【SDGs との関連】
9、15、17

セミナー A/B A市民が目にする現代医療

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
講師：牧　泰史（物理学）

【科目の概要】
テーマ：市民が目にする現代医療
　医療や生命科学に関して、新聞やテレビなどを通じて一般報道される最近のトピックスを学ぶことで、市民が受動的に手にすることができる医療情報を知ってもらいます。またこの情報を元に、最近の生命科学や医療の問題に対する意見や受け止め方を、様々な立場から考えてもらいます。自分の意見を他者に伝えること、他者の立場や意見を理解すること、などの上達を目指すと同時に、議論の司会進行役を経験して、意見の喚起やとりまとめなど、議論を円滑に進行させる練習もします。毎回簡単なレポートを提出することとします。

【科目のゴール】
1）生命科学や医療に関する一般報道内容を理解できる。
2）番組内容が他者に正しく伝わるように要約することができる。
3）自分の意見を相手に伝えることができる。
4）様々な立場からの意見を考え、理解することができる。
5）議論を円滑に進行させることができる。

【方略】
グループによる演習
　医療や生命科学に関して、様々な題材の報道内容を視聴する。各回の司会担当者は、視聴する題材について事前に調べた内容をスライドにまとめておき、冒頭の時間に他のメンバーに対して PC 等を使ったプレゼンをする。視聴後には、内容や感想をまとめるレポートを全メンバーがそれぞれ作成・提出したのち、司会担当者の進行に従ってグループディスカッションをする。プレゼンファイルの提出には Moodle を使用し、状況に応じて web ミーティングも利用するなど、全体を通して ICT を積極的に活用する。

【評価】
① 合格点
　100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳
　参加度（出席状況や目標の達成度等）と提出するレポートや課題の内容を評価する。
　内訳：司会担当時の、視聴前プレゼン、グループディスカッションの進行の様子がそれぞれ 10％、プレゼンファイルの内容が 20％、毎回の提出レポートが 40％、グループディスカッションへの参加度が 20％とする。
③ 評価の形態
　参加度評価と課題提出
④ 再試験
　なし
⑤ 追試験
　なし
⑥ 課題に対するアセスメントとフィードバック
　毎回の視聴内容の把握と、それをふまえたレポート作成、議論、意見の表現が出来ていること、などを評価する。各課題ごとにその場で教員がコメントを伝えてフィードバックをはかる。また、他のメンバー（学生）からも感想や意

見を伝え合うことで、様々な視点からの評価を参考にしながら、この経験を今後の議論やプレゼンに活用できるように促す。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
なし

【オフィスアワー】
担当教員氏名：牧　泰史
内線・PHS：2960
E-mail：omc11physmaki@yahoo.co.jp
内容：omc11physmaki@yahoo.co.jp まで連絡し、相談の上日時を決める
場所：物理学研究室 2（総合研究棟 11 階 1112 室）

【SDGs との関連】
4

セミナー A/B A生命科学の現状

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
専門教授：吉田　秀司（物理学）

【科目の概要】
テーマ：生命科学の現状
　現在注目を集めている医学・生命科学に関する事柄について知り、その上で簡単なレポートを書いてもらいます。レポートには疑問点や是非が問われている事柄に対する自分の意見などを書き、これを基に他のメンバーと議論をすることにより、疑問点の解消や自分の意見の確立を目指します。

【科目のゴール】
1）社会で注目を集めている医学・生命科学に関する話題について概略を説明できる。
2）上述の話題について自分の意見を確立し、その意見を的確に相手に伝えることができる。
3）他人の意見を聞き、様々な意見が存在することを認めることができる。

【方略】
時間内にレポートを作成し、それを元に議論を行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：議論への参加度と毎回作成するレポートを、4：6 の割合で評価する。
③ 評価の形態：議論への参加度（発言回数など）と提出されたレポートの記述内容で評価する。
④ 再試験：なし
⑤ 追試験：なし
⑥ 課題に対するアセスメントとフィードバック：レポートに基づいた議論を通じ、様々な指摘と評価を行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
必要があれば適宜資料を配付する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：吉田　秀司
内線・PHS：2959
E-mail：hideji.yoshida@ompu.ac.jp
内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める
場所：物理学研究室 1（総合研究棟 11 階）

【SDGs との関連】
1、2、3、5、6、7、13、14、15

セミナー A/B A薬用植物から学ぶ生物学

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
専門教授：原田　明子（生物学）

【科目の概要】
ヒトは植物を食料や衣料、住居用の木材や観賞用として、また、薬としても利用している。本セミナーでは、植物の中でも薬用植物に着目し、生物学的な視点を持って以下のことを学ぶ。①生薬のもととなる植物などを観察することを通して、植物の種類や性質を学ぶ。②植物が薬の成分となる化合物をどのように合成しているか、その代謝経路（二次代謝）を学ぶ。③薬用成分探索の研究手法について学ぶ。④植物が合成した成分をヒトがどのように受容しているか、代謝しているかを学ぶ。⑤ヒトと植物の関わりや、その歴史を学ぶ。

【科目のゴール】
1）薬用植物や植物の二次代謝などに関する教科書、生物学、生理学、生化学の教科書、英文の記事を読むことができる。
2）植物等が生成した化合物を、ヒトがどのように受容し、代謝しているかを調べることができる。
3）実験を行い、実験ノートに実験結果を整理して記録できる。
4）調べた内容や実験結果をレポートやプレゼンテーション資料としてまとめて発表できる。
5）疑問点についてグループ討議ができる。

【方略】
演習。テーマに応じて、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク、実験、フィールドワークを行う。セミナーで作成したレポートやプレゼンテーション資料については、教員が添削し、不備があった場合は再提出を課す。Moodle を利用したレポート提出、質問受付、フィードバックを行う。

【評価】
① 合格点：100 点法で評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：セミナーに臨む態度、熱心に取り組んでいるかどうか（約 35％）、プレゼンテーションや提出されたレポート（約 35％）、グループ討議への参加（約 30％）を総合して評価する。遅刻、欠席をした場合は原則として評価を行わない。
③ 評価の形態：レポート等の提出物とセミナーへの参加度
④ 再試験：行わない。
⑤ 追試験：行わない。

【単位】　1.0

【教科書】
指定しない。必要に応じて Moodle 等で資料を配布する。

【参考書】
1）改訂第 3 版 生薬単　語源から覚える植物学・生薬学名単語集（伊藤美千穂・北山隆監修、原島広至著 NTS）
2）植物はなぜ薬を作るのか（斎藤和季著 文藝春秋）
3）薬用植物学改訂第 7 版（水野瑞夫監修 南江堂）
4）自分で採れる薬になる植物図鑑（増田和夫監修 柏書房）
5）基礎から学ぶ植物代謝生化学（水谷正治、士反伸和、杉山暁史監修 羊土社）

【オフィスアワー】

担当教員氏名：原田　明子

内線・PHS：2964

E-mail：aharada.biology@gmail.com

内容：セミナー A 終了後～ 17:00　セミナー中に声をかけて下さい。

　　場所：セミナー A の教室　もしくは　総合研究棟 11 階　1114 室 生物学研究室 2

【SDGs との関連】

13、15

セミナー A/B B共同探求の方法としての哲学を学ぶ

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：安部　彰（哲学）

【科目の概要】
テーマ：共同探求の方法としての哲学を学ぶ
　医療とそれをとりまく環境の複雑化を背景に今日では「多様な意見・信念をもつ他者と共同して問題を探求していく力」としてのコミュニケーション力が医療者にはもとめられるようになっている。
　そこで、このセミナーでは哲学を学びながら問題の共同探求力を養いたい。またそのさい「倫理・道徳の問題」に取り組みたい。なぜなら共同探求にはメンバー間での問題共有が不可欠だが、誰もがその当事者になりうる倫理・道徳の諸問題はまさにその対象となるにふさわしいからだ。他方、このセミナーで学ぶ哲学の方法は「対話」である。対話の特質は「参加者の信念・意見の相互吟味」にある。したがってこの方法をとることで共同探求のダイナミックな深化が期待できる。また受講生はぜひ、このセミナーをつうじて「輪読」という共同探求力の方法にも慣れ親しんでほしい。輪読を経験することで君たちはきっと同一の対象（テキスト）にたいする各自の視点・理解が想像以上に多様であることに最初は驚き当惑しつつも、しだいにそれを共有して相互に深めあっていけるようになるだろう。
　かくして、このセミナーでは座学（講義）は極力排し、ピア・エデュケーション（受講生間での主体的・相互的な学び）を基調としたい。したがって、受講にあたっては事前の哲学的素養は一切不要であるが意欲だけは不可欠となる。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）哲学の目的や方法について理解し、説明できる。
3）テキストを精読できる。
4）自他の意見・信念を批判的に考察できる。他者の話を傾聴し、相手にあわせた伝え方で自分の考えを説明できる。
5）問題の解決方法を共同で探求する姿勢が身についている。

【方略】
演習

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出：平常点　100％
③ 評価の形態：平常点は、(1) ワーク（授業に取り組む姿勢・授業時の発表や発言の内容・グループワークへの貢献度）(2) 事後課題 (3) 到達度確認試験（詳細は授業時に説明）から成り、それぞれ評価をする。配点は (1) および (2) で 60 点、(3) で 40 点とする。
④ 再試験：合格点に達しなかった者を対象にレポートまたは筆記試験を課す。平常点は考慮せず、かつ合否だけを判定する。
⑤ 追試験：病気などにより評価基準を満たせなかった者には、診断書があるかぎりにおいてレポートか筆記試験を課す。平常点は考慮する。
⑥ 事後課題については、全員分の内容を集約しメールで共有のうえ、次回授業時にコメントする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
輪読に使用するテキストを購入してもらう。詳細は授業時に伝える。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：安部　彰
E-mail：akiradical@gmail.com
内容：授業終了後。メールでの質問・相談等も遠慮なくどうぞ。

【SDGs との関連】
16

セミナー A/B B法学の世界を覗く

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：黒正　美砂（法律学）

【科目の概要】
テーマ：法学の世界を覗く
法は、私たち人間の様々な社会関係を一定の目的をもって規律しています。
法が難解に思えるのは慣れていない表現や考え方のためでしょうが、細かな知識よりも、その核心をつかむように意識して学べば、それほど恐れるものではありません。
本セミナーは、法学の入門であり、受講者は、自らに関わる法の見取り図を学びます。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる
2）法律の基本的な枠組みを理解することができる
3）相手に説得力ある主張をすることができる

【方略】
スケジュール表に従ってテキスト・配布プリントを読んでいく。各テーマに沿った発表者による発表からディスカッションをする。適宜小テストを行うことで知識の定着を測り、学期末試験で総合的に理解できているか確認する。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：学生による発表（2 回）30 点満点、筆記試験 60 点満点、授業態度 10 点満点
③ 評価の形態：試験は記述式である。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
松井茂記ほか『はじめての法律学：H と J の物語［第 6 版］』（有斐閣 2020 年）
※教科書については、配属が決定した後に各自購入すること（2 回目の授業から必要）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：黒正　美砂
内容：授業前後、担当教員に直接相談する

【SDGs との関連】
16

セミナー A/B B医療における「日本」的特色を知る

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：近藤　裕樹（日本史）

【科目の概要】
テーマ：医療における「日本」的特色を知る
　医学・医療・病という事象を単に「医学的」に捉えるのではなく、影響が派生する「政治的」「法律的」「経済的」「文化的」「哲学的」諸側面を包括して、「日本」的特色に着目することを目標とする。さらに、「病とは何故に治療されなければならないのか？」という、疑うことなく無意識に受容してきた「病は治癒すべきもの」との見解を今一度思考し直すことも試みる。
　また、あらゆる事象は歴史的過程を経て現在に至っており、医学・医療も例外ではない。ならば、現時に見られる事象は如何にして構築されてきたのか。その経過を詳らかにすることで、「日本」における更なる発展進歩を予想することも可能であり、同様な過失を繰り返さないという大切な教訓を得ることもできる。
　医学・医療は「社会的ツール」であって、治療とは「個人的」であると共に「社会的」でなければならない。人一人は、意識的・無意識的にも多くの他者と連関している。従って、医学知識を駆使し医療現場で治療に従事する医師は、様々な病やそれに対する治療が如何なる「社会的」影響を及ぼすか、また影響を受けているかを常に想定しなければならない。そうした想像力を養うためには、過去の歴史事象から学ぶことは重要である。
　上記の目標の下、本講義では学生によるテーマ選択のもと発表を行ってもらう。
　また、学生個々人の関心興味は多種多様であり、そうした自身によるテーマ模索が「なぜ（どのような）医師になりたいのか」を今一度考える機会となり得ることが望ましい。

【科目のゴール】
1）数多ある医史学的事象の中から、自己の関心ある問題を「選択」することができる。
2）そうした問題意識を持つとともに、それに対する主観的意見を「構築」することができる。
3）その主観的意見を柱として、過去の歴史および現在の他者との「対話」を試みることができる。
4）そうすることで、自己を相対化し客観視する能力を「修養」することができる。

【方略】
演習（発表および質疑応答、レポート作成）
① 発表者は、与えられた史料を要約し、理解してもらいやすいよう工夫してレジメを作成し、口頭にて明瞭明解な報告を試みる。
② 質問者は、発表者の問題意識を汲み取り、それに即応した内容の質問および感想を述べる。
③ 各学生自ら選択し発表した医療テーマにつきレポートを作成し、知識・理解をより一層深める。

【評価】
① 100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 講義への参加態度、発表および質問内容　70％
　学期末レポート　30％
③ 課題に対するフィードバック
・学生が発表者および質問者をそれぞれ体験することにより、自身の考えや意見を相手に伝えることの困難さを理解させ、医師・患者間におけるコミュニケーション能力養成へとフィードバックを行う。
・担当教員は、発表および質問内容に対して助言あるいは補足説明を行い、また関心ある医療テーマにつきレポート作成を課すことで、医師として不可欠な知識・態度を各学生にフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
なし

【オフィスアワー】
担当教員氏名：近藤　裕樹
内容：授業前後に、担当教員に直接相談する。
　　もしくは、Moodle を利用して、オンラインで相談する。

【SDGs との関連】
3

セミナー A/B B「宗教」を考える

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
非常勤講師：杉村　靖彦（宗教学）

【科目の概要】
テーマ：「宗教」を考える
太古の昔から現代に至るまで、宗教は個々の人間の生を支え、社会の絆を作り、世界を理解するための見取図を与えてきた。その歴史を踏まえて、この授業では、(1)「宗教」の多様な姿についてできる限り包括的な知識を与えること、(2) 人間を「宗教」の次元に関わらせるさまざまな問いを浮かび上がらせることの両方に並行して取り組んでいきたい。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）古今にわたる宗教の多様なあり方について、幅広く見通しのよい知識を得る。
3）人間を宗教へと関わらせる様々な問いや困難を想像し、思索できるようにする。
4）宗教が人間にとってもつ意味と危険を公平に評価できるようにする。
5）文献・映像資料の解読や出席者間の討論を通して、他者の考えを理解し自分の考えを表現する力を身につける。

【方略】
授業時間中の筆記課題や発言を通して、出席者の能動的な授業参加を図る。提出された文章や発言については、教員が問題点を指摘し、さらなる思考を促すという形でフィードバックを図る。

【評価】
平常点（授業への取り組み態度、授業時の小レポート提出）80％＋学期末課題（論述）20％

【単位】　1.0

【オフィスアワー】
担当教員氏名：杉村　靖彦
E-mail：sugimura.yasuhiko.2v@kyoto-u.ac.jp
内容：授業前後、担当教員に直接相談する

【SDGs との関連】
4

セミナー A/B Bカフカの『変身』を読む

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
嘱託教員：中川　一成（語学）

【科目の概要】
20 世紀ドイツ語圏文学を代表する小説家の一人フランツ・カフカの短篇『変身』を翻訳で読む。作品を丹念に読み、また疑問点や感想を自由に述べ合うことを通じて、すぐれた文学を鑑賞・批評する態度を身につけることを授業の目標とする。

【科目のゴール】
1）文意や話の流れを正確に理解し、論理的な言葉で感想を述べることができる。
2）読んだ内容を踏まえて、作品解釈や考察を行い、参加者同士で議論することができる。
3）レポートの作成・発表にあたり、きちんとした論証の手続きを取ることができる。

【方略】
演習
授業の中では作品購読に加え、各自が適宜疑問点や解釈を提起することで参加者全員によるディスカッションを行う。またそれに対する相互評価や教員フィードバックを通じ、最終発表に向けての問題点の意識化と共有を図る。

【評価】
授業参加度 50％、最終レポート 50％

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
カフカ（丘沢静也訳）『変身／掟の前で　他 2 編)』光文社古典新訳文庫

注意：カフカの『変身』は複数の出版社からそれぞれ別の翻訳者によるテキストが発売されています。議論が円滑に進むように使用教科書は上記の光文社古典新訳文庫に統一します。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：中川　一成
E-mail：kazushige.nakagawa@ompu.ac.jp
内容：希望者は kazushige.nakagawa@ompu.ac.jp まで連絡し、相談の上日時を決める。

【SDGs との関連】
4

セミナー A/B Bアカデミックプレゼンテーションの基礎

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
准教授：浅野　元子（語学）

【科目の概要】
本セミナーは、口頭発表形式のアカデミックプレゼンテーションを英語で行うための土台作りを目的とする。サイエンスニュース、学術文書などのことばの特徴を調査し、プレゼンテーションの構成と、スライドとスクリプトに使用される英語の特徴について、実技演習によって理解を深める。

【科目のゴール】
1）目的に応じた英語コミュニケーションの種類（ジャンル）により表現の仕方に特徴があることを理解する。
2）マイ・コーパスの構築および拡充の方法を理解する。
3）コーパスツールの使い方を理解し、分析結果を適切に解釈できる。
4）ジャンル分析の方法を理解し、コーパスを活用してジャンル分析を行い、結果を解釈することができる。
5）英語プレゼンテーションの型を理解し、他者または自らが行った調査について整理して、目的と聴衆に応じた表現を用いて発表する。

【方略】
演習
少人数のワークショップ形式で、各自のデバイスで Moodle、Google Drive などの授業用サイトにアクセスして作業を行う。この過程を共有し、お互いに助け合って科目の内容とコンピュータ操作を学習する双方向形式を取り入れる。世界の英語使用者が使う学習用サイトやツール、文献、公式の情報ソースなど ICT を活用し、発表と相互評価の機会を多く設ける。

【評価】
① 合格点：60 点（内訳のすべてが 100 点満点法による評価で 60 点以上の場合に合格とする。）
② 評価の内訳：
・授業参加度 10％
・課題提出 45％
・最終プレゼンテーション 45％
③ 評価の形態：①と②を考慮して総合的に評価する。

【単位】　1.0

【参考書】
1）野口ジュディー・深山晶子・村尾純子・浅野元子『理系たまごシリーズ 4 ：理系英語のプレゼンテーション Ver. 2.』アルク（2020）
2）Morita, A., Harada, S., Kitamura, K., Sugimoto, S., & Benfield, B. (2018). Winning presentations. Seibido.
3）Handford, M. (2010). What can a corpus tell us about specialist genres? In: A. O'Keeffe & M. McCarthy (eds.), The Routledge Handbook of Corpus Linguistics. (pp. 255-269). Routledge.
その他の参考資料について、授業中に説明します。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：浅野　元子
内線・PHS：2958
E-mail：motoko.asano@ompu.ac.jp
内容：適宜対応します（上記にメールして相談の上日時を決めます）
　　場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【SDGs との関連】
4

【備考】
Moodle および授業用 Google Drive を利用してファイル（ワード、エクセル、パワーポイントなど）を提出するため、授業で使用可能な Gmail アドレスと授業用 Google Drive にアクセス可能なデバイスの用意が必要。テキスト編集ソフトなどをインストールするため、OS を最新の状態にアップデートしてお持ちください。

セミナー A/B B魚類の進化生物学

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
准教授：橋口　康之（生物学）

【科目の概要】
テーマ：魚類の進化生物学
私たちは普段の食卓や熱帯魚店、釣りなどで、さまざまな種類の魚を目にしています。魚類（条鰭類）は、33,000 種以上の現生種を含む脊椎動物最大のグループで、我々人類の起源を知る上でも重要な生物群です。このセミナーでは、実際の魚類標本を使って、魚類の形態形質の観察・測定を行います。標本の詳細な観察を通じて、魚類における外部形態の変異や、異なる魚種間での形質の違いを検出することで、生物の進化とはどのような現象で、またそれはどのような仕組みで起こるのかの理解を目指します。なお、本セミナーでは生きた魚や標本に毎回触れるため、魚や標本が苦手な人にとっては大変苦痛と思われますので、受講希望の際には十分注意して下さい。また、受講者には頻繁なグループディスカッションやレポート作成、事前学習を要求しますので、ある程度セミナー内容に興味があり、自主的に学習する意欲のある方の受講を希望します。また、本セミナーではパソコンを用いた学習・データ共有を頻繁に行いますので、受講の際には適宜持参して下さい。

【科目のゴール】
1）魚類の形態観察・測定等を通じて、脊椎動物の多様性と進化を理解し、説明することができる。
2）簡単な統計解析を理解し、使用することができる。

【方略】
演習
演習中に短いレポートを課し、レポート内容について翌週の演習内で講評する。また、レポート課題についてグループディスカッションを行う。レポート作成・提出は ICT（パソコン、Moodle など）を適宜活用する。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、60 点以上を合格とする
② 評価点の算出・内訳：演習への参加度（50％）、レポート（50％）、基本的に全出席を前提とする
③ 評価の形態：レポート提出
④ 再試験など：試験は行わない

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
(参考書)
1）日本のタナゴ：生態・保全・文化と図鑑．北村淳一・内山りゅう，山と溪谷社，2020.
2）はじめての魚類学．宮崎佑介，福井歩，オーム社，2018.
3）日本産魚類検索　全種の同定 第三版．中坊徹次（編），東海大学出版会，2013.
4）Fishes of the World, 5th edition. JS Nelson,TC Grande,MVH Wilson. John Wiley and Sons, Inc., Hoboken, NJ, 2016.

【オフィスアワー】
担当教員氏名：橋口　康之
内線・PHS：2970
E-mail：yasuyuki.hashiguchi@ompu.ac.jp
内容：メールで連絡を取り、適宜時間を決める。
　　場所：総合研究棟 7F 生物学教室（702 号室）

【SDGs との関連】
14、15

セミナー A/B B細胞の環境応答

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
講師：岩渕　功誠（生物学）

【科目の概要】
テーマ：細胞の環境応答
生物は、温度、紫外線、化学物質、病原菌などさまざまな環境ストレスに曝されながら生きている。本セミナーでは、生物が持つ多様な環境適応能力を細胞の視点から理解することを目指す。各自の興味に基づいてテーマを決め、英語科学論文の講読や実験を行い、ストレスに応答して起こる細胞内現象の仕組みとその役割を学ぶ。加えて、論文検索、発表資料作成、発表、質疑応答などの汎用的スキルを習得する。

【科目のゴール】
1）生物の環境適応能力を細胞レベルで理解できる。
2）論文を検索できる。
3）論文や実験の内容を整理し、配布資料、発表用スライドを作成できる。
4）実験手法の原理を理解できる。
5）実験結果を解釈できる。
6）発表者は質問に対して的確な応答をすることができる。
7）スライドを用いて発表ができる。
8）発表を聴いて質問をすることができる。

【方略】
(1) アクティブラーニング
授業形態は演習。講読論文や実験についてディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク等を実施する。
(2) ICT を活用した双方向授業や自主学習支援の導入
Moodle を活用して課題の提出や質問のやりとりを行う。課題は教員が添削後、コメントを付けて学生にフィードバックする。疑問点は全員で共有し、解決する。

【評価】
① 合格点：100 点法で評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：発表（約 25％）、レポート・発表用スライド・配布資料の作成（約 25％）、セミナーへの参加度（約 50％）で評価する。遅刻、欠席をした場合は原則として評価を行わない。
③ 評価の形態：発表スライド・配布資料・レポート等の提出物、セミナーへの参加度（教員や学生との積極的な意見交換、発表・質疑応答）で評価する。
④ 再試験：行わない。
⑤ 追試験：行わない。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書・参考書の指定はない。適宜資料を Moodle にアップロードするほか、印刷資料を配布する。

【オフィスアワー】

担当教員氏名：岩渕　功誠

内線・PHS：2963

E-mail：kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp

開始時間：16:30

終了時間：18:00

内容：内線 2963 に電話、もしくは kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、日時を決定する。

　　場所：生物学研究室 1（総合研究棟 11 階 1115 室）

【SDGs との関連】

4

セミナー A/B Bタンパク質の科学

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
准教授：村川　武志（化学）

【科目の概要】
生体高分子であるタンパク質は、細胞の乾燥質量の約半分を占め、人体においては分子構造の異なるかたちで 2 万数千種類存在する。タンパク質は、酵素、受容体、物質輸送、細胞接着、外敵からの防御等、様々な機能をもち、ほとんどの生命現象はタンパク質の持つ多彩な機能によって成り立っているといえる。本セミナーはタンパク質を大きなテーマとし、その一般的な構造や、生体内で特に重要なタンパク質の機能についてなど、いくつかの小テーマについて基礎知識の学習、発表、討論を行う。またこれらを通し、プレゼンテーション、発表資料作成や、質疑応答などの手法についても学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）タンパク質の一般的な構造を学習し理解できる。
3）生体内で重要なタンパク質の機能を学習し理解できる。
4）タンパク質の立体構造を表示するコンピュータソフトウェアを使いこなせる。
5）正しい手法で必要な情報を収集し，それを正しく読み取り抽出することができる。
6）学習した内容を、文章、図表などにまとめ、プレゼンテーションの資料をつくることができる。
7）伝えたいことを、正確かつ分かりやすく説明することができる。
8）グループ内で疑問点についての討議ができる。
9）質問の内容を十分に理解し的確に回答できる。

【方略】
スケジュールに沿って事前学習を行い、セミナー当日に学習した内容を発表する。
発表内容に沿って質疑応答を行い、発表者のみならず参加者全員の知識を深める。
発表内容についても評価（わかり易い、あるいはわかりにくい点などをコメント）を行い、次回の発表に役立てる。

【評価】
合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
評価点の算出・内訳：評価点は出席状況を含む態度の評価の点数の 50％およびレポートの点数の 50％の総計である。
再試験：合格点に達しない場合、レポートを再提出し、それについて 100 点法による評価を行い 60 点以上を合格とする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
タンパク質の一生，永田和宏著，岩崎新書

【オフィスアワー】

担当教員氏名：村川　武志

内線・PHS：2961

E-mail：takeshi.murakawa@ompu.ac.jp

内容：takeshi.murakawa@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。

　　場所：化学研究室 1（総合研究棟 11 階 1117 室）

【SDGs との関連】

9

セミナー A/B B理科系作文・議論の基礎技術

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
准教授：古池　晶（物理学）

【科目の概要】
テーマ：理科系作文・議論の基本技術
　科学で求められる表現は、小説のような華麗な文体でもなく、名優のような流暢な話し方でもない。得た情報をそのままに、しかも極めて短く、誤解なくわかりやすく伝えることに尽きる。これは、トレーニングで得られる技術である。以下のトレーニングを繰り返し、「理科系作文・議論の基本技術」の習得を目指す。
　まず、受動的な情報収集として、ドキュメンタリー番組（テーマは、医療をはじめ、エネルギー・環境・人権・貧困・紛争など世界中で起きている社会問題）を観賞する。時には、能動的な情報収集として、学内外に取材・体験に行く。そこから主要な事実を抜き出し、誰が読んでも分かる簡潔な文章（要旨）にまとめる。さらに、その事実にもとづいた自分自身の意見・感想を、同様にまとめる。全員での議論の後、個人の意見・感想が変化するのかを確認し、議論の意義を問う。

【科目のゴール】
1）見たり聞いたりした事から主要な事実を抜き出し、要旨にまとめることができる。
2）事実をもとに自身の意見を持ち、事実と意見を区別して述べることができる。
3）事実の切り取り方や意見は、職業や地位、状況や環境に影響を受けていることを理解できる。
4）世界中で多様な社会問題が起きていることを知り、個人・組織・国家に何ができるかを提示することができる。
5）議論の場で、leadership や followership を発揮することができる。

【方略】
〈演習、ディスカッション〉毎回、当該テーマ（初回に学生らで全日程分を決定）の要旨をレポート形式で提出する。要旨への評価は、次回の講義で総括し、個別にも通知する。また、添削によって具体的な修正点を指摘する。これらのフィードバックによって、要旨を書く（理科系作文）技術の向上を図る。議論（ディスカッション）は、当該テーマについて、学生だけでまず行う。その後、オブザーバー（教員）との質疑応答を通し、議長 / メンバー両方の立場から、議論の内容・進め方について再考する。
〈自主学習支援〉学生が、さらなる要旨の書き直し・添削を望む場合は、e-mail、Moodle を用いて行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：議論への参加度と毎回作成するレポートを、4：6 の割合で評価する。
③ 評価の形態：議論への参加度（発言回数など）と提出されたレポートの記述内容。
④ 再試験：なし
⑤ 追試験：なし

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
理科系の作文技術（木下是雄　中公新書）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：古池　晶
内線・PHS：2966
E-mail：furuikephysics@gmail.com
内容：電話またはメールで相談の上決める。
場所：総合研究棟 7 階 701 室　物理学教室

【SDGs との関連】
1、4、12

セミナー A/B B質問紙調査方法について学ぶ

【ナンバリングコード】　M-01-03-B

【教員名】
教授：本庄　かおり（社会・行動科学）

【科目の概要】
テーマ：質問紙調査方法について学ぶ
本セミナーでは、質問紙調査の方法、統計分析の手法、プレゼンテーションの方法等に関する基礎的な手法を学びます。自身の興味や関心から研究仮説を導きだし、仮説を検証する質問紙調査を計画・実施します。その後、収集されたデータをエクセルを用いて統計分析し、結果を発表します。
これらの経験を通して、研究手法の一つである質問紙調査を実施する能力、集計データをエクセルを用いて分析する能力、また、結果を論理的に考察する能力を養うことを目指します。また、パワーポイントを用いたわかりやすいプレゼンテーションの方法も習得します。
質問票の作り方、研究計画の立て方、統計分析手法や結果の見方、発表方法など、将来の臨床研究において役立つ研究方法の基礎を身につけられる機会にしたいと考えています。

【科目のゴール】
1）質問紙調査方法の基礎を説明できる。
2）自身の興味を簡単な研究計画にすることができる。
3）仮説の立案ができる。
4）仮説に沿った調査項目が選定できる。
5）質問紙調査用紙を作成することができる。
6）質問紙調査の実施に際して注意すべき点を理解している。
7）調査結果を用いて簡単な分析ができる。
8）結果に関して論理的に考察することができる。
9）自身の考えを論理的に説明することができる。
10）わかりやすいプレゼンテーションができる。

【方略】
スケジュールに従って演習を行い、結果を口頭で発表する。発表準備に不備のある場合は、適宜指導の上、論理的な発表のスキルを身につける。

【評価】
① 合格点：100 点法による評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：セミナーへの取り組み態度（授業への参加態度）（70％）と発表（30％）
③ 再試験：実施しない
④ 追試験：実施しない

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
特になし。必要な資料は適宜配布し、Moodle へアップロードする。

【オフィスアワー】

担当教員氏名：本庄　かおり

内線・PHS：2953

E-mail：khonjo@ompu.ac.jp

内容：適宜対応します。メールでアポイントをとってください。

　　場所：社会・行動科学　研究室

【SDGs との関連】

4

スポーツ健康科学

【ナンバリングコード】　M-01-05-C

【教員名】
非常勤講師：藤田　誠也

【科目の概要】
スポーツ健康科学では、運動と健康に関する知識の獲得と実践を目的として、講義と実技の 2 つの授業形態をとっています。実技では、体力測定とスポーツの実践を行います。自分の身体を正しく理解し、望ましい身体を創造すること（身体教養）、また運動による身体応答及び身体活動量増強法について実践的に学ぶことを目標としています。講義では、健康・体力づくりの理論的背景としてのトレーニング論及び運動による身体応答変化を中心にスポーツ医学の基礎的理論の理解を深めることに目標を置いています。

【科目のゴール】
実技
1）課題の解決に当たり、他の学修者や教員と協力してよりよい解決方法を見出すことができる。
2）実験・実習の内容を決められた様式に従って文書と口頭で発表できる。
3）コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

講義
① 体力づくり・運動処方の考え方
4）平均寿命、健康寿命を説明できる。
5）予防医学（一次、二次、三次予防）と健康保持増進（健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指導）を概説できる。
6）基本概念（国民健康づくり運動、生活習慣病とリスクファクター、健康寿命の延伸と生活の質（quality of life〈QOL〉）向上、行動変容、健康づくり支援のための環境整備等）を説明できる。
7）身体活動、運動を説明できる。
8）ライフステージに応じた健康管理と環境・生活習慣改善（環境レベル、知識レベル、行動レベルと行動変容）を説明できる。
9）スポーツ医学を説明できる。
② スポーツ・運動時の生体応答
10）筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
11）運動生理学など、身体活動時の神経・骨格筋、循環器、代謝系の変化を説明できる。
12）脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。
13）体位や運動に伴う循環反応とその機序を説明できる。
14）呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。
③ 運動時のエネルギー代謝
15）解糖の経路と調節機構を説明できる。
16）クエン酸回路を説明できる。
17）電子伝達系と酸化的リン酸化を説明できる。
18）エネルギー代謝（エネルギーの定義、食品中のエネルギー値、エネルギー消費量、推定エネルギー必要量）を理解し、空腹（飢餓）時、食後（過食時）と運動時における代謝を説明できる。
19）脳のエネルギー代謝の特徴を説明できる。

【方略】
実技では、運動（スポーツ）をグループごとに企画し積極的に実践します。
実施した企画に対しては、企画終了後より良い運動指導（企画）となるための改善点に対するフィードバックを実施いたします。
講義では、トレーニング論及び運動による身体応答変化を中心にスポーツ医学の基礎理論の理解を深めます。

【評価】
① 合格点
100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とします。
ただし、次の 3 条件を全て満たしていること。
・授業参加率が全体の 10/12 以上であること。
・レポート（実技）の提出がなされていること。
・試験（講義）の評価が 100 点満点で 60 点以上であること。
② 評価点の算出内訳
授業への参加、授業態度：50％、レポート（実技）：20％、試験（講義）：30％
③ 評価形態
授業への参加：毎時間の授業態度
実技：運動企画と運動処方のレポート
（レポートテーマ：初回の授業で提示します。）
講義：筆記試験
④ 再試験
評価点が 60 点未満の者を対象とします。筆記試験を実施し、60 点以上を合格とします。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
指定教科書：なし
参考書：
1．山本利春著：「測定と評価 - 現場に活かすコンディショニングの科学 -」、ブックハウス HD
2．American College of Sports Medicine　日本体力医学会体力科学編集委員会監訳：「運動処方の指針－運動負荷試験と運動プログラム－（原書第 8 版）」、南江堂
3．運動生理学の基礎と発展　フリースペース

【オフィスアワー】
担当教員氏名：藤田　誠也
内容：授業前後で対応します

【SDGs との関連】
4

数　理　科　学

【ナンバリングコード】　M-01-06-D

【教員名】
非常勤講師：高橋　典寿

【科目の概要】
医学を含む科学全般への応用を念頭に置き、数学・統計学の基礎力を養う。

【科目のゴール】
1）一変数関数の連続性・微分可能性を理解している。
2）初等関数の高階導関数を求めることができる。
3）初等関数の Maclaurin 展開を求めることができる。
4）二変数関数の連続性・微分可能性を理解している。
5）Young の定理を理解している。
6）全微分を求めることができる。
7）接平面を求めることができる。
8）二変数関数の Taylor 展開を求めることができる。
9）二変数関数の極値を求めることができる。
10）条件付き極値問題を解くことができる。
11）級数の収束判定ができる。
12）一様収束の定義を理解している。
13）積分と極限の順序交換が可能な条件を理解している。
14）冪級数の収束半径を求めることができる。
15）実数の有理数近似ができる。
16）関数の極限を求めることができる。
17）Riemann 和の概念を説明できる。
18）累次積分に帰着して重積分が計算できる。
19）累次積分の積分順序交換ができる。
20）重積分の変数変換ができる。
21）広義積分の収束判定ができる。
22）Γ関数・Β関数に帰着する広義積分の計算ができる。
23）離散型確率変数と連続型確率変数を定義し、それらの分布を説明できる。
24）期待値と分散・標準偏差・共分散・相関係数の定義と性質を説明できる。
25）与えられた分布の平均・分散・モーメント母関数を求めることができる。
26）同時確率分布・周辺確率分布・条件付き確率分布の定義と性質を説明できる。
27）二項分布・Poisson 分布・正規分布を説明できる。
28）χ^2 分布・F 分布の定義と性質を説明できる。
29）統計量と標本分布を説明できる。
30）正規母集団からの標本平均・標本分散の分布を計算できる。
31）点推定と区間推定の概念を説明できる。
32）正規母集団における平均・分散の信頼区間を計算できる。

【方略】
講義によって主題を学ぶ。

【評価】

① 合格点：前期と後期それぞれに 100 点法により評価を行い、前期と後期の点数が両方とも 60 点以上の者を合格とする。

② 評価点の算出：定期試験の点数（80 点満点）と平常点（20 点満点）の合計を半期の点数とする。最終的な評価点は前期と後期の点数の平均とする。

③ 評価の形態：出席状況・授業態度と定期試験（記述式）/ レポートの提出を求めることもある。

④ 再試験：不合格者を対象に、後期に再試験を行う。60 点以上を合格とする。

⑤ 追試験：前期、後期定期試験の追試験は願出が受理されれば行う。

【単位】　4.0

【教科書・参考書】

教科書：理工系 微分積分学 第 3 版，荒井 正治著，学術図書出版社

教科書：確率・統計 理工系の数学 入門コース 新装版，薩摩 順吉著，岩波書店

【SDGs との関連】

4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	

生　　命　　誌

【ナンバリングコード】　M-01-07-D

【教員名】

教授：中野　隆史（微生物学・感染制御学教室、医学教育センター）
特別講師：永田　和宏（JT 生命誌研究館館長）
特別講師：吉田　賢右（JT 生命誌研究館顧問）
非常勤講師：平川　美夏（微生物学・感染制御学教室）
非常勤講師：小田　康子（微生物学・感染制御学教室）
非常勤講師：山岸　敦（微生物学・感染制御学教室）
講師：呉　紅（微生物学・感染制御学教室）
講師：鈴木　陽一（微生物学・感染制御学教室）
助教：坂口　翔一（微生物学・感染制御学教室）

【科目の概要】

人を対象とする医学は医療の中から生まれ、博物学のひとつで人以外の生物を対象とする生物学と融合し、生命科学へと発達してきた。この歴史的な流れはすべての生命に共通するゲノムの発見によると考えることができる。本講では、ゲノムによって紡がれた生命を俯瞰し、生命科学的な死生観を得るための基礎を教授する。

【科目のゴール】

1）興味の有無にかかわらず、様々な話を聞き取り、まとめることができる。
2）生命誌が提示する考え方を概説できる。
3）生物学や生命科学と医学の関係を概説できる。
4）生命誌からみたひとのライフステージを列挙できる。
5）生命誌におけるゲノムの意味を概説できる。
6）生命誌からみたひとの死を概説できる。
7）生涯教育に結びつく講演会などに自主的に参加できる。
8）講義内容や資料について更に深く調べ考察できる。

【方略】

担当教員と特別講師による講義および生命誌研究館での特別講義並びに自学自習によるレポート作成によって行う。

【評価】

① 評価はレポート・授業への参加態度他について行い、それぞれ 70％、30％の配点とし、その合計を 100 点満点に換算し四捨五入した得点が 60 点以上かつ、それぞれの点数が 60％以上の者を合格とする。尚、緊急事態宣言の影響で対面講義の実施ができない場合など、授業形態が変更になった場合は変更する場合がある。その場合はできる限り早期に変更内容を伝達する。
② 合格点に満たない者に対して、追加の課題を与え、それをもって評価とすることがある。
③ 課題に対するアセスメントとフィードバック
適宜、小テストを行い、その結果をフィードバックする。予習課題に対しては授業の始めに指名し発表させることがある。その結果を当日の講義内容に反映させる。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】

参考書：『「生きている」を見つめる医療　ゲノムでよみとく生命誌講座』講談社 現代新書　著者：中村桂子・山岸敦
『科学者が人間であること』岩波新書　著者：中村桂子
『知の体力』新潮新書　著者：永田和宏

【オフィスアワー】

担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：12:15
終了時間：13:00
内容：毎週月曜　12:15 ～ 13:00
場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史、呉　紅

【SDGs との関連】

3、13、14、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 2) 4)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 2) 3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 2) 5) 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 2) 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 7)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 8)	

国際言語文化 1（英語）

【ナンバリングコード】　M-02-01-D

【教員名】
教　授：藤枝　美穂（語学）
准教授：浅野　元子（語学）
非常勤講師：松田　紀子（月曜英語）
非常勤講師：平松　さやか（金曜英語）

【科目の概要】
英語を用いた情報理解・情報発信・コミュニケーションの能力を「読む・聴く・書く・話す」の 4 技能および継続的な語彙力の増強を通じて習得し、2 年次以降の医学英語の基礎を作ると共に、英語力診断プレテストおよび外部試験の受験を通じて自己の英語運用能力を客観的に分析し、その後の英語学習計画に役立てる。また英語による学習を通して様々な価値観や視野、学問的関心をもつことを習慣づける。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）様々な学問分野の英文を読むことで、学術的な語彙や文章のスタイルに慣れる。
3）一定の長さの英文の論理展開や段落ごとの要点を把握し、それを要約したり口頭で説明することができる。
4）英語による一般的な話題のサイエンスニュースを聴解し、情報を抽出してまとめることができる。
5）アカデミック・ライティングの方法を理解し、それに基づいて簡単なエッセイを書くことができる。

【方略】
演習（ペアワーク、グループワークを含む）
教材の配布や課題の提出に Moodle、語彙学習に ALC NetAcademy NEXT 等、ICT を積極的に活用する。語彙力増強のための小テストを継続的に実施する。英語の総合的な運用能力を継続的に測定するために、英語力診断プレテストと外部試験（TOEFL-ITP）を実施する。

【評価】
○「演習」科目であるので全出席を原則とする。
○評価の内訳
【月曜日】
・授業態度 10％
・課題・小テスト 50％
・最終試験 40％
【金曜日】
・授業態度 10％
・課題・小テスト 30％
・最終試験 60％
○TOEFL-ITP は授業の一環として行い、未受験の場合 3 回欠席扱いとなる。TOEFL-ITP のスコアは最終成績に反映する（550 点以上＋ 5 点、500 ～ 549 点＋ 3 点、390 点未満－ 3 点）。
○再試験
授業態度、課題・小テスト、最終試験の総合成績で判断する。
月曜日は前期・後期それぞれの学期末に再試験を実施する（金曜日は年度末のみに実施）。
○追試験
最終試験がやむを得ない事情で受験できず、当日までにその事情を報告した場合に限り、受験を認める。

○課題に対するアセスメントとフィードバック
いずれの曜日も、各技能を担当する教員が、そのつどワークシートや小テスト等の採点やコメントを通じて、全体または個別にフィードバックを行う。生成型 AI のみによる成果物と判断される場合は評価対象外となる。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
＜教科書＞
【月曜日】教科書は使用しない。前期・後期とも適宜資料を配布する
【金曜日】前後期：Q: Skills for Success Level 5（3rd edition, Oxford）

E ラーニング：アルク NetAcademy NEXT 英単語パワーアップコース　医学・医療編
URL: https://nanext.alcnanext.jp/anetn/student/stlogin/index/omc-gogaku

＜参考リンクと参考書＞
近藤哲男『キクタンサイエンス生命科学編』アルク　2012 年
月曜前期：Science, Quickly（https://www.scientificamerican.com/podcast/60-second-science/）
月曜後期：English for academic study: Grammar for writing（Garnet Education）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：藤枝　美穂
内線・PHS：2954
E-mail：miho.fujieda@ompu.ac.jp
内容：上記にメール連絡のうえ相談して日時を決める。
場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：浅野　元子
内線・PHS：2958
E-mail：motoko.asano@ompu.ac.jp
内容：適宜対応します。（上記にメールして相談の上日時を決めます）
場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【SDGs との関連】
4

【備考】
1．月曜日・金曜日ともに英和辞典（電子辞書も可）を必ず持参すること。
2．初回授業の 4 / 7（月）は英語力診断プレテスト（60 分）を実施するので、全員 P101 に 9:00 に集合すること。月曜英語、金曜英語ともに 4 クラスに分かれて授業を行う。
（A、B クラス：9:00-10:35、C、D クラス：10:40-12:15）
3．月曜日・金曜日とも、授業の内容とは別に、毎回上記の E ラーニング教材から範囲を指定して医学用語の単語テストを実施する。
4．授業日によっては（iPad ではなく）大学から個別に支給されている Microsoft365 アカウントから MSWord をダウンロードしてインストールした PC（Windows または Mac）を各自持参することが必要となる。

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	

国際言語文化 2（独語）

【ナンバリングコード】　M-02-02-D

【教員名】
嘱託教員：中川　一成（語学）※月曜日担当
非常勤講師：永谷　益朗（語学）※金曜日担当

【科目の概要】
ドイツ語圏で発行された学術文献、新聞、雑誌等を独力で読みこなすための前提となる基礎的読解力、ならびに日常会話レベルでの初歩的運用能力の習得を目指す。また第二外国語という科目の特性、特にドイツ語のもつ特性からして、言語現象を法則的に理解する態度、能力を身につけることも授業の目的とする。

【科目のゴール】
1）第二外国語としてドイツ語を学ぶことの意義について説明できる。
2）正確な発音でテキストを音読できる。
3）ドイツ語文法の基礎知識を習得し、応用できる。
4）日常会話で必要になる基本語彙、表現を習得し、使用できる。
5）ドイツ語圏の社会、文化、歴史について書かれた初級テキストを読むことができる。

【方略】
講義および演習形式（ペアワーク・グループワークを含む）
授業では基礎的文法事項について講義すると同時に、予習を前提にテキストの会話文や練習問題を使って運用能力の向上をはかる。発音や表現上の留意点等については改善点を伝え質問に答えることで逐次フィードバックを行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価の算出・内訳：平常点 30％、試験 70％とする。
③ 評価の形態：試験（期末試験、学年末試験）は記述式試験を実施する。平常点は予習、復習を含む授業への積極的参加を前提とし、小テストや Moodle を通じての課題提出、授業中の発表を評価の対象とする。小テストや Moodle 課題、授業中の発表については、改善点を伝え、質問に答えることを通じてフィードバックを行う。
④ 再試験は試験を受けた学生で最終成績が 60 点未満の者に対して実施する。
⑤ 病気等やむを得ない理由で試験を欠席した学生に対しては追試験を行う。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
ベアーテ・ヴォンデ／石井学／石井寿子／保阪靖人／保阪良子『ベルリンに夢中（DVD 付)』同学社 ISBN978-4-8102-0740-8（月曜日・中川担当）
清野智昭／時田伊津子／牛山さおり『ドイツ語の時間＜ときめきミュンヘン＞　コミュニカティブ版　―マルチメディア―』朝日出版社 ISBN978-4-255-25390-9（金曜日・永谷担当）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：中川　一成
E-mail：kazushige.nakagawa@ompu.ac.jp
内容：kazushige.nakagawa@ompu.ac.jp に連絡し、相談の上日時を決定する。

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	D
【学習アウトカム】 2)-5)	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	D
【学習アウトカム】 2)-5)	

生 命 科 学 1（物 理 学）

【ナンバリングコード】　M-03-01-D

【教員名】
専門教授：吉田　秀司（物理学）
准教授　：古池　晶（物理学）
講師　　：牧　泰史（物理学）

【科目の概要】
物理学は自然科学の主要な基盤の一つである。その直接的な成果は医療の現場にも数多く取り入れられている。例えば、診断機器としてＸ線撮影・MRI・超音波エコー・脳波・心電図など、また治療装置や分析装置などにも少なからず数え上げることができる。これらの機器を正しく使用するためには、単に機器の使用法を習熟するにとどまらず、その基礎になっている物理学の基本的知識を欠くことはできない。また、急激に進歩した分子生物学の成果が医療活動の中に積極的に取り入れられようとしている今日、生体分子の構造と機能に関するより深い理解が医療従事者にも要求されるようになってきており、化学や生物学のみならず物理学の基礎的な知識を総合したものがますます要求されている。
物理学の特徴は、数少ない原理に基づき、定量性をもって諸現象を説明しようとするところにある。生命科学 1 では、講義を通じて力学・熱力学・光学・電磁気学・原子物理学などの、成り立ちや歴史などにも触れつつ、その基礎的な諸概念と思考法を学ぶ。これにより、医療従事者に必要な物理学の基礎を習得するとともに、医学を含むサイエンスに共通して求められる論理的な思考力・判断力を学ぶことを目標とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）物体の運動を説明し、数式を用いて表現することができる。
3）弾性体の振舞いや流体の運動について説明できる。
4）温度と熱の本質的な意味、および「熱と仕事の互換性」について説明できる。
5）振動や波動の基本的な現象の説明、光の性質や光学器械の動作原理の説明ができる。
6）電気力、電場、電位、起電力、磁場中の荷電粒子の運動、電磁誘導などを説明できる。
7）原子の構造とその構成成分である素粒子について説明できる。
8）放射線・アイソトープについて説明できる。
9）医学・医療と関連する物理学的な現象について説明できる。

【方略】
スケジュール表に従って講義を進め、適宜演習問題により習得度をチェックする。
実施した演習について当該時間内あるいは次回講義時に解説を行う。
実施した試験について後日の講義あるいは Moodle などで解説を行う。
質問には対面に加えて電子メールや Zoom でも対応する。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価し、総合評価点（②に算出法を示す）が 60 点以上を合格とする。ただし、総合評価点が 60 点以上であっても、3 名の教員それぞれの担当分野（以下分野）において、60 点未満が 2 つ以上、あるいは 50 点未満が 1 つ以上ある場合は、不合格とする。
② 評価点の算出・内訳：各教員が担当する分野の評価点をそれぞれ 100 点法でつけ、その各分野の評価点を各分野の講義時間数に応じて按分し、総合評価点として 100 点法で評価する。
③ 評価の形態：主として記述試験。
④ 再試験：前期・後期再試験：前期・後期本試験で、評価点が 60 点未満の担当分野について、再度記述試験を実施する。

総合再試験：総合評価点（前期本試験・前期再試験・後期本試験・後期再試験を含む総合評価）が①に示した合格点の条件を満たさない場合、評価点が 60 点未満の分野について、再度記述試験を実施することがある。60 点以上を合格とする。

⑤ 追試験：正当な理由で本試験を欠席した場合には再試験の受験を認め、その評価点が 60 点以上を合格とする。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】

本講義では購入すべき教科書はなく、必要な資料は配布する。自習に適した参考書の一部を以下に記す。

サイエンス社「はじめて学ぶ物理学」

林一「医歯薬系の物理学」（丸善）

大島泰郎（監修）「生命科学のための基礎シリーズ 物理」（実教出版）

培風館「物理学の基礎」

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：吉田　秀司

内線・PHS：2959

E-mail：hideji.yoshida@ompu.ac.jp

内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める

　　場所：物理学研究室 1（総合研究棟 11 階）

【オフィスアワー②】

担当教員氏名：古池　晶

内線・PHS：2966

E-mail：furuikephysics@gmail.com

内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める

　　場所：物理学教員室（総合研究棟 7 階 701 室）

【オフィスアワー③】

担当教員氏名：牧　泰史

内線・PHS：2960

E-mail：omc11physmaki@yahoo.co.jp

内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める

　　場所：物理学研究室 2（総合研究棟 11 階 1112 室）

【SDGs との関連】

7

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-8)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 9)	

生　命　科　学 2（化　学）

【ナンバリングコード】　M-03-02-D

【教員名】
専門教授：境　晶子（化学）
准教授　：村川　武志（化学）

【科目の概要】
生命科学全般の学習に必要な一般化学・有機化学・物理化学および生物化学の知識の習得を目指す。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）化学構造式の描画と命名を正しく行える。
3）生体分子を中心としたさまざまな分子の構造に基いた性質を理解する。
4）化学反応の基礎となるさまざまな法則を理解する。
5）2）～4）の知識を応用して、生体を場とした化学的過程を考察できる。
6）医学上のいくつかの重要な現象を化学的に説明できる。

【方略】
1）事前に Moodle に講義資料をアップロードする。
2）学生はアップロードされた資料を用いてシラバスの予習項目に従って予習を行う。
3）各講義でも必要に応じて資料を配付し、スケジュール表に従って講義を行う。
4）講義は原則として 2）の予習を行っていることを前提に進めるが、講義内容の理解度を確かめ、また学生参加のアクティブラーニングを行うため、双方向授業の形式をとる。
5）4）のために、各講義中に Moodle とスマートフォン・タブレットを組み合わせたアンケート等を行い、その結果をふまえて講義を進める。
6）各講義中や講義の終わりに課題を課し、講義中あるいは次回の講義で解説することでフィードバックを行う。
7）本試験の解答および解説を試験終了後に Moodle にアップロードし、学生はそれにもとづいて振り返りの学習をする。

【評価】
① 合格点：前期（境）、後期（境）、後期（村川）の 3 つの試験範囲のそれぞれについて、100 点満点の 60 点以上を得た者を合格とする。原則として実授業時間の 3 分の 2 以上に出席しなければ評価を受けることはできない。
② 評価点の算出・内訳：定期試験（90％）及び講義時間内の確認問題や振り返り（10％）で評価を行う。
③ 評価の形態：記述式、またはマークシート式、あるいはその両者を用いる。
④ 再試験：前期・後期試験の 3 つの試験範囲について、不合格であった試験範囲について 100 点満点の再試験を行い、点数が 60 点以上の者を合格とする。
⑤ 追試験：試験を受けなかった者のうち、担当教員と教育センターがやむを得ない理由によるものと判断した場合は追試験を行う。追試験の評価法及び合格点は本試験に準ずる。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
教科書・参考書の指定はない。
講義資料は Moodle にアップロードするほか、適宜印刷資料を配布する。

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：境　晶子
内線・PHS：2962
E-mail：akiko.sakai@ompu.ac.jp
内容：akiko.sakai@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、決定する。
　　場所：化学研究室 2（総合研究棟 11 階 1116 室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：村川　武志
内線・PHS：2961
E-mail：takeshi.murakawa@ompu.ac.jp
内容：takeshi.murakawa@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。
　　場所：化学研究室 1（総合研究棟 11 階 1117 室）

【SDGs との関連】
3、7、12、13

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 5)6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 6)	

生 命 科 学 3（生 物 学）

【ナンバリングコード】　M-03-03-D

【教員名】
専門教授：原田　明子（生物学）
准 教 授：橋口　康之（生物学）
講　　師：岩渕　功誠（生物学）

【科目の概要】
医学を学習していく上で、生物学の知識と概念は基本となる。本科目では、生物学の分野のうち、特に細胞、分子遺伝、発生、代謝、生理、および生物の進化と多様性に関することを学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）生物の階層性を説明できる。
3）生命を形作る生体高分子について概説できる。
4）遺伝子の物質的実体が核酸であることを説明できる。
5）DNA 複製を概説できる。
6）転写および翻訳を説明できる。
7）細胞の一般的特徴を説明できる。
8）原核細胞の特徴を説明できる。
9）真核細胞の特徴を説明できる。
10）細胞周期を説明できる。
11）体細胞分裂の各過程を説明できる。
12）減数分裂と配偶子について説明できる。
13）動物の発生、胚葉分化について概説できる。
14）生体膜の構造と物質透過性について説明できる。
15）膜輸送タンパク質の機能を説明できる。
16）膜輸送（能動輸送・受動輸送など）を説明できる。
17）受容体について説明できる。
18）遺伝の法則を説明できる。
19）量的形質の遺伝および遺伝率について説明できる。
20）進化とはどのような現象かを説明できる。
21）Hardy-Weinberg の法則、多型、SNP を説明できる。
22）分子レベルでの進化を説明できる。
23）分子系統樹の原理と応用について説明できる。
24）人類進化について説明できる。
25）生殖隔離と種分化について説明できる。
26）共進化について説明できる。
27）性選択による進化について説明できる。
28）生物間相互作用と生態系の多様性について説明できる。
29）生物の種多様性について説明できる。
30）生物の遺伝的多様性とその意義について説明できる。
31）膜電位の発生機構を概説できる。
32）神経の興奮機構をイオンチャネルの性質に基づいて説明できる。

33）筋収縮の機構を細胞骨格と膜輸送タンパク質に関連づけて説明できる。
34）代謝をギブズエネルギーの観点から概説できる。
35）酵素の種類、酵素の性質を説明できる。
36）解糖系と発酵を説明できる。
37）クエン酸回路と電子伝達系および ATP 合成のしくみを説明できる。

【方略】
事前に Moodle で資料を配付する。講義の進み具合に沿って確認問題を解き、その講義中に Moodle の小テスト、アンケート機能などを用いて質疑応答を行い、さらに講義時間内、もしくは次回の講義時間に確認問題の解説をすることによってフィードバックを行う。また、Moodle で質問なども受け付ける。希望する学生には、オフィスアワーの時間帯を利用してさらなるフィードバックを行う。

【評価】
① 合格点　評価点は 100 点法による評価とし、60 点以上の者を合格とする。60 点未満の者は不合格とする。試験は前期と後期に行う。それぞれの試験は 100 点満点とし、前期の試験（50％）と後期の試験（50％）の割合で評価点を算出する。ただし、前期の試験と後期の試験の両方のそれぞれの点数が 60 点以上でなければならない。原則として実授業時間の三分の二以上に出席しなければ評価を受けることができない。
② 評価点の算出・内訳：定期試験及び講義時間内に確認試験を行い、定期試験を 90％、確認試験を 10％の重みをつけて評価を行う。定期試験については、複数の教員が講義を担当する場合、講義時間数に応じて評価点を配分する。
③ 評価の形態　記述式試験により評価する。
④ 再試験　前期試験および後期試験の不合格者に対しては、100 点満点の再試験をそれぞれについて行い、点数が 60 点以上の者を合格とする。
⑤ 追試験　試験を受けなかった者のうち、担当教員あるいは教育センターが、病気、災害その他やむを得ない理由によって試験を受けることができなかったと認定した者については願出により追試験を行う。

【単位】　3.0

【教科書】
指定しない。講義資料は事前に Moodle 等で配布する。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

【参考書】
1）「カラー図解　アメリカ版　新大学生物学の教科書　第 1 巻　細胞生物学」D. Sadava 他著（講談社）
2）「カラー図解　アメリカ版　新大学生物学の教科書　第 2 巻　分子遺伝学」D. Sadava 他著（講談社）
3）「カラー図解　アメリカ版　新大学生物学の教科書　第 3 巻　生化学・分子生物学」D. Sadava 他著（講談社）
4）「Essential 細胞生物学（原書第 5 版）」B. Alberts 他著（南江堂）
5）「キャンベル生物学　原書 12 版」N. A. Campbell 他著（丸善出版）
6）「エッセンシャル キャンベル生物学　原書 6 版」E. J Simon 他著（丸善出版）
7）「進化～分子・個体・生態系」N. H. Barton 他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
8）「ウォルパート発生生物学」L. Wolpert 他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
9）「カラー図解　人体発生学講義ノート　第 2 版」塩田浩平著（金芳堂）
10）「生物科学入門コース 2　生体物質とエネルギー」丸山工作著（岩波書店）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：原田　明子
内線・PHS：2964
E-mail：aharada.biology@gmail.com
内容：aharada.biology@gmail.com に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学研究室 2（総合研究棟 11 階 1114 室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：橋口　康之
内線・PHS：2970
E-mail：yasuyuki.hashiguchi@ompu.ac.jp
内容：yasuyuki.hashiguchi@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学教室（総合研究棟 7 階 702 室）

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：岩渕　功誠
内線・PHS：2963
E-mail：kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp
内容：内線 2963 に電話、kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学研究室 1（総合研究棟 11 階 1115 室）

【SDGs との関連】
7、12、13、14、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-37)	

生　命　科　学　実　習

【ナンバリングコード】　M-03-04-C

【教員名】

物理学教室　専門教授：吉田　秀司
　　准教授　：古池　晶
　　講　師　：牧　泰史

化学教室　専門教授：境　晶子
　　准教授　：村川　武志
　　国際交流センター（兼担）：小林　未明

生物学教室　専門教授：原田　明子（オーガナイザー）
　　准教授　：橋口　康之
　　講　師　：岩渕　功誠

【科目の概要】

物理学・化学・生物学は自然科学の主要な基盤を成しており、その学術的成果は医療の現場にも数多く取り入れられている。また、物理学・化学・生物学を基盤とした分子生物学などの成果も医療活動の中に積極的に取り入れられており、生体分子の構造や機能に関する深い理解が医療人にも要求されている。従って、物理学・化学・生物学を総合した基礎的な知識を習得することは、医療人を目指す学生にとって重要である。

本科目では、アクティブラーニングの一環として実習に取り組み、以下の事柄を通じて医学を学ぶ上での基盤となる科学的思考法と実験手技を習得することを目標としている。

(物理学)

様々な物理現象を目にし、生命科学の根幹をなす自然科学の理解を深める。

(化学)

生体を構成する化学物質の分析を通して、生命科学を支える化学に興味を持ち、理解を深める。

(生物学)

生物材料（細胞、組織、器官、個体）を使って実験・観察することにより、生物学に興味を持ち、理解を深める。

【科目のゴール】

1）真摯な態度で実習に取り組むことができる。
2）事前に実習書を読み実験計画を立て、それを実験ノートに記載できる。
3）共同作業を円滑に行うことができる。
4）実験ノートに実験結果を整理して記録できる。
5）グラフを分かりやすく正確に描き、測定値を適切な有効数字で単位をつけて表現することができる。
6）実験ノートに基づいて、形式が整った論理的なレポートを作成できる。
7）レポートの内容を説明することができ、質問に的確に答えることができる。
8）実習の後片付けができる。

(物理学)

9）重力と振り子の運動について説明できる。
10）流体の粘性係数を測定することにより、血管を流れる血液の振る舞いを説明することができる。
11）光の波長と屈折率の関係やレーザーの特性を説明することができる。

12）β線がどのように物質に吸収されるかを習得し、放射線防護に役立てることができる。
13）電気回路で電気信号の制御を行い、その現象（過渡現象など）を説明できる。
（化学）
14）さまざまな実験器具を正しく取り扱うことができる。
15）正確・精密な測定をすることができる。
16）正確に試料溶液を調製することができる。
17）安全な実験方法を知り、実行することができる。
18）実験の基盤となる概念や法則を理解し、それらを用いて実験結果を説明できる。
19）自分たちで発表テーマを決定し、調べ、発表し、質問に答えることができる。
（生物学）
20）適正な動物実験（3R）とは何かを説明できる。
21）医学・生物学に必須な光学顕微鏡の基本操作ができ、細胞・組織の観察結果を記録できる。
22）アルコール発酵を説明できる。
23）水中微生物を光学顕微鏡で観察し、図鑑で種を同定した上で記録できる。
24）細胞分裂を説明できる。
25）血液凝固のしくみを説明できる。
26）動物の分類および生物多様性について説明できる。
27）溶血と原形質分離を観察し、その現象を細胞膜の半透性、浸透圧および膜を介した水の移動で説明できる。
28）原核生物を光学顕微鏡で観察して記録し、原核細胞と真核細胞の違いを説明できる。

【方略】
スケジュール表に従って実習を行い、結果をレポートにして提出する。

（物理学）
1）レポートに不備がある場合は、指導の上、再提出を課す。これにより形式の整った論理的なレポート作成のスキルを身に付ける。
2）質問には対面に加えてメールや Zoom でも対応する。
（化学）
1）各テーマについて、理論と解析方法についての講義と演習によって実習の目的や進め方を理解する。その上で、次週の実習実技に臨む。
2）学生は実習実技の終了後、レポートと実験ノートを提出する。提出物をもとに学生と教員の間で議論し、これについてのコメントやレポート内容の解説によってフィードバックを行う。
3）実習成果発表会では、3 名の実験班でグループワークを行い、自主的にテーマを決定し、調べ、プレゼンテーションを行う。発表に対して質疑応答を行う。
（生物学）
1）レポートはその場で教員が確認し、不備がある場合は指導した上で再提出を課す。
2）質問には対面に加えてメールや Moodle でも対応する。

【評価】
① 合格点：全出席を前提とし、物理学、化学、生物学それぞれの実習において 100 点満点の採点をした上でそれらの平均点を最終評価点とする。ただし、物理学、化学、生物学それぞれの実習の点数が 60 点以上でなければならない。
② 評価点の算出・内訳：
（物理学）各教員による各実習に対する評価（レポートと態度）を合算し、100 点法に換算する。
（化学）実習への参加度、レポート・実験ノートの内容、それらをもとにした教員との討論の結果を総合的に判断して評価を行う。
（生物学）レポート（50％）、実習への参加度（50％）による評価を行う。
③ 評価の形態：実習への取り組み方とレポートの内容で評価する。参加度を評価するために実験ノートの提出を求める場合がある。

④ 再実習：本人が再実習を希望する場合には、装置・試料等の用意が可能であれば許可することがある。
⑤ 追実習：正当な理由で実習を欠席した場合には、装置・試料等の用意が可能であれば許可することがある。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
各実習で使用するテキストを配布する。
必要に応じて Moodle を通じた資料配付も行う。

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：原田　明子
内線・PHS：2964
E-mail：aharada.biology@gmail.com
内容：実習終了後
　　あるいは、aharada.biology@gmail.com に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学研究室 2（総合研究棟 11 階 1114 室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：境　晶子
内線・PHS：2962
E-mail：akiko.sakai@ompu.ac.jp
内容：akiko.sakai@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。
　　場所：化学研究室 2（総合研究棟 11 階 1116 室）

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：吉田　秀司
内線・PHS：2959
E-mail：hideji.yoshida@ompu.ac.jp
内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める
　　場所：物理学研究室 1（総合研究棟 11 階）

【SDGs との関連】
6、7、9、12、14、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 4)-7) 9)-28)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 9)-28)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 9)-28)	

物 理 学 （ 力 学 ） 初 歩

【ナンバリングコード】　M-03-05-D

【教員名】
講師：牧　泰史（物理学）

【科目の概要】
物理学の特徴は、数少ない原理に基づき、定量性をもって諸現象を説明しようとするところにある。物理学（力学）初歩では、並行して学ぶ生命科学１（物理学）の内容を初学者でも理解できるように、力学分野についての基本的な考え方を解説する。これにより、医療従事者に必要な物理学の基礎を習得する準備を整えるとともに、暗記に頼らない論理的な思考を習慣づけることを目標とする。

【科目のゴール】
１）専門科目内教養事項について説明できる。
２）質点に与えられる力と運動の関係を、数式を用いて表現することができる。
３）質点の力学的エネルギー保存則・運動量保存則について説明できる。
４）慣性モーメントについて説明できる。
５）ヤング率について説明できる。
６）ベルヌーイの定理、ハーゲン・ポアズイユの法則について説明できる。
７）医学・医療と関連する物理学的な現象について説明できる。

【方略】
講義の前後に、Moodle 等を使って基礎確認問題を行う。フィードバックとして、講義内や Moodle で、その解説と総括的評価（必要な場合は個別にも）を行う。学生は、自身の習得度を確認しながら講義に参加する。質問は、e-mail や Moodle でも受け付ける。

【評価】
① 本科目は合否で判定し、成績の評点を表示しない。
② 評価の内訳：授業内課題の提出によって評価を行う。
③ 評価の形態：課題提出の有無とその内容で評価する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
本講義では購入すべき教科書はなく、必要な資料は配布する。自習に適した参考書の一部を以下に記す。
サイエンス社「はじめて学ぶ物理学」
林一「医歯薬系の物理学」（丸善）
大島泰郎（監修）「生命科学のための基礎シリーズ 物理」（実教出版）
培風館「物理学の基礎」

【オフィスアワー】
担当教員氏名：牧　泰史
内線・PHS：2960
E-mail：omc11physmaki@yahoo.co.jp
内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める
　　場所：物理学研究室２（総合研究棟 11 階 1112 室）

【SDGs との関連】
7

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 7)	

基　礎　物　理　学

【ナンバリングコード】　M-03-06-D

【教員名】
専門教授：吉田　秀司（物理学）
准教授　：古池　晶（物理学）
講師　　：牧　泰史（物理学）

【科目の概要】
この世界を構成するもの全てが物理学の対象である。生命や医学も例外ではなく、「物理学の見方・考え方」は、原理的にはあらゆる対象を観察・解析・表現できる。生命科学１（物理学）への理解を深めるために、力学・熱力学・光学・電磁気学・原子物理学等に共通の「物理学の見方・考え方」の習得を目指し、さらに一般的な理論への展開、医療機器などへの応用例も紹介する。

【科目のゴール】
１）専門科目内教養事項について説明できる。
２）物理学全般の対象、手法、目的について説明できる。
３）「エネルギー」と「エントロピー」の相違点・相似点を説明できる。
４）「場」が実在することを、具体例を挙げて説明できる。
５）音や可視光など振動・波動の物理的性質と、その性質を用いた観察法を説明できる。
６）電磁波の特徴と、その特徴を用いた計測法や科学技術を説明できる。
７）光の量子性と、その性質を用いた計測法や科学技術を説明できる。
８）放射線・アイソトープの性質と利用法について説明できる。
９）医学・医療と関連する物理現象について説明できる。

【方略】
〈講義〉講義の前後に、Moodle 等を使って基礎確認問題を行う。フィードバックとして、講義内や Moodle で、その解説と総括的評価（必要な場合は個別にも）を行う。学生は、自身の習得度を確認しながら講義に参加する。質問は、e-mail や Moodle でも受け付ける。
〈自主学習支援〉学生がさらに高度な学習を望む場合、e-mail、Moodle 等を用いて演習問題を課し、その解説・個別評価を行う。

【評価】
① 本科目は合否で判定し、成績の評点を表示しない。
② 評価の内訳：授業内課題の提出によって評価を行う。
③ 評価の形態：課題提出の有無とその内容で評価する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
本講義では購入すべき教科書はなく、必要な資料は配布する。自習に適した参考書の一部を以下に記す。
サイエンス社「はじめて学ぶ物理学」
林一「医歯薬系の物理学」（丸善）
大島泰郎（監修）「生命科学のための基礎シリーズ 物理」（実教出版）
培風館「物理学の基礎」

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：吉田　秀司
内線・PHS：2959
E-mail：hideji.yoshida@ompu.ac.jp
内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める
　　場所：物理学研究室 1（総合研究棟 11 階）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：古池　晶
内線・PHS：2966
E-mail：furuikephysics@gmail.com
内容：上記に連絡し、相談の上日時を決める
　　場所：物理学教員室（総合研究棟 7 階 701 室）

【SDGs との関連】
7

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 9)	

化　学　通　論

【ナンバリングコード】　M-03-07-D

【教員名】
専門教授：境　晶子（化学）
准教授　：村川　武志（化学）

【科目の概要】
生命科学全般の学習に必要な一般化学・有機化学・物理化学および生物化学について、その歴史をふまえながら実践的な知識の取得を目指す。生命科学２（化学）と連携しながら進める。

【科目のゴール】
１）専門科目内教養事項について説明できる。
２）化学構造式の描画と命名を正しく行える。
３）生体分子を中心としたさまざまな分子について、化学構造に基いて性質を理解する。
４）化学反応の基礎となるさまざまな法則を理解する。
５）２）～４）の知識を応用して、生体を場とした化学的過程を考察できる。
６）医学上のいくつかの重要な現象を化学的に説明できる。

【方略】
１）事前に Moodle に講義資料をアップロードする。学生はこの資料に目を通して予習を行う。
２）学生は講義前の定められた期限までに、アップロードされた資料のうち、教員に深い解説を求める項目を、Moodle 等を通じて教員に伝える。
３）講義では、スケジュール表に従った項目に加え、２）で学生によるリクエストが多かった項目を重点的に、解説を提供する。
４）講義は原則として１）の予習を行っていることを前提に進めるが、講義内容の理解度を確かめ、また学生参加のアクティブラーニングを行うため、双方向授業の形式をとる。
５）４）を行うために、講義中に Moodle とスマートフォン・タブレットを組み合わせた課題・アンケート等を行い、その結果をふまえて講義を進める。
６）講義中、または講義の終わりに課題を課す。この課題への解答や議論での発言について、学生が考えをより発展させられるよう、授業内または Moodle を通して解説やコメントを加えることでフィードバックを行う。

【評価】
① 本科目は合否で判定し、成績の評点を表示しない。
② 評価の内訳：授業への参加度（80％）、授業内課題の提出（20％）によって評価を行う。
③ 評価の形態：授業への参加度は、授業中の議論にどれぐらい積極的に参加したかで評価する。課題の提出は、課題提出の有無およびその内容で評価する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書・参考書の指定はない。
講義資料は Moodle にアップロードするほか、適宜印刷資料を配布する。

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：境　晶子
内線・PHS：2962
E-mail：akiko.sakai@ompu.ac.jp
内容：akiko.sakai@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。
　　場所：化学研究室 2（総合研究棟 11 階 1116 室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：村川　武志
内線・PHS：2961
E-mail：takeshi.murakawa@ompu.ac.jp
内容：takeshi.murakawa@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。
　　場所：化学研究室 1（総合研究棟 11 階 1117 室）

【SDGs との関連】
3、7、12、13

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 5) 6)	

生　物　学　入　門

【ナンバリングコード】　M-03-08-D

【教員名】
専門教授：原田　明子（生物学）
准 教 授：橋口　康之（生物学）
講　　師：岩渕　功誠（生物学）

【科目の概要】
医学を学習していく上で、生物学の知識と概念は基本となる。本科目では、生命科学３（生物学）の学習に必要となる、分子遺伝、細胞、代謝の基礎的な概念と知識を身につけることを目的とする。原則として、受験で生物を選択しなかった者を対象とする。

【科目のゴール】
１）専門科目内教養事項について概説できる。
２）遺伝、遺伝子、ゲノム、DNA、染色体を概説できる。
３）DNA 複製を概説できる。
４）遺伝子の転写および翻訳を概説できる。
５）細胞説を説明できる。
６）細胞と組織、器官と個体の関係を概説できる。
７）原核細胞、真核細胞の一般的特徴を概説できる。
８）細胞周期を概説できる。
９）体細胞分裂の過程を概説できる。
10）酵素、異化と同化を概説できる。
11）解糖系と発酵を概説できる。
12）呼吸を概説できる。
13）進化とはどのような現象かを概説できる。
14）生物の多様性について概説できる。
15）膜電位の発生機構と神経の興奮機構を概説できる。
16）筋収縮の機構を概説できる。

【方略】
事前に Moodle で資料を配付する。講義の進み具合に沿って課題を行う。さらに講義時間内、もしくは次回の講義時間に確認問題の解説をすることによってフィードバックを行う。また、Moodle で質問なども受け付ける。希望する学生には、オフィスアワーを利用してさらなるフィードバックを行う。

【評価】
① 本科目は合否で判定し、成績の評点を表示しない。
② 評価の内訳：授業内課題の提出によって評価を行う。
③ 評価の形態：課題提出の有無とその内容で評価する。

【単位】　1.0

【教科書】
指定しない。講義資料は事前に Moodle 等で配布する。

【参考書】

1）高等学校　生物、生物基礎の教科書
2）「新課程 視覚でとらえる フォトサイエンス生物図録」嶋田正和ほか監修（数研出版）
3）「カラー図解　アメリカ版　新大学生物学の教科書　第 1 巻　細胞生物学」D. Sadava ほか著（講談社）
4）「カラー図解　アメリカ版　新大学生物学の教科書　第 2 巻　分子遺伝学」D. Sadava ほか著（講談社）
5）「カラー図解　アメリカ版　新大学生物学の教科書　第 3 巻　生化学・分子生物学」D. Sadava ほか著（講談社）
6）「Essential 細胞生物学（原書第 5 版）」B. Alberts ほか著（南江堂）
7）「エッセンシャル キャンベル生物学　原書 6 版」E. J Simon ほか著（丸善出版）

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：原田　明子
内線・PHS：2964
E-mail：aharada.biology@gmail.com
内容：aharada.biology@gmail.com に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学研究室 2（総合研究棟 11 階 1114 室）

【オフィスアワー②】

担当教員氏名：橋口　康之
内線・PHS：2970
E-mail：yasuyuki.hashiguchi@ompu.ac.jp
内容：yasuyuki.hashiguchi@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学教室（総合研究棟 7 階 702 室）

【オフィスアワー③】

担当教員氏名：岩渕　功誠
内線・PHS：2963
E-mail：kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp
内容：内線 2963 に電話、もしくは kosei.iwabuchi@ompu.ac.jp に連絡して相談の上、日時を決定する。
　　場所：生物学研究室 1（総合研究棟 11 階 1115 室）

【SDGs との関連】

7、14、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-16)	

人体の構造 1（肉眼解剖学）

【ナンバリングコード】　M-04-01-C

【教員名】
教　授：近藤　洋一
准教授：平田　あずみ、杉山　紀之
講　師：二木　杉子、濱岡　仁美
助　教：田中　義久、井上　順治、元野　誠、藤島　和人

【科目の概要】
肉眼解剖学では主として生前献体依託者の尊いご意志により提供されたご遺体を用いる。医学生は医学教育の基礎である人体構造と機能を理解すると同時に、生命の尊さを学び、社会のニーズに応える医師としての人格を形成する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）「献体」について学び、その意義を考えることにより、生命の尊厳や守秘義務をもって、解剖体を取り扱うことができる。
3）入念な予習と詳細な剖出により、人体の正常構造を三次元的に説明できる。
4）剖出された組織・器官の形態学的特徴から、その機能を関連づけて説明できる。
5）人体構造の普遍性と多様性（破格を含む）を理解している。

【方略】
・人体の構造と機能についての基本的な知識の修得は講義と実習で行う。
・実習を中心として行い、講義は実習前に必要最小限にとどめる。
・ICT の 1 つである Moodle を用いて講義資料の提示やフィードバック、知識確認のための小テストを行う。
・小テスト、実習試験、試験、レポート等については評価や解説を公表し学習効果を高めることで、知識の確認と蓄積につなげる。

【評価】
① 合格点
　・100 点法によって評価を行い、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳
　・試験（試験と実習試験）の点数：約 90％、提出物および態度の評価点：約 10％
③ 評価の方法
　・試験：筆記試験
　・実習試験：ご遺体を用いた筆記試験
　・提出物（レポート等）および授業・実習態度
④ 再試験
　・対象者：評価点が 60 点未満の者
　・評価の方法：筆記試験
　・評価点の算出：試験の点数
⑤ 追試験
　・学則で定められた通り。

【単位】　9.0

【教科書・参考書】

・教科書

「グレイ解剖学」原著第 5 版　秋田 恵一 訳（エルゼビア・ジャパン）

・実習書

「グラント解剖学実習」改訂版　A.J.Detton 編（西村書店）

・図譜

以下から選んで、必ず準備すること。

「ネッター解剖学アトラス」原著第 7 版　相磯 貞和、今西 宣晶 訳（丸善株式会社）

「グレイ解剖学アトラス」原著第 3 版　秋田 恵一 訳（エルゼビア・ジャパン）

「解剖学カラーアトラス」第 9 版　Johannes W. Rohen ら 著（医学書院）

「プロメテウス解剖学 コア アトラス」第 4 版　坂井 建雄 訳（医学書院）

「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 / 運動器系」第 3 版　坂井 建雄、松村 譲兒 訳（医学書院）

「プロメテウス解剖学アトラス 胸部 / 腹部・骨盤部」第 3 版　坂井 建雄、大谷 修 訳（医学書院）

「プロメテウス解剖学アトラス 頭頸部 / 神経解剖」第 3 版　坂井 建雄、河田 光博 訳（医学書院）

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：近藤　洋一

内線・PHS：2633

E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp

開始時間：16:20

終了時間：17:05

内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）

場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室

事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー②】

担当教員氏名：平田　あずみ

内線・PHS：2633

E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp

開始時間：16:20

終了時間：17:05

内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）

場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室

事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー③】

担当教員氏名：杉山　紀之

内線・PHS：2633

E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp

開始時間：16:20

終了時間：17:05

内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）

場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室

事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：二木　杉子
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑤】
担当教員氏名：濱岡　仁美
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑥】
担当教員氏名：田中　義久
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑦】
担当教員氏名：井上　順治
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑧】
担当教員氏名：元野　誠
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑨】
担当教員氏名：藤島　和人
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階　解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【医師実務経験のある教員】
近藤　洋一
平田　あずみ（歯科医師実務経験者）

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	

人体の構造 2（神経解剖学）

【ナンバリングコード】　M-04-02-C

【教員名】
教　授：近藤　洋一
准教授：平田　あずみ、杉山　紀之
講　師：二木　杉子、濱岡　仁美
助　教：田中　義久、井上　順治、元野　誠、藤島　和人

【科目の概要】
神経解剖学では主として中枢神経系の構造と機能を理解する上で必要な基礎知識および態度を身につけることを目的とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）脳と脊髄の構造を肉眼レベルで説明できる。
3）脳と脊髄各部位の基本的な機能を説明できる。
4）脳と脊髄各部位間の線維連絡について説明できる。
5）伝導路について説明できる。

【方略】
・中枢神経系の基本的な知識の習得は講義と実習で行う。
・ICT の 1 つである Moodle を用いて講義資料の提示やフィードバック、知識確認のための小テストを行う。
・小テスト、試験、レポート等については評価や解説を公表し学習効果を高めることで、知識の確認と蓄積につなげる。

【評価】
① 合格点
　・100 点法によって評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳
　・試験の点数：約 90％、提出物および態度の評価点：約 10％
③ 評価の方法
　・試験：筆記試験
　・提出物（レポート等）および授業・実習態度
④ 再試験
　・対象者：評価点が 60 点未満の者
　・評価の方法：筆記試験
　・評価点の算出：試験の点数
⑤ 追試験
　・学則で定められた通り。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
「神経解剖学講義ノート」第 4 版　寺島俊雄　著（金芳堂）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：近藤　洋一
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：平田　あずみ
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：杉山　紀之
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：二木　杉子
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑤】
担当教員氏名：濱岡　仁美
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑥】
担当教員氏名：田中　義久
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑦】
担当教員氏名：井上　順治
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑧】
担当教員氏名：元野　誠
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑨】
担当教員氏名：藤島　和人
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
　　場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
　　事前にメールでアポイントをとること。

【医師実務経験のある教員】
近藤　洋一
平田　あずみ（歯科医師実務経験者）

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	

データサイエンス 1

【ナンバリングコード】　M-10-01-D

【教員名】
オーガナイザー・教授：中野　隆史（医学教育センター、微生物学・感染制御学教室）
准教授：伊藤　ゆり（医療統計室）

京都大学　国際高等教育院
附属 データ科学イノベーション教育研究センター
教授　田村　寛
教授　林　和則

関西学院大学　経営戦略研究科
平木　秀輔

【科目の概要】
＊本科目は、大阪医科薬科大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに含まれる。
2016 年からの第 5 期科学技術基本計画において、本邦が目指すべき未来社会の姿として「Society 5.0」という概念が提唱された。Society 5.0 とは、狩猟社会である Society 1.0、農耕社会である Society 2.0、工業社会である Society 3.0、情報社会である Society 4.0 に続く、新たな‘情報駆動型社会’のことである。この Society 5.0 を支えるのがデータサイエンスである。データサイエンスは情報科学・統計学を基礎とする学問領域であり、医学分野での活用・発展も著しい。また、データサイエンスに基づく第三世代人工知能（Artificial Intelligence; AI）は社会の様々な領域に活用され、医学医療領域への応用が期待される。
本科目では、データサイエンスに基づくビッグデータの活用や、医学医療における応用、第三世代 AI の概念について学んだ後、データサイエンスや情報管理における倫理的、法規的側面について学ぶ。次に、データサイエンスおける記述や表現法を含む情報リテラシー取得のために、数理科学に基づいた統計的アプローチやデータ分類、解釈、解析、表現法について学ぶ。
データを正しく評価、活用する基盤となるリテラシーを身に着け、Society 5.0 における医療人として必要なデータサイエンスの基礎を習得する。データサイエンスおよび AI 導入により激動する未来の医療界における自らの在り方を省察し、未来における諸問題を解決する能力涵養を目的とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）データサイエンス、その周辺領域（ビッグデータ、オープンデータ、IoT）について概説できる。
3）データサイエンスで扱う様々な情報や研究への利用について、個人情報保護を含めた必要な倫理配慮を身につける。
4）個人および集団におけるデータに関連する法規について概説できる。
5）データサイエンスの基盤となる統計学的アプローチを概説できる。
6）データの分類・解釈・解析・表現方法に関して数理科学観点を含めて概説できる。
7）AI の概念や利活用の現状、関連する課題について概説できる。
8）医学・医療におけるデータサイエンスの利活用の現状と今後の課題について概説できる。

【方略】
講義・演習の内容について提示された予習・復習項目をもとに自ら理解度の省察を行う。必要に応じてオンデマンド資料を提示する。科目全体の内容に関するレポート課題を課す。

【評価】
講義内容全体をまとめ自分の考えを述べるレポート課題 80％および受講態度 20％。出席が既定に満たない場合は評価しない。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
講義部分においては数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム提供「リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材」を一部使用する。
久野遼平，木脇太一．大学 4 年間のデータサイエンスが 10 時間でざっと学べる　KADOKAWA　2018 年
竹村彰通，姫野哲人，高田聖治．データサイエンス入門（データサイエンス大系）　学術図書　2019 年

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：伊藤　ゆり
E-mail：yuri.ito@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医療統計室で施行

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史（医学教育センター、微生物学・感染制御学教室）
田村　寛（特別講師、京都大学）
平木　秀輔（特別講師、関西学院大学）

【SDGs との関連】
1、2、4、6、8、10、12、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3) 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 2)-4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 5) 6)	

コミュニケーション学

【ナンバリングコード】　M-05-01-D

【教員名】
講師：澤村　律子（社会・行動科学教室 / 保健管理室）
特別職務担当教員（教授）：上田　英一郎（クオリティ・インディケータ管理室）

【科目の概要】
コミュニケーションについて基礎的知識と技法を学び、また患者の心理や医療におけるコミュニケーションの重要性について学習する。

【科目のゴール】
1）医療におけるコミュニケーションの重要性を説明できる。
2）非言語的コミュニケーションについて説明できる。
3）傾聴、共感、受容について説明できる。
4）傾聴の基本的技法について説明できる。
5）自分の考えを適切に表現するための枠組みについて説明でき、活用できる。
6）自己理解を深め、コミュニケーションにおいて自身をコントロールすることを理解する。
7）患者の心理について説明できる。
8）多様性の理解と受容について説明できる。

【方略】
① 資料等を用いた講義
② 課題について考え、学生同士のディスカッションを通して学ぶ

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：レポート（70％）、授業態度・授業内レポート（30％）
③ 評価の形態：レポート提出
④ 再試験：評価が 60 点未満の場合、再試験を行う。再試験の形態はレポート（100％）
⑤ 課題（授業内レポート等）に対するフィードバック：授業内レポートについては、授業時に全体にコメントをする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書および参考書は授業中に資料を配布、あるいは随時紹介する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：澤村　律子
内線・PHS：58077
E-mail：ritsuko.sawamura@ompu.ac.jp
内容：適宜対応します。メールでアポイントとって下さい
　　場所：保健管理室

【医師実務経験のある教員】

澤村　律子（公認心理師実務経験者）、上田　英一郎

【SDGs との関連】

5

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 3) 4) 8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-8)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-8)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 1)-8)	

医　学　概　論

【ナンバリングコード】　M-05-02-D

【教員名】

教授：中野　隆史（微生物学・感染制御学教室、医学教育センター）
教授：飛田　伊都子（看護学部）
特別講師：岡田　仁克（第一東和会病院）
特別講師：田辺　功（医療ジャーナリスト、元朝日新聞編集委員）
特別講師：細井　順（ヴォーリズ記念病院ホスピス長）
特別講師：七里　元督（産業技術総合研究所）
講師：呉　紅（微生物学・感染制御学教室）
講師：鈴木　陽一（微生物学・感染制御学教室）
助教：坂口　翔一（微生物学・感染制御学教室）

【科目の概要】

医学は自然科学と人文・社会科学の間に位置し、医療や介護・福祉等にエビデンスや知識、新しい手法を提供し、対象者にいかに適用するかを教育研究するもので、それ自体が単独で存在することはなく、諸学を基礎において（幅広い教養を身につけて）はじめて成り立つものであると考えることができる。本講では、諸学や社会における医学や大学生の位置付けを明らかにすることを目的とする。

【科目のゴール】

1）興味の有無にかかわらず、様々な話を聞き取り、まとめることができる。
2）法律等による医療従事者の定義とそれを支える学問の位置付けを概説できる。
3）医療従事者を規定する法律等に記されている「品位」について考えを述べることができる。
4）健康について多面的に概説できる。
5）医学と医療の関係について概説できる。
6）医学と諸学の関係について概説できる。
7）医学の自然科学的側面について概説できる。
8）医学の人文・社会学的側面について概説できる。
9）提示された事例等が含む問題点を指摘できる。
10）提示された事例等が含む問題点について多面的に解決法を列挙できる。
11）生涯教育に結びつく講演会などに自主的に参加できる。
12）講義内容や資料について更に深く調べ考察できる。

【方略】

担当教員と特別講師による本学での講義および予め提示する課題に関するレポート作成によって行う。

【評価】

① 評価は筆頭試験・レポート・授業への参加態度他について行い、それぞれ80％、15％、５％の配点とし、その合計を100点満点に換算し四捨五入した得点が60点以上かつ、それぞれの点数が60％以上の者を合格とする。尚、緊急事態宣言の影響で対面講義の実施ができない場合など、授業形態が変更になった場合は変更する場合がある。その場合はできる限り早期に変更内容を伝達する。
② 合格点に満たない者と本試験を受験できなかった者に対して、本試験に準じて追再試験を行うことがある。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書：講義資料等を配布する
参考書：授業中に推薦することがある

【オフィスアワー】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：12:15
終了時間：13:00
内容：毎週月曜 12:15 ～ 13:00
　　場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、岡田　仁克、細井　順、七里　元督、呉　紅
飛田　伊都子（看護師実務経験者）

【SDGs との関連】
3、9、10

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 3)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 9) 10)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 4)-7)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 4)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 4)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 1) 5) 7) 8) 12)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 9) 10) 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 12)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	C
【学習アウトカム】 11) 12)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 12)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D
【学習アウトカム】 3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 2)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 2)	

医学心理学・行動科学

【ナンバリングコード】　M-05-03-D

【教員名】
教授：本庄　かおり（社会・行動科学教室）
講師：澤村　律子（社会・行動科学教室）
非常勤講師：西岡　大輔
非常勤講師：権藤　恭之
非常勤講師：鈴木　有佳
非常勤講師：鈴木　雄介

【科目の概要】
本科目では人の行動と心理を理解するための基本的知識を学ぶとともに、医師として必要な心理学的知識や技法、行動科学に関する知識を理解・習得することを目標とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）医療における心理学・行動科学の重要性について説明できる。
3）行動と脳内情報伝達物質との関連を説明できる。
4）行動と知覚、感覚との関係について説明できる。
5）情緒の種類、生起メカニズムが説明できる。
6）記憶のプロセス、しくみについて説明できる。
7）学習理論を概説できる。
8）動機づけが説明できる。
9）自我防衛機制を例示できる。
10）各発達段階の特徴と発達課題を概説できる。
11）ジェンダー形成について説明できる。
12）パーソナリティの類型、特性、形成を説明できる。
13）知能の発達について説明できる。
14）心理アセスメントについて概説できる。
15）知能検査について説明できる。
16）質問紙法と投影法の長所、短所について説明できる。
17）対人認知に関係する要因について説明ができる。
18）対人行動（援助、攻撃）について説明できる。
19）集団内の人間関係（同調、服従）リーダーシップについて説明できる。
20）主なストレス学説を説明できる。
21）生活におけるストレッサーと健康への影響について例示できる。
22）主なストレス関連疾患について説明できる。
23）健康行動や行動変容について概説できる。
24）行動療法、認知行動療法について概説できる。
25）健康の社会的決定要因（SDH）について理解している。
26）経済状況と健康・健康行動の関連について説明できる。
27）教育と健康・健康行動の関連について説明できる。
28）職業と健康・健康行動の関連について説明できる。
29）社会心理要因と健康・健康行動の関連について説明できる。

30）家庭環境・社会環境・地域環境の健康・健康行動への影響について説明できる。
31）国際保健の基礎的情報を理解している。
32）各種疾病のリスク要因について概要を理解している。

【方略】
スケジュールに沿って講義を実施する。講義ごとに毎回振り返りを行い、その日の講義に関する復習をレポートとしてMoodleにて提出する。提出されたレポートに不備のある場合は、指導の上、再提出とし内容の理解の向上を図る。

【評価】
① 合格点：100点法により評価を行い、評価点が60点以上を合格とする。
② 評価点の算出方法：試験（80％）授業態度（参加態度＋振り返りの提出）（20％）
③ 再試験：評価点が60点未満の場合、再試験を実施する。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
教科書：授業中に資料を配布する
参考書：よくわかる心理学（ミネルヴァ書房）、行動医学テキスト（中外医学社）、命の格差は止められるか（小学館）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：本庄　かおり
内線・PHS：2953
E-mail：khonjo@ompu.ac.jp
内容：適宜対応します。メールでアポイントをとってください。
　　場所：社会・行動科学　研究室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：澤村　律子
内線・PHS：58077
E-mail：ritsuko.sawamura@ompu.ac.jp
内容：適宜対応します。メールでアポイントをとって下さい。
　　場所：保健管理室

【医師実務経験のある教員】
澤村　律子（公認心理士実務経験者）

【SDGsとの関連】
1、2、3、4、5、6、8、9、10、11、12、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 23)-28) 30)-32)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2) 24)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 24)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 24)-29) 31)	
国際性： 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。	D
【学習アウトカム】 31)	

早　期　体　験　実　習　1

【ナンバリングコード】　M-05-04-D

【教員名】
オーガナイザー：森　龍彦（医学教育センター副センター長）

【科目の概要】
外来見学実習にて、患者の立場や心情を理解し、同時に医療プロフェッショナルとしての自覚、意識、経験、態度を身につけてゆく出発点とする。また医療を支える様々な医療関連部署を訪問し、職務を実体験することで病院の構造と機能を理解する。
実施時間；前期、水曜日、午前中

スケジュール；オリエンテーション・感染対策講座
外来見学実習
病院部署見学
バーチャル見学実習
ディスカッション・発表会

1）外来見学実習
2）病院部署見学
①病院薬剤部
②中央検査部
③中央放射線部
④栄養部栄養課
⑤病院ボランティア／気配りヘルパー
3）バーチャル見学実習
①患者エスコート
②中央手術部
③広域医療連携センター
④診療情報管理室

【科目のゴール】
1）医学生としてふさわしい服装、身なり、態度、言動、行動で病院実習に参加することができる。
2）外来見学実習での体験やコミュニケーションから、自ら考え、感じ取ったことや反省すべきことを、お互いに発表し合い、情報を共有することができる。
3）病院内で医療を支える医療関連部署の職務の説明や、一部の職務体験から、大学病院の構造と機能に関する理解を新たにし、大学病院の多職種連携の意義について同僚との意見交換を行いながら、発表報告できる。

【方略】
実習：フィールドワーク、
発表会：グループワーク、ディスカッション

【評価】
実習、及び発表会への参加態度、毎回の実習アンケート、発表会終了後アンケート、実習先担当者による評価表等、により評価を行う。

【単位】　0.5

【医師実務経験のある教員】
森　龍彦

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

多職種連携論１ - 医療人マインド

【ナンバリングコード】　M-05-05-D

【教員名】
医学教育センター担当教員：中野　隆史、瀧谷　公隆　他、
薬学部担当教員：中村　敏明、角山　香織　他、
看護学教育センター担当教員：真継　和子

【科目の概要】
本学では、多職種協働に基づいた良質なチーム医療を実践する医療人を育成するため、初年次から高学年まで一貫した多職種連携教育を実施している。その中での本科目は、各学部の初年次教育に位置づけられ、自職種（自学部）と他職種（他学部）の役割を理解し、行動できること、多職種連携の意義を理解し、チームメンバーとして行動できること、医療上の多職種で対応する課題に対し適正な情報収集ができること、医療上の課題（安全や倫理）に対し、他職種の意見を尊重し最適な対応を提示できること、などを目標としている。

【科目のゴール】
１）医療専門職として自らの役割を理解し、説明できる
２）他の医療専門職の役割を理解し、説明できる
３）自職種の役割について省察する

【方略】
講義形式

【評価】
評価方法：レポート 80％、受講態度 20％
フィードバック方法：毎回の授業時に質問を受け付ける

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
教科書：なし
参考書：実践　多職種連携教育（監修赤澤千春、寺﨑文生）　中外医学社

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：瀧谷　公隆
E-mail：kimitaka.takitani@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史（医師実務経験者）、瀧谷　公隆（医師実務経験者）、中村　敏明（薬剤師実務経験者）、
角山　香織（薬剤師実務経験者）、真継　和子（看護師実務経験者）

【SDGs との関連】

4、16

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

インタラクティブ・イングリッシュⅠ

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションを基に、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聴くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢を獲得することができる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）身近なトピック（学生生活、趣味など）について、簡単な英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。
4）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc.
World Voices 3, ABAX ELT Publishing

【SDGsとの関連】
3、4、10

インタラクティブ・イングリッシュⅡ

【ナンバリングコード】　M-02-06-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）医療場面において、英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoom を使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％)、授業内課題（復習課題を含む：40％)、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージラーニング株式会社
参考書等は学習の進行に合わせて随時紹介する。

【SDGs との関連】
3、4、10

医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都

【ナンバリングコード】　M-01-04-D

【教員名】
永井　純也、倉田　純一、山本　健、中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦、堀池　諒、芝野　真喜雄、國澤　研大、宮本　勝城、池田　勝彦、田和　正志、細身　亮太、内山　博雅、平野　義明

【科目の概要】
近年、生命科学分野の各学問領域が拡大し、医学、工学、薬学、看護学の学術交流が、益々、盛んになりつつあります。また、医療現場では、医師、薬剤師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が活躍の場を広げています。

関西大学と大阪医科薬科大学は、このような状況に対応すべく、「分子から社会までの人間理解」をベースとしながら、医学、薬学だけでなく看護学や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材の育成をめざし、両大学がそれぞれの特長を活かし、両大学共通講義科目「医工薬連環科学」を開設しています。独自の基礎教育科目である本講義は、各学問分野の概略を鳥瞰し、それぞれの分野の特性を理解するとともに、各学問分野の融合によって発展できる学際領域についての知識を修得および醸成することを目的とします。

講義は、関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）、大阪医科薬科大学（医学部、薬学部、看護学部）の教員が分担で担当し、オムニバス形式で、医学・工学・薬学・看護学の各分野を俯瞰的に学習できるように講義を構成しています。

医学部・看護学部の担当講義では、医学や看護学が病気の治療、健康やQOL（Quality Of Life）の維持・向上にどのように関与しているかについて解説します。

また、薬学部の担当講義では、薬のシードの発見から医薬品という製品ができるまでのプロセスを、生理活性分子の創製、薬理学、薬剤学・製剤学を専門とする教員によって順を追って解説します。

さらに、関西大学の担当講義では、医療を支える福祉・介護技術、再生医療、医療機器や食品技術に関して、それぞれの分野を専門とする教員によって順を追って解説します。

【科目のゴール】
医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識を修得します。

【方略】
各大学の講義担当者により作成された資料集とパワーポイントを用いて、遠隔講義または動画コンテンツなどにより講義で行います。今後の講義の参考にするため、毎回アンケートを実施します。

【評価】
大阪医科薬科大学医学部：授業態度（50％）とレポート（50％）によって総合的に評価します。
大阪医科薬科大学薬学部：レポート内容によって総合的に評価します（100％）。
大阪医科薬科大学看護学部：レポート（80％）と受講態度（20％）によって総合的に評価します。
関西大学：レポート（80％）及び受講態度（20％）によって総合的に評価します。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】

教科書：配布資料などを用います。

参考書：「医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療」関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　医工薬連環科学教育研究機構　編著、ライフサイエンス出版

【オフィスアワー】

担当教員氏名：中野　隆史

内線・PHS：2646

E-mail：tnakano@ompu.ac.jp

開始時間：12:15

終了時間：13:00

内容：場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦

【SDGs との関連】

3、4、8、9、11、12、17

グローバル・スタディーズ

【ナンバリングコード】　M-02-07-C

【教員名】
中野　隆史（教育センター長）

【科目の概要】
医学・医療の知識や技術は急速に進歩し、通信技術の進歩も手伝い、世界でその叡智を共有するのは以前よりも容易になってきている。その一方で、医療は依然として、ドメスティックな現場である。グローバル化が進む現代においても、病める人の生きる世界を理解し、寄り添い、治療を施すのは医療者の使命であり、その基となるのは他者理解である。本科目では、諸外国でのフィールドワークを行い、自分とは異なる文化、社会、年齢、性を生きる人々が生きる世界を通して、異文化、多様性の理解を深めることを目的とする。
＊ただし、本授業の履修は在学期間中１回限りとする。

【科目のゴール】
１）国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。
２）医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。
３）海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。

【方略】
本学提携校との国際交流プログラム（ハワイ大学春季、夏季ワークショップ５日間など）、その他海外の医療現場や医療従事者について学ぶことや実践的医療英語を身に付けることなどが基盤となる国際交流プログラムが対象となる。
１．渡航前に、医学事務課へ「グローバル・スタディーズ単位認定願」を提出する。
２．帰国後に、医学事務課へプログラム参加内容、レポートを提出する。
３．医学教育センター会議、医学部教授会にて単位認定の可否を審議する。
４．単位認定の結果を通知、成績表に反映される。

【評価】
プログラム参加内容（70％）、事後レポート（30％）

【単位】　1.0

【SDGs との関連】
3、10、16、17

第　2　学　年

2025年度　第 2 学年授業時間割

※日々の時間割は変更する場合があります。①担当教員からの連絡 ②UNIPA を常に確認するようにしてください。

（講義場所：原則として講義実習棟第 2 講義室）

時間割表		1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	休	5 限目	6 限目	7 限目	8 限目	9 限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
	4/1(火)	オリエンテーション										
	4/2(水)											
	4/3(木)											
	4/4(金)											
第1週	4/7(月)	人体の構造 3(組織学)					人体の構造 4(人体発生学)					
	4/8(火)	人体の構造 3(組織学)					人体の構造 3(組織学)					
	4/9(水)	医学英語 1		人体の構造 4 (人体発生学)								
	4/10(木)	人体の構造 3(組織学)					人体の構造 3(組織学)					
	4/11(金)	人体の構造 3(組織学)					人体の構造 3(組織学)					
第2週	4/14(月)	人体の構造 3(組織学)					人体の構造 3(組織学)					
	4/15(火)	人体の構造 3(組織学)					人体の構造 3(組織学)					
	4/16(水)	医学英語 1		人体の構造 4 (人体発生学)			人体の構造 4 (人体発生学)					
	4/17(木)						人体の機能 2(生理学)					
	4/18(金)						人体の構造 3(組織学) 総論試験					

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第3週	4/21(月)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	4/22(火)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	4/23(水)			人体の構造4 (人体発生学)			健康診断					
	4/24(木)	人体の構造3(組織学)										
	4/25(金)	人体の構造3(組織学)					人体の機能2(生理学)					
第4週	4/28(月)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	4/29(火) 祝	昭和の日										
	4/30(水)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	5/1(木)	人体の機能3(生化学)					人体の機能2(生理学)					
	5/2(金)	人体の機能2(生理学)					人体の機能3(生化学)					
	5/5(月) 祝	こどもの日										
	5/6(火) 祝	こどもの日振替休日										
	5/10(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ オリエンテーション										

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第5週	5/12(月)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	5/13(火)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	5/14(水)		医学英語1	人体の構造4(人体発生学)			人体の構造4(人体発生学)					
	5/15(木)	人体の機能2(生理学)					人体の構造3(組織学)					
	5/16(金)	人体の機能2(生理学)					人体の構造3(組織学)					
第6週	5/19(月)											
	5/20(火)											
	5/21(水)		医学英語1				人体の構造4(人体発生学)試験					
	5/22(木)	人体の機能3(生化学)					人体の機能2(生理学)					
	5/23(金)	人体の機能2(生理学)					人体の機能3(生化学)					
	5/24(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										
第7週	5/26(月)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	5/27(火)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	5/28(水)	人体の構造3(組織学)					人体の構造3(組織学)					
	5/29(木)	人体の機能2(生理学)					人体の構造3(組織学)					
	5/30(金)	人体の機能2(生理学)					人体の構造3(組織学)					
	5/31(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">時間割表</td><td>1限目</td><td>2限目</td><td>3限目</td><td>4限目</td><td>休</td><td>5限目</td><td>6限目</td><td>7限目</td><td>8限目</td><td>9限目</td><td>10限目</td></tr>
<tr><td>9:00～
9:45</td><td>9:50～
10:35</td><td>10:40～
11:25</td><td>11:30～
12:15</td><td>12:15～
13:00</td><td>13:00～
13:45</td><td>13:50～
14:35</td><td>14:40～
15:25</td><td>15:30～
16:15</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">第8週</td><td>6/2(月)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/3(火)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/4(水)</td><td></td><td>医学英語 1</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="2">人体の構造 3(組織学)
各論試験</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/5(木)</td><td colspan="4">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/6(金)</td><td colspan="4">人体の機能 1(分子生物学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">第9週</td><td>6/9(月)</td><td colspan="4">人体の機能 1(分子生物学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/10(火)</td><td colspan="4">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/11(水)</td><td></td><td>医学英語 1</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/12(木)</td><td colspan="4">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/13(金)</td><td colspan="4">人体の機能 1(分子生物学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">第10週</td><td>6/16(月)</td><td colspan="4">人体の機能 1(分子生物学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/17(火)</td><td colspan="4">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/18(水)</td><td></td><td>医学英語 1</td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/19(木)</td><td colspan="4">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>6/20(金)</td><td colspan="4">人体の機能 3(生化学)</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
</table>

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第11週	6/23(月)	人体の機能1(分子生物学)					人体の機能3(生化学)					
	6/24(火)	病原体・生体防御1					病原体・生体防御1					
	6/25(水)		医学英語1				人体の機能3(生化学)					
	6/26(木)	人体の機能2(生理学)					人体の機能3(生化学)					
	6/27(金)	人体の機能3(生化学)					人体の機能2(生理学)					
	6/28(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										
第12週	6/30(月)	人体の機能1(分子生物学)					人体の機能3(生化学)					
	7/1(火)	人体の機能3(生化学)										
	7/2(水)		医学英語1				人体の機能3(生化学)					
	7/3(木)	人体の機能1(分子生物学)					人体の機能3(生化学)					
	7/4(金)	人体の機能3(生化学)										
	7/5(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ										
第13週	7/7(月)	人体の機能1(分子生物学)					病原体・生体防御1					
	7/8(火)	病原体・生体防御1					病原体・生体防御1					
	7/9(水)			医学英語1試験								
	7/10(木)	人体の機能3(生化学)					人体の機能3(生化学)					
	7/11(金)	人体の機能3(生化学)					人体の機能3(生化学)					

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第14週	7/14(月)	人体の機能3(生化学)					人体の機能3(生化学)					
	7/15(火)	人体の機能3(生化学)					人体の機能3(生化学)					
	7/16(水)	人体の機能3(生化学)					人体の機能3(生化学)					
	7/17(木)	人体の機能3(生化学)					人体の機能3(生化学)					
	7/18(金)			医学英語1再試験								
第15週	7/21(月)祝	海の日										
	7/22(火)		人体の機能1(分子生物学)試験									
	7/23(水)		人体の機能3(生化学)試験①									
	7/24(木)						人体の機能3(生化学)試験②					
	7/25(金)		病原体・生体防御1試験									
第16週	8/25(月)						人体の機能1(分子生物学)再試験					
	8/26(火)		病原体・生体防御1再試験									
	8/27(水)						人体の機能3(生化学)再試験					
	8/28(木)	人体の機能2(生理学)										
	8/29(金)	人体の機能2(生理学)										

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">時間割表</td><td>1限目</td><td>2限目</td><td>3限目</td><td>4限目</td><td>休</td><td>5限目</td><td>6限目</td><td>7限目</td><td>8限目</td><td>9限目</td><td>10限目</td></tr>
<tr><td>9:00～
9:45</td><td>9:50～
10:35</td><td>10:40～
11:25</td><td>11:30～
12:15</td><td>12:15～
13:00</td><td>13:00～
13:45</td><td>13:50～
14:35</td><td>14:40～
15:25</td><td>15:30～
16:15</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
17
週</td><td>9/1(月)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/2(火)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 2</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/3(水)</td><td colspan="4">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td colspan="5">病原体・生体防御 2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/4(木)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 2</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/5(金)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 2</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
18
週</td><td>9/8(月)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/9(火)</td><td colspan="4">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td colspan="5">病原体・生体防御 2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/10(水)</td><td colspan="4">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/11(木)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 2</td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/12(金)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">第
19
週</td><td>9/15(月)
祝</td><td colspan="11">敬老の日</td></tr>
<tr><td>9/16(火)</td><td></td><td></td><td></td><td>人体の機能 2
(生理学)</td><td></td><td colspan="5">病原体・生体防御 2</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/17(水)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/18(木)</td><td></td><td></td><td colspan="2">病原体・生体防御 2</td><td></td><td colspan="3">病原体・生体防御 2</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/19(金)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="5">人体の機能 2(生理学)</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>9/20(土)</td><td colspan="4">インタラクティブ・イングリッシュⅡ
オリエンテーション</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第20週	9/22(月)		人体の機能2(生理学)試験①									
	9/23(火)祝	秋分の日										
	9/24(水)											
	9/25(木)	病原体・生体防御2試験										
	9/26(金)		人体の機能2(生理学)試験②									
第21週	9/29(月)	病気の成り立ち1					薬物療法1					
	9/30(火)	病気の成り立ち1					薬物療法1					
	10/1(水)		医学英語1				薬物療法1					
	10/2(木)	病気の成り立ち1					薬物療法1					
	10/3(金)	薬物療法1					病気の成り立ち1					
	10/4(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										
第22週	10/6(月)						薬物療法1					
	10/7(火)	薬物療法1					薬物療法1					
	10/8(水)		医学英語1				病気の成り立ち1					
	10/9(木)	薬物療法1					薬物療法1					
	10/10(金)	病気の成り立ち1					薬物療法1					
	10/11(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第23週	10/13(月)祝	スポーツの日										
	10/14(火)	薬物療法 1					病気の成り立ち 1					
	10/15(水)		医学英語 1						多職種連携論 2-医療と専門職			
	10/16(木)						病気の成り立ち 1					
	10/17(金)	薬物療法 1					薬物療法 1					
第24週	10/20(月)	病気の成り立ち 1					病気の成り立ち 1					
	10/21(火)	薬物療法 1					薬物療法 1					
	10/22(水)		医学英語 1						多職種連携論 2-医療と専門職			
	10/23(木)	病原体・生体防御 2 再試験					病気の成り立ち 1					
	10/24(金)											
	10/25(土)	学園祭										
第25週	10/27(月)	薬物療法 1					薬物療法 1					
	10/28(火)	病気の成り立ち 1					病気の成り立ち 1					
	10/29(水)		医学英語 1						多職種連携論 2- 医療と専門職			
	10/30(木)	薬物療法 1					薬物療法 1					
	10/31(金)	薬物療法 1										

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第26週	11/3(月)祝	文化の日										
	11/4(火)	病気の成り立ち 1					薬物療法 1					
	11/5(水)		医学英語 1						多職種連携論 2- 医療と専門職			
	11/6(木)	病気の成り立ち 1					病気の成り立ち 1					
	11/7(金)	病気の成り立ち 1					薬物療法 1					
第27週	11/10(月)	病気の成り立ち 1					薬物療法 1					
	11/11(火)	薬物療法 1					薬物療法 1					
	11/12(水)		医学英語 1									
	11/13(木)						病気の成り立ち 1					
	11/14(金)	薬物療法 1					病気の成り立ち 1					
	11/15(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										
第28週	11/17(月)						人体の機能 2(生理学)再試験					
	11/18(火)	病気の成り立ち 1					薬物療法 1					
	11/19(水)		医学英語 1						多職種連携論 2- 医療と専門職			
	11/20(木)			データサイエンス 2			データサイエンス 2					
	11/21(金)	病気の成り立ち 1					人体の構造 3(組織学)再試験					
	11/22(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ										

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第29週	11/24(月)祝	勤労感謝の日振替休日										
	11/25(火)	病気の成り立ち1					データサイエンス2					
	11/26(水)		医学英語1				データサイエンス2					
	11/27(木)						人体の構造4 (人体発生学)再試験					
	11/28(金)						データサイエンス2					
第30週	12/1(月)		薬物療法1試験									
	12/2(火)											
	12/3(水)		病気の成り立ち1試験									
	12/4(木)			データサイエンス2			データサイエンス2					
	12/5(金)						AB早期体験実習2オリエンテーション					
第31週	12/8(月)	A早期体験実習2 B自学自習					A早期体験実習2 B自学自習					
	12/9(火)	A自学自習 B早期体験実習2					A自学自習 B早期体験実習2					
	12/10(水)		医学英語1試験									
	12/11(木)	A早期体験実習2 B自学自習					A早期体験実習2 B自学自習					
	12/12(金)	A自学自習 B早期体験実習2					A自学自習 B早期体験実習2					

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">時間割表</td><td>1 限目</td><td>2 限目</td><td>3 限目</td><td>4 限目</td><td>休</td><td>5 限目</td><td>6 限目</td><td>7 限目</td><td>8 限目</td><td>9 限目</td><td>10限目</td></tr>
<tr><td>9:00～
9:45</td><td>9:50～
10:35</td><td>10:40～
11:25</td><td>11:30～
12:15</td><td>12:15～
13:00</td><td>13:00～
13:45</td><td>13:50～
14:35</td><td>14:40～
15:25</td><td>15:30～
16:15</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
32
週</td><td>12/15(月)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>12/16(火)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">薬物療法 1 再試験</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>12/17(水)</td><td></td><td colspan="3">医学英語 1 再試験</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>12/18(木)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">病気の成り立ち 1 再試験</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>12/19(金)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="4">AB 早期体験実習 2 発表会</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
33
週</td><td>1/5(月)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td colspan="2">診断学入門</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/6(火)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td colspan="4">診断学入門</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/7(水)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/8(木)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td colspan="4">診断学入門</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/9(金)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td>病原体・
生体防御 3</td><td colspan="2">診断学入門</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="5">第
34
週</td><td>1/12(月)
祝</td><td colspan="11">成人の日</td></tr>
<tr><td>1/13(火)</td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/14(水)</td><td colspan="2">診断学入門</td><td></td><td>診断学入門</td><td></td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/15(木)</td><td colspan="4">診断学入門</td><td></td><td colspan="2">病原体・生体防御 3</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>1/16(金)</td><td colspan="2">診断学入門</td><td></td><td>診断学入門</td><td></td><td colspan="4">病原体・生体防御 3</td><td></td><td></td></tr>
</table>

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第35週	1/19(月)	病原体・生体防御 3						診断学入門				
	1/20(火)	病原体・生体防御 3					診断学入門(PBL チュートリアル)					
	1/21(水)	診断学入門					病原体・生体防御 3					
	1/22(木)		診断学入門				病原体・生体防御 3					
	1/23(金)		病原体・生体防御 3				診断学入門(PBL チュートリアル)					
第36週	1/26(月)	診断学入門					病原体・生体防御 3					
	1/27(火)	病原体・生体防御 3					診断学入門(PBL チュートリアル)					
	1/28(水)		診断学入門		診断学入門		病原体・生体防御 3					
	1/29(木)	病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3					
	1/30(金)	診断学入門					診断学入門(PBL チュートリアル)					
第37週	2/2(月)	診断学入門					病原体・生体防御 3					
	2/3(火)	診断学入門					病原体・生体防御 3					
	2/4(水)			診断学入門								
	2/5(木)						病原体・生体防御 3					
	2/6(金)	診断学入門					病原体・生体防御 3					

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目	9限目	10限目
		9:00～9:45	9:50～10:35	10:40～11:25	11:30～12:15	12:15～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15		
第38週	2/9(月)								診断学入門			
	2/10(火)	本学医学部 前期入試										
	2/11(水)祝	建国記念の日										
	2/12(木)											
	2/13(金)											
第39週	2/16(月)		病原体・生体防御3本試験									
	2/17(火)						診断学入門本試験					
	2/18(水)											
	2/19(木)											
	2/20(金)											
第40週	2/23(月)祝	天皇誕生日										
	2/24(火)	病原体・生体防御3実技再試験					病原体・生体防御3再試験					
	2/25(水)						診断学入門再試験					
	2/26(木)											
	2/27(金)											
	3/16(月)	進級判定(発表時間は未定)					進級判定(発表時間は未定)					

医　学　英　語　1

【ナンバリングコード】　M-02-03-C

【教員名】
教　授：藤枝　美穂
准教授：浅野　元子
非常勤講師：赤尾　美和
非常勤講師：FUISTING Bjorn

【科目の概要】
2 年次から 4 年次を通じて、医学・医療に関する情報収集、情報発信、対人コミュニケーションを英語で実践できるようになることを目標とする（日本医学英語教育学会ガイドライン＊の要件等）。2 年次では、前期に簡単な症例報告の読解とサマリーライティングを行う（R, W）。後期はオーラルコミュニケーション、リスニング、リーディング、ライティングなどの技能に焦点をあてた演習を行う（C, R, W）。E- ラーニング教材を利用した医学・医療語彙学習を継続する（V）。
＊「医学教育分野別評価基準日本版（グローバルスタンダード）に対応するための医学英語教育ガイドライン」（日本医学英語教育学会，2015）V: Vocabulary, R: Reading, W: Writing, C: Communication. URL: https://jasmee.jp/wp-content/uploads/2017/07/Guidelines_Jpn.pdf

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）基本的な医療語彙（身体部位、症状、疾患名など）と接辞語を理解することができる。
3）簡単な症例報告文を読み、重要情報を拾って時系列に整理することができる。
4）医療面接における基礎的なコミュニケーションの型を理解し、挨拶をしたり症状や病歴をおよそ聞き出すことができる。
5）医学の基礎に関するレクチャーを聞き、内容や話の流れを把握することができる。
6）医療・医学に関する様々なジャンルの資料を読み、正確かつ迅速に内容や論理構成を把握することができる。

【方略】
対面による演習及びオンラインによる課題学習。教材の配布、課題の提出とフィードバックに Moodle、語彙学習に ALC NetAcademyNEXT 等、ICT を積極的に活用する。

【評価】
「演習」科目であるので、全出席を原則とする。
① 合格点：60 点
② 評価の内訳：
・授業参加度 10％
・課題・小テスト 30％
・最終試験 60％
③ 評価の形態
・課題には授業中のアクティビティ及び授業外の課題が含まれる（提出期限厳守）。
・前期および後期の最終試験は記述式とする。
・オーラルコミュニケーションでは、記述式の最終試験のほかに、授業時間内にスピーキングテストを実施する。
④ 再試験
授業参加度、課題・小テスト、最終試験の総合成績で判断する。再試験対象の基準は 60％未満。

⑤ 追試験
最終試験がやむを得ない事情で受験できず、当日までにその事情を報告した場合に限り、受験を認める。
⑥ 課題に対するフィードバック
各技能を担当する教員が、そのつどワークシート等の課題の採点やコメントを通じて全体または個別にフィードバックを行う。生成型 AI のみによる成果物と判断される場合は評価対象外となる。

【単位】 1.0

【教科書・参考書】
教科書：なし。授業前・授業時に資料を配布する
参考書：高橋玲（監修・執筆）『キクタンメディカル　1. 人体の構造編』アルク　2010 年
The CONCISE HUMAN BODY（DK）
E ラーニング：
アルク NetAcademy NEXT 英単語パワーアップコース　医学・医療編
URL: https://nanext.alcnanext.jp/anetn/student/stlogin/index/omc-gogaku

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：藤枝　美穂
内線・PHS：2954
E-mail：miho.fujieda@ompu.ac.jp
内容：上記にメール連絡のうえ相談して日時を決める。
場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：浅野　元子
内線・PHS：2958
E-mail：motoko.asano@ompu.ac.jp
内容：適宜対応します。（上記にメールして相談の上日時を決めます）
場所：語学教室（研究棟 6 階 605）

【SDGs との関連】
4

【備考】
課題の実施に Moodle などを活用するためサイトにアクセスして英文を適切に入力できるデバイス（なるべく PC）が必要。
リスニングの授業では音声を聞くためのデバイス（スマホ可）およびイヤホンを持参すること。

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-6)	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	C
【学習アウトカム】 1)-6)	

人体の構造 3（組織学）

【ナンバリングコード】　M-04-03-C

【教員名】
教　授：近藤　洋一、廣瀬　善信（病理学）
准教授：平田　あずみ、杉山　紀之
講　師：二木　杉子、濱岡　仁美
助　教：田中　義久、井上　順治、元野　誠、藤島　和人

【科目の概要】
「人体の構造 3」の前半を組織学の総論、後半を各論として位置づける。人体を構成する組織・細胞の構造と機能について、その構造と機能を知る上で必要な基礎知識と技能を身につけ、形態学的な観察を通して理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）光学顕微鏡を正しく操作することができる。
3）光学顕微鏡に用いられる染色法の名称と染色された構造の名称および染色性を記述することができる。
4）各組織の特徴を記述し、組織名を示すことができる。
5）器官を構成する細胞・組織の形態学的特徴を、その器官の機能と関連づけて述べることができる。
6）光学顕微鏡観察により、各器官系の形態学的特徴について他の系との共通点と相違点を述べることができる。
7）細胞の基本的な微細構造を述べ、電子顕微鏡写真においてその微細構造を同定できる。

【方略】
組織および器官系の構造と機能についての基本的な知識の習得は講義と実習で行う。
ICT の 1 つである Moodle を用いて講義資料の提示やフィードバック、知識確認のための小テストを行う。
オンラインバーチャルスライドシステムを用いて、実習および予習・復習で精細なデジタル組織標本を観察できるようにする。
小テスト、試験、レポート等については評価や解説を公表し学習効果を高めることで、知識の確認と蓄積につなげる。

【評価】
① 合格点
・100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳
・評価点の内訳：総論：各論 ＝ 1：2 で配分
-> 総論：試験の点数約 90％、態度点約 10％
-> 各論：試験の点数約 70％、口頭発表約 20％、態度点約 10％
③ 評価の形態
・試験の実施：ペーパー試験（マークシート）
・口頭発表および授業・実習態度
④ 再試験
・対象者：①評価点が 60 点未満の者
・評価の方法：ペーパー試験（マークシート）
・評価点の算出：試験の点数
⑤ 追試験
・学則で定められた欠席理由があるものが受けることができる。病欠の場合には診断書を提出すること。

・評価の方法：ペーパー試験（マークシート）
・評価点の算出：試験の点数、口頭発表および授業・実習態度

【単位】　6.0

【教科書・参考書】
〈教科書〉
下記の指定教科書を、各自、用意しておくこと。
『Ross 組織学』原著第 7 版（南江堂）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：田中　義久
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：濱岡　仁美
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：平田　あずみ
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：杉山　紀之
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑤】
担当教員氏名：二木　杉子
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑥】
担当教員氏名：近藤　洋一
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑦】
担当教員氏名：井上　順治
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑧】
担当教員氏名：元野　誠
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑨】
担当教員氏名：藤島　和人
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【医師実務経験のある教員】
近藤　洋一、廣瀬　善信
平田　あずみ（歯科医師実務経験者）

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	

人体の構造 4（人体発生学）

【ナンバリングコード】　M-04-04-C

【教員名】
教　授：近藤　洋一
准教授：平田　あずみ、杉山　紀之
講　師：二木　杉子、濱岡　仁美
助　教：田中　義久、井上　順治、元野　誠、藤島　和人

【科目の概要】
各器官の形成過程と発生異常を学ぶことで、医学の基礎的な知識を身につける。また、人体発生学は、疾患を理解する上でとても重要な位置づけであることを知ってもらう。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）各器官の各部名称を述べることができる。
3）各器官の発生過程を説明することができる。
4）正常の器官を学ぶことにより、各器官特有の病気に対して関心をもつことができる。

【方略】
人体の臓器の基本的な知識の修得は講義で行う。ICT の 1 つである Moodle を用いて、講義資料の提示やフィードバック、知識確認のための小テストを行う。小テスト、試験については評価や解説を公表し学習効果を高めることで、知識の確認と蓄積につなげる。

【評価】
① 合格点
・100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。ただし、原則として実授業時間の 3 分の 2 以上に出席しなければ評価を受けることはできない。
②評価点の算出・内訳
・評価点の内訳：試験の点数 95％　態度点 5 ％
③評価の形態
・試験の実施：ペーパー試験（マークシート式、筆記）
④再試験
・対象者：評価点が 60 点未満の者
・評価の方法：ペーパ試験（マークシート式、筆記）
・評価点の算出：試験の点数
⑤追試験
・学則で定められた欠席理由があるものがうけることができる。病欠の場合には診断書を提出すること。
・評価の方法：ペーパ試験（マークシート式、筆記）
・評価点の算出：試験の点数

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
〈教科書・参考書〉
下記の指定教科書を、各自、用意しておくこと。
『ムーア人体発生学』原著第 11 版（医歯薬出版）
『グレイ解剖学』原著第 4 版（エルゼビア）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：田中　義久
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：濱岡　仁美
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：平田　あずみ
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：杉山　紀之
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑤】
担当教員氏名：二木　杉子
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑥】
担当教員氏名：近藤　洋一
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑦】
担当教員氏名：井上　順治
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑧】
担当教員氏名：元野　誠
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【オフィスアワー⑨】
担当教員氏名：藤島　和人
内線・PHS：2633
E-mail：kaibou-Q@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：オフィスアワー日時：開講期間中の 9 限目（16:20 ～ 17:05）
場所：総合研究棟 6 階 解剖学教室
事前にメールでアポイントをとること。

【医師実務経験のある教員】
近藤　洋一
平田　あずみ（歯科医師実務経験者）

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-4)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-4)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-4)	

人体の機能１（分子生物学）

【ナンバリングコード】　M-04-05-D

【教員名】
専門教授：境　晶子（化学）（オーガナイザー）
専門教授：原田　明子（生物学）

【科目の概要】
がんや糖尿病などの病態の解明や治療に見られるように、分子生物学の臨床医学への応用が急速に進んでいる。本科目では、第１学年の生命科学２（化学）、生命科学３（生物学）で学んだ内容と連携していることをふまえて、遺伝子の構造と機能（複製、修復、転写、翻訳、遺伝子発現調節）を分子レベルで理解すること、および、これからの医療・医学研究に必須の技術である遺伝子工学の原理を把握することを目的としている。この講義によって、遺伝子が関連する疾病の原理、診断、治療に関する基礎知識を得ることができる。

【科目のゴール】
１）専門科目内教養事項について説明できる。
２）遺伝子の物質的根拠が核酸であることを説明できる。
３）核酸および染色体の構造を説明できる。
４）核酸の複製及び修復機構、変異と多型を説明できる。
５）PCR 法の原理を説明できる。
６）DNA の塩基配列決定法を説明できる。
７）遺伝子クローニング、遺伝子組換え、ゲノム編集等の技術を用いた遺伝子治療の原理を理解できる。
８）遺伝性疾患の遺伝の機構を説明できる。
９）遺伝子、ゲノムとは何か説明できる。
10）転写の機構を説明できる。
11）転写後調節の機構を説明できる。
12）翻訳の機構を説明できる。
13）エピゲノムと遺伝子発現調節について説明できる。
14）転写及び翻訳システムにおいて、原核生物と真核生物のあいだで共通の機構と独自の機構があることを説明できる。
15）遺伝子の発現調節の機構を説明できる。
16）遺伝子の異常及び遺伝子発現調節の異常が疾病の原因となることを、例を挙げて説明できる。

【方略】
１）事前に Moodle に講義資料をアップロードする。
２）アップロードされた資料を用いてシラバスの予習項目に従って予習を行う。
３）各講義でも必要に応じて資料を配付し、スケジュール表に従って講義を行う。
４）双方向授業を行うために、講義中に Moodle とスマートフォン・タブレットを組み合わせた確認問題・アンケート等を行い、その結果に基づいて講義を進める。
５）各講義で行う確認問題の解説、定期試験の解説、オフィスアワーでの質問に答えることでフィードバックを行う。

【評価】
① 合格点：各教員が担当の出題範囲（以下出題範囲）について 100 点満点の採点をした上で評価点を按分し、100 点満点の点数をつける。その点数が 60 点以上を合格とする。原則として実授業時間の 3 分の 2 以上に出席しなければ評価を受けることはできない。
② 評価点の算出・内訳：定期試験及び講義時間内の確認問題を行い、定期試験を 90％、確認問題を 10％の重みをつけて評価を行う。

③ 評価の形態：記述式、又はマークシート式、あるいはその両者を用いる。
④ 再試験：合格点に満たなかった場合、再試験を行うことがある。不合格者に対して、60 点に満たない出題範囲について 100 点満点の再試験を行い 60 点以上の者を合格とする。なお、①の点数が 60 点以上でも、40 点に満たない出題範囲がある場合はその出題範囲について同様に再試験を行い、60 点以上の者を合格とする。
⑤ 追試験：試験を受けなかった者のうち、担当教員と教育センターがやむを得ない理由と判断した場合は追試験を行う。追試験の評価法及び合格点は本試験に準ずる。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
教科書の指定はない。
参考書は以下の通りである。
「遺伝子の分子生物学」（第 7 版）J.D. Watson、東京電機大学出版局
「細胞の分子生物学」（第 6 版）B. Alberts、ニュートンプレス
「レーニンジャーの新生化学［上］［下］」（第 7 版）D.L. Nelson, M.M. Cox、廣川書店
講義資料は Moodle にアップロードする。

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：境　晶子
内線・PHS：2962
E-mail：akiko.sakai@ompu.ac.jp
内容：akiko.sakai@ompu.ac.jp に連絡して相談の上決定する。
場所：化学研究室 2（総合研究棟 11 階 1116 室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：原田　明子
内線・PHS：2964
E-mail：aharada.biology@gmail.com
内容：aharada.biology@gmail.com に連絡して相談の上決定する。
場所：生物学研究室 2（総合研究棟 11 階 1114 室）

【SDGs との関連】
9、12、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-16)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 1)-16)	

人体の機能 2（生理学）

【ナンバリングコード】　M-04-06-C

【教員名】
教　　授：小野　富三人（医師実務経験者）
准　教　授：坂田　宗平
講　　師：佐々木　真理、山本　耕裕、江頭　良明
講 師（准）：大黒　恵理子、山下　愛美
助　　教：中城　光琴
非常勤講師：岡村　康司（医師実務経験者）

【科目の概要】
人体の機能 2 では主として医学における生理学を学習する。生体に内在する法則性を見出し、生命現象の統合的解析を身につける。概要の詳細は以下のとおりである。

1）一般生理学で生物として常識的に理解できる生理学の知識を修得する。具体的には細胞の微細構造と機能、細胞集団としての組織・臓器の構成・機能分化、生体の恒常性を維持するための情報伝達と生体防御の機序、生体物質の代謝の動態等について理解する。
2）筋運動系、中枢・末梢神経系、感覚系においてその基本機能や原理を理解し、それらを活用できる統合的な応用力を身に付ける。
3）心臓の機能をはじめとする循環系、血液を含む体液の機能とそのホメオスターシスの維持、さらに呼吸器、内分泌、消化吸収、腎機能から生殖機能へと理解を深めて、色々な観点からの見方や考え方を修得する。

【科目のゴール】
1．生理学に関する教養的事項
1）生理学の成り立ちや歴史について概説できる。

2．細胞・個体の基本構造と機能
2）細胞膜の構造と機能を説明できる。
3）細胞内液・外液のイオン組成、浸透圧と静止膜電位を説明できる。
4）膜のイオンチャネル、ポンプ、受容体と酵素の機能を概説できる。
5）細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を説明できる。

3．個体の調節機構とホメオスタシス
6）受容体による情報伝達の機序を説明できる。
7）シナプス（神経・筋接合部を含む）の形態とシナプス伝達の機能（興奮性、抑制性）と可塑性を説明できる。
8）刺激に対する感覚受容の種類と機序を説明できる。
9）生体の恒常性維持と適応を説明できる。
10）体温の恒常性維持の重要性とその調節機序を説明できる。
11）生体機能や体内環境のリズム性変化を説明できる。
12）高温による障害を説明できる。
13）寒冷による障害を説明できる。

4．血液生理・リンパ系
14）造血幹細胞から各血球への分化と成熟の過程を説明できる。

15）血漿蛋白質の種類と機能を説明できる。
16）赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。
17）白血球の種類と機能を説明できる。
18）血小板の機能と止血や凝固・線溶の機序を説明できる。

５．神経系
19）脊髄反射（伸張反射、屈筋反射）と筋の相反神経支配を説明できる。
20）脊髄神経と神経叢（頸神経叢、腕神経叢、腰仙骨神経叢）の構成および主な骨格筋支配と皮膚分布を概説できる。
21）脳幹の機能を概説できる。
22）大脳皮質の機能局在（運動野・感覚野・言語野・連合野）を説明できる。
23）記憶、学習の機序を辺縁系の構成と関連させて概説できる。
24）随意運動の発現機構を錐体路を中心として概説できる。
25）小脳の構造と機能を概説できる。
26）大脳基底核（線条体、淡蒼球、黒質）の線維結合と機能を概説できる。
27）視覚、聴覚・平衡覚、嗅覚、味覚の受容機序と伝導路を概説できる。
28）交感神経系と副交感神経系の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。
29）視床下部の構造と機能を内分泌および自律機能と関連づけて概説できる。
30）ストレス反応と本能・情動行動の発現機序を概説できる。

６．運動器（筋骨格）系
31）筋組織について、骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能を対比して説明できる。
32）四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。
33）骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。

７．循環器系
34）心臓の構造と分布する血管・神経を説明できる。
35）心筋細胞の微細構造と機能を説明できる。
36）心筋細胞の電気現象と心臓の興奮〈刺激〉伝導系を説明できる。
37）興奮収縮連関を概説できる。
38）体循環、肺循環と胎児・胎盤循環を説明できる。
39）大動脈の枝を図示し、分布域を概説できる。
40）毛細血管における物質・水分交換を説明できる。
41）胸管を経由するリンパの流れを概説できる。
42）心周期にともなう血行動態を説明できる。
43）心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。
44）主な臓器（脳、心臓、肺）の循環調節を概説できる。
45）血圧調節の機序を説明できる。
46）血流の局所調節の機序を概説できる。

８．呼吸器系
47）呼吸筋と呼吸運動の機序を説明できる。
48）肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。
49）肺胞におけるガス交換と血流の関係を説明できる。
50）呼吸中枢を介する呼吸調節の機序を説明できる。
51）血液による酸素〈O_2〉と二酸化炭素〈CO_2〉の運搬の仕組みを説明できる。

9．消化器系
52）消化管運動の仕組みを説明できる。
53）消化器官に対する自律神経の作用を説明できる。
54）胃液の作用と分泌機序を説明できる。
55）胆汁の作用と胆嚢収縮の調節機序を説明できる。
56）膵外分泌系の構造と膵液の作用を説明できる。
57）小腸における消化・吸収を説明できる。

10．腎・尿路系（腎生理）
58）腎の機能の全体像やネフロン各部の構造と機能を概説できる。
59）腎糸球体における濾過の機序を説明できる。
60）尿細管各部における再吸収・分泌機構と尿の濃縮機序を説明できる。
61）水電解質、酸・塩基平衡の調節機構を概説できる。
62）アシドーシス・アルカローシスの定義、病態生理と診断を説明できる。

11．生殖機能
63）生殖腺の発生と性分化の過程を説明できる。
64）精巣の組織構造と精子形成の過程を説明できる。
65）性周期発現と排卵の機序を説明できる。
66）妊娠・分娩・産褥での母体の解剖学的と生理学的変化を説明できる。

12．内分泌・栄養・代謝系
67）空腹時（飢餓）、食後（過食時）と運動時における代謝を説明できる。
68）ホルモンを構造から分類し作用機序を説明できる。
69）ホルモン分泌の調節機構を概説できる。
70）各内分泌器官の位置を図示し、そこから分泌されるホルモンを列挙できる。
71）甲状腺と副甲状腺〈上皮小体〉から分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
72）副腎の構造と分泌されるホルモンの作用と分泌調節機構を説明できる。
73）膵島から分泌されるホルモンの作用を説明できる。

13．感覚器系（眼・視覚系）
74）視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。

14．感覚器系（耳鼻・咽喉・口腔系）
75）聴覚・平衡覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。
76）平衡感覚機構を眼球運動、姿勢制御と関連させて説明できる。
77）味覚と嗅覚の受容のしくみと伝導路を説明できる。

15．コミュニケーション
78）コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

16．課題探求・解決能力
79）必要な課題を自ら発見できる。
80）自分に必要な課題を、重要性・必要性に照らして順位づけできる。
81）課題を解決する具体的な方法を発見し、課題を解決できる。

17. 学習の在り方
82）講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。

18. 医学研究への志向の涵養
83）研究は、医学・医療の発展や患者の利益の増進を目的として行われるべきことを説明できる。

【方略】
講義では生命現象を生理学的に理解応用するための基礎知識を学習する。一部の授業ではあらかじめ Moodle 上に授業内容に関連した問題を掲載し、授業中にその解説を行う。また講義で得た知識の定着と理解を深める目的で実習を行う。各実習項目についてレポートの提出を求め、また実習発表会においてプレゼンテーションおよびディスカッションを行う。質疑応答に積極的な参加を求める。

【評価】
① 合格点
100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。原則として、講義は 2 / 3 以上出席し、かつ実習（実習説明会および発表会も含む）をすべて出席しなければ評価を受けることができない。
② 評価点の算出・内訳
・試験：80-100％
・講義、実習の参加態度および実習のレポート：0-20％
③ 評価形態
・試験：筆記試験
・講義・実習の参加態度および実習のレポートについて総合的な評価を行う。
④ 再試験
評価点が 60 点未満の者に対して再試験を行う場合がある。再々試験は行わない。
・評価形態：筆記試験
⑤ 追試験
学則どおり
⑥ 試験終了後に成績、問題、正解、および解説を Moodle 上でフィードバックするので、それを活用して復習し、疑問点はオフィスアワーなどを活用して質問に来ること。

【単位】　7.0

【教科書・参考書】

標準生理学	本間研一　他	(医学書院)
ガイトン生理学	John E. Hall	(エルセビアジャパン)
Q シリーズ　新生理学	竹内　昭博著	(日本医事新報社)
クエスチョン・バンク CBT	国試対策問題編集委員会	(メディックメディア)
BRS Physiology	Linda S. Costanzo	(Wolters Kluwer)

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：小野　富三人
内線・PHS：2656
E-mail：fumihito.ono@ompu.ac.jp
内容：火曜日　午後 5 時 - 6 時
場所：総合研究棟 7 階 707 室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：坂田　宗平
内線・PHS：2656
E-mail：souhei.sakata@ompu.ac.jp
内容：水曜日　午後 5 時 - 6 時
場所：総合研究棟 7 階 710 室

【医師実務経験のある教員】
小野　富三人、岡村　康司

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-77)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-77)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 79) 82)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 79) 80)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 81) 82)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	D
【学習アウトカム】 81) 82)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D
【学習アウトカム】 83)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	E
【学習アウトカム】 78)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	E
【学習アウトカム】 78)	

人体の機能 3（生化学）

【ナンバリングコード】　M-04-07-C

【教員名】

教　授：　矢野　貴人
准教授：　生城　浩子
　　村川　武志
講　師：　中井　由実、石井　誠志
非常勤講師：福井　健二

【科目の概要】

1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）生体の機能を分子レベルで理解することを目標とする。
　それによって、臨床医学を学ぶ上できわめて重要な基本的知識を習得し、病態を考える習慣を養う。

【科目のゴール】

1）生化学の成り立ちと医学のつながりを説明できる。
2）アミノ酸の性質を説明できる。
3）タンパク質の立体構造と機能、酵素の機能と特徴を説明できる。
4）水溶性ビタミンの種類と機能を説明できる。
5）糖質と糖質代謝、脂質と脂質代謝、アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝の概要を説明できる。
6）代謝調節機構の概要を説明できる。
7）ホルモンを構造に基づいて分類し、代表的なホルモンの生合成過程と分泌調節機能を説明できる。
8）赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。
9）ヘム・ポルフィリンの生合成と分解経路を説明できる。
10）ヘモグロビンの機能不全やヘム・ポルフィリンの代謝異常に起因する疾患の病態生化学を説明できる。
11）細胞周期の各期とその調節機構を説明できる。
12）酸化ストレス（フリーラジカル、活性酸素）の発生とその作用、関連するDNA障害とその防御機構を説明できる。
13）代表的な神経変性疾患の病因と病態生化学を概説できる。
14）糖タンパク質、糖脂質の構造と機能を説明できる。
15）GPIアンカー・レクチンを説明できる。
16）小胞輸送とソーティングの機構を説明できる。
17）細胞骨格と細胞運動、モータータンパク質の種類と機構を説明できる。
18）細胞接着と接着分子、基底膜・結合組織とその構成分子の構造と機能を説明できる。
19）食品の変化と加工、腸内細菌とプロ（プレ）バイオティクス、食品の呈味成分の概要を説明できる。
20）細胞の情報伝達の種類、方法の概要を説明できる。
21）細胞の情報伝達がもたらす細胞機能制御の仕組みと疾病の関係を説明できる。
22）タンパク質の翻訳後修飾の種類、方法の概要を説明できる。
23）タンパク質の翻訳後修飾がもたらす細胞機能制御の仕組みと疾病の関係を説明できる。
24）核酸の転写後修飾の種類、方法の概要を説明できる。
25）核酸の転写後修飾がもたらす細胞機能制御の仕組みと疾病の関係を説明できる。
26）血漿タンパク質の種類と意義を説明できる。
27）血液凝固の仕組みを説明できる。
28）線溶系の仕組みを説明できる。
29）ゲノム・エピゲノムを説明でき、またトランスクリプトーム・プロテオームの概要を説明できる。

30）病因・標的・マーカーの探索、オーダーメイド医療、システム生物学を説明できる。
31）相同組換え、部位特異的組換え、mobile element、遺伝子治療の概要を説明できる。

【方略】
シラバスに記載されているスケジュール表に従って講義を進める。講義担当の各教員は、各自の講義中あるいは前後に、学生に対して小テストあるいは質問などを課題として与え、採点、解答解説を行う等などにより理解度を確認する。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：講義を 90 点、実習を 10 点とする。講義については、2 回の試験（各 100 点法で採点）の平均（小数点以下は切り上げ）を 90 点満点に換算し評価点とする。
③ 評価の形態：講義についは、多岐選択方式及び記述式の問題を含む試験を制限時間内に回答させ、それを採点する。実習については、実習中の態度と実習後に提出されたレポートをもって評価する。
④ 再試験：評価点が 60 点に満たない者は再試験を受けることができる。再試験は 1 回のみで本試験に準じて実施する。
⑤ 課題に対するアセスメントとフィードバックは、各講義担当の各教員がその都度課題小テストの採点やコメント、また質問への回答や事項確認などを通じて学生に学習内容の理解に努めるよう促しアドバイスを与える。

【単位】　7.0

【教科書・参考書】
教科書は特に指定しない。
参考書：「レーニンジャーの新生化学」第 5 版　レーニンジャー、ネルソン＆コックス（廣川書店）
「ヴォート生化学」ヴォート＆ヴォート（東京化学同人）
「細胞の分子生物学」第 5 版　アルバーツ他（ニュートンプレス）
「細胞周期　細胞増殖の制御メカニズム」David O.Morgan　監訳中山敬一・中山啓子（メディカルサイエンスインターナショナル）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：矢野　貴人
内線・PHS：2644
E-mail：takato.yano@ompu.ac.jp
開始時間：12:15
終了時間：13:00
内容：日時：講義・実習期間内
時間：12:15 ～ 13:00
場所：総合研究棟 4 階　生化学教室セミナー室

【SDGs との関連】
2、3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-31)すべて	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-31)すべて	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-31)すべて	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-31)すべて	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-31)すべて	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-31)すべて	

病 気 の 成 り 立 ち 1

【ナンバリングコード】　M-04-08-D

【教員名】
教　授：廣瀬　善信
准教授：栗栖　義賢、石田　光明
講　師：桑原　宏子、安田　恵美、波多野　裕一郎
助　教：平田　公一、服部　公亮
非常勤講師：小田　幸作、安積　正作

【科目の概要】
本コースでは様々な病気の定義、原因（病因）およびその発生するメカニズム（病理発生）について、組織形態を土台にしながら学習する。病気は代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍などの疾患群に分類され、それぞれが特徴的な病因や病理発生を有している。本コースの到達目標としては、これら疾患群の定義、病因および病理発生を理解し、後に臨床科目を学ぶために必要とされる病気の基礎知識を持つことである。なお、本コースの学習内容は、従来の病理学総論に概ね相当する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）細胞傷害の定義と種類を説明できる。
3）適応現象である肥大、過形成、萎縮、化生を説明できる。
4）適応破綻としての壊死を概説し、壊死とアポトーシスの違いを説明できる。
5）炎症の定義を説明できる。
6）炎症の分類、組織変化、経時的変化を説明できる。
7）創傷治癒の過程を概説できる。
8）免疫機序を概説し、その破綻による代表的疾患を説明できる。
9）代表的な感染症による病理変化を説明できる。
10）虚血、充血、うっ血、血行静止の定義、原因、病態を説明できる。
11）出血の原因と止血の機構を説明できる。
12）血栓症の病因病態を説明できる。
13）塞栓の種類・経路、塞栓症の病態を説明できる。
14）梗塞の種類と病態を説明できる。
15）腫瘍の定義を説明できる。
16）良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。
17）上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。
18）腫瘍細胞の異型、分化、増殖について概説できる。
19）腫瘍の浸潤と転移を説明できる。
20）腫瘍の悪性度、進行度を概説できる。
21）腫瘍発生に関わる内因と外因を概説できる。
22）癌遺伝子と癌抑制遺伝子を概説できる。
23）腫瘍の持つ生物学的特性を概説できる。
24）腫瘍の疫学を概説できる。
25）胚細胞における染色体異常の種類、病態を概説できる。
26）染色体異常による代表的先天性疾患を挙げ、概説できる。
27）胚細胞における遺伝子異常の種類、病態を概説できる。

28）メンデル遺伝の 3 つの様式を説明し、代表的疾患を列挙できる。
29）糖質代謝異常の代表的疾患を挙げ、病態を概説できる。
30）タンパク質・アミノ酸代謝異常の代表的疾患を挙げ、病態を概説できる。
31）脂質代謝異常の代表的疾患を挙げ、病態を概説できる。
32）核酸・ヌクレオチド代謝異常の代表的疾患を挙げ、病態を概説できる。
33）無機質代謝異常の代表的疾患を挙げ、病態を概説できる。

【方略】

講義と実習を行うが、それを円滑に行うためには、人体の正常構造と機能を十分理解している必要がある。講義によって疾患群別の病理学的知識をインプットし、その後の実習ではそれら疾患群の形態的変化を顕微鏡で観察し、スケッチとしてアウトプットする作業を反復する。実習スケッチは本コースにおける提出必須課題であり、学生個人の学習度理解度の促進・客観的把握のためのアセスメント・テストとしても活用される。具体的には、提出スケッチは学生の学習度理解度に関して段階評価したのち返却され、必要に応じてコメント等が付される。スケッチの出来具合、学生からの質問等を総合的に勘案し、理解不足が目立つ項目等があれば個別あるいは全体に対してフィードバックを実施する。なお、講義資料および実習スケッチのフィードバック情報については、自主学習支援目的で Moodle にアップし、学修者全員がいつでもアクセス可能な環境を提供する。

【評価】

① 最終評価の算出内訳；筆記試験（約 70％）＋受講態度（約 10％）＋実習態度（約 20％）
② 合格点；最終評価は 100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格（＝単位取得）とする。但し、再試験対象となった合格者は、最終評価 60 点とする。筆記試験は 100 点法により評価し、60 点以上が合格への必要条件となる。
③ 評価の形態；講義および実習の授業態度、筆記試験（マークシート式）で主に行い、実習中に作成したスケッチや実習態度等も評価対象とする。筆記試験の範囲としては、講義内容と実習内容の両方が含まれる。また、学則に従い、筆記試験を受験するには、講義の 2 / 3 以上の出席、実習全部の出席が必要である。
④ 筆記再試験；上記の筆記試験 60 点未満の者は再試験の対象となるが、再試験の条件としては所定の手続きが必要となる。再試験もマークシート式試験であり、原則として 100 点満点中 60 点以上を合格とする。
⑤ 筆記追試験；しかるべき理由があった者に対して、再試験のタイミングで実施する。評価などは、原則として本試験と同様。

【単位】　4.0

【教科書・参考書】

ロビンス基礎病理学、V. Kumar, et al.、丸善
解明病理学、青笹克之（監）、医歯薬出版
カラーアトラス基礎組織病理学、A. Stevens, J. Lowe & B Young、西村書店
病理組織の見方と鑑別診断 - カラーアトラス、赤木忠厚（監）、医歯薬出版
組織細胞生物学、AL Kierszenbaum、南江堂
人体組織学、A. Stevens & J. Lowe、南江堂

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：安田　恵美
内線・PHS：2635
E-mail：emi.yasuda@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：オフィスアワー：毎週金曜日
場所：病理学教室（総合研究棟 5F）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：廣瀬　善信
内線・PHS：2635
E-mail：yoshinobu.hirose@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：オフィスアワー：毎週月曜日
場所：病理学教室（総合研究棟 5F）

【医師実務経験のある教員】
廣瀬　善信、栗栖　義賢、石田　光明、桑原　宏子、安田　恵美、波多野　裕一郎、平田　公一、服部　公亮、小田　幸作、安積　正作

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 5)-32)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-32)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 5)-32)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-32)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-32)	

薬　物　療　法　1

【ナンバリングコード】　M-04-09-D

【教員名】
教授：髙井　真司
講師：金　　徳男
講師：森脇　一将
助教：横江　俊一
助教：森原　啓文

【科目の概要】
薬物作用の薬物・毒物の生体への作用について、個体・細胞・分子のレベルにおける作用機序と、生体と薬物分子との相互作用を理解し、的確な薬物療法を行うための基本的な考え方を学ぶ。

【科目のゴール】
1）薬物とは何か？毒物とは何か？何が共通していて、何が違うのかを説明できる。
2）薬物・毒物の濃度反応曲線を描き、その決定因子を説明できる。
3）薬物の受容体結合と薬理作用との定量的関連性を理解し、活性薬と拮抗薬を説明できる。
4）薬物・毒物の用量反応曲線を描き、有効量・中毒量・致死量の関係を説明できる。
5）薬物・毒物の吸収、分布、代謝と排泄を説明できる。
6）薬物受容体についてを説明できる。
7）薬物投与方法を列挙し、それぞれの薬物動態を説明できる。
8）薬物相互作用について説明できる。
9）外来で頻用する対症療法薬を説明できる。
10）主な薬物アレルギーを列挙し、予防策と対処法を説明できる。
11）新薬がどのように開発されるかについて説明できる。
12）中枢に作用する薬物を説明できる。
13）薬物送達システム（DDS）について説明できる。
14）分子標的薬、抗体医薬について説明できる。
15）小児、高齢者、病態時の薬物の処方の仕方を説明できる。
16）薬物の作用、副作用に対する遺伝的影響を説明できる。
17）中毒とは何か、またその様々な原因について理解する。
18）自律神経作用薬（アドレナリン（エピネフリン）作用薬、抗アドレナリン（エピネフリン）作用薬、コリン作用薬、抗コリン作用薬）の薬理作用を説明できる。
19）自律神経作用薬、循環器作用薬、中枢神経作用薬、抗炎症薬を理解する。
20）動物実験などの研究方法やその意義を理解する。

【方略】
スケジュールに沿って講義および実習を行う。講義時に講義資料を配布し、講義内容の復習ができやすいようにする。小テストを行い、理解度をチェックすると共に模範解答を示し、フィードバックする。実習は結果及び考察についてのレポートを提出してもらう。実習の内容については、実習発表会を行い、班に分かれてプレゼンテーションをしてもらい、質疑応答にて理解度を深めてもらう。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。

② 評価点の算出・内訳：試験が 90%、実習（プレゼンテーション、レポート等）10%
　夫々に授業、実習への参加態度が加味される。
③ 評価の形態：試験は記述式中心。実習ではレポート提出。実習のまとめとしてプレゼンテーションを行い理解度を判定する。
④ 再試験：本試験の不合格者は、再試験で評価する。
⑤ 試験問題に関して質問があれば本試験、再試験後のオフィスアワーに、レポートについて質問があれば実習発表会後のオフィスアワーに個々に対応することによりフィードバックを行う。

【単位】　6.0

【教科書・参考書】
新しい薬理学（西村書店）
イラストレイテッド薬理学（原書六版）（丸善）
New 薬理学（第七版）（南江堂）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：髙井　真司
内線・PHS：2649
E-mail：shinji.takai@ompu.ac.jp
開始時間：9:00
終了時間：12:00
内容：火・木・金
場所：総合研究棟 4F（415）　薬理学教室

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	E
【学習アウトカム】 20)	

病原体・生体防御 1

【ナンバリングコード】　M-04-10-D

【教員名】
教　　授：中野　隆史（微生物学・感染制御学教室）（オーガナイザー）
専門教授：武内　徹（内科学Ⅳ）
特別職務担当教員（教授）：河野　武弘（輸血室、微生物学）

【科目の概要】
免疫系の機構を分子レベルで理解するとともに、医師として各種疾患の予防・診断・治療に必要な医科免疫学を習得し、自ら実践できることを目標とする。具体的には生体防御における免疫系の特徴を理解し、病原体に対する免疫反応、主な自己免疫疾患・先天性および後天性免疫不全症とがん細胞に対する免疫系の反応について述べることができ、これら疾患の予防・診断・治療法へ応用できる力を身に付けることを目標とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）生体防御における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を説明できる。
3）免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。
4）免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。
5）自然免疫と獲得免疫の違いを説明できる。
6）主要組織適合遺伝子複合体（major histocompatibility complex〈MHC〉）クラスⅠとクラスⅡの基本構造、抗原提示経路の違いを説明できる。
7）免疫グロブリンとＴ細胞抗原レセプターの構造と反応様式を説明できる。
8）免疫グロブリンとＴ細胞抗原レセプターの構造と遺伝子再構成に基づき、多様性獲得の機構を説明できる。
9）自己と非自己の識別機構の確立と免疫学的寛容を説明できる。
10）抗原レセプターからのシグナルを増強あるいは減弱する調節機構を概説できる。
11）代表的なサイトカイン・ケモカインの特徴を説明できる。
12）ヘルパーＴ細胞（Th1 cell、Th2 cell、Th17 cell）、細胞傷害性Ｔ細胞（cytotoxic T lymphocyte〈CTL〉）、制御性Ｔ細胞（regulatory T cell〈Treg〉）それぞれが担当する生体防御反応を説明できる。
13）ウイルス、細菌、真菌と寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。
14）原発性免疫不全症と後天性免疫不全症候群〈AIDS〉を概説できる。
15）免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症を概説できる。
16）アレルギー発症の機序を概説できる。
17）癌免疫に関わる細胞性機序を概説できる。

【方略】
講義形式

【評価】
1．合格基準：100 点満点法にて行い、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。
2．評価点の算出・内訳
　下記各科目合計の 6 割以上、かつ各項目の 6 割以上が必修
　　科目終了時筆答試験（80％）
　　授業への参加態度・小テスト等の課題（課さないこともある）の評価（20％）
　　尚、緊急事態宣言の影響で対面講義が実施できない場合など、授業形態が変更になった場合等は変更する場合がある。

3．評価の形態
科目終了時試験：筆答形式。
講義出席・態度：講義の出席については学則等を準用する。
4．再試験等
本試験で合格基準に満たないものに対しては、本試験に準じた筆答再試験を行うことがあり、その場合は1.の基準に準じて評価する。尚、必要に応じて口頭試問を併用することがある。
追試験に関しては学則等を準用する。
追再試験は休日・休暇期間中に行う場合があるので注意すること。
5．課題に対するアセスメントとフィードバック
適宜、小テストを行い、その結果をフィードバックする。予習問題に対しては授業の始めに指名し発表させることがある。その結果を当日の講義内容に反映させる。

【単位】 1.0

【教科書・参考書】
教科書：とくに指定しない。
参考書：
A. K. Abbas, A. H. Lichtman, S. Pillai 著　松島綱治・山田幸宏 訳　基礎免疫学　原著第4版（エルゼビア・ジャパン）
I. Roitt, J. Brostoff, and D. Male 著　多田富雄 監訳　免疫学イラストレイデッド（南江堂）
I. Roitt 著　Essential　Immunology（Oxford: Blackwell Science）
中島泉 他著　シンプル免疫学（南江堂）
菊池浩吉 著　医科免疫学（南江堂）　山元　弘 編　免疫学（化学同人）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：12:15
終了時間：13:00
内容：毎週月曜 12:15 ～ 13:00
場所：総合研究棟6階（微生物学・感染制御学教室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：河野　武弘
内線・PHS：2272
E-mail：tkohno@ompu.ac.jp
開始時間：16:15
終了時間：17:15
内容：毎週水曜 16:15 ～ 17:15
場所：附属病院輸血室

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、武内　徹、河野　武弘

【SDGsとの関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-12)15)17)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 4)13)-17)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 14)-16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 13)-16)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 17)	

病原体・生体防御 2

【ナンバリングコード】　M-04-11-D

【教員名】
教　授：中野　隆史（微生物学・感染制御学教室、医学教育センター）（オーガナイザー）
特別職務担当教員（教授）：河野　武弘（輸血室、微生物学・感染制御学教室）
講　師：呉　紅（微生物学・感染制御学教室）（科目主任）
講　師：鈴木　陽一（微生物学・感染制御学教室）
助　教：坂口　翔一（微生物学・感染制御学教室）

【科目の概要】
病原体には蠕虫・原虫・真菌・細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルス・プリオンがある。これらの病原体が人体に感染して生ずる病気が感染症である。感染症は病原体が増殖して細胞から細胞へ、環境や個体や集団へと伝染する点で、他の疾患とは特に区別される。医師はこれらの疾患をもつ患者を治療するとともに、その伝播を予防しなければならない。ここでは、既知の病原体の種類とその性質に加えそれぞれが引き起こす疾患の概略を把握し、新興感染症を含む感染症全般を理解するために必要とされる基本的な知識と考え方を習得することを目標とする。

【科目のゴール】
1）蠕虫・原虫・真菌・細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルス・プリオンの違いを指摘できる。
2）蠕虫・原虫・真菌・細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルス・プリオンに属する病原体名を列挙し、それらが起こす疾患を指摘できる。
3）細菌の構造を図示できる。
4）細菌の分類を説明できる。
5）グラム染色法と抗酸染色法の過程を説明できる。
6）細菌の一般的性質を列挙できる。
7）ウイルスの構造を図示できる。
8）ウイルスの分類を説明できる。
9）ウイルスの一般的性質を列挙できる。
10）微生物の変異について遺伝子レベル・抗原レベルで概説できる。
11）感染について細胞レベル・個体レベル・集団レベルで概説できる。
12）滅菌と消毒の違いを説明できる。
13）感染症の化学療法を概説できる。
14）微生物学的診断法と免疫学的診断法（血清学的診断法・皮内反応）について説明できる。
15）病原体に対する生体の反応について説明できる。
16）感染に関わる三大要素を指摘できる。
17）感染予防法を列挙できる。
18）ワクチンの種類を列挙し、それぞれの特徴と副反応について概説できる。
19）講義内容や資料について更に深く調べ、考察できる。
20）生涯教育の準備として、学内外の講演会などに参加できる。
21）専門科目内教養教育の内容を聞き取ることができる。

【方略】
講義及び演習型の講義で行う。

【評価】

① 評価は筆頭試験・レポート・授業への参加態度他について行い、それぞれ 80％、15％、5％の配点とし、その合計を 100 点満点に換算し四捨五入した得点が 60 点以上かつ、それぞれの点数が 60％以上の者を合格とする。
尚、緊急事態宣言の影響で対面講義の実施ができない場合など、授業形態が変更になった場合は変更する場合がある。その場合はできる限り早期に変更内容を伝達する。

② 合格点に満たない者と本試験を受験できなかった者に対して、本試験に準じて追再試験を行うことがある。
尚、10 月 7 日（木）の初回講義 1 コマ目は「実習」なので必ず出席のこと。

③ また、科目のゴール 20 に関し、授業期間内およびその前後に開催される、教員が指定した講演会等に自主的に参加し、その内容の要旨および自分の意見について所定の様式でまとめて提出したものは、加点方式で評価することがある。但し、適当な講演会等がない場合もある。

④ 課題に対するアセスメントとフィードバック
適宜、小テストを行い、その結果をフィードバックする。予習課題に対しては授業の始めに指名し発表させることがある。その結果を当日の講義内容に反映させる。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】

教科書：「標準微生物学　第 15 版」中込 治・神谷 茂　編集　医学書院

参考書：「ブラック微生物学　第 3 版（原書 8 版）」J. G. Black 著　神谷茂　他監訳　丸善出版
「病原微生物学」矢野郁也　他編集　東京化学同人
「シンプル微生物学」東　匡伸・小熊恵二　編集　南江堂

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：12:15
終了時間：13:00
内容：毎週月曜 12:15 ～ 13:00
場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【オフィスアワー②】

担当教員氏名：呉　紅
内線・PHS：2647
E-mail：hong.wu@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:30
内容：木曜日 16:20 ～ 17:30
場所：微生物学・感染制御学教室

【オフィスアワー③】

担当教員氏名：鈴木　陽一
内線・PHS：2647
E-mail：youichi.suzuki@ompu.ac.jp
内容：毎週火曜 16:20 ～ 17:30
場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：坂口　翔一
内線・PHS：2647
E-mail：shoichi.sakaguchi@ompu.ac.jp
開始時間：12:15
終了時間：13:00
内容：月曜 12:15 ～ 13:00
場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、河野　武弘、呉　紅

【SDGs との関連】
3、4、7

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1) 3) 4) 6) -10)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 18)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 2) 11) 15)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 5) 14)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 13)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 12) 16) 17)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	D
【学習アウトカム】 18)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 19) -21)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 20)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 17) 18)	

病原体・生体防御 3

【ナンバリングコード】　M-04-12-D

【コース責任者】
中野　隆史（微生物学・感染制御学）

【コース主任】
瀧谷　公隆（医学教育センター）
鈴木　陽一（微生物学・感染制御学）

【指導教員】
（専任教員）
河野　武弘（輸血室、微生物学・感染制御学）
呉　紅（微生物学・感染制御学）
坂口　翔一（微生物学・感染制御学）
小川　拓（感染対策室、微生物学・感染制御学）
津田　泰宏（看護学部看護学科）
（非常勤講師）
川村　尚久（小児科学）
臼田　寛（衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ）
（特別講師）
井村　俊郎（微生物学・感染制御学）
小柳　義夫（微生物学・感染制御学）
高崎　智彦（微生物学・感染制御学）
森松　伸一（微生物学・感染制御学）

【科目の概要】
病原体には蠕虫・原虫・真菌・細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルス・プリオンがある。これらの病原体が人体に感染して生ずる病気が感染症である。病原微生物は増殖して細胞から他の細胞へ、環境や個体から他の個体や集団へと伝染する点で、他の疾患とは特に区別される。医師はこれらの疾患を持った患者を診断・治療するとともに、その伝播を予防しなければならない。ここでは、おもな感染症の原因、病態生理、症候、診断、治療や対策に関する知識や技能を習得し、その他の感染症への対応について自ら学習できる能力を養う。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
（感染症の病態）
2）病原体に対する生体の反応を説明できる。
3）下痢症・食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。
4）新興感染症・再興感染症を列挙できる。
（感染症と疫学）
5）感染症における疫学の概念について説明できる。
（感染症の診断・検査・治療の基本）
6）主な感染症の原因となる病原体を分類できる。
7）微生物学的診断と血清学的診断を概説できる。
8）感染症の化学療法を概説できる。

9）微生物学的検査の検体の採取と保存ができ、グラム染色を行い、観察できる。
(感染症の病態と疾患)
① ウイルス・プリオン感染症
10）インフルエンザの症候、診断と治療を説明できる。
11）麻疹の症候と診断を説明できる。
12）風疹の症候、診断と合併症を説明できる。
13）流行性耳下腺炎の症候、診断と合併症を説明できる。
14）水痘・帯状ヘルペス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
15）ウイルス性皮膚疾患（単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい）を概説できる。
16）HIV 感染症の感染経路、自然経過、症候、診断、治療と感染対策を説明できる。
17）ウイルス性脳炎・髄膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。
18）代表的な肝炎ウイルス検査の検査項目を列挙し、その意義を説明できる。
19）A 型・B 型・C 型肝炎の疫学、症候、診断、治療、経過と予後を説明できる。
② 細菌感染症
20）ブドウ球菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。
21）レンサ球菌感染症の症候、診断、治療とリウマチ熱との関連を説明できる。
22）結核の原因、症候、診断、治療と予防を説明できる。
23）ヘリコバクター・ピロリ感染症の診断と治療を説明できる。
24）病原性大腸菌感染症を概説できる。
25）細菌性食中毒の原因・症候と治療を説明できる。
26）細菌性髄膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。
③ クラミジア・リケッチア感染症
27）クラミジア感染症を概説できる。
④ 真菌感染症、寄生虫と寄生虫症
28）カンジダ症の症候、診断と治療を説明できる。
29）ニューモシスチス肺炎の症候、診断と治療を説明できる。
30）原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。
31）寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。
32）寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。
33）日和見寄生虫症と寄生虫症の重症化を説明できる。
34）各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。
35）人畜共通寄生虫症を説明できる。
36）寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。
⑤ 性感染症（STD）
37）性感染症（STD）を概説できる。
⑥ 院内感染
38）院内感染の原因となる病原体を列挙し、対策を説明できる。
39）MRSA の特徴、病院内での対応の方法を説明できる。
40）標準予防策（standard precautions）の必要性を説明し、実行できる。
(生涯学習への準備)
41）生涯学習の重要性を説明でき、生涯教育に結びつく公開講演会等に自主的に参加できる。

【方略】
担当教員、非常勤講師、特別講師による大教室 PBL 形式の演習（グループワーク、ディスカッションを含む）、講義、ならびに実習によって行う。

【評価】

1．合格基準

100 点満点法にて行い、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。但し、「講義・演習評価」、「実習評価」ともに 6 割以上の場合のみ合格とする。

2．評価点の算出・内訳

「講義・演習評価」下記各項目合計の 6 割以上が必修

・科目終了時筆答試験（70％）

・小テスト・課題レポート・演習時提出物等の評価（10％）

・授業態度の評価（上記項目評価点より減点方式で評価）

・科目のゴール 41 に関連し、コース期間中およびその前後に施行される、教員が指定する講演会等に自主的に参加し、講演内容の要旨および自らの考えに関するレポートを提出したものは、加点方式で評価する。

「実習評価」下記各項目合計の 6 割以上が必修

・実習レポート（５％）

・実習手技試験（15％）

★緊急事態宣言の影響で対面講義の実施ができない場合など、授業形態が変更になった場合は変更する場合がある。その場合はできる限り早期に変更内容を伝達する。

3．評価の形態

・科目終了時筆答試験：マークシートによる選択肢方式と記述式を併用する。

・実習手技試験：実技の技能・態度を評価者が評価する。評価項目については実習書において事前に学生に知らせる。

・講義・実習の授業への参加態度については学則等を準用する。実習中、教員の指導にかかわらず危険な行動を取るなどしたもの（服装・髪型・態度等を含む）は、直ちに退場を命じ、その実習を欠席とする。

4．再試験等

・本試験の「講義・演習評価」で合格点に満たないものに対しては、マークシートによる選択肢方式と記述式を併用した筆答試験を行うことがあり、その場合は「1．」の基準に準じて評価する。尚、必要に応じて口頭試問を併用することがある。

・本試験の「実習評価」で合格点に満たないものに対しては、実習手技再試験を行うことがある。

・追試験に関しては学則等を準用する。

・追再試験は休暇期間中に行う場合があるので注意すること。

5．課題（レポート、小テスト）に対するフィードバック

・レポート、小テストを採点し、質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　4.0

【教科書・参考書】

(教科書)

標準微生物学　第 15 版：中込　治 監修、医学書院

(参考書)

ブラック微生物学　第 3 版（原書 8 版）：J.G.Black 著・神谷　茂 他監訳、丸善出版

病原微生物学：矢野　郁也 他編、東京化学同人

戸田新細菌学：吉田　眞一 他編、南山堂

シンプル微生物学：東匡　伸 他編、南江堂

NICE 微生物学・感染症学：中野　隆史 編、南江堂

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:30
内容：※木曜日のみ
場所：微生物学・感染制御学教室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：呉　紅
内線・PHS：2647
E-mail：hong.wu@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:30
内容：※木曜日のみ
場所：微生物学・感染制御学教室

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：鈴木　陽一
内線・PHS：2647
E-mail：youichi.suzuki@ompu.ac.jp
内容：毎週火曜 16:20 ～ 17:30
場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、瀧谷　公隆、河野　武弘、呉　紅、小川　拓、津田　泰宏、井村　俊郎、臼田　寛、川村　尚久、小柳　義夫、高崎　智彦、森松　伸一

【SDGs との関連】
1、3、4、5、6、10、11、13、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 40)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-39)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5) 9)-39)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 2) 9)-39)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 5) 6) 8) 39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 2)3)6)9)-38)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 2)3)6)8)-38)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 2)3)6)8)-38)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 8)39)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 1)-39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 40)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 39) 40)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 4) 6)-8) 39)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 4)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 4)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 4) 7) 9)-34)	

診　断　学　入　門

【ナンバリングコード】　M-06-01-D

【PBL コース責任者】
中野　隆史

【PBL コース主任】
小森　剛、新田　雅彦、松村　洋子

【PBL 指導教員】
（専任教員）
山本　和宏、河野　武弘、中井　豪、重里　寛、山本　聖人、東山　央、大須賀　慶悟、高須　朗、鈴木　富雄、松谷　裕貴、安賀　文俊、今川　彰久、森田　英晃、西川　浩樹、荒若　繁樹、池田　宗一郎、森　龍彦、岩本　充彦、木下　真也、藤田　太輔、辻野　拓也、瀧井　道明、山岡　繁夫、乾　崇樹、森脇　真一、亀田　雅博、細川　隆史
（非常勤講師）
藤原　憲太、宮﨑　彩子
（特別講師）
加納　康至（大阪府医師会会長）

【科目の概要】
医師の責務として、患者の命を救い苦痛を取り除き QOL の向上をめざすとともに、病的状態・疾病の発生を予見しそれを防ぐ予防を行うことがある。そのためには患者がいまどのような状態にあり、どのような状態に向かいつつあるのかを知る必要がある。この作業が診断であり、近年では臨床推論 clinical reasoning と呼ばれることもある。当科目では医師が行う診断の原理・原則とその際に留意すべきこと、救命救急措置の原則、臨床検査の原理、画像診断の原理等とともに我が国の保健医療制度の概略について学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。
3）医療従事者としての自己管理を実践できる。
4）医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。
5）患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。
6）臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。
7）重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。
8）基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。
9）患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。
10）診断、治療及び全身管理に参加できる。
11）診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。
12）ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。
13）医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。
14）個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。
15）多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。
16）医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。
17）他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。

18）多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。
19）医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。
20）地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。
21）地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。
22）医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。
23）医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。
24）成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。
25）病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。
26）主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。
27）状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。

【方略】
講義・演習および PBL チュートリアルで行う。

【評価】
授業態度、演習・チュートリアルのパフォーマンス、発表資料および試験で評価する。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
標準臨床検査医学：医学書院
標準救急医学：医学書院
標準放射線医学：医学書院
ベイツ診察法　第 3 版　Bates'Guide to Physical Examination and History Taking

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：※月曜日のみ
場所：微生物学・感染制御学教室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：小森　剛
内線・PHS：56334
E-mail：tsuyoshi.komori@ompu.ac.jp
開始時間：14:00
終了時間：15:00
内容：※金曜日のみ
場所：放射線診断科読影室（A 棟 2F）

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：新田　雅彦
内線・PHS：56729
E-mail：nittam@ompu.ac.jp
開始時間：14:00
終了時間：15:00
内容：※月曜日のみ
場所：救急部医局

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：松村　洋子
内線・PHS：56112
E-mail：youko.matsumura@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：※月曜日のみ
場所：総合研究棟４階中央検査部医局（臨床検査医学３）

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、松村　洋子、小森　剛、新田　雅彦、鈴木　富雄、高須　朗、大須賀　慶悟、山本　和宏、中井　豪、東山　央、山本　聖人、重里　寛、河野　武弘、藤原　憲太、宮崎　彩子、松谷　裕貴、安賀　文俊、今川　彰久、森田　英晃、西川　浩樹、荒若　繁樹、池田　宗一郎、森　龍彦、岩本　充彦、木下　真也、藤田　太輔、辻野　拓也、瀧井　道明、山岡　繁夫、乾　崇樹、森脇　真一、亀田　雅博、細川　隆史

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 3) 15) -18) 20)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 2) 9) 12) 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 4) 9) 16) 27)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 2) 9) 11) 13)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 14) 23)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 3)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 15)-17) 27)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 4) 9) 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 6) 7) 13)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 9)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 24)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) -8) 10) 24)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) -8) 10) 24)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 5) 7) -11) 25)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 12) -14) 26) 27)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 5)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 24)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 6)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 7)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 8) 10)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 9)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 6) 10)	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。	D
【学習アウトカム】 25)	

学習アウトカム	科目達成レベル
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	D
【学習アウトカム】 11)	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 12)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 13)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	D
【学習アウトカム】 26)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 27)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	D
【学習アウトカム】 14) 18) 20) 21)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) 7) 27)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	D
【学習アウトカム】 5) 6) 11)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D
【学習アウトカム】 9) 13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 14) 15) 17) 18) 27)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 14) 16) 27)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 11) 17)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 11) 15) 17)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	D
【学習アウトカム】 11) 20) 21) 23)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	D
【学習アウトカム】 11) 19)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	D
【学習アウトカム】 11) 14) 27)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 14) 20)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 14) 21)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 22)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 23)	

データサイエンス 2

【ナンバリングコード】　M-10-02-C

【教員名】
オーガナイザー・教授：中野　隆史（医学教育センター、微生物学・感染制御学教室）

関西学院大学　経営戦略研究科
平木　秀輔

【科目の概要】
データサイエンスとは、情報通信・計測的技術の発展によって、従来とは質・量ともに全く異なるビックデータから、新しい価値や意味を見出すことである。さらには、そのデータを活用、共有することによって、人々の生きる世界をよりよいものにし、限りある資源をもとに継続可能な社会を作り出すうえでも大きな役割を担うものである。医療の分野においても例外ではなく、AI（Artificial Intelligence）等、すでに、一般的な病気の予防、診断、判断、医療情報の共有、ゲノム医療等の分野においてもデータサイエンスの活用が進められている。実際の医療現場では、目の前の患者を、データをもとに診断、治療することと並行して、1つのデータとして、患者をデータ化するという2つの方向性でデータを利活用することになる。その上でも、データサイエンスの基本的概念を理解し、特質・限界を踏まえて、データサイエンスの不適切な利用や生じる倫理的問題を認識できるようになることが重要である。本講義では、医療分野におけるデータサイエンスのケーススタディやグループワークを取り入れて、データサイエンスにおける基礎的なデータ処理、分析や活用と倫理について修得し、ビックデータ時代・次世代医療に対応する医療人の基本的な姿勢を身に着けることを目的とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）データサイエンスを学ぶ意義を概説できる。
3）情報倫理の重要性を理解し、データサイエンスで扱う様々な情報や研究への利用について、必要な倫理的配慮を身につける。
4）ゲノム医療研究などのデータサイエンスに関する倫理的・法的・社会的課題（ELSE）について概説できる。
5）AIの概念や利活用の現状、関連する課題について概説できる。
6）データを見極める力を養う。
7）データを正しく使う力を養う。
8）医療人として必要なデータサイエンスの基礎を習得する。
9）ゲノム医療研究の利活用の現状と課題について概説できる。
10）臨床判断・医療分野における意思決定の利活用の現状と課題について概説できる。
11）病院情報システムにおける意思決定の利活用の現状と課題について概説できる。

【方略】
講義・演習の内容について提示された予習・復習項目をもとに自ら理解度の省察を行う。必要に応じてオンデマンド資料を提示する。科目全体の内容に関するレポート課題を課す。

【評価】
講義内容全体をまとめ自分の考えを述べるレポート課題80％および受講態度20％。出席が既定に満たない場合は評価しない。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
講義部分においては数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム提供「リテラシーレベルモデルカリキュラム対応教材」を一部使用する。
久野遼平，木脇太一．大学 4 年間のデータサイエンスが 10 時間でざっと学べる　KADOKAWA　2018 年
竹村彰通，姫野哲人，高田聖治．データサイエンス入門（データサイエンス大系）　学術図書　2019 年

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：伊藤　ゆり
E-mail：yuri.ito@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医療統計室で施行

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史（医学教育センター、微生物学・感染制御学教室）
小野　富三人（生理学）
廣瀬　善信（病理学）
大須賀　慶悟（放射線診断学）
藤阪　保仁（臨床研究センター）
平木　秀輔（特別講師、関西学院大学）

【SDGs との関連】
1、2、3、4、6、7、8、9、11、12、14、15、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 8)-11)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 3) 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 3) 4)	

早　期　体　験　実　習　2

【ナンバリングコード】　M-05-06-D

【教員名】
オーガナイザー：森　龍彦（医学教育センター副センター長）

【科目の概要】
多くの医療関係者がお互いに協力し、助けあって患者中心の医療にあたっている病棟スタッフステーションでの業務に参加することにより、チーム医療（多職種連携）の一員としての医師のありかたと看護師および他の医療関係者の役割を理解する。

スケジュール
初回　オリエンテーション
Ａクラス　病棟実習　2 回
Ｂクラス　病棟実習　2 回
発表会

病棟実習（1 病棟あたり 1 日、1 週間に 2 ヶ所病棟を回る）
1．3 ～ 4 人で各病棟看護師について行動をする。
2．病棟責任者の指示に従い、スタッフの仕事を見学、あるいは手伝う。

【科目のゴール】
1）医学生として病棟実習にふさわしい服装、身なり、態度、言動、行動で病棟実習に参加することができる。
2）病棟の機能と構成、および仕組みを整理して発表できる。
3）病棟での患者中心のチーム医療（多職種連携）の意義と、医師、看護師およびその他の医療関係者の役割について説明することができ、病棟で看護師と共に体験したことを学修成果として発表できる。

【評価】
実習、及び発表会への参加態度、
毎回の実習アンケート、
発表会終了後アンケート、
実習先担当者による評価表等、
により評価を行う。

【単位】　0.5

【医師実務経験のある教員】
森　龍彦

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	E
【学習アウトカム】 1)-3)	

多職種連携論２ - 医療と専門職

【ナンバリングコード】　M-05-07-D

【教員名】
医学教育センター担当教員：中野　隆史、瀧谷　公隆、
薬学部担当教員：中村　敏明　他、
看護学教育センター担当教員：真継　和子

【科目の概要】
継続的な変化を続ける医療環境の中で医療安全を担保し、患者予後を改善するためには、多職種協働に基づいた良質なチーム医療が必要である。そして、多職種協働を推進するための多職種連携教育は、職種間コミュニケーションやガバナンス課題解決法として期待されている。

１）医療に関わる多職種の連携の基本を理解する。科目のゴール 1)、2)
２）連携を行う医療人としてふさわしい態度と自覚をもつ。科目のゴール 3)、4)、5)

【科目のゴール】
１）多職種連携の必要性が説明できる
２）様々な医療現場における他の専門職の役割と多職種連携の具体的方策が説明できる
３）チーム医療における患者参加の意義が説明できる
４）異なる職種の視点を尊重したコミュニケーションがとれる
５）学習課題達成のためメンバーと協力し合うことができる

【方略】
講義・演習形式

【評価】
評価方法：レポート 70％、受講態度 30％
フィードバック方法：毎回の授業時に質問を受け付ける

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
使用する資料は適宜配布する。
参考書等：実践 多職種連携教育　中外医学社

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：瀧谷　公隆
E-mail：kimitaka.takitani@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医学教育センターで施行

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史（医師実務経験者）、瀧谷　公隆（医師実務経験者）、中村　敏明（薬剤師実務経験者）、
真継　和子（看護師実務経験者）

【SDGs との関連】

4、16

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 2)-4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 2)-5)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 2)-4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	C
【学習アウトカム】 2)-4)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 5)6)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	D
【学習アウトカム】 2)-4)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	D
【学習アウトカム】 5)6)	

インタラクティブ・イングリッシュⅠ

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションを基に、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聴くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢を獲得することができる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）身近なトピック（学生生活、趣味など）について、簡単な英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。
4）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc.
World Voices 3, ABAX ELT Publishing

【SDGsとの関連】
3、4、10

インタラクティブ・イングリッシュⅡ

【ナンバリングコード】　M-02-06-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
１）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
２）英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。
３）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
４）医療場面において、英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
５）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoom を使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
１）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
２）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
３）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージラーニング株式会社
参考書等は学習の進行に合わせて随時紹介する。

【SDGs との関連】
3、4、10

医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都

【ナンバリングコード】　M-01-04-D

【教員名】
永井　純也、倉田　純一、山本　健、中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦、堀池　諒、芝野　真喜雄、國澤　研大、宮本　勝城、池田　勝彦、田和　正志、細身　亮太、内山　博雅、平野　義明

【科目の概要】
近年、生命科学分野の各学問領域が拡大し、医学、工学、薬学、看護学の学術交流が、益々、盛んになりつつあります。また、医療現場では、医師、薬剤師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が活躍の場を広げています。

関西大学と大阪医科薬科大学は、このような状況に対応すべく、医学、薬学だけでなく看護学や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材の育成をめざし、両大学がそれぞれの特長を活かし、両大学共通講義科目「医工薬連環科学」を開設しています。独自の基礎教育科目である本講義は、各学問分野の概略を鳥瞰し、それぞれの分野の特性を理解するとともに、各学問分野の融合によって発展できる学際領域についての知識を修得および醸成することを目的とします。

講義は、関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）、大阪医科薬科大学（医学部、薬学部、看護学部）の教員が分担で担当し、ある家族が遭遇する生死、病気、治療等についてストーリー仕立てのオムニバス形式で、医学・工学・薬学・看護学の各分野を体系的に学習できるよう、講義します。

医学部・看護学部の担当講義では、本講義の導入として、人の誕生から旅立ち（死）に至るまでに、医学や看護学が病気の治療、健康やQOL（Quality Of Life）の維持・向上にどのように関与しているかについて解説します。

また、薬学部の担当講義では、薬のシードの発見から医薬品という製品ができるまでのプロセスを、生理活性分子の創製、薬理学、薬剤学・製剤学を専門とする教員によって順を追って解説します。

さらに、関西大学の担当講義では、医療を支える福祉・介護技術、再生医療、医療機器や食品技術に関して、それぞれの分野を専門とする教員によって順を追って解説します。

【科目のゴール】
医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識を修得します。

【方略】
各大学の講義担当者により作成された資料集とパワーポイントを用いて、遠隔講義またはDVDによる講義で行います。今後の講義の参考にするため、毎回アンケートを実施します。

【評価】
大阪医科薬科大学医学部：授業態度（50％）とレポート（50％）によって総合的に評価します。
大阪医科薬科大学薬学部：レポート内容によって総合的に評価します（100％）。
大阪医科薬科大学看護学部：レポート（80％）と受講態度（20％）によって総合的に評価します。
関西大学：レポート（80％）及び受講態度（20％）によって総合的に評価します。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】

参考書：「医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療」関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　医工薬連環科学教育研究機構　編著、ライフサイエンス出版

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦

【SDGs との関連】

4

グローバル・スタディーズ

【ナンバリングコード】　M-02-07-C

【教員名】
中野　隆史（教育センター長）

【科目の概要】
医学・医療の知識や技術は急速に進歩し、通信技術の進歩も手伝い、世界でその叡智を共有するのは以前よりも容易になってきている。その一方で、医療は依然として、ドメスティックな現場である。グローバル化が進む現代においても、病める人の生きる世界を理解し、寄り添い、治療を施すのは医療者の使命であり、その基となるのは他者理解である。本科目では、諸外国でのフィールドワークを行い、自分とは異なる文化、社会、年齢、性を生きる人々が生きる世界を通して、異文化、多様性の理解を深めることを目的とする。
＊ただし、本授業の履修は在学期間中１回限りとする。

【科目のゴール】
１．国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。
２．医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。
３．海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。

【方略】
本学提携校との国際交流プログラム（ハワイ大学春季、夏季ワークショップ５日間など）、その他海外の医療現場や医療従事者について学ぶことや実践的医療英語を身に付けることなどが基盤となる国際交流プログラムが対象となる。
１．渡航前に、医学事務課へ「グローバル・スタディーズ単位認定願」を提出する。
２．帰国後に、医学事務課へプログラム参加内容、レポートを提出する。
３．医学教育センター会議、医学部教授会にて単位認定の可否を審議する。
４．単位認定の結果を通知、成績表に反映される。

【評価】
プログラム参加内容（70％）、事後レポート（30％）

【単位】　1.0

【SDGs との関連】
3、10、16、17

第　3　学　年

2025年度　第３学年授業時間割

※日々の時間割は変更する場合があります。①担当教員からの連絡 ②UNIPA を常に確認するようにしてください。

（講義場所：原則としてＰ 302 教室）

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	4/2(水)								14:00～15:35　オリエンテーション		
第1週	4/7(月)	a①	病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
	4/8(火)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
	4/9(水)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3		病気の成り立ち 2	
	4/10(木)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
	4/11(金)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
第2週	4/14(月)	a②	病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
	4/15(火)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3 自学実習			
	4/16(水)		病原体・生体防御 3 自学自習	病原体・生体防御 3				医学英語 2			
	4/17(木)		病原体・生体防御 3 自学自習	病原体・生体防御 3				病原体・生体防御 3			
	4/18(金)		病原体・生体防御 3 自学自習	病原体・生体防御 3				病原体・生体防御 3			
第3週	4/21(月)	a③	病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
	4/22(火)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3 自学実習			
	4/23(水)		病原体・生体防御 3								
	4/24(木)		病原体・生体防御 3					病原体・生体防御 3			
	4/25(金)		病原体・生体防御 3 自学実習					病原体・生体防御 3 自学実習			
第4週	4/28(月)	A①	医療プロフェッショナリズム・コア 1		診断学入門 自学自習	診断学入門		診断学入門【PBL チュートリアル】			
	4/29(火) 祝		昭和の日								
	4/30(水)		診断学入門 自学自習					医学英語 2			診断学入門 自学自習
	5/1(木)		診断学入門 自学自習		医療プロフェッショナリズム・コア 1			診断学入門 自学自習	診断学入門		診断学入門 自学自習
	5/2(金)		診断学入門 自学自習			診断学入門		診断学入門【PBL チュートリアル】			
	5/5(月) 祝		こどもの日								
	5/6(火) 祝		こどもの日振替休日								
	5/10(土)		インタラクティブ・イングリッシュ Ⅰ オリエンテーション								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第5週	5/12(月)	A②	診断学入門					診断学入門【PBL チュートリアル】			
	5/13(火)		診断学入門					医療プロフェッショナリズム・コア 1			診断学入門
	5/14(水)							医学英語 2			診断学入門 自学自習
	5/15(木)		医療プロフェッショナリズム・コア 1	診断学入門 自学自習	医療プロフェッショナリズム・コア 1	診断学入門		医療プロフェッショナリズム・コア 1			診断学入門 自学自習
	5/16(金)		診断学入門					診断学入門【PBL チュートリアル】			
第6週	5/19(月)	A③	診断学入門 自学自習	医療プロフェッショナリズム・コア 1	診断学入門 自学自習			医療プロフェッショナリズム・コア 1		診断学入門	
	5/20(火)		医療プロフェッショナリズム・コア 1	診断学入門				医療プロフェッショナリズム・コア 1			
	5/21(水)							ご遺骨返納法要			
	5/22(木)		診断学入門					医療プロフェッショナリズム・コア 1		診断学入門	
	5/23(金)		【本試験】病原体・生体防御 3　(10:00 ～終了時間未定)					医療プロフェッショナリズム・コア 1		診断学入門 自学自習	
	5/24(土)		インタラクティブ・イングリッシュ I								
第7週	5/26(月)	B①	循環器							循環器	
	5/27(火)		女性生殖器・婦人科腫瘍					女性生殖器・婦人科腫瘍			循環器
	5/28(水)				呼吸器			医学英語 2			臨床技能 1 オリエンテーション
	5/29(木)		呼吸器					臨床技能 1			
	5/30(金)			腎尿路・ 男性生殖器				循環器			
	5/31(土)		インタラクティブ・イングリッシュ I								
第8週	6/2(月)	B②	循環器	女性生殖器・婦人科腫瘍				循環器			
	6/3(火)		腎尿路・ 男性生殖器	呼吸器		腎尿路・ 男性生殖器		健康診断			
	6/4(水)		呼吸器		循環器			医学英語 2			
	6/5(木)		腎尿路・男性生殖器		病気の成り立ち 2			循環器			
	6/6(金)		女性生殖器・ 婦人科腫瘍	循環器	呼吸器						
第9週	6/9(月)	B③	呼吸器		循環器	女性生殖器・ 婦人科腫瘍		女性生殖器・ 婦人科腫瘍	腎尿路・男性生殖器		
	6/10(火)		腎尿路・男性生殖器					臨床技能 1 実習前確認試験		臨床技能 1 自学自習	
	6/11(水)		呼吸器		呼吸器			医学英語 2			循環器
	6/12(木)		循環器		病気の成り立ち 2						循環器
	6/13(金)		薬物療法 2		循環器			循環器		女性生殖器・婦人科腫瘍	

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第10週	6/16(月)	B④	呼吸器		女性生殖器・婦人科腫瘍				循環器	腎尿路・男性生殖器	循環器
	6/17(火)		病気の成り立ち 2		呼吸器			循環器	呼吸器	循環器	
	6/18(水)		呼吸器	循環器				医学英語 2			
	6/19(木)		呼吸器	腎尿路・男性生殖器	循環器				腎尿路・男性生殖器	循環器	
	6/20(金)		女性生殖器・婦人科腫瘍	呼吸器						呼吸器	
第11週	6/23(月)	B⑤		女性生殖器・婦人科腫瘍							循環器
	6/24(火)		女性生殖器・婦人科腫瘍		循環器			医療プロフェッショナリズム・コア 1			
	6/25(水)		呼吸器		呼吸器			医学英語 2			腎尿路・男性生殖器
	6/26(木)		女性生殖器・婦人科腫瘍			呼吸器		医療プロフェッショナリズム・コア 1			
	6/27(金)				呼吸器			医療プロフェッショナリズム・コア 1			
	6/28(土)		インタラクティブ・イングリッシュ Ⅰ								
第12週	6/30(月)	B⑥			女性生殖器・婦人科腫瘍				女性生殖器・婦人科腫瘍		
	7/1(火)		【本試験】 医療プロフェッショナリズム・コア 1 (ベイツ部分) (10:00～11:00　@ P101)						女性生殖器・婦人科腫瘍		
	7/2(水)		呼吸器	女性生殖器・婦人科腫瘍				医学英語 2			
	7/3(木)		薬物療法 2								
	7/4(金)				呼吸器			呼吸器			
	7/5(土)		インタラクティブ・イングリッシュ Ⅰ								
第13週	7/7(月)										
	7/8(火)		【試験期間】 Bユニット(診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)					【試験期間】 Bユニット (診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)			
	7/9(水)							【試験期間】 Bユニット (診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)			
	7/10(木)		【試験期間】 Bユニット (診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)					【試験期間】 Bユニット (診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)			
	7/11(金)		【試験期間】 Bユニット (診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)					【試験期間】 Bユニット (診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器)			
第14週	7/14(月)	C①									
	7/15(火)		病気の成り立ち 2		消化器				消化器	血液	
	7/16(水)		病気の成り立ち 2		消化器			医学英語 2			
	7/17(木)		消化器		消化器			消化器			
	7/18(金)		消化器								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第15週	7/21(月)祝	C②	海の日								
	7/22(火)			消化器							
	7/23(水)		血液	消化器	薬物療法 2			医学英語 2 試験			
	7/24(木)										
	7/25(金)										
第16週	8/25(月)	C③	血液	消化器		消化器		消化器			
	8/26(火)			消化器				臨床技能 1			
	8/27(水)							医学英語 2 再試験			
	8/28(木)							臨床技能 1			
	8/29(金)							臨床技能 1			
第17週	9/1(月)	C④	血液					臨床技能 1			
	9/2(火)		病気の成り立ち 2		血液			臨床技能 1			
	9/3(水)		薬物療法 2		消化器			消化器内科【大教室 PBL】			
	9/4(木)		血液	消化器				血液			
	9/5(金)		血液					消化器内科【大教室 PBL】			
第18週	9/8(月)		【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）					【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）			
	9/9(火)		【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）					【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）			
	9/10(水)		【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）					【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）			
	9/11(木)		【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）					【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）			
	9/12(金)		【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）					【試験期間】 C ユニット（消化器、血液試験）			
第19週	9/15(月)祝	D①	敬老の日								
	9/16(火)		内分泌・代謝					内分泌・代謝			
	9/17(水)		皮膚		アレルギー・免疫			アレルギー・免疫			
	9/18(木)		皮膚	アレルギー・免疫						内分泌・代謝	
	9/19(金)		皮膚					アレルギー・免疫			
	9/20(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ オリエンテーション								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第20週	9/22(月)	D②		内分泌・代謝				内分泌・代謝			
	9/23(火)祝		秋分の日								
	9/24(水)		皮膚	アレルギー・免疫	内分泌・代謝			内分泌・代謝			
	9/25(木)			内分泌・代謝				内分泌・代謝			
	9/26(金)							内分泌・代謝			
第21週	9/29(月)	D③	皮膚		アレルギー・免疫	内分泌・代謝			内分泌・代謝		
	9/30(火)		内分泌・代謝		アレルギー・免疫			アレルギー・免疫			
	10/1(水)		内分泌・代謝					臨床技能 1			
	10/2(木)		皮膚					臨床技能 1			
	10/3(金)				皮膚			臨床技能 1			
	10/4(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第22週	10/6(月)	D④	薬物療法 2		アレルギー・免疫						
	10/7(火)			アレルギー・免疫	病気の成り立ち 2			アレルギー・免疫		アレルギー・免疫	内分泌・代謝
	10/8(水)			アレルギー・免疫				内分泌・代謝			
	10/9(木)		薬物療法 2		アレルギー・免疫			内分泌・代謝	アレルギー・免疫	病気の成り立ち 2	
	10/10(金)				皮膚			内分泌・代謝			
	10/11(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第23週	10/13(月)祝		スポーツの日								
	10/14(火)		【試験期間】 Dユニット (内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚)、病気の成り立ち 2					【試験期間】 Dユニット (内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚)、病気の成り立ち 2			
	10/15(水)										
	10/16(木)										
	10/17(金)		【試験期間】 Dユニット (内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚)、病気の成り立ち 2					【試験期間】 Dユニット (内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚)、病気の成り立ち 2			
	10/18(土)		解剖慰霊祭								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第24週	10/20(月)		【試験期間】 Dユニット（内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚）、病気の成り立ち2					【試験期間】 Dユニット（内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚）、病気の成り立ち2			
	10/21(火)		【試験期間】 Dユニット（内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚）、病気の成り立ち2					【試験期間】 Dユニット（内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚）、病気の成り立ち2			
	10/22(水)							臨床技能1			
	10/23(木)		【試験期間】 Dユニット（内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚）、病気の成り立ち2					臨床技能1			
	10/24(金)							臨床技能1			
	10/25(土)		学園祭								
第25週	10/27(月)	F①	神経		精神・行動			神経		運動器	
	10/28(火)		運動器	神経				精神・行動		神経	
	10/29(水)							神経			運動器
	10/30(木)		運動器	神経		運動器		精神・行動	神経	精神・行動	運動器
	10/31(金)		運動器					精神・行動			
第26週	11/3(月)祝	F②	文化の日								
	11/4(火)		4年 Pre-CC OSCE 前期間								
	11/5(水)										
	11/6(木)										
	11/7(金)										
第27週	11/10(月)	F③						神経			
	11/11(火)		運動器		神経	精神・行動			神経	運動器	
	11/12(水)										
	11/13(木)										
	11/14(金)		精神・行動	神経						神経	運動器
	11/15(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第28週	11/17(月)	F④							神経		
	11/18(火)		薬物療法 2		精神・行動			精神・行動	神経		
	11/19(水)		精神・行動		神経	精神・行動		薬物療法 2		運動器	
	11/20(木)				神経					神経	
	11/21(金)		運動器【大教室 PBL】					運動器【大教室 PBL】			
	11/22(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第29週	11/24(月)祝		勤労感謝の日振替休日								
	11/25(火)		【試験期間】 F ユニット（運動器 / 神経 / 精神・行動）					【試験期間】 F ユニット（運動器 / 神経 / 精神・行動）			
	11/26(水)										
	11/27(木)										
	11/28(金)										
第30週	12/1(月)	ライフステージ①		妊娠・出産		妊娠・出産		妊娠・出産			
	12/2(火)										
	12/3(水)										
	12/4(木)								妊娠・出産		
	12/5(金)				妊娠・出産			妊娠・出産			
第31週	12/8(月)	ライフステージ②						病気の成り立ち 2 追再試験(13:00 ～ 15:00)			
	12/9(火)		薬物療法 2		成長・発達			成長・発達			
	12/10(水)			成長・発達 大教室 PBL	成長・発達						
	12/11(木)			薬物療法 2		加齢・高齢者				妊娠・出産	
	12/12(金)		4 年総合試験					4 年総合試験			
第32週	12/15(月)	ライフステージ③	成長・発達			成長・発達		成長・発達			
	12/16(火)		成長・発達		加齢・高齢者						
	12/17(水)		成長・発達	加齢・高齢者		思春期・ホルモン		思春期・ホルモン			
	12/18(木)		思春期・ホルモン		思春期・ホルモン						
	12/19(金)		成長・発達					思春期・ホルモン		妊娠・出産	

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第33週	1/5(月)	ライフステージ④		加齢・高齢者	思春期・ホルモン					思春期・ホルモン	成長・発達
	1/6(火)		思春期・ホルモン		加齢・高齢者			加齢・高齢者			
	1/7(水)		5年臨床実習履修評価試験②					5年臨床実習履修評価試験②			
	1/8(木)		加齢・高齢者			成長・発達 大教室PBL				思春期・ホルモン	加齢・高齢者
	1/9(金)		成長・発達		成長・発達			加齢・高齢者		思春期・ホルモン	
第34週	1/12(月) 祝		成人の日								
	1/13(火)		【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法2					【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法2			
	1/14(水)		【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法3					【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法3			
	1/15(木)		【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法4					【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法4			
	1/16(金)		【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法5					【試験期間】 妊娠・出産/成長・発達/思春期・ホルモン/加齢・高齢者/薬物療法5			
第35週	1/19(月)	新E1①	医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①				医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会① 自学自習
	1/20(火)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①				医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会① 自学自習
	1/21(水)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①				医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会① 自学自習
	1/22(木)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①				医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会① 自学自習
	1/23(金)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①				医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会① 自学自習
第36週	1/26(月)	新E1②	医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会②				医学・医療と社会②			医学・医療と社会① 自学自習
	1/27(火)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会②				医学・医療と社会②		医学・医療と社会①	医学・医療と社会① 自学自習
	1/28(水)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会②		医学・医療と社会②			医学・医療と社会① 自学自習
	1/29(木)		医学・医療と社会① 自学自習	医学・医療と社会②				医学・医療と社会①	医学・医療と社会②		医学・医療と社会② 自学自習
	1/30(金)		医学・医療と社会② 自学自習		医学・医療と社会②			医学・医療と社会② 自学自習	医学・医療と社会②		
第37週	2/2(月)	新E1③	医学・医療と社会② 自学自習	医学・医療と社会①		医学・医療と社会②		医学・医療と社会②		医学・医療と社会② 自学自習	
	2/3(火)		医学・医療と社会② 自学自習	医学・医療と社会②				医学・医療と社会②			医学・医療と社会② 自学自習
	2/4(水)		医学・医療と社会② 自学自習		医学・医療と社会②			医学・医療と社会②		医学・医療と社会② 自学自習	
	2/5(木)		医学・医療と社会② 自学自習	医学・医療と社会②				医学・医療と社会②		医学・医療と社会② 自学自習	
	2/6(金)		医学・医療と社会② 自学自習	医学・医療と社会②		医学・医療と社会② 自学自習		医学・医療と社会①			

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第38週	2/9(月)	新E1④	医学・医療と社会② 自学自習					医学・医療と社会①			
	2/10(火)										
	2/11(水) 祝		建国記念日								
	2/12(木)		医学・医療と社会② 自学自習			医学・医療と社会①		医学・医療と社会①			
	2/13(金)							医学・医療と社会①			
第39週	2/16(月)	新E1⑤									
	2/17(火)										
	2/18(水)										
	2/19(木)										
	2/20(金)							【本試験】医学・医療と社会			
第40週	2/23(月) 祝		天皇誕生日								
	2/24(火)										
	2/25(水)										
	2/26(木)			【追再試験】医学・医療と社会 10:00 ～ 11:00							
	2/27(金)										
	3/6(金)		総合試験					総合試験			
	3/16(月)		進級判定					進級判定			

医　学　英　語　2

【ナンバリングコード】　M-02-04-C

【教員名】
教　授：藤枝　美穂
准教授：浅野　元子
非常勤講師：FUISTING Bjorn

【科目の概要】
医学・医療に関する情報収集、情報発信、対人コミュニケーションを英語で実践できるようになることを目標とする。3 年次では、2 年次に習得した基礎を踏まえ、専門的な内容の論文や臨床会話を用いてより実践的な演習を行う（日本医学英語教育学会ガイドライン＊の要件等）。3 年次では引き続き、オーラルコミュニケーション、リーディング、リスニングに焦点をあてた演習を技能別に行う（C, R, W）。E- ラーニング教材を利用した医学・医療語彙学習を継続する（V）。
＊「医学教育分野別評価基準日本版（グローバルスタンダード）に対応するための医学英語教育ガイドライン」（日本医学英語教育学会，2015）V: Vocabulary, R: Reading, W: Writing, C: Communication.
{ URL: https://jasmee.jp/wp-content/uploads/2017/07/Guidelines_Jpn.pdf,https://jasmee.jp/wp-content/uploads/2017/07/Guidelines_Jpn.pdf}

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）医学英語論文に特有の論理展開を理解し、素早く正確に必要な情報を把握することができる。
3）医師と患者との間の英語による臨床会話のパターンを理解し、それを応用して自ら臨床会話を実践することができる。
4）英語による症例報告を聴解し、内容や論理展開を正確に把握することができる。

【方略】
講義及びグループまたは個人による演習
教材の配布や課題の提出に Moodle、語彙学習に ALC NetAcademy NEXT 等、ICT を積極的に活用する。
英語の総合的な運用能力を継続的に測定するために外部試験（TOEFL-ITP）を実施する。

【評価】
「演習」科目であるので全出席を原則とする。
① 合格点：60 点
② 評価の内訳：
・授業参加度 10％
・課題・小テスト 30％
・最終試験 60％
③ 評価の形態
・課題には授業中のアクティビティ及び授業外の課題が含まれる（提出期限厳守）。
・最終試験は記述式とする。
・オーラルコミュニケーションでは，記述式の最終試験のほかに，授業時間内にスピーキングテストを実施する。
・TOEFL-ITP は授業の一環として行い、未受験の場合 3 回欠席扱いとなる。
TOEFL-ITP のスコアは最終成績に反映する（550 点以上＋ 5 点、500 ～ 549 点＋ 3 点、390 点未満－ 3 点）。
④ 再試験
授業参加度、課題・小テスト、最終試験の総合成績で判断する。再試験対象の基準は 60％未満。

⑤ 追試験
最終試験がやむを得ない事情で受験できず、当日までにその事情を報告した場合に限り、受験を認める。
⑥ 課題に対するアセスメントとフィードバック
各技能を担当する教員が、そのつどワークシートや小テスト等の課題の採点やコメントを通じて全体または個別にフィードバックを行う。生成型 AI のみによる成果物と判断される場合は評価対象外となる。
TOEFL-ITP については、技能別スコアおよび前年度とのスコア比較等により、自己の英語運用能力を客観的に把握し学習計画を立てるよう適宜アドバイスを与える。

【単位】 1.0

【教科書・参考書】
教科書：授業前・授業時に配布する。
参考書：高橋玲（監修・執筆）『キクタンメディカル　2. 症候と疾患編』アルク　2010 年
E ラーニング：
アルク NetAcademy NEXT 英単語パワーアップコース　医学・医療編
{URL: https://nanext.alcnanext.jp/anetn/student/stlogin/index/omc-gogaku：,https://nanext.alcnanext.jp/anetn/student/stlogin/index/omc-gogaku}

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：藤枝　美穂
内線・PHS：2954
E-mail：miho.fujieda@ompu.ac.jp
内容：※内線・メールにて適宜アポイントメントを取ってください。
場所：総合研究棟 6 階 605

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：浅野　元子
内線・PHS：2958
E-mail：motoko.asano@ompu.ac.jp
内容：※内線・メールにて適宜アポイントメントを取ってください。
場所：総合研究棟 6 階 605

【SDGs との関連】
4

【備考】
リーディングは課題の実施に Moodle などを活用するためサイトにアクセスして英文を適切に入力できるデバイス（なるべく PC）が必要。
リスニングの授業時は、音声を聞くためのデバイス（スマホ可）とイヤホンを持参すること。

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	C
【学習アウトカム】 1)-4)	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-4)	

病 気 の 成 り 立 ち 2

【ナンバリングコード】　M-04-11-D

【教員名】
教　授：廣瀬　善信
准教授：石田　光明
講　師：桑原　宏子、安田　恵美、波多野　裕一郎
助　教：服部　公亮
非常勤講師：竹下　篤

【科目の概要】
本コースでは、臓器・組織別に代表的疾患の病態、病理変化を主に学習し、臨床医学に望むために必要な病理学的土台を習得することを一般目標とする。なお、本コースの学習内容は、従来の病理学各論に概ね相当する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）病原体（細菌、ウイルス、寄生虫等）に対する生体の病理学的反応を概説できる。
3）呼吸器における諸疾患（とくに炎症性、腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理分類・病態を概説できる。
4）循環器における諸疾患（とくに代謝性、炎症性疾患）の例を挙げ、その病理病態を概説できる。
5）腎泌尿器・男性生殖器における諸疾患（とくに腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理分類・病態を概説できる。
6）女性生殖器における諸疾患（とくに炎症性、腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理分類・病態を概説できる。
7）消化管における諸疾患（とくに炎症性、腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理分類・病態を概説できる。
8）肝胆膵における諸疾患（とくに炎症性、腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理病態を概説できる。
9）血球系の諸疾患（とくに腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理分類・病態を概説できる。
10）皮膚における諸疾患（とくに炎症性、腫瘍性疾患）の例を挙げ、その病理病態を概説できる。
11）全身性疾患（とくに糖尿病等の代謝性疾患）の例を挙げ、その病理病態を概説できる。

【方略】
講義を行うが、その円滑な学修のためには、人体の正常構造と機能とともに、病理学総論（細胞傷害、炎症、循環障害、腫瘍、遺伝性疾患、代謝障害）を十分理解している必要がある。また、学修者の理解促進のため、講義は臓器・疾患別コース前半に実施し、そのコースに関連する疾患を取り上げる設定となっている。
各講義における学生個人の学習度理解度の促進・客観的把握のため、各講義後あるいはオフィスアワー等の積極的活用による学修者からの質問・意見等を期待し奨励する。それら学修者からの質問・意見等に対し、講義者やオフィスアワー担当者から個別のフィードバックが行われ、場合によっては全体へのフィードバックを Moodle を介して実施する。さらに最終講義時には、すべての講義の振り返りを行い、学生個別を含めた総合的なフィードバックを実施する。
また、ICT を活用した自主学習支援として、講義およびフィードバック資料のデジタル情報を Moodle にアップロードし、すべての学修者が閲覧可能な学修環境を提供する。

【評価】
① 最終評価の算出内訳；筆記（マークシート式）試験（約 90％）＋授業への参加態度（約 10％）。
② 合格点；最終評価は 100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格（＝単位取得）とする。但し、再試験対象者に関しては原則として最終評価は 60 点とする。筆記試験も 100 点法により評価し、60 点以上が合格への必要条件となる。
③ 評価の形態；講義内容について筆記試験（マークシート式）を課して評価する。また、学則に従い、筆記試験を受験するには、講義の 2 / 3 以上の出席が必要である。すなわち、筆記試験および講義出席の両方の必要条件が満たされて、最終評価対象となる。

④ 筆記再試験；上記の筆記試験 60 点未満の者は再試験の対象となるが、再試験の条件としては所定の手続きが必要となる。再試験もマークシート式試験であり、原則として 100 点満点中 60 点以上を合格とする。
⑤ 筆記追試験；しかるべき理由があった者に対して、再試験のタイミングで実施する。評価などは、原則として本試験と同様。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
ロビンス基礎病理学：V. Kumar, et al.、丸善
標準病理学：坂本　穆彦（監）、医学書院
カラーアトラス基礎組織病理学：A. Stevens, J. Lowe & B Young、西村書店

【オフィスアワー】
担当教員氏名：廣瀬　善信
内線・PHS：2635
E-mail：pa1000@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：※金曜日のみ
場所：病理学教室（総合研究棟 5F）

【医師実務経験のある教員】
廣瀬　善信、石田　光明、桑原　宏子、安田　恵美、波多野　裕一郎、服部　公亮、竹下　篤

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-11)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-11)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	E
【学習アウトカム】 1)-11)	

薬　物　療　法　2

【ナンバリングコード】　M-04-12-D

【教員名】
教授：髙井　真司
講師：金　徳男
講師：森脇　一將
助教：横江　俊一
助教：森原　啓文
非常勤講師：中川　孝俊

【科目の概要】
診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、副作用）を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）循環器疾患作用薬を理解し、説明できる。
3）呼吸器疾患作用薬を理解し、説明できる。
4）消化器疾患作用薬を理解し、説明できる。
5）内分泌・代謝疾患作用薬を理解し、説明できる。
6）アレルギー・免疫性疾患作用薬を理解し、説明できる。
7）神経疾患治療薬を理解し、説明できる。
8）精神疾患治療薬を理解し、説明できる。
9）血液疾患治療薬を理解し、説明できる。

【方略】
重要項目についての質疑及びクイズ形式の小テストを含む、双方向型講義を行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：年度末に行われる試験に、授業態度を加味して判定する。
③ 評価の形態：試験は記述式および選択式問題より構成される。
④ 再試験：本試験の不合格者は、再試験で評価する。
⑤ 課題（試験）に対するフィードバック
再試験、或いは再々試験後に、試験問題に関して質問があればオフィスアワーに個別に対応することによりフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
ハーバード大学講義テキスト臨床薬理学（原書第三版）：丸善
イラストレイテッド薬理学（原書第六版）：丸善
New 薬理学（第七版）：南江堂

【オフィスアワー】
担当教員氏名：髙井　真司
内線・PHS：2649
E-mail：shinji.takai@ompu.ac.jp
開始時間：9:00
終了時間：12:00
内容：火・木・金
場所：総合研究棟 4F（415）　薬理学教室

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-9)	

病原体・生体防御 3

【ナンバリングコード】　M-04-13-D

【コース責任者】
中野　隆史（微生物学・感染制御学）

【コース主任】
瀧谷　公隆（医学教育センター）
鈴木　陽一（微生物学・感染制御学）

【指導教員】
（専任教員）
河野　武弘（輸血室、微生物学・感染制御学）
呉　紅（微生物学・感染制御学）
坂口　翔一（微生物学・感染制御学）
小川　拓（感染対策室、微生物学・感染制御学）
津田　泰宏（看護学部看護学科）
（非常勤講師）
川村　尚久（小児科学）
臼田　寛（衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ）
（特別講師）
井村　俊郎（微生物学・感染制御学）
小柳　義夫（微生物学・感染制御学）
高崎　智彦（微生物学・感染制御学）
森松　伸一（微生物学・感染制御学）

【科目の概要】
病原体には蠕虫・原虫・真菌・細菌・マイコプラズマ・リケッチア・クラミジア・ウイルス・プリオンがある。これらの病原体が人体に感染して生ずる病気が感染症である。病原微生物は増殖して細胞から他の細胞へ、環境や個体から他の個体や集団へと伝染する点で、他の疾患とは特に区別される。医師はこれらの疾患を持った患者を診断・治療するとともに、その伝播を予防しなければならない。ここでは、おもな感染症の原因、病態生理、症候、診断、治療や対策に関する知識や技能を習得し、その他の感染症への対応について自ら学習できる能力を養う。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
（感染症の病態）
2）病原体に対する生体の反応を説明できる。
3）下痢症・食中毒を起こす病原体を列挙し、診断と治療の基本を説明できる。
4）新興感染症・再興感染症を列挙できる。
（感染症と疫学）
5）感染症における疫学の概念について説明できる。
（感染症の診断・検査・治療の基本）
6）主な感染症の原因となる病原体を分類できる。
7）微生物学的診断と血清学的診断を概説できる。
8）感染症の化学療法を概説できる。

9）微生物学的検査の検体の採取と保存ができ、グラム染色を行い、観察できる。
(感染症の病態と疾患)
① ウイルス・プリオン感染症
10）インフルエンザの症候、診断と治療を説明できる。
11）麻疹の症候と診断を説明できる。
12）風疹の症候、診断と合併症を説明できる。
13）流行性耳下腺炎の症候、診断と合併症を説明できる。
14）水痘・帯状ヘルペス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
15）ウイルス性皮膚疾患（単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい）を概説できる。
16）HIV 感染症の感染経路、自然経過、症候、診断、治療と感染対策を説明できる。
17）ウイルス性脳炎・髄膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。
18）代表的な肝炎ウイルス検査の検査項目を列挙し、その意義を説明できる。
19）A 型・B 型・C 型肝炎の疫学、症候、診断、治療、経過と予後を説明できる。
② 細菌感染症
20）ブドウ球菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。
21）レンサ球菌感染症の症候、診断、治療とリウマチ熱との関連を説明できる。
22）結核の原因、症候、診断、治療と予防を説明できる。
23）ヘリコバクター・ピロリ感染症の診断と治療を説明できる。
24）病原性大腸菌感染症を概説できる。
25）細菌性食中毒の原因・症候と治療を説明できる。
26）細菌性髄膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。
③ クラミジア・リケッチア感染症
27）クラミジア感染症を概説できる。
④ 真菌感染症、寄生虫と寄生虫症
28）カンジダ症の症候、診断と治療を説明できる。
29）ニューモシスチス肺炎の症候、診断と治療を説明できる。
30）原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。
31）寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。
32）寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。
33）日和見寄生虫症と寄生虫症の重症化を説明できる。
34）各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。
35）人畜共通寄生虫症を説明できる。
36）寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。
⑤ 性感染症（STD）
37）性感染症（STD）を概説できる。
⑥ 院内感染
38）院内感染の原因となる病原体を列挙し、対策を説明できる。
39）MRSA の特徴、病院内での対応の方法を説明できる。
40）標準予防策（standard precautions）の必要性を説明し、実行できる。
(生涯学習への準備)
41）生涯学習の重要性を説明でき、生涯教育に結びつく公開講演会等に自主的に参加できる。

【方略】
担当教員、非常勤講師、特別講師による大教室 PBL 形式の演習（グループワーク、ディスカッションを含む）、講義、ならびに実習によって行う。

【評価】

1．合格基準

100 点満点法にて行い、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とする。但し、「講義・演習評価」、「実習評価」ともに 6 割以上の場合のみ合格とする。

2．評価点の算出・内訳

「講義・演習評価」下記各項目合計の 6 割以上が必修

・科目終了時筆答試験（70％）

・小テスト・課題レポート・演習時提出物等の評価（10％）

・授業態度の評価（上記項目評価点より減点方式で評価）

・行動目標 40 に関連し、コース期間中およびその前後に施行される、教員が指定する講演会等に自主的に参加し、講演内容の要旨および自らの考えに関するレポートを提出したものは、加点方式で評価する。

「実習評価」下記各項目合計の 6 割以上が必修

・実習レポート（５％）

・実習手技試験（15％）

★緊急事態宣言の影響で対面講義の実施ができない場合など、授業形態が変更になった場合は変更する場合がある。その場合はできる限り早期に変更内容を伝達する。

3．評価の形態

・科目終了時筆答試験：マークシートによる選択肢方式と記述式を併用する。

・実習手技試験：実技の技能・態度を評価者が評価する。評価項目については実習書において事前に学生に知らせる。

・講義・実習の授業への参加態度については学則等を準用する。実習中、教員の指導にかかわらず危険な行動を取るなどしたもの（服装・髪型・態度等を含む）は、直ちに退場を命じ、その実習を欠席とする。

4．再試験等

・本試験の「講義・演習評価」で合格点に満たないものに対しては、マークシートによる選択肢方式と記述式を併用した筆答試験を行うことがあり、その場合は「1．」の基準に準じて評価する。尚、必要に応じて口頭試問を併用することがある。

・本試験の「実習評価」で合格点に満たないものに対しては、実習手技再試験を行うことがある。

・追試験に関しては学則等を準用する。

・追再試験は休暇期間中に行う場合があるので注意すること。

5．課題（レポート、小テスト）に対するフィードバック

・レポート、小テストを採点し、質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　4.0

【教科書・参考書】

(教科書)

標準微生物学　第 15 版：中込　治 監修、医学書院

(参考書)

ブラック微生物学　第 3 版（原書 8 版）：J.G.Black 著・神谷　茂 他監訳、丸善出版

病原微生物学：矢野　郁也 他編、東京化学同人

戸田新細菌学：吉田　眞一 他編、南山堂

シンプル微生物学：東匡　伸 他編、南江堂

NiCE 微生物学・感染症学：中野　隆史 編、南江堂

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:30
内容：※木曜日のみ
場所：微生物学・感染制御学教室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：呉　紅
内線・PHS：2647
E-mail：hong.wu@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:30
内容：※木曜日のみ
場所：微生物学・感染制御学教室

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：鈴木　陽一
内線・PHS：2647
E-mail：youichi.suzuki@ompu.ac.jp
内容：毎週火曜 16:20 ～ 17:30
場所：総合研究棟 6 階（微生物学・感染制御学教室）

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、瀧谷　公隆、河野　武弘、呉　紅、小川　拓、津田　泰宏、井村　俊郎、臼田　寛、川村　尚久、小柳　義夫、高崎　智彦、森松　伸一

【SDGs との関連】
1、3、4、5、6、10、11、13、15

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 40)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-39)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5) 9)-39)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 2) 9)-39)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 5) 6) 8) 39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 2)3)6)9)-38)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 2)3)6)8)-38)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 2)3)6)8)-38)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 8)39)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 1)-39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 40)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 39) 40)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 4) 6)-8) 39)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 4)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 4)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 4) 7) 9)-34)	

診　断　学　入　門

【ナンバリングコード】　M-06-01-D

【PBL コース責任者】
中野　隆史

【PBL コース主任】
小森　剛、新田　雅彦、松村　洋子

【PBL 指導教員】
（専任教員）
山本　和宏、河野　武弘、中井　豪、重里　寛、山本　聖人、東山　央、小山　光博、大須賀　慶悟、高須　朗、
鈴木　富雄、小森　剛、松谷　裕貴、安賀　文俊
（非常勤講師）
宮﨑　彩子
（特別講師）
（予定）加納　康至（大阪府医師会会長）

【科目の概要】
医師の責務として、患者の命を救い苦痛を取り除き QOL の向上をめざすとともに、病的状態・疾病の発生を予見しそれを防ぐ予防を行うことがある。そのためには患者がいまどのような状態にあり、どのような状態に向かいつつあるのかを知る必要がある。この作業が診断であり、近年では臨床推論 clinical reasoning と呼ばれることもある。当科目では医師が行う診断の原理・原則とその際に留意すべきこと、救命救急措置の原則、臨床検査の原理、画像診断の原理等とともに我が国の保健医療制度の概略について学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。
3）医療従事者としての自己管理を実践できる。
4）医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。
5）患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。
6）臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。
7）重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。
8）基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。
9）患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。
10）診断、治療及び全身管理に参加できる。
11）診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。
12）ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。
13）医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。
14）個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。
15）多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。
16）医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。
17）他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。
18）多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。

19）医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。
20）地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。
21）地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。
22）医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。
23）医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。

【方略】
講義・演習および PBL チュートリアルで行う。

【評価】
授業態度、演習・チュートリアルのパフォーマンス、発表資料および試験で評価する。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
標準臨床検査医学：医学書院
標準救急医学：医学書院
標準放射線医学：医学書院

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：松村　洋子
内線・PHS：56112
E-mail：youko.matsumura@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：※月曜日のみ
場所：総合研究棟 4 階中央検査部医局（臨床検査医学 3 ）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：新田　雅彦
内線・PHS：56729
E-mail：nittam@ompu.ac.jp
開始時間：14:00
終了時間：15:00
内容：※月曜日のみ
場所：救急部医局

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：小森　剛
内線・PHS：56334
E-mail：tsuyoshi.komori@ompu.ac.jp
開始時間：14:00
終了時間：15:00
内容：※金曜日のみ
場所：放射線診断科読影室（A 棟 2F）

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：12:00
終了時間：13:00
内容：※月曜日のみ
場所：微生物学・感染制御学教室

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、松村　洋子、小森　剛、新田　雅彦、鈴木　富雄、高須　朗、大須賀　慶悟、山本　和宏、小山　光博、中井　豪、東山　央、山本　聖人、重里　寛、河野　武弘、宮崎　彩子、松谷　裕貴、安賀　文俊

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 3) 15) -18) 20)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 2) 15)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 4) 16)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 23)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 3)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 15)-17)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 6) 13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 5)	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 12)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 13)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	D
【学習アウトカム】 18) 20) 21)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 6)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 7)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 8) 10)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 10)	
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	D
【学習アウトカム】 11)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 15) 17) 18)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 16)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 17)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 15) 17)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	D
【学習アウトカム】 20) 21) 23)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	D
【学習アウトカム】 19)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 20)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 21)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 22)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 23)	

循　　環　　器

【ナンバリングコード】　M-06-02-D

【PBL コース責任者】
森田　英晃

【PBL コース主任】
藤田　修一

【PBL 指導教員】
（専任教員）
矢野　貴人、伊藤　隆英、藤阪　智弘、岸　勘太、宮村　昌利、宍倉　大介、坂根　和志、神﨑　裕美子、山内　洋平、酒谷　優佳、赤松　加奈子、津田　浩佑、楠本　紘史、藤岡　慎平、柴田　兼作、勝間田　敬弘、大門　雅広、根本　慎太郎、久藤　麻子、斯波　真理子、寺﨑　文生（嘱託教員）
（非常勤講師）
鈴木　秀治、寺﨑　由香、中島　伯、勝谷　友宏、木澤　隼
（特別講師）
浮村　聡、森本　大成

【科目の概要】
循環器系の構造と機能を理解し、主な循環器疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）心臓の構造・機能と分布する血管・神経を説明できる。
3）心筋細胞の電気現象と心臓の興奮（刺激）伝導系・興奮収縮連関を説明できる。
4）体循環、肺循環と胎児循環を説明できる。
5）主な動脈・静脈を図示し、分布域や血液の流れを概説できる。
6）毛細血管における物質・水分交換を説明できる。
7）胸管を経由するリンパの流れを概説できる。
8）心周期にともなう血行動態を説明できる。
9）心機能曲線と心拍出量の調節機序を説明できる。
10）血圧調節の機序を説明できる。
11）胸部エックス線写真と断層心エコー図から心臓・大血管の画像診断を説明できる。
12）心カテーテル検査（心内圧、心機能、冠動脈造影）と結果の解釈を説明できる。
13）心不全の定義と重症度分類を説明できる。
14）心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。
15）左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。
16）急性心不全と慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。
17）胸痛の原因と病態を説明できる。
18）安定狭心症（労作性、冠攣縮性）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
19）不安定狭心症の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
20）急性心筋梗塞の病態生理、症候、診断と合併症を説明し、治療を概説できる。
21）動悸の原因を列挙し、その病態を説明できる。
22）主な頻脈性不整脈（期外収縮、WPW 症候群、発作性頻拍）の心電図上の特徴を説明できる。

23）主な徐脈性不整脈（洞不全症候群、房室ブロック）の心電図上の特徴を説明できる。
24）致死的不整脈の心電図上の特徴を説明できる。
25）不整脈の治療（抗不整脈薬、電気的除細動、ペースメーカー療法）を概説できる。
26）主な弁膜症（僧帽弁疾患、大動脈弁疾患）の原因、病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
27）感染性心内膜炎の原因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
28）心筋症と特定心筋疾患の定義・概念と病態生理を説明できる。
29）心筋炎の原因と症候を説明できる。
30）急性心膜炎の症候を説明できる。
31）心タンポナーデの原因と診断を説明し、治療を概説できる。
32）主な先天性心疾患（心房中隔欠損、心室中隔欠損、動脈管開存、ファロー四徴）の病態生理、症候と診断を説明し、治療を概説できる。
33）動脈硬化症の危険因子、病態生理と合併症を説明できる。
34）大動脈解離と大動脈瘤を概説できる。
35）閉塞性動脈硬化症とバージャー病を概説できる。
36）大動脈炎症候群を概説できる。
37）深部静脈血栓症の原因と症候を説明し、治療を概説できる。
38）本態性高血圧症の疫学、診断、合併症と予後を説明し、治療を概説できる。
39）二次性高血圧症の原因を列挙し、診断を説明し、治療を概説できる。
40）生活習慣と肥満・高脂血症・動脈硬化の関係を説明できる。
41）予防医学（一、二次予防）を概説できる。
42）肺血栓塞栓症の病因、診断と治療を説明できる。
43）肺高血圧症を概説できる。

【方略】
各授業内容の基本的事項（基礎）については、「臨床テキストブック」の「循環器コース　予習・復習動画」を視聴し学修する。
その他については評価とともに下記に示す。

【評価】
授業態度、チュートリアルにおける評価、試験成績を総合して評価する。
チュートリアルにて症例を提示し、学生間で症例について学習し、発表を行う。
課題として、学習項目のレポートおよび発表を相互評価し、「相互学習プレゼンテーション評価シート」に記入、提出する。
「症例討議・解説」の授業にて全体で症例を討議し、学習内容のフィードバックを行う。

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
大阪医科大学版臨床テキストブック循環器コース

【オフィスアワー】
担当教員氏名：藤田　修一
内線・PHS：56504
E-mail：shuichi.fujita@ompu.ac.jp
内容：事前に連絡しアポイントメントを取ること

【医師実務経験のある教員】

矢野　貴人、勝間田　敬弘、森本　大成、根本　慎太郎、大門　雅広、岸　勘太、寺﨑　文生、浮村　聡、伊藤　隆英、鈴木　秀治、神崎　裕美子、森田　英晃、柴田　兼作、宮村　昌利、藤田　修一、坂根　和志、山内　洋平、勝谷　友宏、藤阪　智弘、中島　伯、寺﨑　由香、木澤　隼、宍倉　大介、酒谷　優佳、赤松　加奈子、斯波　真理子、津田　浩佑、楠本　紘史、藤岡　慎平

【SDGs との関連】

4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-43)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-10)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-14) 17) 21)-24) 28)-30) 33)-36) 40) 43)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 15)-16) 18)-20) 25)-27) 31)-32) 37)-39) 42)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 11) 17) 20) 21)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 4) 32)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 2)-43)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 11)-40) 42) 43)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 2)-43)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 2)-43)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-43)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 1)-43)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 40) 41)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 41)	

腎尿路・男性生殖器

【ナンバリングコード】　M-06-03-D

【PBL コース責任者】
東　治人

【PBL コース主任】
松村　英樹、辻野　拓也、美馬　晶

【PBL 指導教員】
(専任教員)
森　龍彦、大井　幸昌、松永　知久、吉川　勇希、前之園　良一

【科目の概要】
腎・尿路系の構造と機能を理解し、主な腎・尿路系疾患の病態生理・原因・症候・診断法・治療について学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）腎の機能の全体像やネフロンの構造と機能を解説できる。
3）尿検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
4）糸球体濾過量の測定、尿細管機能検査を解説できる。
5）乏尿・多尿・脱水・浮腫・蛋白尿・血尿の原因と病態、診断の要点を説明できる。
6）水電解質・酸塩基平衡の調節機構を説明し、電解質代謝異常を解説できる。
7）急性糸球体腎炎症候群の原因、症候、診断と治療を説明できる。
8）慢性糸球体腎炎症候群（IgA 腎症を含む）の原因、症候、診断と治療を説明できる。
9）ネフローゼ症候群の分類、症候、診断を説明できる。
10）全身性疾患による腎障害（糖尿病性腎症を含む）の症候、診断と治療を説明できる。
11）慢性糸球体腎不全の原因、症候、診断と治療を説明できる。
12）急性糸球体腎不全の原因、症候、診断と治療を説明できる。
13）腎血管性高血圧を概説できる。
14）尿細管性アシドーシスの分類、病態、診断と治療を説明できる。
15）血液浄化療法（透析含む）について概説できる。
16）腹痛、腰痛、排尿異常の原因と病態、診断の要点を説明できる。
17）腎・尿路系、精嚢・前立腺の画像診断、内視鏡検査法が説明できる。
18）腎尿路の主な先天異常を概説できる。
19）主たる泌尿生殖器癌（腎癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣癌）の症候診断、治療を説明できる。
20）その他泌尿器科領域の主たる疾患（尿路結石、前立腺肥大症、炎症性疾患、男性不妊、性機能障害）の症候、診断、治療を説明できる。
21）排尿の機序を概説できる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】
① 合格点：100 点法により行い、評価点が 60 点以上を合格とする。

② 評価点の算出・内訳：試験・レポートなど　50 点　授業態度　50 点
③ 評価の形態：試験の実施、レポート
④ 再試験：評価点が 60 点に満たない場合：レポート提出
⑤ 課題（レポート）に対するフィードバック
　レポートを採点し、質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
標準腎臓病学：菱田　明・槙野　博史 編、医学書院
腎・尿路系コア・カリキュラムテキスト：今井　裕一 他編、文光堂
腎疾患（新・病態生理できった内科学）：横山　啓太郎 著、医学教育出版社
研修医のための小児腎疾患の臨床：五十嵐　隆 編、診断と診療社
腎機能検査の正しい評価：北本　清ら 編、診断と診療社
腎生検から学ぶ腎臓病学：木村　健二郎 編、診断と診療社
糖尿病性腎症：槙野　博史 編著、診断と診療社
新標準透析療法：飯田　喜俊ら 編、中外医学社
基本泌尿器科学：岡田　清巳・勝岡　洋治 他 編、医学図書出版
標準泌尿器科学：小磯　謙吉 監修、医学書院
NEW 泌尿器科学：西沢　理・松田　公志 編、南江堂
エッセンシャル泌尿器科学：大島　博幸 編、医歯薬出版
Smith's General Urology：Tanagho E.A. & McAninch J.W.、Lange medical book
新刊 スタディメイト泌尿器科学：勝岡　洋治 編、金芳堂
レジデントのための感染症診療マニュアル第 3 版：医学書院

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：森　龍彦
内線・PHS：56719
E-mail：tatsuhiko.mori@ompu.ac.jp
内容：時間は随時
場所：メールにて相談

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：辻野　拓也
内線・PHS：54050
E-mail：takuya.tsujino@ompu.ac.jp
内容：時間は随時相談
メールにて相談

【医師実務経験のある教員】
東　治人、美馬　晶、松村　英樹、辻野　拓也、森　龍彦、松永　知久、大井　幸昌、吉川　勇希、前之園　良一

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3) 6)-9) 11) 12)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3) 6)-9) 11) 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 1)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 1)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3) 6)-9) 11) 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 1)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3) 6)-9) 11) 12)	

女性生殖器・婦人科腫瘍

【ナンバリングコード】　M-06-04-D

【PBL コース責任者】
田中　智人

【PBL コース主任】
恒遠　啓示

【PBL 指導教員】
（専任教員）
田中　良道、藤原　聡枝、劉　昌恵、丸岡　寛、寺田　信一

【科目の概要】
女性生殖器の正常構造と機能を理解し、主な婦人科系疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）各婦人科生殖器の位置・形態・血管の走行を説明できる。
　傷病名に対応した手術の選択ができ、手術の概説ができる。
3）性器の炎症・STD
　a）性器の炎症について、種類や感染経路について説明できる。
　　ヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症★★
　　性器クラミジア感染症★★★
　　尖圭コンジローマ★★
　b）子宮の炎症の感染防御機能について説明できる。
　c）STD の感染経路について説明できる。
4）子宮頸癌
　a）子宮頸がんの疫学、病理、症候、分類について説明できる。★★★
　b）子宮頸がんの診断について説明できる。★★★
　c）子宮頸癌の進行期に応じた治療を概説できる。
　d）コルポスコピー検査の意義を説明できる。
　e）生検と細胞診の意義と適応を説明できる。
5）各婦人科疾患の病理学的特徴を概説できる。
6）卵巣腫瘍の種類、分類について概説できる。★★★
　卵巣腫瘍の診断、治療について概説できる。★★★
7）子宮鏡検査の意義を説明できる。
8）子宮体癌
　a）子宮内膜増殖症の疫学、病理、症候、分類について説明できる。
　b）子宮内膜増殖症の診断、治療について説明できる。
　c）子宮体がんの疫学、病理、症候、分類について説明できる。★★★
　d）子宮体がんの診断について説明できる。★★★
　e）子宮体がんの進行期に応じた治療を概説できる。★★★
9）婦人科　救急
　急性腹症など症候に応じた対応方法を概説できる。

10）絨毛性疾患の分類、治療について説明ができる。★★
11）画像診断と各種検査の基本
　a）基礎体温測定について説明できる。
　b）婦人科の主な腫瘍マーカーについて説明ができる。
　c）MRI・CT の意義や診断方法を説明できる。
12）子宮内膜症
　a）子宮内膜症の疫学、病理、症候、分類について説明できる。★★
　b）子宮内膜症の診断について説明できる。★★
　c）子宮内膜症の治療について説明できる。★★
13）子宮間葉系腫瘍
　子宮腺筋症・筋腫・子宮肉腫の疫学、病理、症候、分類、診断、治療について説明できる。★
14）卵巣癌について
　a）表層上皮性・間質性腫瘍の病理、進行期について説明できる。★
　b）表層上皮性・間質性腫瘍の診断、治療について概説できる。★
　c）性索間質性腫瘍の病理、進行期について説明できる。★
　d）性索間質性腫瘍の診断、治療について概説できる。★
　e）杯細胞腫瘍の病理、分類、診断について説明できる。★★
　f）杯細胞腫瘍の治療について説明できる。★★
15）腟・外陰部の疾患が列挙でき、概説ができる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】
① 合格点　100 点法により評価し、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 価点の算出　試験 80 点、レポート 10 点、授業への参加態度 10 点
③ 評価形態　試験マークシート　提出物→レポート
④ 再試験　出席不良者、本試験不良者　→マークシート試験
⑤ 追試験　本試験病欠者　→マークシート試験
⑥ レポートについては教員がコメントし学生にフィードバック
　出席や勉強態度 , 試験を総合評価する。
　質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
Clinical Gynecologic Oncology
Essentials of Obstetrics and Gynecology
Berek & Hacker's Gynecologic Oncology
標準産婦人科学
チャート産婦人科
病気がみえる　婦人科

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：恒遠　啓示
内線・PHS：56677
E-mail：satoshi.tsunetoh@ompu.ac.jp
開始時間：17:00
内容：金曜日のみ
場所：産婦人科医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：藤田　太輔
内線・PHS：56393
E-mail：daisuke.fujita@ompu.ac.jp
開始時間：17:00
内容：金曜日のみ
場所：産婦人科医局

【医師実務経験のある教員】
田中　智人、恒遠　啓示、田中　良道、藤原　聡枝、劉　昌恵、丸岡　寛、寺田　信一

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 11)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 3)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 2) 3)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 2) 3) 5) 7) 11) -14)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 6)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 9)	

呼　　吸　　器

【ナンバリングコード】　M-06-05-D

【PBL コース責任者】
勝間田　敬弘

【PBL コース主任】
池田　宗一郎、花岡　伸治

【PBL 指導教員】
（専任教員）
藤阪　保仁、佐藤　澄、田村　洋輔、中村　敬彦、鶴岡　健二郎、松永　仁綜、辻　博行、松谷　裕貴、満屋　奨、船本　智哉
（非常勤講師）
後藤　功、細井　慶太、辻　洋志

【科目の概要】
正常な呼吸器系の構造と機能について理解し、呼吸器疾患ごとに病態生理を把握することで診断、治療についての知識を習得する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）気道の構造を図示して説明できる。
3）肺葉・肺区域と肺門の構造を説明できる。
4）縦隔を構成する要素と機能を説明できる。
5）肺循環の特徴を説明できる。
6）呼吸筋の神経支配を説明できる。
7）呼吸調節のメカニズムを説明できる。
8）呼吸運動のメカニズムを説明できる。
9）肺気量と肺・胸郭系の圧・容量関係（コンプライアンス）を説明できる。
10）肺胞の構造をガス交換機能と結びつけて説明できる。
11）肺の換気 - 血流比を説明できる。
12）血液における酸素・二酸化炭素の運搬の仕組みを説明できる。
13）呼吸と血液の酸塩基平衡の関係を説明できる。
14）過換気症候群の症状、診断と治療を説明できる。
15）低酸素血症の発生原因と種類を説明できる。
16）低酸素血症の診断と酸素療法の手順を説明できる。
17）呼吸不全の定義・分類・病態生理を説明できる。
18）人工呼吸器の種類・使用法を説明できる。
19）ARDS の成因・症状・治療につき説明できる。
20）肺と気道系の生体防御機構を説明できる。
21）小児・成人の急性上気道炎（かぜ症候群を含む）の原因と診断・治療を説明できる。
22）気管支炎・肺炎の主な病原体を説明できる。
23）喀痰細菌検査の意義を説明できる。
24）急性気管支炎（気管支拡張症の増悪を含む）と肺炎の病因を説明できる。

25）小児・成人の市中肺炎の原因・症候・診断・治療について説明できる。
26）院内肺炎の危険因子と診断・治療の原則について説明できる。
27）嚥下性肺炎の発生機序とその予防法を説明できる。
28）肺結核の疫学・予防・診断・治療・届出手続きについて説明できる。
29）非結核性抗酸菌症を説明できる。
30）膿胸・肺化膿症の原因・症候・治療を説明できる。
31）胸膜炎の原因・症候・診断・治療を説明できる。
32）気胸の原因・症候・診断・治療を説明できる。
33）無気肺の原因・診断・治療を説明できる。
34）喘鳴の機序と鑑別診断を述べることができる。
35）気管支喘息の病態生理を説明できる。
36）小児の気管支喘息の診断と治療の特徴を説明できる。
37）成人の気管支喘息の診断と治療の特徴を説明できる。
38）COPD の原因を列挙できる。
39）COPD の急性増悪の症候と治療を説明できる。
40）COPD の画像・呼吸器機能の検査所見の特徴を説明できる。
41）睡眠時無呼吸症候群を概説できる。
42）肺血栓・塞栓症の原因・診断・治療を説明できる。
43）肺高血圧症を概説できる。
44）間質性肺炎の病態・診断・治療を説明できる。
45）過敏性肺臓炎の原因・症候・診断を説明できる。
46）サルコイドーシスの症候・診断・治療を説明できる。
47）好酸球性肺疾患を概説できる。
48）放射線肺臓炎を概説できる。
49）職業性肺疾患（じん肺・石綿肺など）を概説できる。
50）原発性肺癌の症候を列挙できる。
51）原発性肺癌の分類と病期を類別できる。
52）原発性肺癌の診断法を説明できる。
53）原発性肺癌の診断における画像検査の意義を述べることができる。
54）原発性肺癌の診断における喀痰検査の意義を述べることができる。
55）転移性肺腫瘍の診断と治療を説明できる。
56）縦隔腫瘍の種類を列挙して診断と治療の原則を説明できる。
57）呼吸器系の画像検査（レントゲン写真・CT・MRI・核医学検査）の意義を説明できる。
58）気管支鏡検査の意義を説明できる。

【方略】
前もって予習を行ない、講義で知識の確認を行なう。質問はオフィスアワーで受けつける。

【評価】
国試に準じた multiple choice

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
＜初学者向け教科書＞
Bates' Guide to Physical Examination and History Taking：Lippincott
（上記訳本）ベイツ診察法：MEDSi（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

シンプル呼吸器学：興梠　博次、南江堂
Respiratory: An Integrated Approach to Disease：McGraw-Hill
（上記訳本）レックナー呼吸器学：丸善出版
入門腫瘍内科学：日本臨床腫瘍学会、南江堂
The Chest X-Ray: A Survival Guide：Saunders
（上記訳本）シェーマでわかる 胸部単純 X 線写真パーフェクトガイド：MEDSi
新　胸部画像診断の勘ドコロ：高橋　雅士、メジカルビュー社
呼吸器外科テキスト：呼吸器外科専門医合同委員会、南江堂
レジデントのための感染症診療マニュアル：青木　眞、医学書院

＜理解を助ける副読本＞
レジデントのためのやさしイイ呼吸器教室：長尾　大志、日本医事新報社
胸部 X 線・CT の読み方 やさしくやさしく教えます！：中島　啓、羊土社
レジデントのためのやさしイイ胸部画像教室：長尾　大志、日本医事新報社
読む肺音 視る肺音：岡　三喜男、金芳堂

＜病棟実習のお供に＞
呼吸器病レジデントマニュアル：藤田　次郎、医学書院
レジデントのための呼吸器診療マニュアル：河野　茂、医学書院
感染症レジデントマニュアル：藤本　卓司、医学書院
がん診療レジデントマニュアル：国立がん研究センター内科レジデント、医学書院

＜やや専門的な教科書＞
新臨床腫瘍学：日本臨床腫瘍学会編、南江堂
呼吸器外科学：藤井　義敬、南山堂
臨床呼吸器外科：渡辺　洋宇ら、医学書院
最新 呼吸器内科・外科学：伊達洋至・平井豊博、メディカル・レビュー社
呼吸器疾患診断治療アプローチ（1. 気管支喘息　2. 呼吸器感染症　3. 肺癌　4. 間質性肺炎　5. COPD）：中山書店
間質性肺疾患診療マニュアル：久保　惠嗣、南江堂
呼吸器科医のためのサルコイドーシス診療ガイド、：杉山　幸比古、南江堂
Pleural Diseases、R.W.Light：WOLTERS KLUWER
（上記訳本）胸膜疾患のすべて：診断と治療社
胸部の CT：村田　喜代史ら、MEDSi（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
Webb, Muller & Naidich's High Resolution CT of Lung：WOLTERS KLUWER
（上記訳本）肺 HRCT：丸善出版
気管支鏡テキスト：日本呼吸器内視鏡学会、医学書院
Murray & Nadel's Textbook of Respiratory Medicine：ELSEVIER
Mandell, Douglas, & Bennett's Principles & Practice of Infectious Diseases：ELSEVIER

＜ガイドライン＞
喘息予防・管理ガイドライン：日本アレルギー学会、協和企画
COPD（慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン：日本呼吸器学会、メディカル・レビュー社
特発性間質性肺炎診断と治療の手引き：日本呼吸器学会、南江堂
薬剤性肺障害の診断・治療の手引き：日本呼吸器学会、メディカル・レビュー社
成人肺炎診療ガイドライン：日本呼吸器学会、メディカル・レビュー社
結核診療ガイド：日本結核病学会、南江堂
深在性真菌症の診断・治療ガイドライン：深在性真菌症のガイドライン作成委員会、協和企画

酸素療法ガイドライン：日本呼吸学会・日本呼吸器管理学会、メディカル・レビュー社
ARDS 診療ガイドライン：日本呼吸器学会、日本呼吸療法医学会
睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診療ガイドライン：日本呼吸器学会、南江堂
臨床・病理肺癌取扱い規約：日本肺癌学会、金原出版
中皮腫瘍取扱い規約：石綿・中皮腫研究会、金原出版
臨床・病理縦隔腫瘍取扱い規約：日本胸腺研究会、金原出版
肺癌診療ガイドライン-悪性胸膜中皮腫・胸腺腫瘍含む：日本肺癌学会、金原出版

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：池田　宗一郎
内線・PHS：56702
E-mail：soichiro.ikeda@ompu.ac.jp
内容：事前にアポイントをとること

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：花岡　伸治
内線・PHS：56208
E-mail：nha8228@ompu.ac.jp
内容：事前にアポイントをとること

【医師実務経験のある教員】
勝間田　敬弘、花岡　伸治、池田　宗一郎、藤阪　保仁、佐藤　澄、田村　洋輔、中村　敬彦、鶴岡　健二郎、松永　仁綜、辻　博行、松谷　裕貴、満屋　奨、船本　智哉、後藤　功、細井　慶太、辻　洋志

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-13)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 14)-58)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 14)-58)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 35)45)49)	

消　　化　　器

【ナンバリングコード】　M-06-06-D

【PBL コース責任者】
西川　浩樹、李　相雄

【PBL コース主任】
宮嵜　孝子、富山　英紀

【PBL 指導教員】
（専任教員）
山本　和宏、津田　泰宏、新保　大樹、朝井　章、東野　正明、小倉　健、柿本　一城、奥田　篤、平田　有基、西岡　伸、植野　高章、小野　富三人、近藤　洋一、菅原　徳瑛、藤原　政宏、山本　聖人、山本　佳代子、朝隈　光弘、米田　浩二、今井　義朗、田中　亮、濱元　宏喜、植野　紗緒理、箱田　明俊、太田　和寛、岩坪　太郎、山口　敏史

【科目の概要】
消化器系の正常構造と機能を理解し、主な消化器系疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。さらに消化器病学の最近の進歩や話題について知識を得て、消化器病学への興味を深める。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）消化器病学、消化器病診療を通じて倫理観とプロフェッショナリズムを持って行動することができる。
　① 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言動、行動を、自ら進んで行うことができる。
　② 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守し及び、倫理的責任に配慮した行動ができる。
　③ 高度専門職として医療の向上を通じて社会貢献を果たすことができる。
　④ 個人情報保護、守秘義務を理解し実践できる。
　⑤ 医療者として自己管理ができる。
　⑥ 大学の発展に直接的あるいは間接的に貢献できる。
3）消化器病学に関する医学的知識を習得し、消化器病の病態、診断、治療を説明できる。
　① 消化器系の構造と機能を理解し説明できる。
　② 消化器系疾患の診断と検査の基本を理解し説明できる。
　③ 消化器系の症候を理解し説明できる。
　④ 消化器系疾患の病態から治療法を理解し、応用できる。
4）消化器病学を習得し、その診断治療を医療現場で実践できる。
5）消化器病学の分野において科学的に探求し発表することができる。
6）医療現場において多職種連携を理解し協調して行動できる。
7）消化器病学及び消化器病診療を通じて地域医療、地域保険を理解し、社会的に貢献することができる。
8）消化器病学及び消化器病診療を通じて国際性を養い、実践できる。
　① 外国語の医学書、論文を読み理解できる。
　② 海外の医師や医学生と交流できる。
　③ 外国語（英語）で症例発表を行うことができる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】

① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。

② 評価点の算出・内訳：試験・レポート、授業態度、小テストの点数を加味して総合的に評価する。評価試験 80％、小テスト 10％、授業への参加態度 5 ％、その他担当教員の評価 5 ％により評価を行う。

③ 評価の形態：評価試験の実施（マークシート式）、小テストの実施、レポート等の提出物、授業態度。

④ 再試験：総合評価点で 60 点を下回った場合に再試験を実施する。再試験は筆記の記述式試験を行う。

⑤ 追試験：評価試験を病気・交通事故、天災などで欠席し、教育センターに正規の欠席の届けを行い、認められた場合に追試験を実施する。

⑥ 大教室 PBL チュートリアルにおける症例討議、解説の授業にて全体に症例を討議し、学習内容のフィードバックを行う。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】

HARRISON'S PRINCIPLES OF INTERNAL MEDICINE 19 th Edition：Kasper, Fauci, Hauser, Longo, Jamason, Loscalzo.、Mc Graw Hill

内科学：朝倉書店

新臨床内科学：医学書院

内科診断学：医学書院

標準外科学：医学書院

標準放射線医学：医学書院

標準小児外科学：医学書院

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：宮嵜　孝子

内線・PHS：58597

E-mail：takako.miyazaki@ompu.ac.jp

内容：事前にメールでアポイントお願いします。

【オフィスアワー②】

担当教員氏名：富山　英紀

内線・PHS：53940

E-mail：hideki.tomiyama@ompu.ac.jp

内容：事前にメールで連絡確認してください

【医師実務経験のある教員】

西川　浩樹、李　相雄

柿本　一城、小倉　健、宮嵜　孝子、平田　有基、奥田　篤、西岡　伸、近藤　洋一、植野　高章、朝井　章、植野　紗緒理、箱田　明俊、太田　和寛、岩坪　太郎、山口　敏史

富山　英紀、朝隈　光弘、米田　浩二、田中　亮、今井　義朗、濱元　宏喜、谷口　高平、川口　直、富岡　淳、松尾　謙太郎、有馬　純、島　卓史、庫本　達

津田　泰宏、山本　和宏、神保　大樹、東野　正明、小野　富三人、菅原　徳瑛、藤原　政宏、山本　聖人

【SDGs との関連】

4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 2)①	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 2)③	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 2)⑤	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 3)①②③④	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 3)①②③④	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 3) ①②③④	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 3) ①②③④	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 3) ①②③④	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 4)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 4)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 4)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 5)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 5)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 6)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 2) 7)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 2) 7)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 2) 7)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 2) 7)	

血　　液

【ナンバリングコード】　M-06-07-D

【PBL コース責任者】
秋岡　寿一

【PBL コース主任】
秋岡　寿一

【PBL 指導教員】
(専任教員)
河野　武弘、三好　拓児、横手　耐治、増田　友紀、波戸岡　純、藤本　麻由美

【科目の概要】
血液・造血器・リンパ系の構造と機能を理解し、主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）造血器の発生と、造血幹細胞から各血球への分化・成熟の過程を説明できる。
3）血漿タンパク質の種類と機能を説明できる。
4）赤血球とヘモグロビンの構造と機能を説明できる。
5）白血球の種類と機能を説明できる。
6）血小板の機能と凝固・線溶系の機序を説明できる。
7）貧血患者の診断の要点を説明できる。
8）出血傾向を呈する患者の診断の要点を説明できる。
9）リンパ節腫脹を呈する患者の診断の要点を説明できる。
10）造血器疾患に関わる病理学的検査の結果を解釈できる。
11）造血幹細胞移植療法の種類、適応と、管理の要点を説明できる。
12）造血幹細胞移植療法に伴う合併症の種類、病態、症候、診断、治療について説明できる。
13）輸血療法に関わる検査と、種類、適応、関連法規を説明できる。
14）輸血療法に伴う合併症の、症候、病態、診断、治療、予防策について説明できる。
15）適切な輸血療法の実施について説明できる。
16）貧血を分類し、鑑別に有用な検査を説明できる。
17）鉄欠乏性貧血の病態、診断、治療を説明できる。
18）巨赤芽球性貧血の病態、診断、治療を説明できる。
19）再生不良性貧血の病態、診断、治療を説明できる。
20）溶血性貧血の分類、病態、診断、治療を説明できる。
21）骨髄異形成症候群の分類、診断、治療を説明できる。
22）急性骨髄性白血病の分類、病態、診断、治療、予後を説明できる。
23）慢性骨髄性白血病の病態、診断、治療を説明できる。
24）成人 T 細胞白血病・リンパ腫の疫学、分類、病態、診断、治療、予後を説明できる。
25）小児造血器悪性腫瘍の疫学、分類、病態、診断、治療、予後を説明できる。
26）骨髄増殖性疾患の分類、病態、診断、治療を説明できる。
27）悪性リンパ腫の分類、病態、診断、治療、予後を説明できる。
28）多発性骨髄腫の分類、病態、診断、治療、予後を説明できる。

29）先天性凝固異常の分類、症候、診断、治療と遺伝形式を説明できる。
30）特発性血小板減少性紫斑病の病態、診断、治療を説明できる。
31）播種性血管内凝固症候群の基礎疾患、病態、診断、治療を説明できる。
32）HIV 感染症の基礎疾患、病態、診断、治療を説明できる。
33）医療従事者としての自己管理を実践できる。
34）高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を自ら進んで行うことができる。
35）高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。
36）医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。
37）自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するため計画を立てて実行することができる。
38）基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。
39）基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。
40）医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。
41）医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。
42）患者及び患者家族と、誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。
43）健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。
44）医療経済の背景と現状を理解し、効率性のバランスに配慮した医療を提供できる。
45）代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解できる。
46）疫学及び統計の概念と諸指標の意義を理解し、提供する医療の科学的根拠として示すことができる。

【方略】
講義で行う。随時シラバスの講義予定を確認すること。講義時間が限られているため、各講義毎に配付資料を作成して事前に Moodle に掲示する。各自であらかじめ学習し、教室では、十分に学習できたかを確認できるようにしておくこと。

【評価】
① 合格点：100 点法で評価し、60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：試験得点を 60 点満点で、授業態度を 30 点満点、提出物を 10 点満点に換算する。
③ 評価の形態：試験はマークシート方式で行う。提出物は課題に対するレポートを印刷した文書で、科目のゴールに到達できているかを評価する。
④ 再試験：合計点の 60 点未満の者には再試験をマークシート方式で行う。
⑤ 追試験：追試験に関しては学則等を準用する。マークシート方式の他、個別に口頭試問で学習目標のゴールに到達できているかを当該学生と教員で確認する。
⑥ 課題に対するフィードバック：レポートはコース責任者が評価・添削して各学生にフィードバックする。質問があればオフィスアワーを設けているので、所定の時間・場所で直接応対する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
特に定めない。各講義毎に配付資料を作成し Moodle に掲示すると共に、臨床テキストブックも予習、復習等に活用すること。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：秋岡　寿一
内線・PHS：56367
E-mail：toshikazu.akioka@ompu.ac.jp
開始時間：16:00
終了時間：17:00
内容：場所：7 号館専門内科外来 2 階　診察室

【医師実務経験のある教員】

秋岡　寿一、横手　耐治、三好　拓児、増田　友紀、波戸岡　純、藤本　麻由美、河野　武弘

【SDGs との関連】

2、6、10、14

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 32)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 33)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 31)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 34)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-8)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 15)-30)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 10) 11)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 6)-8) 13) 14)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 6)-8)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 1)-8)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 2)-5) 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	C
【学習アウトカム】 6)-8)13)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 6)-8)12)14)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 36)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 37)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 35)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 37)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 39) 40)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 40)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 41)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 43)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 42)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 45)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 44)	

内　分　泌　・　代　謝

【ナンバリングコード】　M-06-08-D

【PBL コース責任者】
今川　彰久

【PBL コース主任】
寺前　純吾、金綱　規夫

【PBL 指導教員】
（専任教員）
佐野　寛行、稲葉　惟子、藤澤　玲子、長江　亮太、八幡　直輝、佐浦　隆一、喜田　照代、黒柳　裕一、中村　善胤
（非常勤講師）
谷本　啓爾、堤　千春、酒井　聡至、橘　恵
（特別講師）
花房　俊昭、深尾　篤嗣、松本　浩明

【科目の概要】
内分泌・代謝系の構成と機能を理解し、主な内分泌・代謝疾患の病態生理、原因、症候、診断、治療を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる
2）以下の各種ホルモンの名称と働きを概説できる。
　a 視床下部ホルモン
　b 下垂体前葉ホルモン
　c 下垂体後葉ホルモン
　d 甲状腺ホルモン
　e 副甲状腺ホルモン
　f 副腎皮質ホルモン
　g 副腎髄質ホルモン
　h 性腺ホルモン
　i 消化管ホルモン
　j 膵内分泌ホルモン
　k 心血管ホルモン
3）ホルモン分泌のフィードバック機構を概説できる。
4）内分泌負荷試験のしくみと適応を概説できる。
5）ホルモンが過剰に分泌される機序・病理、およびその症状と所見を概説できる。
6）ホルモンの分泌低下となる機序・病理、およびその症状と所見を概説できる。
7）以下の血液検査を概説できる。
　a 血中ホルモン濃度
　b ホルモン作用のために変動する項目
　c 自己抗体
8）内分泌腺機能を表す検査を概説できる。
9）以下の臓器の画像検査を概説できる。
　a 下垂体；MRI、造影 MRI

b 甲状腺；超音波、シンチグラム
c 副甲状腺；超音波、シンチグラム
d 副腎；CT、MRI、シンチグラム
10）内分泌疾患の薬物治療（特にホルモン補充療法）について概説できる。
11）内分泌疾患の外科治療について概説できる。
12）糖尿病の分類、病理・病態生理、診断を概説できる。
13）1型糖尿病と2型糖尿病の原因、病態生理、症候、診断を概説できる。
14）糖尿病の急性合併症を概説できる。
15）糖尿病の慢性合併症を列挙し、概説できる。
16）糖尿病の治療（食事療法、運動療法、薬物療法）を概説できる。
17）脂質の代謝経路と相互作用、脂質異常症の分類、原因、病態を概説できる。
18）高尿酸血症、痛風の原因と病態を概説できる。
19）低血糖症を概説できる。
20）低身長を来たす疾患を概説できる。
21）ビタミン・微量元素の代謝を概説できる。

【方略】
下記に評価と共に示す。

【評価】
1　合格点：100点法により評価を行い、評価点が60点以上を合格とする。
2　評価点の算出・内訳：講義、実習、TBL、授業態度、レポート、試験を総合的に評価する。
3　評価の形態：試験、講義・TBLの授業態度、レポート、小テスト。
4　再試験：上記評価点が60点未満の場合再試験を行う。評価点が60点以上を合格とする。
5　追試験：正規評価が正当な事由により施行できなかった場合追試験を行うことがある。評価点が60点以上を合格とする。
6　課題に対するフィードバック：TBL（症例検討）において担当教員によるフィードバックを実施する。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
Harrison's Principles of Internal Medicine, 21st Edition, Joseph Loscalzo, Anthony Fauci, Dennis Kasper, Stephen Hauser, Dan Longo, J. Larry Jameson
Williams Textbook of Endocrinology, 14th Edition, S.Melmed, R.J.Auchus,et al.
Joslin's Diabetes Mellitus, 14th Edition, C.R.Kahn and G.C.Weir,et al., Editors, Lippincott Williams & Wilkins
内科学、第12版、矢崎義雄、小室一成　編、朝倉書店
新臨床内科学、第10版、矢崎義雄　監修、医学書院
内科学書 改訂第9版 中山書店
病気がみえる3　糖尿病・代謝・内分泌 第5版　MedicMedia
甲状腺疾患診断ガイドライン2021　日本甲状腺学会編
厚生労働科学研究費補助金　難治性疾患克服研究事業　間脳下垂体機能障害に関する調査研究班　診断と治療の手引き
副腎クリーゼを含む副腎皮質機能低下症の診断と治療に関する指針　日本内分泌学会編
内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医研修ガイドブック　日本内分泌学会・日本糖尿病学会編
糖尿病専門医研修ガイドブック 第9版　日本糖尿病学会編・著
糖尿病診療ガイドライン2024　日本糖尿病学会編・著
糖尿病治療ガイド2024　日本糖尿病学会編・著
インスリンの発見　マイケルブリス著、朝日新聞

インスリン物語　二宮睦雄著、医歯薬出版
ウイリアム・オスラー　―ある臨床医の生涯― 梶龍兒訳　メディカルサイエンスインターナショナル

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：寺前　純吾
内線・PHS：56700
E-mail：jungo.terasaki@ompu.ac.jp
内容：※事前アポイントをとること
場所：第三研究棟三階奥（十三研究室）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：金綱　規夫
内線・PHS：53574
E-mail：norio.kanatsuna@ompu.ac.jp
内容：※事前アポイントをとること
場所：総合研究棟 11 階（内科学Ⅰ研究室）

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：佐野　寛行
内線・PHS：56973
E-mail：hiroyuki.sano@ompu.ac.jp
内容：※事前アポイントをとること
場所：内科総合医局

【オフィスアワー④】
担当教員氏名：稲葉　惟子
内線・PHS：56707
E-mail：yuiko.inaba@ompu.ac.jp
内容：※事前アポイントをとること
場所：内科総合医局

【医師実務経験のある教員】
今川　彰久、寺前　純吾、金綱　規夫、佐野　寛行、稲葉　惟子、藤澤　玲子、長江　亮太、八幡　直輝、佐浦　隆一、喜田　照代、黒柳　裕一、中村　善胤、谷本　啓爾、堤　千春、酒井　聡至、橘　恵、花房　俊昭、深尾　篤嗣、松本　浩明

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 11)-14) 16)-20)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 3) 7) 10)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 4)-6) 8) 9) 15)	

アレルギー・免疫

【ナンバリングコード】　M-06-09-D

【PBL コース責任者】
武内　徹

【PBL コース主任】
小谷　卓矢

【PBL 指導教員】
（専任教員）
津田　泰宏、中野　隆史、寺田　哲也、河野　武弘、秋岡　寿一、鍵谷　真希、小林　崇俊、仲野　春樹、庄田　武司、柿本　一城、鈴鹿　隆保、和田　裕美子、平松　ゆり、吉川　紋佳、木坊子　貴生、松田　翔悟
（非常勤講師）
藤原　憲太、藤田　一彦、岡本　奈美、大関　ゆか

【科目の概要】
免疫系の機構を分子レベルで理解し、病原体に対する免疫反応、おもな自己免疫疾患、先天性および後天性免疫不全症とがん細胞に対する免疫系の反応を理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）生体防御反応における免疫系の特徴（特異性、多様性、寛容、記憶）を説明できる。
3）免疫反応に関わる組織と細胞を説明できる。
4）免疫学的自己の確立と破綻を説明できる。
5）代表的なサイトカイン、ケモカインの特徴を説明できる。
6）細菌、ウイルスと寄生虫に対する免疫応答の特徴を説明できる。
7）免疫寛容の維持機構とその破綻による自己免疫疾患の発症を概説できる。
8）アレルギー発症の機序を説明できる。
9）膠原病の症候を列挙し説明できる。
10）膠原病と自己免疫疾患を概説し、その種類を列挙できる。
11）全身性エリテマトーデス（SLE）の病態生理、症候、診断と治療、合併症を説明できる。
12）強皮症・皮膚筋炎の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
13）関節リウマチの病態生理、症候、診断、治療とリハビリテーションを説明できる。
14）若年性関節リウマチなどの小児膠原病の特徴を説明できる。
15）血管炎症候群を列挙し、その病態生理、症候、診断と治療を説明できる。
16）シェーグレン症候群・ベーチェット病を概説できる。
17）アレルギー疾患の特徴とその発症を概説できる。
18）アナフィラキシーの症候、診断と治療を説明できる。
19）血清、免疫学的検査項目の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
20）膠原病・自己免疫疾患の検査を列挙し説明できる。
21）膠原病の皮膚症状を列挙できる。
22）生体の非特異的防御機構を説明できる。
23）特異的防御機構である免疫系の役割を説明できる。
24）体液性と細胞性免疫の応答を説明できる。

25）ウィルスに対する中和反応と細胞性免疫を説明できる。
26）寄生虫感染宿主の生態防御の特徴を説明できる。
27）小児のアレルギー性疾患の病態と治療・管理について説明できる。
28）臓器特異的自己免疫疾患の病態・診断・治療について説明できる。
29）膠原病の特殊治療を列挙し説明できる。
30）炎症性臓器特異疾患の病態・診断・治療について説明できる。

【方略】
アレルギー疾患および免疫疾患は原因不明の全身性炎症性疾患であるので、各臓器のエキスパートによる講義から必要な知識を修得する。その講義においてクリッカーなどの双方向授業を取り入れる。基礎知識を修得後に反転授業により各疾患の診断および治療について考え方を身につける。

【評価】
①「合格点」100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
②「評価点の算出・内訳」　試験 80％、授業への参加態度 20％
③「評価の形態」試験の実施：マークシート方式
④「再試験」評価点の総計が 60 点に満たないものに対し行う。方法は試験、評価点の算出：再試験での合格者は 60 点と判定する。
⑤「追試験」原則として追試験は単独で行わず、該当者（本試験に病気・交通事情等止むをえないと判断される事由で欠席したもの）に対し再試験と同日に追試験を行う。方法は試験、評価点の算出：本試験と同様に判定する。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
教科書　指定しない

参考書
I. Roitt et al., eds. Immunology（6th ed), Mosby（Harcourt Publishers inc.).
S.H.e. Kaufmann et al., eds. Immunology of Infectious Diseases, ASM Press.
Evidence Based Medicine を活かす　膠原病・リウマチ診療　第 4 版
関節リウマチ診療ガイドライン〈2024 改訂 〉- 若年性特発性関節炎 少関節炎型・多関節炎型診療ガイドラインを含む：日本リウマチ学会
脊椎関節炎診療の手引き 2020：日本脊椎関節炎学会
全身性エリテマトーデス診療ガイドライン 2019：日本リウマチ学会
ANCA 関連血管炎診療ガイドライン 2023：診断と治療社
小児リウマチ学：朝倉書店
小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2023：協和企画
食物アレルギー診療ガイドライン 2021：協和企画

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：武内　徹
内線・PHS：2591
E-mail：tooru.takeuchi@ompu.ac.jp
開始時間：13:50
終了時間：14:35
内容：※期間中の火曜日のみ
場所：内科学Ⅰ・Ⅳ研究室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：小谷　卓矢
内線・PHS：56194
E-mail：takuya.kotani@ompu.ac.jp
開始時間：13:50
終了時間：14:35
内容：同上

【医師実務経験のある教員】
武内　徹、津田　泰宏、中野　隆史、藤原　憲太、寺田　哲也、河野　武弘、藤田　一彦、秋岡　寿一、鍵谷　真希、小林　崇俊、岡本　奈美、仲野　春樹、小谷　卓矢、庄田　武司、柿本　一城、大関　ゆか、鈴鹿　隆保、和田　裕美子、平松　ゆり、吉川　紋佳、木坊子　貴生、松田　翔悟

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 18)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-5) 21)-25)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 7)-17) 26)-29)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 10)-12) 14) 17) 26) 27) 29)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 8) 9) 18)-20) 27) 29)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 20) 29)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 8) 9) 18)-20) 27) 29)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 18) 19)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 17)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 10)-12) 14)-17) 26)-29)	

皮　　膚

【ナンバリングコード】　M-06-10-D

【PBL コース責任者】
森脇　真一

【PBL コース主任】
塗　隆志、福永　淳

【PBL 指導教員】
（専任教員）
大槻　祐喜、大塚　俊宏、金田　一真、宗元　紗和、廣田　由香、浅香　明紀、梅田　千鶴

【科目の概要】
皮膚の構造と機能を理解し、主な皮膚疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。Skin surgery についての知識を確実なものとする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）皮膚の組織構造を図示して説明できる。
3）皮膚の細胞動態と角化、メラニン形成の機構を説明できる。
4）皮脂分泌・発汗・経皮吸収を説明できる。
5）皮膚検査法（硝子圧法、皮膚描記、ニコルスキー現象、ツアンク試験、光線テスト）を概説できる。
6）皮膚アレルギー検査法（プリックテスト、皮内反応、パッチテスト）を説明できる。
7）微生物検査法（検体採取法、苛性カリ鏡検法、細菌・真菌培養法、スピロヘータ検出法）を概説できる。
8）湿疹・皮膚炎群の疾患（脂漏性皮膚炎、ビダール苔癬、尋常性湿疹、その他）を列挙し、概説できる。
9）蕁麻疹、多形滲出性紅斑、結節性紅斑と環状紅斑の原因と病態を説明できる。
10）褥瘡の予防方法と治療方法、熱傷の重症度と治療法を説明できる。
11）薬疹、中毒疹の分類、病態、検査法を説明できる。
12）紫斑、血管炎、血行障害の種類と病態を説明できる。
13）自己免疫性水疱症の原因、病態と分類を説明できる。
14）水疱症、膿疱症の種類と病態を説明できる。
15）代謝異常、萎縮症、肉芽腫症の病態を説明できる。
16）遺伝性皮膚疾患の種類と病態を説明できる。
17）角化症、炎症性角化症（尋常性乾癬、扁平苔癬など）とジベルばら色粃糠疹の病態、症候と治療を説明できる。
18）母斑、母斑症の種類を列挙できる。
19）皮膚良性腫瘍、前癌状態と悪性腫瘍の種類と見分け方を説明できる。
20）悪性黒色腫の症候と対応の仕方を説明できる。
21）間葉系腫瘍の種類を列挙できる。
22）皮膚細菌感染症（伝染性膿痂疹、せつ、よう、毛嚢炎、丹毒、ぶどう球菌性熱傷様皮膚症候群）を列挙し、概説できる。
23）皮膚表在性と深在性真菌症の症候と病型を説明できる。
24）動物性皮膚疾患の種類と病因を説明できる。
25）ウイルス性皮膚疾患を概説できる。
26）皮膚結核、ハンセン病の症候、病型と原因菌を説明できる。

27）梅毒の症候、病期と合併症を説明できる。
28）皮膚外科についてＺ形成術の原理を理解し、有茎皮弁と遊離植皮術の適応について理解する。
29）マイクロサージャリーの歴史、手技およびその応用についての知識を習得する。
30）皮膚に照射するレーザーの原理を理解し、各種レーザーの適応疾患と手技を説明できる。
31）形成外科の最近の進歩についての知識を習得する。
32）皮膚附属器疾患、毛髪疾患、爪疾患を概説できる。
33）紫外線の皮膚への影響を概説し、光線性皮膚症について説明できる。
34）色素異常症の病態を理解できる 。
35）再建外科について手術方法が理解できる。
36）顔面骨骨折について概説できる。
37）瘢痕、ケロイドについて診断、治療が理解できる。
38）体表の先天異常についての知識を習得する。
39）頭蓋骨、顎顔面骨の先天異常についての知識を習得する。
40）皮膚科治療法（外用療法など）を説明できる。
41）創傷治癒のメカニズムについて説明できる。

【方略】
１）アクティブラーニング　　反転授業
２）一部、Moodle を活用した自主学習支援

【評価】
コース終了後、コース試験を行う。
授業の授業態度・コース試験により総合的に評価する。

① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳　授業態度の評価、コース試験の成績
　①の評価点が 60 点に満たない場合、再試験を行う。
③ 評価の形態：コース試験の実施（マークシート、筆記）。
④ 再試験
　再試験を受験する対象者：評価点が 60 点に満たない場合、対象となる。
　評価の方法はレポート提出（あるテーマついて 800 字程度で記述させる）を行う。
　評価点の算出は、内容、字数などで行い、60 点以上を合格とする。
⑤ 追試験
　追試験を受験する対象者：病気や家庭の事情などで当日の試験を受けられなかった者が対象となる。授業および実習の出席および態度の評価、コース試験（追試験）の成績（60 点）にて評価を行い、①の評価点が 60 点に満たない者が再試験を行う。
　再試験の評価などは上記の通りである。

また、下記項目は、オンデマンド講義として Moodle にアップロードするので、必ず確認すること。
・顔面骨骨折（顔面骨骨折の分類と治療の目的）　塗　隆志
・植皮・皮弁（植皮・皮弁の基本）　光野　乃祐
・創傷治癒の基本（傷が治るメカニズム）　光野　乃祐
・瘢痕・ケロイド（瘢痕・ケロイドの病態と手術）　廣田　由香

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
あたらしい皮膚科学　第 3 版：中山書店
標準皮膚科学　第 11 版：医学書院
皮膚科学　第 10 版：金芳堂
皮膚疾患　最新の治療　2021 － 2022：南江堂
1 冊でわかる皮膚病理：文光堂

標準形成外科学　第 6 版：医学書院
形成外科手術書　改訂第 4 版：南江堂

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：塗　隆志
内線・PHS：56895
E-mail：takashi.nuri@ompu.ac.jp
開始時間：15:00
終了時間：16:00
内容：※水曜日のみ
場所：3 号館 5 階　形成外科医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：福永　淳
内線・PHS：53361
E-mail：atsushi.fukunaga@ompu.ac.jp
開始時間：16:00
終了時間：17:00
内容：水曜日 16:00-17:00、木曜日 16:00-17:00
皮膚科医局

【医師実務経験のある教員】
塗　隆志、大槻　祐喜、廣田　由香、浅香　明紀、梅田　千鶴
森脇　真一、福永　淳、大塚　俊宏、金田　一真、宗元　紗和

【SDGs との関連】
1、2、3、4、8、12、13、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 5)-12) 13)-30) 32)-40)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 31)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 2)-4) 38) 39)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 31)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 10) 11) 13) 15) 16) 33) 34) 38) 39)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 8) 9) 12) 14) 17) -27) 32) 36) 37)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 5) -7) 28) -30) 35) 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 2) -4) 38) 39)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 14) 15)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 8) -13) 16) -27) 32) -34)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 5) -7) 28) -30) 35) -37) 40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 31)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 5)-7)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 2)-4) 8)-30) 32)-40)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 31)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 2)-4) 8)-30) 32)-40)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 5)-7)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 31)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 5)-7)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 2)-4) 8)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 31) 32)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 9)-30) 33)-40)	

運　　動　　器

【ナンバリングコード】　M-06-11-D

【PBL コース責任者】
大槻　周平

【PBL コース主任】
若間　仁司

【PBL 指導教員】
（専任教員）
大槻　周平、三幡　輝久、安田　稔人、馬場　一郎、岡本　純典、長谷川　彰彦、藤城　高志、羽山　祥生、
藤野　圭太郎、若間　仁司、東迎　高聖
（非常勤講師）
藤原　憲太

【科目の概要】
人間が文化的または社会活動を行うために必須の器官である運動器を理解する。骨、靭帯、腱、中枢神経、末梢神経、血管などの運動器を構成する構造を理解するとともに、それらにより構成される脊柱、四肢の関節などの解剖と機能を理解する。その上で、運動器の障害である外傷、運動器疾患の病態を理解し、それらに対応できる検査、診断、治療法の概略を習得する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）脊柱・脊髄、骨・関節、靭帯、末梢神経、筋肉・腱の構造と機能を説明できる。
3）徒手検査（関節可動域検査、徒手筋力検査）を説明できる。
4）筋骨格系画像診断法（エックス線、MRI、CT、超音波検査、脊髄造影、骨塩定量）と知覚検査を説明できる。
5）骨折の分類、症候、診断、治療と合併症を説明できる。
6）関節の脱臼、亜脱臼、捻挫および靭帯損傷の定義と重症度分類、診断と治療を説明できる。
7）絞扼性神経障害を列挙し、その症候を説明できる。
8）四肢の基本的外固定法を説明できる。
9）脊髄損傷の診断、治療とリハビリテーションを説明できる。
10）運動器の多発外傷の合併症と緊急処置について説明できる。
11）小児期の運動器疾患の種類と病因、診断法、治療について説明できる。
12）主要な骨軟部腫傷の症候、診断、治療を説明できる。
13）転移性骨腫傷の好発部位と診断、治療を説明できる。
14）骨粗鬆症の原因と病態を説明し、骨折の好発部位を列挙できる。
15）骨系統疾患の種類と特徴、診断について説明できる。
16）関節リウマチの診断と治療について説明できる。
17）変形性関節症を列挙し、症候と治療を説明できる。
18）骨・関節の化膿性疾患を列挙し、症候と治療を概説できる。
19）腰部椎間板ヘルニアの診断と治療を説明できる。
20）腰部脊柱管狭窄症、腰椎分離・すべり症の症候と治療を説明できる。
21）頚椎症性脊髄症の症候と治療を説明できる。
22）脊柱側彎症症の症候と治療を説明できる。
23）運動器疾患と外傷のリハビリテーションを概説できる。

【方略】
PBL
多くの授業で Moodle を活用する

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：
　試験の点数 80％・レポート等の点数 10％、授業態度 10％
③ 評価の形態：
　試験の実施　→ マークシート方式で行う
　提出物　→教育担当責任者がその都度作成するテーマでのレポート
④ 再試験
　再試験を受験する対象者（評価点が 60 点に満たなかったもの）、受験の条件（自身の評価獲得点数が 30 点以上）、評価の方法（レポート等）、評価点の算出（レポートを 30 点満点で評価し、それまで獲得した点数に追加し、60 点以上のものを合格とする。）
　出席日数など平常点が低い者は再試験の対象とする。
⑤ 追試験
　追試験を受験する対象者（なんらかの理由で試験が受けられなかったもの）、受験の条件（特になし）、評価の方法（試験）、評価点の算出（100 点満点で採点し、総合評価での試験の占める割合である 80％に換算する）
⑥ 課題として、学習項目のレポートおよび発表を相互評価し、「相互学習プレゼンテーション評価シート」に記入、提出する。
　「症例討議・解説」の授業にて全体で症例を討議し、学習内容のフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
標準整形外科学（第 13 版）

【オフィスアワー】
担当教員氏名：若間　仁司
内線・PHS：56464
E-mail：hitoshi.wakama@ompu.ac.jp
開始時間：17:00
内容：月曜日整形外科カンファレンス終了後

【医師実務経験のある教員】
大槻　周平、三幡　輝久、安田　稔人、金　明博、馬場　一郎、横田　淳司、中野　敦之、岡本　純典、長谷川　彰彦、藤城　高志、羽山　祥生、藤野 圭太郎、若間　仁司、東迎高聖、藤原　憲太

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-23)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-23)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-23)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-23)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 1)-4) 11)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 1)-4) 10)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2) 6) 10)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

神　　経

【ナンバリングコード】　M-06-12-D

【PBL コース責任者】
荒若　繁樹

【PBL コース主任】
鰐渕　昌彦、川端　信司、古瀬　元雅、髙見　俊宏、中村　善胤

【PBL 指導教員】
（専任教員）
島川　修一、細川　隆史、野々口　直助、東山　央、平松　亮、太田　真、矢木　亮吉、仲野　春樹、亀田　雅博
（非常勤講師）
石田　志門、池田　直廉、梶本　宜永
（特別講師）
乾　敏彦

【科目の概要】
神経系の正常構造と機能を理解し主な神経疾患の病態生理・原因・症候・診断と治療を学ぶ。

【科目のゴール】
〔基礎〕
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）随意運動の発現機構を錐体路、錐体外路機能から概説できる。
3）大脳基底核（線状体、淡蒼球、黒質）・小脳・脳幹の線維結合と機能を概説できる。
4）大脳皮質の機能局在とその機能（失行・失認・失語など）を概説できる。
5）脳室・脳槽および髄膜の解剖学的構造を理解し、脳脊髄液の機能と循環動態について説明できる。
6）自律神経機能の中枢内局在、末梢分布、機能と伝達物質を概説できる。
〔診察〕
7）一般的な神経学的診察法から得られる情報を体系的に概説できる。
8）神経変性疾患・筋疾患の症候と診断を概説できる。
9）意識障害を評価し、重症度を説明できる。
10）急性・慢性頭蓋内圧亢進の症候、脳ヘルニアの種類と症候を説明できる。
11）髄膜刺激徴候を説明できる。
12）振戦やその他の不随意運動を概説できる。
13）意識障害・頭痛・めまいなど主たる神経徴候について、原因を列挙できる。
14）神経疾患におけるリハビリテーションの適応と医師の役割を説明できる。

〔検査〕
15）電気生理学的検査（脳波、筋電図、末梢神経伝導速度）で得られる情報を説明できる。
16）脳脊髄液検査の目的・適応・禁忌を理解し、異常所見を説明できる。
17）脳・脊髄 CT・MRI 検査および脳血管造影で得られる情報を説明できる。

〔疾患各論〕
18）パーキンソン病の病態・症候・診断および薬物治療を説明できる。
19）認知症をきたす主な疾患（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症）の症候・診断・治療法を説明できる。
20）運動ニューロン病の分類と診断、治療法を説明できる。
21）遺伝性神経筋疾患の診断と臨床的特徴を説明できる。
22）運動失調をきたす疾患の鑑別診断を概説できる。
23）中枢神経系感染症の病態、診断、治療法を説明できる。
24）免疫性神経疾患の症候、診断、治療法を説明できる。
25）末梢神経障害の病態、診断、治療法を説明できる。
26）筋疾患（筋ジストロフィー、筋炎、神経筋接合部疾患）の病態、診断、治療法を説明できる。
27）内科的疾患に伴う神経障害について分類、診断を説明できる。
28）脳血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）の病態、症候と診断を説明できる。
29）てんかんの分類・診断・治療法の選択を説明できる。
30）主な脳腫瘍の分類と好発部位を説明し、診断と治療を概説できる。
31）頭部外傷（急性硬膜外・硬膜下・慢性硬膜下血腫など）の病態、症候と診断を説明できる。
32）小児の神経学的診断法から得られる情報を体系的に概説できる。
33）脊椎・脊髄疾患について概説できる。

【方略】
ICT を活用した双方向授業や自主学習支援の導入

【評価】
PBL 神経コースの評価は、本試験と再試験の総計 2 回の結果で行う。100 点満点とし、合否の判定は以下のように行う。
① 本試験の方法と評価：マークシート形式で実施する。全講義 2/3 以上の出席を満たし、60 点以上の取得を合格とする。
② 再試験の方法と評価：本試験不合格者を対象に 1 回のみ実施する。試験はマークシート形式とし、60 点以上を合格とする。
③ 追試験の方法と評価：本試験を確たる事由により欠席した者を対象に 1 回のみ実施する。
再試験と同じ日に行う。試験はマークシート形式とし、60 点以上を合格とする。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
大阪医科大学臨床テキストブック（Web 版）
ベッドサイドの神経の診かた（第 18 版）
神経内科ハンドブック（第 5 版）
メリット神経学
朝倉内科学（第 11 版）
脳神経外科学（第 12 版）
脳神経外科ハンドブック（原著 6 版）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：古瀬　元雅
内線・PHS：2363
E-mail：motomasa.furuse@ompu.ac.jp
内容：※事前に連絡しアポイントメントをとること
場所：脳神経外科医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：中村　善胤
内線・PHS：2672
E-mail：yoshitsugu.nakamura@ompu.ac.jp
内容：※事前に連絡しアポイントメントをとること

【医師実務経験のある教員】
荒若　繁樹、鰐渕　昌彦、石田　志門、高見　俊宏、川端　信司、古瀬　元雅、梶本　宣永、野々口　直助、池田　直廉、平松　亮、矢木　亮吉、細川　隆史、太田　真、仲野　春樹、東山　央、島川　修一、宮地　茂、亀田　雅博、中村　善胤

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 6)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	C
【学習アウトカム】 1) 7)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	C
【学習アウトカム】 1) 6) 7)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	C
【学習アウトカム】 1) 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 14)-17)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5) 16)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 18)-33)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 17)-32)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 6)-12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 6)-12)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 7)-9)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 7)9)12)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 6)12)14)15)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 7)-14)20)-33)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-5)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 13)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 6)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 12)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-14)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 27)	

精　神　・　行　動

【ナンバリングコード】　M-06-13-D

【PBL コース責任者】
金沢　徹文

【PBL コース主任】
木下　真也

【PBL 指導教員】
（専任教員）
西田　圭一郎、久保　洋一郎、西澤　由貴、辻　明里、藤本　健士郎、南　博也、松本　康一、大西　尚哉、竹井　謙貴
（非常勤講師）
康　純、稲田　泰之、川野　涼

【科目の概要】
精神と行動の障害に対して、全人的な立場から、病態生理、診断、治療を理解し、良好な患者と医師の信頼関係に基づいた全人的医療を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）患者－医師の良好な信頼関係にもとづく精神科面接の基本を説明できる。
3）精神科診断分類法（多軸診断システムを含む）を説明できる。
4）精神科医療の法と倫理に関する必須項目（精神保健福祉および精神障害者福祉に関する法律、心神喪失者等医療観察法、インフォームドコンセント）を説明できる。
5）コンサルテーション・リエゾン精神医学を説明できる。
6）心理学的検査法の種類と概要を説明できる。
7）不安・躁うつを来す精神障害を列挙し、その鑑別診断を説明できる。
8）不眠と幻覚・妄想を来す精神障害を列挙し、その鑑別診断を説明できる。
9）症状精神病の概念と診断を概説できる。
10）認知症の診断と治療を説明できる。
11）薬物の乱用、依存、離脱の病態の症状を説明できる。
12）アルコール依存症、ギャンブル依存症の病態、診断と合併症を説明できる。
13）統合失調症の急性期の診断と救急治療を説明できる。
14）統合失調症の慢性期の症候と診断を説明できる。
15）非定型精神病の症候と診断を説明できる。
16）うつ病の症候と診断を説明できる。
17）躁うつ病の症候と診断を説明できる。
18）不安障害（パニック障害、恐怖症性あるいは全般性不安障害）の症候と診断を説明できる。
19）ストレス関連障害（外傷後ストレス障害＜PTSD＞を含む）の症候と診断を説明できる。
20）心身症（摂食障害を含む）の症候と診断を説明できる。
21）主な精神疾患・障害の治療を概説できる。
22）解離性＜転換性＞障害の症候、診断と治療を説明できる。
23）身体表現性障害の症候、診断と治療を説明できる。

24）人格＜パーソナリティ＞障害を概説できる。
25）精神遅滞＜知的障害＞と広汎性発達障害＜自閉症＞を概説できる。
26）多動性障害と行動障害を概説できる。
27）睡眠覚醒障害の症候と診断を説明できる。
28）てんかんの症候と診断を説明できる。
29）性の多様性を説明できる。
30）高齢者の心理・精神の変化を理解し、対応できる。
31）中枢神経作用薬（向精神薬、抗うつ薬、パーキンソン治療薬、抗けいれん薬、全身麻酔薬）の薬理作用を説明できる。
32）心理精神療法について説明できる。
33）精神科における救急医療について説明できる。
34）精神障害における触法とその対策について説明できる。
35）神経心理機能について説明できる。
36）精神科疾患と遺伝との関わりを概説できる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：試験 25％、レポート 25％、授業態度 50％
③ 評価の形態：試験の実施→マークシート、提出物→レポート、授業態度を評価する。
④ 再試験：対象者：上記評価で不合格となった者　評価の方法：試験の実施→記述式、レポート提出
⑤ 課題（レポート）に対するフィードバック
　レポートを採点し、質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
NIM Lecture 精神医学：三好　功峰・藤縄　昭 編、医学書院
現代臨床精神医学：大熊　輝男 著、金原出版
精神医学：大槻　三郎 著、文光堂
臨床精神医学テキスト：カブラン著、医学書院

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：木下　真也
内線・PHS：56910
E-mail：shinya.kinoshita@ompu.ac.jp
開始時間：14:00
終了時間：15:00
内容：※月曜日のみ
場所：神経精神医学教室（医局）

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：辻　明里
内線・PHS：58028
E-mail：akari.tsuji@ompu.ac.jp
開始時間：14:00
終了時間：15:00
内容：※月曜日のみ
場所：神経精神医学教室（医局）

【医師実務経験のある教員】
康　純、稲田　泰之、金沢　徹文、川野　涼、西田　圭一郎、木下　真也、久保　洋一郎、西澤　由貴、辻　明里、藤本　健士郎、南　博也、松本　康一、大西　尚哉、竹井　謙貴

【SDGs との関連】
1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	A
【学習アウトカム】 1)-36)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	B
【学習アウトカム】 1)-36)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
国際性： 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。	D
【学習アウトカム】 1)-36)	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-36)	

妊　娠　・　出　産

【ナンバリングコード】　M-06-14-D

【PBL コース責任者】
藤田　太輔

【PBL コース主任】
林　正美

【PBL 指導教員】
(専任教員)
永易　洋子、劉　昌恵

【科目の概要】
ヒトの妊孕現象全般を追求し、周産期における母児の健康管理への理解を深めることができる。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）超音波検査について説明できる。
3）胎児心拍数モニタリングについて説明ができる。
　遷延一過性徐脈
　変動一過性徐脈　★
　遅発一過性徐脈　★
4）羊水検査の意義を説明できる。
5）妊娠中の栄養管理の意義を説明できる。
6）正常妊娠★★★
　妊娠の成立　★
　a）配偶子から受精、着床初期の分化までを説明できる。
　b）胎児期の発育についての要点を説明できる。
7）胎盤の構造や胎盤の働きについて説明できる。
8）妊娠初期の異常
　a）妊娠悪阻の原因と病態を説明できる。★★
　b）流産の診断の要点を説明できる。★
　　不育症　★
　　切迫流産　★★
　c）異所性妊娠の分類や頻度、治療法について説明できる。★★★
9）妊娠中期から後期の異常
　a）妊娠高血圧症候群の原因と病態を説明できる。★★★
　b）妊娠高血圧症候群の診断の要点を説明できる。★★★
　c）子癇の定義・鑑別診断。管理を説明できる。★★
　d）HELLP 症候群の診断について説明できる。★★
　e）常位胎盤早期剥離について原因と病態を説明できる。★★
　f）常位胎盤早期剥離について管理、治療法を説明できる。★★
　g）前置胎盤について原因と病態を説明できる。★

h）羊水異常について原因と病態を説明できる。
羊水過少　★
羊水過多　★★
i）多胎妊娠について分類や合併症、管理方法について説明できる。
双胎輸血症候群　★★
j）子宮内胎児発育遅延について定義や分類を説明できる。★★★
k）血液型不適合妊娠について原因や管理を説明できる。
l）早産について原因と病態を説明できる。
切迫早産について管理や治療法を説明できる。
絨毛膜炎について原因や管理方法を説明できる。★
経管無力症について病態や管理方法を説明できる
前期破水について原因や分類、管理方法について説明できる。★
m）合併症妊娠について説明できる。
糖代謝異常合併妊娠について診断や管理について概説できる。★★★
糖尿病合併妊娠
妊娠糖尿病　★★
甲状腺機能亢進合併妊娠について説明できる。
n）母児感染症について種類や感染経路などを概説できる。★★★
10）正常分娩
a）分娩の三要素からの分娩の基本を理解し、異常分娩回避の手段がわかる。
b）胎児の well-being の評価ができ、新生児の診察の手段が説明できる。
c）産褥の生理について概説できる。★★
11）分娩の異常
a）陣痛の異常について定義や原因などを概説できる。★
微弱陣痛★
過強陣痛
b）産道の異常について種類や管理方法を説明できる。
c）胎勢異常について説明できる。
d）胎位の異常について分類や管理について説明できる。
e）臍帯異常について説明できる。
f）胎児機能不全について概念、分類診断が説明できる。★★★
g）子宮破裂について分類や原因、管理方法を説明できる。
h）子宮内反について原因や治療を説明できる。★
i）弛緩出血について機序や原因、治療法を概説できる。★★
j）産科 DIC について診断や治療法を説明できる。★
k）子宮復古不全について概説できる。★
l）産褥熱について説明できる。
m）血栓性静脈炎について管理方法を説明できる。
12）遺伝子疾患を列挙し、説明できる。
13）不妊の定義や原因について概説できる。
a）卵巣過剰刺激症候群　OHSS ★
b）黄体不全
14）不妊の治療に関し説明できる。

【方略】

PBL 反転授業　ディスカッション、プレゼンテーション

【評価】
① 合格点　100 点法により評価し、評価点が 60 点以上を合格とする
② 価点の算出　試験 50 点、レポート 10 点、授業態度 40 点
③ 評価形態　試験マークシート　提出物→レポート
④ 再試験　出席不良者、本試験不良者　　マークシート試験
⑤ 追試験　本試験病欠者　→マークシート試験
⑥ レポートについては教員がコメントし学生にフィードバック
　出席や勉強態度、試験を総合評価する。
　質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Williams Obstetrics
Obstetrics, 7th ed.- Normal & Problem regnancies
ウイリアムス臨床産科マニュアル
最新産科学
標準産婦人科学
病気がみえる : 産科

【オフィスアワー】
担当教員氏名：藤田　太輔
内線・PHS：56397
E-mail：daisuke.fujita@ompu.ac.jp
開始時間：17:00
内容：曜日：金曜日
場所：医局

【医師実務経験のある教員】
藤田　太輔、林　正美、劉　昌恵、永易　洋子

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 6)7)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 6)10)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 8)9)11)-13)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 8)9)11)-13)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-5)	

成　長　・　発　達

【ナンバリングコード】　M-06-15-D

【PBL コース責任者】
芦田　明

【PBL コース主任】
島川　修一、黒柳　裕一

【PBL 指導教員】
（専任教員）
瀧谷　公隆、尾崎　智康、岸　勘太、山岡　繁夫、小田中　豊、大関　ゆか、梶　恵美里、田中　智子
（非常勤講師）
高谷　竜三、福井　美保

【科目の概要】
小児科は周産期から思春期の期間を対象としている。小児の特徴は成長・発達である。そのため、小児期の生理を理解した上で、小児疾患の病態生理を理解する。また、小児期に多い疾患、小児特有の疾患を理解し、プライマリ・ケアおよび小児保健も理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
【胎児・新生児の生理・病理】
2）胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化を説明できる。
3）胎内発育の過程を在胎期間と出生体重を加味して評価できる。
4）主な先天性疾患を列挙できる。
5）新生児の生理的特徴を説明できる。
6）胎児・新生児仮死の分類を説明できる。
7）新生児マススクリーニングを説明できる。
8）新生児黄疸の鑑別と治療を説明できる。
9）新生児期の呼吸困難の原因を列挙できる。
10）正常児・低出生体重児・病児の保育の基本を説明できる。
11）低出生体重児固有の疾患を概説できる。
12）救急を要する新生児疾患を概説できる。
【乳幼児の生理・病理】
13）乳幼児の生理機能の発達を説明できる。
14）乳幼児の神経・精神運動発達の異常を説明できる。
15）乳幼児の保育法・栄養法の基本を概説できる。
16）乳児突然死症候群を説明できる。
【遺伝性疾患】
17）メンデル遺伝の法則を説明し、遺伝形式別に主な遺伝病を列挙できる。
18）家族歴を聴取し、家系図を作成できる。そこから遺伝形式を推定できる。
19）集団遺伝学的事項について学習する。
20）単一遺伝子病の分子生物学的メカニズム、変異の種類を説明できる。
21）主な多因子遺伝病、母系遺伝病を列挙できる。

22）出生前診断や遺伝子治療の方法・適応・問題点を説明できる。
23）分子生物学の臨床検査への応用を説明できる。
24）発生を障害する遺伝因子、環境因子（催奇形因子）を説明できる。
25）主な胎芽病・胎児病を列挙し、原因・診断・治療・予防法を説明できる。
26）出生前疾患を分類し、原因を列挙できる。
27）主な先天代謝異常症を列挙し、特徴を説明できる。
28）主な先天性心疾患を列挙し、特徴を説明できる。
29）主な遺伝性免疫異常症を列挙し、特徴を説明できる。
30）主な先天性・遺伝性の神経・筋疾患を列挙し、特徴を説明できる。
31）ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げられる。
32）遺伝相談の基本を説明し、倫理的問題について議論できる。
【小児期全般の発達】
33）小児の精神運動発達を説明できる。
34）小児の栄養上の問題点を列挙できる。
35）小児の免疫発達と感染症の関係を概説できる。
36）小児保健における予防接種の意義を説明できる。
37）成長に関わる主な異常を列挙できる。
38）児童虐待を概説できる。
39）心身症と発達障害（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症）を説明できる。
40）小児の診断法と治療法における特徴を概説できる。
【思春期の発達】
41）思春期発現の機序、性徴、身体的特徴とその異常を説明できる。
42）思春期と関連した精神保健上の問題を列挙できる。
【感染症】
（ウイルス・プリオン感染症）
43）インフルエンザの症候、診断と治療を説明できる。
44）麻疹の症候と診断を説明できる。
45）風疹の症候、診断と合併症を説明できる。
46）流行性耳下腺病の症候、診断と合併症を説明できる。
47）水痘・帯状ヘルペス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
48）ウイルス性皮膚疾患（単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい）を概説できる。
49）突発性発疹の症候と診断を説明できる。
50）咽頭結膜炎の症候と診断を説明できる。
51）サイトメガロウイルス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
52）伝染性単核球症の症候と診断を説明できる。
（細菌感染症）
53）ぶどう球菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。
54）Ａ群レンサ球菌の症候、診断、治療とリウマチ熱との関連を説明できる。
55）結核の原因、症候、診断、治療と予防を説明できる。
56）病原性大腸菌感染症を概説できる。
57）ジフテリア、破傷風と百日咳の症候、診断と予防を説明できる。
58）劇症溶連菌感染症を概説できる。
59）インフルエンザ桿菌と肺炎レンサ球菌感染症を概説できる。
60）新生児Ｂ群レンサ球菌感染症を概説できる。

【方略】
パッシブラーニング：講義（オンライン）・視聴覚教材（スライド並びにハンドアウト）による授業
アクティブラーニング：ケースメソッドによるグループディスカッション（遠隔授業となった場合はメールやオンラインミーティング）、シミュレーション、学生同士の実技演習

【評価】
1）合格点　100 点法により、評価点が 60 点以上を合格とする。
2）評価点の算出・内訳：筆記試験の素点に、授業への参加態度を加味して評価する（遠隔授業となった場合は課題レポート提出ならびに moodle の授業スライド聴講状況、moodle での小テスト提出状況で評価する）
3）評価の形態：試験→記述式およびマークシート
4）再試験：本試験に準じる。
5）追試験：本試験に準じる。
6）課題に対するフィードバック（遠隔授業となった場合）：課題に対するレポートや小テストについてはコメントでフィードバックする

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
New 小児科学　改定第 2 版：南江堂
標準小児科学　第 8 版：医学書院
小児科学　改訂第 10 版：文光堂
シンプル小児科学：南江堂
Nelson Textbook of Pediatrics, 20th edition：Saunders

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：岸　勘太
内線・PHS：2356
E-mail：kanta.kishi@ompu.ac.jp
開始時間：11:00
終了時間：11:50
内容：曜日：木曜日
場所：3 号館 3 階　小児科医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：山岡　繁夫
内線・PHS：2376
E-mail：shigeo.yamaoka@ompu.ac.jp
開始時間：11:00
終了時間：11:50
内容：曜日：水曜日
場所：研究棟 10 階　小児科研究室

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：黒柳　裕一
内線・PHS：2356
E-mail：yuichi.kuroyanagi@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：15:00
内容：曜日：火曜日
場所：3 号館 3 階　小児科医局

【医師実務経験のある教員】
芦田　明、瀧谷　公隆、島川　修一、黒柳　裕一、山岡　繁夫、尾崎　智康、梶　恵美里、小田中　豊、大関　ゆか、田中　智子、高谷　竜三、福井　美保

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	

思春期・ホルモン

【ナンバリングコード】　M-06-16-D

【PBL コース責任者】
瀧谷　公隆

【PBL コース主任】
伊藤　隆英、恒遠　啓示、黒柳　裕一、吉田　誠司、辻野　拓也

【PBL 指導教員】
(専任教員)
岸　勘太、吉田　誠司、丸岡　寛、劉　昌恵、林　正美
(非常勤講師)
高谷　竜三、岡本　奈美
(特別講師)
七里　元督

【科目の概要】
思春期特有の病態および精神発達を理解する。また移行期医療に関する基本的知識を修得する。また男性、女性および加齢におけるホルモンが関与する疾患および病態生理について理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
【思春期の発達】
2）思春期発現の機序、性徴、身体的特徴とその異常を説明できる。
3）思春期と関連した精神保健上の問題を列挙できる。
【移行期医療】
4）思春期における移行期医療に関する問題を理解し、基本的知識を習得する。
【女性とホルモン】
5）生殖内分泌の基礎　主な性ホルモンの作用を説明できる。
6）生殖内分泌の臨床　女性内分泌と基本を理解し、性周期を概説できる。
7）無月経の原因と病態を説明できる。
8）無月経患者の診断の要点を説明できる。
9）無月経乳汁漏出症候群の原因、病態、治療について説明できる。
10）多嚢胞性卵巣症候群の病態、所見、治療について説明できる。
11）黄体機能不全の病態、治療について説明できる。
12）Sheehan 症候群の発生機序、症状について説明できる。
13）神経性食欲不振症の病態、治療について説明できる。
14）女性予防医学　更年期障害の症状、治療について説明できる。
【男性とホルモン】
15）男性の更年期障害を説明できる。
【加齢とホルモン】
16）加齢に伴う内分泌・代謝変動を説明できる。
17）高齢者における甲状腺機能低下症の特徴と治療の注意点を説明できる。
18）高齢者における糖尿病の特徴と治療の注意点を説明できる。

【方略】
授業態度、レポート、および筆記試験の結果を参考にして総合的に評価する。

【評価】
1）合格点　100 点法により、評価点が 60 点以上を合格とする。
2）評価点の算出・内訳：試験およびレポート 70％、授業への参加態度 30％
3）評価の形態：試験→記述式およびマークシート、提出物→レポート
4）再試験：本試験に準じる。
5）追試験：本試験に準じる。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
移行期医療支援情報共有サイト {https://transition-support.jp/,https://transition-support.jp/}
標準小児科学　第 8 版：医学書院
小児科学　改訂第 10 版：文光堂
小児期発症慢性疾患患者のための移行支援ガイド：じほう
老年医学テキスト
Berek and Novak's Gynecology

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：伊藤　隆英
内線・PHS：56646
E-mail：takahide.ito@ompu.ac.jp
内容：事前にアポをとること
場所：内科学医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：瀧谷　公隆
内線・PHS：56458
E-mail：kimitaka.takitani@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：14:00
内容：曜日：木曜、金曜
場所：総合研究棟　10F　1006

【医師実務経験のある教員】
瀧谷　公隆、黒柳　裕一、伊藤　隆英、恒遠　啓示、辻野　拓也、岸　勘太、吉田　誠司、林　正美、丸岡　寛、劉　昌恵、高谷　竜三、岡本　奈美、七里　元督

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	

学習アウトカム	科目達成レベル
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	

加　齢　・　高　齢　者

【ナンバリングコード】　M-06-17-D

【PBL コース責任者】
森　龍彦

【PBL 指導教員】
(専任教員)
矢野　貴人、馬場　一郎、池田　宗一郎、大槻　周平、松村　洋子、植野　高章、辻　明里、小野　富三人、
稲中　優子、津田　晃司、樋上　容子、荒若　繁樹、中島　世市郎
(特別講師)
七里　元督

【科目の概要】
老化に伴う生理的変化、老年者に特有な疾患および障害の概念と介護に関わる問題を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）高齢者の心理・精神の変化を理解し、対応する手法を説明できる。
3）加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。
4）高齢者における病態・症候・治療の特異性を説明できる。
5）高齢者における治療上の留意点を説明できる。
6）高齢者の栄養摂取の特殊性を説明できる。
7）老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）の病態、治療と予防を説明できる。
8）高齢者における総合機能評価法（CGA）を説明できる。
9）高齢者の生活支援リハビリテーションの要点を概説できる。
10）医療保険と公費医療や介護保険を説明できる。
11）高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
12）地域保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）を概説できる。
13）介護の定義と種類を説明できる。
14）日常生活動作（排泄、摂食、入浴）の介護と環境整備の要点を概説できる。
15）在宅医療（酸素療法、栄養療法、透析療法）を概説できる。
16）国民医療費の収支と将来予測を概説できる。
17）医師法と医療法以外の医療関係法規を概説できる。
18）生と死に関わる倫理的問題を列挙できる。
19）医の倫理と生命倫理に関する規範、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言などを概説できる。
20）患者の基本権利の内容を説明できる。
21）患者の自己決定権の意義を説明できる。
22）患者が自己決定ができない場合の対処法を説明できる。
23）死の概念と定義や生物学的な個体の死を説明できる。
24）死生学の基本的な考え方を概説できる。
25）死に伴う家族のケアを説明できる。
26）尊厳死と安楽死の概念を説明できる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：規程の評価基準に基づく。
③ 評価の形態：試験、授業への参加態度、レポート。
④ 再試験：上記評価点が 60 点未満の場合再試験を行う。評価点が 60 点以上を合格とする。
⑤ 追試験：正規評価が正当な事由により施行できなかった場合追試験を行うことがある。評価点が 60 点以上を合格とする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
老年医学テキスト：日本老年医学会編、メディカルビュー社
改訂第 5 版　救急蘇生法の指針 2015 医療従事者用：ヘルス出版
標準整形外科：医学書院
高血圧治療ガイドライン 2014

【オフィスアワー】
担当教員氏名：森　龍彦
内線・PHS：56719
E-mail：tatsuhiko.mori@ompu.ac.jp
開始時間：9:20
終了時間：10:05
内容：曜日：火曜日
場所：新講義実習棟 4 階教員室

【医師実務経験のある教員】
森　龍彦、辻　明里、植野　高章、小野　富三人、松村　洋子、大槻　周平、馬場　一郎、荒若　繁樹、稲中　優子、池田　宗一郎、中島　世市郎、七里　元督

【SDGs との関連】
1、3、8

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 17) 19)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 5) 7) 9) 11)-13) 15)-17) 19)-22)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 23) 24)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 20)-22)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 2)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 3)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 7)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 4)-6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 12) 13) 15)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 8)-15)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 10) 17)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 10) 16)	

臨　床　技　能　1

【ナンバリングコード】　M-06-18-B

【教員名】
瀧谷　公隆（医学教育センター）
伊藤　隆英（医学教育センター）
松村　洋子（中央検査部）
塗　隆志（形成外科学）
朝隈　光弘（一般・消化器外科学）
太田　孝志（救急医学）

【科目の概要】
診療参加型臨床実習のさらなる活性化のため、医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が実施するCBT（Computer Based Testing）と臨床実習前OSCE（Objective Structured Clinical Examination）が令和5年度から公的化された。臨床現場で適切かつ責任ある医行為を行うためには、臨床実習前の徹底的な習得が必要である。臨床技能の習得においては知識・技能・態度全ての統合が必要である。本科目では、臨床技能に関する講義を行った後に、臨床技能に関連した知識を確実に獲得するため、実習前確認試験を行う。そして、その後、臨床を模したシミュレーション環境において、医療面接、縫合やガウンテクニック、清潔操作と個人用防護具、一次救命処置の徹底的な訓練を行う。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）医行為としての臨床技能の意義を説明できる。
3）基本的な医療面接を実践できる。
4）基本的な一次救命処置を実践できる。
5）基本的な縫合手技を実践できる。
6）基本的な手指消毒・ガウンテクニックを実践できる。
7）診察にあたり、適切な個人用防護具（PPE）を選択し、実践できる。
8）診察にあたり、患者を尊重したコミュニケーションが実践できる。
9）医行為にあたり、適切な安全確保、感染対策が実践できる。

【方略】
1）遠隔形式での臨床技能に関する知識の獲得
2）実習前筆記試験による知識の確認
3）シミュレータもしくは学生相互による診察・検査手技の獲得
4）技能・態度に関するレポート作成と省察による理解の深化

【評価】
実習前筆記試験　40％、受講態度30％、レポート30％　臨床技能を学び侵襲性を伴うため、遅刻は出席とは認めない。実習前筆記試験が不十分な場合、実習を認めない。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
ベイツ診察法　第2版　Bates'Guide to Physical Examination and History Taking
公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構　診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関

する学修（学習）・評価項目（臨床実習前 OSCE）第 4.2 版
診察と手技がみえる Vol 1 , Vol 2 ：メディックメディア
OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技：診断と治療社
BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠：American Heart Association（AHA: アメリカ心臓協会）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：松村　洋子
E-mail：youko.matsumura@ompu.ac.jp
内容：講義終了後 30 分間。授業終了 30 分後以降は、メールアドレスでアポイントメントを取って訪問すること。

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：塗　隆志
E-mail：takashi.nuri@ompu.ac.jp
内容：講義終了後 30 分間。授業終了 30 分後以降は、メールアドレスでアポイントメントを取って訪問すること。

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：太田　孝志
E-mail：koshi.ota@ompu.ac.jp
内容：講義終了後 30 分間。授業終了 30 分後以降は、メールアドレスでアポイントメントを取って訪問すること。

【医師実務経験のある教員】
瀧谷　公隆、伊藤　隆英、松村　洋子、塗　隆志、朝隈　光弘、太田　孝志

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	C
【学習アウトカム】 1) 9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1) 8) 9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	B
【学習アウトカム】 1) 2) 8) 9)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	C
【学習アウトカム】 3) -9)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	C
【学習アウトカム】 3) -7) 9)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	C
【学習アウトカム】 1) 2) 8) 9)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	C
【学習アウトカム】 3) -9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 1) 2)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	B
【学習アウトカム】 1) 2) 8) 9)	

医学・医療と社会Ⅰ

【ナンバリングコード】　M-08-01-D

【PBL コース責任者】
玉置　淳子

【PBL コース主任】
玉置　淳子

【PBL 指導教員】
（専任教員）
久藤　麻子、田中　美帆、津田　晃司
（非常勤講師）
臼田　寛、林　江美

【科目の概要】
社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体および集団をとりまく環境諸要因や地域社会における個人と集団の特性を予防医学的視点から修得する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）健康、障害と疾病の概念を説明できる。
3）予防医学（一、二、三次予防）を説明できる。
4）医の倫理と医師法を説明できる。
5）保健医療について、衛生行政と医療法を説明できる。
6）社会保障制度と医療保障制度を概説できる。
7）疫学の概念と疫学の諸指標について説明できる。
8）疾病の定義、分類と国際疾病分類（ICD）を説明できる。
9）人口静態統計と人口動態統計、平均余命、平均寿命を説明できる。
10）疾病・有病・障害統計を説明できる。
11）食品保健について、食の安全、食中毒を説明できる。
12）栄養について、食事摂取基準、欠乏と過剰などを説明できる。
13）予防医学と健康増進について、WHO の健康保持・増進活動、わが国の国民健康づくりについて説明できる。
14）地域保健（保健所・市町村保健センター・救急医療、災害医療、へき地医療、在宅医療、健康危機体制、難病対策）の概念と役割について説明できる。
15）医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

【方略】
従来型の講義
ディスカッション
授業資料については Moodle にアップする。

【評価】
① 成績の評価は医学部規程第 9 条により 100 点法によって行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳　筆記試験により算出する。

③ 評価の形態　5 者択一、空欄補充、誤文訂正による記述式試験を実施する。
　ただし受験資格は大阪医科薬科大学　医学部規程第 7 条による。
④ 追試験　大阪医科薬科大学　医学部規程第 17 条による。
⑤ 再試験　大阪医科薬科大学　医学部規程第 18 条による

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
公衆衛生がみえる：メディックメディア
国民衛生の動向：一般財団法人　厚生労働統計協会
国民の福祉と介護の動向：一般財団法人　厚生労働統計協会
労働衛生のしおり：中央労働災害防止協会
レビューブック　公衆衛生：メディックメディア
クエスチョン・バンク　公衆衛生：メディックメディア

【オフィスアワー】
担当教員氏名：玉置　淳子
内線・PHS：2650
E-mail：jtamaki@ompu.ac.jp
開始時間：16:30
終了時間：17:30
内容：※月曜日～金曜日
場所：総合研究棟 7F 衛生学・公衆衛生学教室

【医師実務経験のある教員】
玉置　淳子、臼田　寛、林　江美

【SDGs との関連】
1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 6) 7)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 2) 5) 7) 8) 10) 15) 18)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 8) 10)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3) 15)	

医学・医療と社会Ⅱ

【ナンバリングコード】　M-08-02-D

【PBL コース責任者】
玉置　淳子

【PBL コース主任】
玉置　淳子

【PBL 指導教員】
（専任教員）
久藤　麻子、田中　美帆、津田　晃司、鈴木　富雄
（非常勤講師）
臼田　寛、稲田　泰之、辻　洋志、林　江美、湯浅　資之、倭　正也、長谷川　浩二、山下　和人、西川　佳枝、田代　啓

【科目の概要】
社会と健康・疾病との関係や地域医療について理解し、個体および集団をとりまく環境諸要因や地域社会における個人と集団の特性を予防医学的視点から修得する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）予防医学（一、二、三次予防）を説明できる。
3）医療経済・国民医療費を説明できる。
4）環境保健について、環境と健康障害の概要を理解し、わが国の環境保全対策、地球環境対策を説明できる。
5）予防医学と健康増進について、WHO の健康保持・増進活動、わが国の国民健康づくりについて説明できる。
6）地域保健（保健所・市町村保健センター・救急医療、災害医療、へき地医療、在宅医療、健康危機体制、難病対策）の概念と役割について説明できる。
7）母子保健、学校保健、成人保健、老人保健、産業保健、精神保健、障害者福祉を概説できる。
8）国際保健を理解し、WHO の役割について説明できる。
9）感染症の概念、現状、対策について説明できる。
10）医療現場における労働環境の改善の必要性を説明できる。

【方略】
従来型の講義
ディスカッション
授業資料については Moodle にアップする。

【評価】
① 成績の評価は医学部規程第 9 条により 100 点法によって行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳　筆記試験により算出する。
③ 評価の形態　5 者択一、空欄補充、誤文訂正による記述式試験を実施する。
　ただし受験資格は大阪医科薬科大学　医学部規程第 7 条による。
④ 追試験　大阪医科薬科大学　医学部規程第 17 条による。
⑤ 再試験　大阪医科薬科大学　医学部規程第 18 条による

【単位】　3.0

【教科書・参考書】
公衆衛生がみえる：メディックメディア
国民衛生の動向：一般財団法人　厚生労働統計協会
国民の福祉と介護の動向：一般財団法人　厚生労働統計協会
労働衛生のしおり：中央労働災害防止協会
レビューブック　公衆衛生：メディックメディア
クエスチョン・バンク　公衆衛生：メディックメディア

【オフィスアワー】
担当教員氏名：玉置　淳子
内線・PHS：2650
E-mail：jtamaki@ompu.ac.jp
開始時間：16:30
終了時間：17:30
内容：※月曜日～金曜日
場所：総合研究棟 7F 衛生学・公衆衛生学教室

【医師実務経験のある教員】
玉置　淳子、鈴木　富雄、臼田　寛、稲田　泰之、辻　洋志、林　江美、湯浅　資之、倭　正也、長谷川　浩二、山下　和人、西川　佳枝、田代　啓

【SDGs との関連】
1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、11、12、13、14、15、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 6) 7)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 2) 5) 7) 8) 10) 15) 18)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 8) 10)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3) 15)	

医療プロフェッショナリズム・コア１

【ナンバリングコード】　M-05-08-B

【コース責任者】
森　龍彦（医学教育センター）

【指導教員】
（専任教員）
今川　彰久（内科学Ⅰ）
森田　英晃（内科学Ⅲ）
西川　浩樹（内科学Ⅱ）
荒若　繁樹（内科学Ⅳ）
池田　宗一郎（内科学Ⅰ）
岩本　充彦（一般・消化器外科学）
木下　真也（神経精神医学）
藤田　太輔（産婦人科学）
辻野　拓也（泌尿器科学）
瀧井　道明（三島南病院内科）
山岡　繁夫（周産期センター）
乾　崇樹（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）
森脇　真一（皮膚科学）
亀田　雅博（脳神経外科学）
細川　隆史（内科学Ⅳ）
本庄　かおり（社会・行動科学）
澤村　律子（社会・行動科学）
谷口　高平（トランスレーショナルリサーチ（TR）部門）
鍵谷　真希（血液浄化センター）
（非常勤講師）
藤原　憲太（整形外科）

【科目の概要】
医療職に必要なプロフェッショナリズムについて学ぶ。本授業科目ではとくに、医療職に必要なコミュニケーション能力や保健指導力の基本となる行動科学理論、わが国の医療制度の根幹をなす保健医療制度や医療関係法規の知識、臨床推論能力や診察能力を高める診断学の涵養を目標としている。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）患者の行動を理解し、原因となる行動を修正・変容することを導く基本を述べることができる。
3）多様性を持つ患者と適切なコミュニケーションができる。
4）患者ならびに家族の行動や心理を理解し、適切なコミュニケーションをとることができる。
5）医師としてのキャリア形成について（自分の）考えを述べることができる。
6）患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。
7）成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。
8）臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。
9）重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。

10）基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。
11）患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。
12）診断、治療及び全身管理に参加できる。
13）病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。
14）診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。
15）ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。
16）医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。
17）主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。
18）状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。
19）個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。

【方略】
講義により行う。

【評価】
・授業への参加態度（50％）及びレポート（50％）による。（行動科学）
・講義については授業への参加態度（20％）及びペーパーテスト（80％）による。（診断学講義）
・課題に対するアセスメントとフィードバック
　適宜小テストを行い、その結果を各自にフィードバックする。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
授業中に資料を配布する（行動科学）
・ベイツ診察法　第 3 版　Bates'Guide to Physical Examination and History Taking
・公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構　診察参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度にかんする学習・評価項目（第 3.11 版）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：澤村　律子
内線・PHS：58077
E-mail：ritsuko.sawamura@ompu.ac.jp
開始時間：16:20
終了時間：17:05
内容：適宜対応します。メールでアポイントをとって下さい。
場所　保健管理室

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：森　龍彦
内線・PHS：56719
E-mail：tatsuhiko.mori@ompu.ac.jp
開始時間：9:30
終了時間：11:30
内容：※火曜日のみ
場所：医学教育センター

【オフィスアワー③】

担当教員氏名：本庄　かおり

内線・PHS：2953

E-mail：khonjo@ompu.ac.jp

内容：オフィスアワー日時：適宜対応します。メールでアポイントをとってください。

場所：社会・行動科学 研究室

【医師実務経験のある教員】

森　龍彦、今川　彰久、森田　英晃、西川　浩樹、荒若　繁樹、池田　宗一郎、岩本　充彦、木下　真也、藤田　太輔、辻野　拓也、瀧井　道明、山岡　繁夫、藤原　憲太、乾　崇樹、森脇　真一、亀田　雅博、細川　隆史、谷口　高平、鍵谷　真希

【SDGs との関連】

3、4、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 4)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 11) 15)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 2) 5) 11) 18)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 11) 14) 16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 5) 19)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 5)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 18)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3) 4) 11) 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2) 8)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 8) 9)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4) 11)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)-10) 12)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)-10) 12)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 3)-6) 9)-14)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 15)-19)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 3) 4) 6)	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 16)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	D
【学習アウトカム】 17)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 18)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	D
【学習アウトカム】 19)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 7)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 8)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 9)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 10)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 3) 4) 11)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 8) 12)	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。	D
【学習アウトカム】 13)	
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	D
【学習アウトカム】 14)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 2) 5)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 8) 15)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1) 5)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 1) 5) 8) 9) 18)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	D
【学習アウトカム】 6) 8) 14)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D
【学習アウトカム】 4) 5) 11) 16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 18) 19)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) -5) 18) 19)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 5) 14)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 5) 14)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	D
【学習アウトカム】 5) 14)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 2) -4)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	D
【学習アウトカム】 2) -4)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	D
【学習アウトカム】 5) 14)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	D
【学習アウトカム】 5) 14) 18) 19)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 19)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 19)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 1) 15) 16)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 1) 15) 16) 19)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 17)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 15) 16)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 15) 17)	

インタラクティブ・イングリッシュⅠ

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションを基に、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聴くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢を獲得することができる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）身近なトピック（学生生活、趣味など）について、簡単な英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。
4）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc.
World Voices 3, ABAX ELT Publishing

【SDGsとの関連】
3、4、10

インタラクティブ・イングリッシュⅡ

【ナンバリングコード】　M-02-06-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
１）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
２）英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。
３）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
４）医療場面において、英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
５）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoom を使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
１）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
２）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
３）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージラーニング株式会社
参考書等は学習の進行に合わせて随時紹介する。

【SDGs との関連】
3、4、10

医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都

【ナンバリングコード】　M-01-04-D

【教員名】
永井　純也、倉田　純一、山本　健、中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦、堀池　諒、芝野　真喜雄、國澤　研大、宮本　勝城、池田　勝彦、田和　正志、細身　亮太、内山　博雅、平野　義明

【科目の概要】
近年、生命科学分野の各学問領域が拡大し、医学、工学、薬学、看護学の学術交流が、益々、盛んになりつつあります。また、医療現場では、医師、薬剤師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が活躍の場を広げています。

関西大学と大阪医科薬科大学は、このような状況に対応すべく、医学、薬学だけでなく看護学や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材の育成をめざし、両大学がそれぞれの特長を活かし、両大学共通講義科目「医工薬連環科学」を開設しています。独自の基礎教育科目である本講義は、各学問分野の概略を鳥瞰し、それぞれの分野の特性を理解するとともに、各学問分野の融合によって発展できる学際領域についての知識を修得および醸成することを目的とします。

講義は、関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）、大阪医科薬科大学（医学部、薬学部、看護学部）の教員が分担で担当し、ある家族が遭遇する生死、病気、治療等についてストーリー仕立てのオムニバス形式で、医学・工学・薬学・看護学の各分野を体系的に学習できるよう、講義します。

医学部・看護学部の担当講義では、本講義の導入として、人の誕生から旅立ち（死）に至るまでに、医学や看護学が病気の治療、健康やQOL（Quality Of Life）の維持・向上にどのように関与しているかについて解説します。

また、薬学部の担当講義では、薬のシードの発見から医薬品という製品ができるまでのプロセスを、生理活性分子の創製、薬理学、薬剤学・製剤学を専門とする教員によって順を追って解説します。

さらに、関西大学の担当講義では、医療を支える福祉・介護技術、再生医療、医療機器や食品技術に関して、それぞれの分野を専門とする教員によって順を追って解説します。

【科目のゴール】
医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識を修得します。

【方略】
各大学の講義担当者により作成された資料集とパワーポイントを用いて、遠隔講義またはDVDによる講義で行います。今後の講義の参考にするため、毎回アンケートを実施します。

【評価】
大阪医科薬科大学医学部：授業態度（50％）とレポート（50％）によって総合的に評価します。
大阪医科薬科大学薬学部：レポート内容によって総合的に評価します（100％）。
大阪医科薬科大学看護学部：レポート（80％）と受講態度（20％）によって総合的に評価します。
関西大学：レポート（80％）及び受講態度（20％）によって総合的に評価します。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】

参考書：「医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療」関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　医工薬連環科学教育研究機構　編著、ライフサイエンス出版

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦

【SDGs との関連】

4

第　4　学　年

2025年度　第４学年授業時間割

※日々の時間割は変更する場合があります。①担当教員からの連絡 ②UNIPA を常に確認するようにしてください。

（講義場所：原則としてＰ 301 教室）

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第1週	4/1(火)	G①		9:30 ～ 11:10　オリエンテーション							
	4/2(水)				感覚器 1(眼科)			健康診断			
	4/3(木)		感覚器 1(眼科)		感覚器 1(眼科)			学生研究 3(医学統計・データサイエンス演習)			
	4/4(金)		感覚器 1(眼科)			感覚器 1(眼科)					
第2週	4/7(月)	G②	感覚器 1(眼科)						感覚器 1(眼科)		
	4/8(火)		感覚器 1(眼科)					臨床技能 2			
	4/9(水)							医療プロフェッショナリズム・コア 2			
	4/10(木)		頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)					学生研究 3(医学統計・データサイエンス演習)			
	4/11(金)		頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)					頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)			
第3週	4/14(月)	G③	頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)					頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)			
	4/15(火)		頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)					臨床技能 2			
	4/16(水)		頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)			頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)		頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)			頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)
	4/17(木)									【本試験】頭頸部・感覚器 2(耳鼻科)	
	4/18(金)		【本試験】感覚器 1(眼科)								
第4週	4/21(月)	新H①		妊娠・出産		妊娠・出産		妊娠・出産			
	4/22(火)							臨床技能 2			
	4/23(水)							医療プロフェッショナリズム・コア 2			
	4/24(木)		学生研究 3(医学統計・データサイエンス演習)						妊娠・出産		
	4/25(金)				妊娠・出産			妊娠・出産			
第5週	4/28(月)	新H②									
	4/29(火)祝		昭和の日								
	4/30(水)				成長・発達			医療プロフェッショナリズム・コア 2			
	5/1(木)		医療プロフェッショナリズム・コア 2						妊娠・出産		
	5/2(金)		成長・発達		成長・発達			妊娠・出産			妊娠・出産

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	5/5(月)祝		こどもの日								
	5/6(火)祝		こどもの日振替休日								
	5/10(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅠ オリエンテーション								
第6週	5/12(月)	新H③	成長・発達		成長・発達			成長・発達			
	5/13(火)		成長・発達		成長・発達			臨床技能2(実習前確認試験)		成長・発達	
	5/14(水)		成長・発達			思春期・ホルモン		医療プロフェッショナリズム・コア2			
	5/15(木)		思春期・ホルモン		思春期・ホルモン			医療プロフェッショナリズム・コア2			
	5/16(金)		成長・発達	成長・発達				思春期・ホルモン		臨床技能2 自学自習	
第7週	5/19(月)	新H④	成長・発達 大教室PBL	加齢・高齢者	思春期・ホルモン					思春期・ホルモン	成長・発達
	5/20(火)		思春期・ホルモン		加齢・高齢者			成長・発達	加齢・高齢者	薬物療法3	
	5/21(水)			加齢・高齢者				医療プロフェッショナリズム・コア2			
	5/22(木)		加齢・高齢者							思春期・ホルモン	加齢・高齢者
	5/23(金)								加齢・高齢者	思春期・ホルモン	
	5/24(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第8週	5/26(月)	新H⑤	多職種連携 医療倫理(医療プロフェッショナリズム・コア2)					多職種連携 医療倫理(医療プロフェッショナリズム・コア2)			
	5/27(火)		成長・発達 大教室PBL								
	5/28(水)		加齢・高齢者			加齢・高齢者		思春期・ホルモン			
	5/29(木)							臨床技能2			
	5/30(金)				薬物療法3			加齢・高齢者			
	5/31(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第9週	6/2(月)	新H⑥	【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)					【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)			
	6/3(火)		【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)					【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)			
	6/4(水)		【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)							【試験期間】新Hユニット (妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)	
	6/5(木)		【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)					【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)			
	6/6(金)		【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)					【試験期間】 新Hユニット(妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者)			

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第10週	6/9(月)	地域・産業保健①	地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/10(火)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/11(水)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/12(木)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/13(金)		地域・産業保健					地域・産業保健			
第11週	6/16(月)	地域・産業保健②	地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/17(火)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/18(水)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/19(木)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/20(金)		地域・産業保健					地域・産業保健			
第12週	6/23(月)	地域・産業保健③	地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/24(火)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/25(水)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/26(木)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/27(金)		地域・産業保健					地域・産業保健			
	6/28(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第13週	6/30(月)	死と科学①	死と科学					死と科学			
	7/1(火)		自学自習(死と科学)	死と科学				死と科学			自学自習(死と科学)
	7/2(水)		死と科学					死と科学			
	7/3(木)		死と科学					死と科学			
	7/4(金)		自学自習(死と科学)	死と科学				死と科学			
	7/5(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第14週	7/7(月)	死と科学②	死と科学					死と科学			
	7/8(火)		自学自習(死と科学)	死と科学				死と科学			
	7/9(水)		自学自習(死と科学)	死と科学				死と科学		自学自習(死と科学)	
	7/10(木)		自学自習(死と科学)	死と科学				死と科学			自学自習(死と科学)
	7/11(金)		死と科学								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第15週	7/14(月)	学生研究	学生研究 3 (配属教室でのデータまとめ、追加実験、プレゼン準備等)					学生研究 3 (配属教室でのデータまとめ、追加実験、プレゼン準備等)			
	7/15(火)		学生研究 3 (配属教室でのデータまとめ、追加実験、プレゼン準備等)					学生研究 3 (配属教室でのデータまとめ、追加実験、プレゼン準備等)			
	7/16(水)										
	7/17(木)		【本試験】死と科学								
	7/18(金)		学生研究 3(発表週間)					学生研究 3(発表週間)			
第16週	7/21(月)祝	学生研究	海の日								
	7/22(火)		学生研究 3(発表週間)					学生研究 3(発表週間)			
	7/23(水)		学生研究 3(発表週間)					学生研究 3(発表週間)			
	7/24(木)		学生研究 3(発表週間)					学生研究 3(発表週間)			
	7/25(金)		学生研究 3(発表週間)					学生研究 3(発表週間)			
第17週	8/25(月)	Ⅰ①	リハビリテーション					リハビリテーション			
	8/26(火)					リハビリテーション					
	8/27(水)		リハビリテーション					臨床技能 2			
	8/28(木)		放射線治療・放射線障害		リハビリテーション			リハビリテーション			リハビリテーション
	8/29(金)		リハビリテーション							リハビリテーション	
第18週	9/1(月)	Ⅰ②	腫瘍					腫瘍			
	9/2(火)		腫瘍					腫瘍		放射線治療・放射線障害	
	9/3(水)		腫瘍	薬物療法 3				医学英語 3(TOEFL-ITP)			
	9/4(木)		放射線治療・放射線障害					臨床技能 2			
	9/5(金)		腫瘍					腫瘍			
第19週	9/8(月)	Ⅰ③	救急			救急		救急			
	9/9(火)			救急				救急	放射線治療・放射線障害		
	9/10(水)		救急					医学英語 3			
	9/11(木)		放射線治療・放射線障害	救急				臨床技能 2			
	9/12(金)		救急			救急				放射線治療・放射線障害	

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第20週	9/15(月)祝	Ⅰ④	敬老の日								
	9/16(火)		麻酔					麻酔		放射線治療・放射線障害	
	9/17(水)		麻酔					医学英語 3			
	9/18(木)		放射線治療・放射線障害	麻酔		薬物療法 3		臨床技能 2			
	9/19(金)		麻酔					麻酔			
	9/20(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ オリエンテーション								
第21週	9/22(月)	Ⅰ⑤	感染症					感染症　大教室 PBL		薬物療法 3	
	9/23(火)祝		秋分の日								
	9/24(水)		感染症					医学英語 3			
	9/25(木)		感染症					感染症			
	9/26(金)				感染症			感染症			
第22週	9/29(月)		【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)					【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)			
	9/30(火)		【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)					【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)			
	10/1(水)		【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)					【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)			
	10/2(木)		【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)					【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)			
	10/3(金)		【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)					【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)			
	10/4(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第23週	10/6(月)	新J①	【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)					【試験期間】 Ⅰユニット(リハビリテーション、麻酔、救急、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症)			
	10/7(火)		診断学					診断学 自学自習	診断学		診断学 自学自習
	10/8(水)		診断学					医学英語 3			
	10/9(木)		診断学					臨床技能 2			
	10/10(金)		診断学					臨床技能 2			
	10/11(土)		インタラクティブ・イングリッシュⅡ								

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第24週	10/13(月)祝	新J②	スポーツの日								
	10/14(火)		診断学					臨床技能2			
	10/15(水)		診断学					診断学			
	10/16(木)		診断学					診断学			
	10/17(金)		診断学					診断学			
第25週	10/20(月)										
	10/21(火)										
	10/22(水)										
	10/23(木)										
	10/24(金)										
	10/25(土)		学園祭								
第26週	10/27(月)										
	10/28(火)										
	10/29(水)										
	10/30(木)										
	10/31(金)		共用試験CBT本試験(予備日)					共用試験CBT本試験(予備日)			
	11/1(土)		共用試験CBT本試験					共用試験CBT本試験			
第27週	11/3(月)祝		文化の日								
	11/4(火)		OSCE前講義・実習					OSCE前講義・実習			
	11/5(水)		OSCE前講義・実習					OSCE前講義・実習			
	11/6(木)		OSCE前講義・実習					OSCE前講義・実習			
	11/7(金)		OSCE前講義・実習					OSCE前講義・実習			
	11/8(土)		共用試験OSCE本試験					共用試験OSCE本試験			

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">時間割表</td><td></td><td>1 限目</td><td>2 限目</td><td>3 限目</td><td>4 限目</td><td>休</td><td>5 限目</td><td>6 限目</td><td>7 限目</td><td>8 限目</td></tr>
<tr><td></td><td>8:30～9:15</td><td>9:20～10:05</td><td>10:10～10:55</td><td>11:00～11:45</td><td>11:45～13:00</td><td>13:00～13:45</td><td>13:50～14:35</td><td>14:40～15:25</td><td>15:30～16:15</td></tr>
<tr><td rowspan="5">第28週</td><td>11/10(月)</td><td rowspan="5">新J③</td><td colspan="4">薬物療法 3</td><td></td><td colspan="4">診断学</td></tr>
<tr><td>11/11(火)</td><td colspan="4">診断学</td><td></td><td>診断学
自学自習</td><td colspan="3">診断学</td></tr>
<tr><td>11/12(水)</td><td colspan="4" rowspan="2">6 年総合試験</td><td></td><td colspan="2">医学英語 3</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>11/13(木)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>11/14(金)</td><td colspan="4">診断学</td><td></td><td>診断学
自学自習</td><td colspan="2">診断学</td><td>診断学
自学自習</td></tr>
<tr><td></td><td>11/15(土)</td><td></td><td colspan="4">インタラクティブ・イングリッシュⅡ</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">第29週</td><td>11/17(月)</td><td rowspan="6">新J④</td><td colspan="2">薬物療法 3</td><td colspan="2">診断学</td><td></td><td>診断学
自学自習</td><td colspan="2">薬物療法 3</td><td>診断学
自学自習</td></tr>
<tr><td>11/18(火)</td><td colspan="4">診断学</td><td></td><td>診断学
自学自習</td><td colspan="2">診断学</td><td>診断学
自学自習</td></tr>
<tr><td>11/19(水)</td><td colspan="4">診断学</td><td></td><td colspan="4">【本試験】
医学英語 3</td></tr>
<tr><td>11/20(木)</td><td colspan="4">診断学</td><td></td><td colspan="2">診断学</td><td colspan="2">診断学
自学自習</td></tr>
<tr><td>11/21(金)</td><td colspan="4">診断学</td><td></td><td colspan="4">診断学</td></tr>
<tr><td>11/22(土)</td><td></td><td colspan="4">インタラクティブ・イングリッシュⅡ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="6">第30週</td><td>11/24(月)
祝</td><td></td><td colspan="9">勤労感謝の日振替休日</td></tr>
<tr><td>11/25(火)</td><td></td><td colspan="4">【試験期間】
診断学、薬物療法 3</td><td></td><td colspan="4">【試験期間】
診断学、薬物療法 3</td></tr>
<tr><td>11/26(水)</td><td></td><td colspan="4">【試験期間】
診断学、薬物療法 3</td><td></td><td colspan="4">医学英語 3 再試験</td></tr>
<tr><td>11/27(木)</td><td></td><td colspan="4">【試験期間】
診断学、薬物療法 3</td><td></td><td colspan="4">共用試験 CBT 追・再試準備</td></tr>
<tr><td>11/28(金)</td><td></td><td colspan="4">共用試験 CBT 追・再試準備</td><td></td><td colspan="4">共用試験 CBT 追・再試準備</td></tr>
<tr><td>11/29(土)</td><td></td><td colspan="9">共用試験 CBT 追・再試験</td></tr>
<tr><td rowspan="6">第31週</td><td>12/1(月)</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td></tr>
<tr><td>12/2(火)</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td></tr>
<tr><td>12/3(水)</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td></tr>
<tr><td>12/4(木)</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td></tr>
<tr><td>12/5(金)</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td><td></td><td colspan="4">【再試験期間】</td></tr>
<tr><td>12/6(土)</td><td></td><td colspan="4">共用試験 OSCE 追再試験</td><td></td><td colspan="4">共用試験 OSCE 追再試験</td></tr>
</table>

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第32週	12/8(月)		共用試験 OSCE 追再試験					共用試験 OSCE 追再試験			
	12/9(火)		共用試験 OSCE 追再試験					共用試験 OSCE 追再試験			
	12/10(水)										
	12/11(木)										
	12/12(金)		総合試験					総合試験			
	12/13(土)		共用試験 OSCE 予備日					共用試験 OSCE 予備日			
第33週	12/15(月)										
	12/16(火)										
	12/17(水)										
	12/18(木)										
	12/19(金)										
	12/22(月)										
	12/23(火)		進級判定					進級判定			
	12/24(水)										
コアCC第1週	1/5(月)		臨床実習生(医学)宣誓式・感染症対策講座・電子カルテ研修会(予定)					臨床実習生(医学)宣誓式・感染症対策講座・電子カルテ研修会(予定)			
	1/6(火)		コア・CC					コア・CC			
	1/7(水)		コア・CC					コア・CC			
	1/8(木)		コア・CC					コア・CC			
	1/9(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第2週	1/12(月)祝		成人の日								
	1/13(火)		コア・CC					コア・CC			
	1/14(水)		コア・CC					コア・CC			
	1/15(木)		コア・CC					コア・CC			
	1/16(金)		コア・CC					コア・CC			

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
コアCC第3週	1/19(月)		コア・CC					コア・CC			
	1/20(火)		コア・CC					コア・CC			
	1/21(水)		コア・CC					コア・CC			
	1/22(木)		コア・CC					コア・CC			
	1/23(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第4週	1/26(月)		コア・CC					コア・CC			
	1/27(火)		コア・CC					コア・CC			
	1/28(水)		コア・CC					コア・CC			
	1/29(木)		コア・CC					コア・CC			
	1/30(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第5週	2/2(月)		コア・CC					コア・CC			
	2/3(火)		コア・CC					コア・CC			
	2/4(水)		コア・CC					コア・CC			
	2/5(木)		コア・CC					コア・CC			
	2/6(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第6週	2/9(月)		コア・CC					コア・CC			
	2/10(火)		コア・CC					コア・CC			
	2/11(水)祝		建国記念日								
	2/12(木)		コア・CC					コア・CC			
	2/13(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第7週	2/16(月)		コア・CC					コア・CC			
	2/17(火)		コア・CC					コア・CC			
	2/18(水)		コア・CC					コア・CC			
	2/19(木)		コア・CC					コア・CC			
	2/20(金)		コア・CC					コア・CC			

時間割表			1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
			8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
コアCC第8週	2/23(月)祝		天皇誕生日								
	2/24(火)		コア・CC					コア・CC			
	2/25(水)		コア・CC					コア・CC			
	2/26(木)		コア・CC					コア・CC			
	2/27(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第9週	3/2(月)		コア・CC					コア・CC			
	3/3(火)		コア・CC					コア・CC			
	3/4(水)		コア・CC					コア・CC			
	3/5(木)		コア・CC					コア・CC			
	3/6(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第10週	3/9(月)		コア・CC					コア・CC			
	3/10(火)		コア・CC					コア・CC			
	3/11(水)		コア・CC					コア・CC			
	3/12(木)		コア・CC					コア・CC			
	3/13(金)		コア・CC					コア・CC			
コアCC第11週	3/16(月)		コア・CC					コア・CC			
	3/17(火)		コア・CC					コア・CC			
	3/18(水)		コア・CC					コア・CC			
	3/19(木)		コア・CC					コア・CC			
	3/20(金)祝		春分の日								
コアCC第12週	3/23(月)		コア・CC					コア・CC			
	3/24(火)		コア・CC					コア・CC			
	3/25(水)		コア・CC					コア・CC			
	3/26(木)		コア・CC					コア・CC			
	3/27(金)		コア・CC					コア・CC			

薬　物　療　法　3

【ナンバリングコード】　M-04-16-D

【教員名】
教授：髙井　真司
講師：森脇　一将
助教：横江　俊一
助教：森原　啓文
（非常勤講師）
中川　孝俊

【科目の概要】
診療に必要な薬物治療の基本（薬理作用、副作用）を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）小児への薬物療法を理解する。
3）高齢者への薬物療法を理解する。
4）周術期作用薬を理解する。
5）抗癌薬を理解する。
6）抗生物質を理解する。

【方略】
講義

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：年度末に行われる試験に、授業、授業態度を加味して判定する。
③ 評価の形態：試験は記述式中心。
④ 再試験：本試験の不合格者は、再試験で評価する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
ハーバード大学講義テキスト臨床薬理学：丸善
イラストレイテッド薬理学：丸善
New 薬理学：南江堂

【オフィスアワー】
担当教員氏名：髙井　真司
内線・PHS：2649
E-mail：shinji.takai@ompu.ac.jp
開始時間：9:00
終了時間：12:00
内容：火・木・金
場所：総合研究棟 4F（415）　薬理学教室

【SDGs との関連】

3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	

感　覚　器　1（眼　科）

【ナンバリングコード】　M-06-14-D

【PBL コース責任者】
喜田　照代

【PBL コース主任】
廣川　貴久

【PBL 指導教員】
（専任教員）
小嶌　祥太、田尻　健介、小林　崇俊、西川　優子、大須賀　翔、水野　博史、池田　華子
（非常勤講師）
勝村　浩三、石﨑　英介、石田　理

【科目の概要】
医師として必要な眼科学の知識を身につけ、眼科的疾患の診断および基本的治療を説明できる。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）眼球と付属器の構造と機能を説明できる。
3）視覚情報の受容のしくみと伝達経路を説明できる。
4）眼球運動のしくみを説明できる。
5）対光反射、輻湊反射、角膜反射の機能について説明できる。
6）基本的眼科的検査を説明し、その意義を理解できる。
7）眼・視覚系に関する主要症候を列挙し、それらの発生機序、原因疾患と治療を説明できる。
8）屈折異常と調節障害の病態生理を説明できる。
9）伝染性結膜疾患の症候、診断と治療を説明できる。
10）白内障の成因、症候、診断と治療を説明できる。
11）緑内障の成因、発生機序、症候と治療を説明できる。
12）裂孔原性網膜剥離の症候、診断と治療を説明できる。
13）糖尿病の眼底変化を説明できる。
14）高血圧・動脈硬化による眼底の変化を説明できる。
15）ぶどう膜炎の原因、症候、診断と治療を説明できる。
16）うっ血乳頭の成因、症候と診断を説明できる。
17）視神経症の成因、症候と診断を説明できる。
18）化学外傷の症候と救急処置を説明できる。
19）色覚障害を概説できる。
20）網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候、診断と治療を説明できる。
21）網膜芽細胞腫の症候、診断と治療を説明できる。

【方略】
臨床テキストブックや「現代の眼科学」を使用し事前学習を済ませた上で授業に臨むこと。
新型コロナウィルス等で授業施行が困難な場合は、Moodle を利用して予習復習に努めること。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：試験（80％）　レポート等の点数（10％）　授業態度（10％）
③ 評価の形態：試験：マークシート　提出物：レポート
④ 再試験：100 点法で 60 点に満たない場合、再試験を行う。評価の方法：試験およびレポート　評価点の算出：試験（80％）レポート（20％）
⑤ 追試験：追試験に関しては学則等を準用する。
⑥ 課題に対するフィードバック：授業内に適宜小テストを実施し、試験後に解説する。
⑦ 授業内で行われた小テストで不明な点については個別学習指導に活用する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
現代の眼科学　改訂第 11 版

【オフィスアワー】
担当教員氏名：廣川　貴久
内線・PHS：2354
E-mail：takahisa.hirokawa@ompu.ac.jp
開始時間：15:00
終了時間：16:00
内容：場所：眼科医局（事前に連絡しアポイントメントをとること）

【医師実務経験のある教員】
小嶌　祥太、喜田　照代、小林　崇俊、西川　優子、田尻　健介、水野　博史、石田　理、勝村　浩三、石崎　英介、大須賀　翔、廣川　貴久、池田　華子

【SDGs との関連】
4、5、6、7、10、11、12、13、14、15、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) 7)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 19)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4) 5)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 6) 17)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 7) 19)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 7)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 8) 13) 14)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 9)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	D
【学習アウトカム】 4) 5) 9)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 2) -5) 8) 10) 13) 19) 21)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 9) 14) -17) 20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 12) 15)-18) 20) 21)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 1) 4) 5) 11) 18)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7) 15) 17)	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) 7)	
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 6)7)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 1)6)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 2)-5)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	D
【学習アウトカム】 6)7)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	D
【学習アウトカム】 1)6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	D
【学習アウトカム】 6) 7)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6) 7)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	D
【学習アウトカム】 6) 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 4) 5) 7) 18)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 9)	
国際性： 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。	D
【学習アウトカム】 1) 7)	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

頭頸部・感覚器 2（耳鼻科）

【ナンバリングコード】　M-06-15-D

【PBL コース責任者】
萩森　伸一

【PBL コース主任】
東野　正明

【PBL 指導教員】
（専任教員）
寺田　哲也、乾　崇樹、稲中　優子、綾仁　悠介、尾﨑　昭子、神人　彪、桑原　宏子、谷内　政崇、武市　直大

【科目の概要】
医師として必要な耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の知識を身につけ、耳鼻咽喉科領域の疾患の診断および基本的治療を説明できる。

【科目のゴール】
感覚器はヒトが人間たるために備わった高度の機能を有する器官である。
本コースでは、そのうち、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、（咽頭・喉頭の）知覚が関連する領域を扱う。
提示する症例を通して、これらの機能を理解したうえで、上気道の解剖学的重要性がどうかかわるか、頭頸部疾患の治療において QOL とどうかかわるかなどについて理解を深める。
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）聴力障害や嚥下障害、音声障害、嗅覚障害、味覚障害をきたすメカニズムを学び、その病態が説明できる。
3）上気道の解剖学的特徴を説明できる。
4）脳神経障害により引き起こされる病態を理解し、プライマリーケアにおける診断方法を説明できる。
5）頸部腫瘤の鑑別診断が説明できる。
6）頭頸部癌の手術と病理学的特徴について説明できる。
7）耳鼻咽喉科領域でみられる疾患の多様性を説明できる。

【方略】
① 総論：
　従来の講義形式で行います。
② 各論：
　さまざまな分野を Moodle にアップしたスライドで自主学習をする。それぞれの時間の前は自学自習の時間を設けており、その時間を利用して、かならず当該分野を自学自習をしておくこと。
　また臨床テキストブックを自主学習の教材とする。
③ 演習型講義：
　各論での学習内容を元に、耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、頭頸部腫瘍学における臨床的な内容について、演習形式で臨床的な問題を提示し、クリッカーなどを用いた双方向型講義をしていく。

【評価】
授業態度、各講義教官の評価、試験により総合的に評価する。
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 加点の算出・内訳：試験　60％、授業への参加態度　30％、各教員の評価　10％

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
コア・ローテイション　耳鼻咽喉科・頭頸部外科（金芳堂）
新耳鼻咽喉科学（南山堂）
臨床テキストブック

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：乾　崇樹
内線・PHS：2359
E-mail：takaki.inui@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：13:30
内容：場所：耳鼻咽喉科医局（研究棟 8 階）　※事前にメールで連絡し、アポイントメントをとること

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：東野　正明
内線・PHS：2359
E-mail：masaaki.higashino@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：13:30
内容：場所：耳鼻咽喉科医局（研究棟 8 階）　※事前にメールで連絡し、アポイントメントをとること

【医師実務経験のある教員】
萩森　伸一、寺田　哲也、東野　正明、乾　崇樹、稲中　優子、尾崎　昭子、綾仁　悠介、神人　彪、桑原　宏子、谷内　政崇、武市　直大

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1-4) 6)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 4-6)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 1) 3) 7)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 3) 7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 1)-7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1)-7)	

妊　娠　・　出　産

【ナンバリングコード】　M-06-16-D

【PBL コース責任者】
藤田　太輔

【PBL コース主任】
林　正美

【PBL 指導教員】
(専任教員)
永易　洋子、劉　昌恵

【科目の概要】
ヒトの妊孕現象全般を追求し、周産期における母児の健康管理への理解を深めることができる。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）超音波検査について説明できる。
3）胎児心拍数モニタリングについて説明ができる。
　遷延一過性徐脈
　変動一過性徐脈　★
　遅発一過性徐脈　★
4）羊水検査の意義を説明できる。
5）妊娠中の栄養管理の意義を説明できる。
6）正常妊娠★★★
　妊娠の成立　★
　a）配偶子から受精、着床初期の分化までを説明できる。
　b）胎児期の発育についての要点を説明できる。
7）胎盤の構造や胎盤の働きについて説明できる。
8）妊娠初期の異常
　a）妊娠悪阻の原因と病態を説明できる。★★
　b）流産の診断の要点を説明できる。★
　　不育症　★
　　切迫流産　★★
　c）異所性妊娠の分類や頻度、治療法について説明できる。★★★
9）妊娠中期から後期の異常
　a）妊娠高血圧症候群の原因と病態を説明できる。★★★
　b）妊娠高血圧症候群の診断の要点を説明できる。★★★
　c）子癇の定義・鑑別診断。管理を説明できる。★★
　d）HELLP 症候群の診断について説明できる。★★
　e）常位胎盤早期剥離について原因と病態を説明できる。★★
　f）常位胎盤早期剥離について管理、治療法を説明できる。★★
　g）前置胎盤について原因と病態を説明できる。★

h）羊水異常について原因と病態を説明できる。
羊水過少　★
羊水過多　★★
i）多胎妊娠について分類や合併症、管理方法について説明できる。
双胎輸血症候群　★★
j）子宮内胎児発育遅延について定義や分類を説明できる。★★★
k）血液型不適合妊娠について原因や管理を説明できる。
l）早産について原因と病態を説明できる。
切迫早産について管理や治療法を説明できる。
絨毛膜炎について原因や管理方法を説明できる。★
経管無力症について病態や管理方法を説明できる
前期破水について原因や分類、管理方法について説明できる。★
m）合併症妊娠について説明できる。
糖代謝異常合併妊娠について診断や管理について概説できる。★★★
糖尿病合併妊娠
妊娠糖尿病　★★
甲状腺機能亢進合併妊娠について説明できる。
n）母児感染症について種類や感染経路などを概説できる。★★★
10）正常分娩
a）分娩の三要素からの分娩の基本を理解し、異常分娩回避の手段がわかる。
b）胎児の well-being の評価ができ、新生児の診察の手段が説明できる。
c）産褥の生理について概説できる。★★
11）分娩の異常
a）陣痛の異常について定義や原因などを概説できる。★
微弱陣痛★
過強陣痛
b）産道の異常について種類や管理方法を説明できる。
c）胎勢異常について説明できる。
d）胎位の異常について分類や管理について説明できる。
e）臍帯異常について説明できる。
f）胎児機能不全について概念、分類診断が説明できる。★★★
g）子宮破裂について分類や原因、管理方法を説明できる。
h）子宮内反について原因や治療を説明できる。★
i）弛緩出血について機序や原因、治療法を概説できる。★★
j）産科 DIC について診断や治療法を説明できる。★
k）子宮復古不全について概説できる。★
l）産褥熱について説明できる。
m）血栓性静脈炎について管理方法を説明できる。
12）遺伝子疾患を列挙し、説明できる。
13）不妊の定義や原因ついて概説できる。
a）卵巣過剰刺激症候群　OHSS ★
b）黄体不全
14）不妊の治療に関し説明できる。

【方略】

PBL 反転授業　ディスカッション、プレゼンテーション

【評価】
① 合格点　100 点法により評価し、評価点が 60 点以上を合格とする
② 価点の算出　試験 50 点、レポート 10 点、授業態度 40 点
③ 評価形態　試験マークシート　提出物→レポート
④ 再試験　出席不良者、本試験不良者　　マークシート試験
⑤ 追試験　本試験病欠者　→マークシート試験
⑥ レポートについては教員がコメントし学生にフィードバック
　出席や勉強態度、試験を総合評価する。
　質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Williams Obstetrics
Obstetrics, 7th ed.- Normal & Problem regnancies
ウイリアムス臨床産科マニュアル
最新産科学
標準産婦人科学
病気がみえる : 産科

【オフィスアワー】
担当教員氏名：藤田　太輔
内線・PHS：56397
E-mail：daisuke.fujita@ompu.ac.jp
開始時間：17:00
内容：曜日：金曜日
場所：医局

【医師実務経験のある教員】
藤田　太輔、林　正美、劉　昌恵、永易　洋子

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 6)7)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 6)10)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 8)9)11)-13)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 8)9)11)-13)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-5)	

成　長　・　発　達

【ナンバリングコード】　M-06-17-D

【PBL コース責任者】
芦田　明

【PBL コース主任】
島川　修一、黒柳　裕一

【PBL 指導教員】
（専任教員）
瀧谷　公隆、岸　勘太、尾崎　智康、山岡　繁夫、小田中　豊、大関　ゆか、梶　恵美里、田中　智子
（非常勤講師）
高谷　竜三、福井　美保

【科目の概要】
小児科は周産期から思春期の期間を対象としている。小児の特徴は成長・発達である。そのため、小児期の生理を理解した上で、小児疾患の病態生理を理解する。また、小児期に多い疾患、小児特有の疾患を理解し、プライマリ・ケアおよび小児保健も理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
【胎児・新生児の生理・病理】
2）胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化を説明できる。
3）胎内発育の過程を在胎期間と出生体重を加味して評価できる。
4）主な先天性疾患を列挙できる。
5）新生児の生理的特徴を説明できる。
6）胎児・新生児仮死の分類を説明できる。
7）新生児マススクリーニングを説明できる。
8）新生児黄疸の鑑別と治療を説明できる。
9）新生児期の呼吸困難の原因を列挙できる。
10）正常児・低出生体重児・病児の保育の基本を説明できる。
11）低出生体重児固有の疾患を概説できる。
12）救急を要する新生児疾患を概説できる。
【乳幼児の生理・病理】
13）乳幼児の生理機能の発達を説明できる。
14）乳幼児の神経・精神運動発達の異常を説明できる。
15）乳幼児の保育法・栄養法の基本を概説できる。
16）乳児突然死症候群を説明できる。
【遺伝性疾患】
17）メンデル遺伝の法則を説明し、遺伝形式別に主な遺伝病を列挙できる。
18）家族歴を聴取し、家系図を作成できる。そこから遺伝形式を推定できる。
19）集団遺伝学的事項について学習する。
20）単一遺伝子病の分子生物学的メカニズム、変異の種類を説明できる。
21）主な多因子遺伝病、母系遺伝病を列挙できる。

22）出生前診断や遺伝子治療の方法・適応・問題点を説明できる。
23）分子生物学の臨床検査への応用を説明できる。
24）発生を障害する遺伝因子、環境因子（催奇形因子）を説明できる。
25）主な胎芽病・胎児病を列挙し、原因・診断・治療・予防法を説明できる。
26）出生前疾患を分類し、原因を列挙できる。
27）主な先天代謝異常症を列挙し、特徴を説明できる。
28）主な先天性心疾患を列挙し、特徴を説明できる。
29）主な遺伝性免疫異常症を列挙し、特徴を説明できる。
30）主な先天性・遺伝性の神経・筋疾患を列挙し、特徴を説明できる。
31）ミトコンドリア遺伝子の変異による疾患を挙げられる。
32）遺伝相談の基本を説明し、倫理的問題について議論できる。
【小児期全般の発達】
33）小児の精神運動発達を説明できる。
34）小児の栄養上の問題点を列挙できる。
35）小児の免疫発達と感染症の関係を概説できる。
36）小児保健における予防接種の意義を説明できる。
37）成長に関わる主な異常を列挙できる。
38）児童虐待を概説できる。
39）心身症と発達障害（学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症）を説明できる。
40）小児の診断法と治療法における特徴を概説できる。
【思春期の発達】
41）思春期発現の機序、性徴、身体的特徴とその異常を説明できる。
42）思春期と関連した精神保健上の問題を列挙できる。
【感染症】
（ウイルス・プリオン感染症）
43）インフルエンザの症候、診断と治療を説明できる。
44）麻疹の症候と診断を説明できる。
45）風疹の症候、診断と合併症を説明できる。
46）流行性耳下腺病の症候、診断と合併症を説明できる。
47）水痘・帯状ヘルペス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
48）ウイルス性皮膚疾患（単純ヘルペス、伝染性紅斑、手足口病、ウイルス性ゆうぜい）を概説できる。
49）突発性発疹の症候と診断を説明できる。
50）咽頭結膜炎の症候と診断を説明できる。
51）サイトメガロウイルス感染症の症候、診断と治療を説明できる。
52）伝染性単核球症の症候と診断を説明できる。
（細菌感染症）
53）ぶどう球菌感染症の症候、診断と治療を説明できる。
54）Ａ群レンサ球菌の症候、診断、治療とリウマチ熱との関連を説明できる。
55）結核の原因、症候、診断、治療と予防を説明できる。
56）病原性大腸菌感染症を概説できる。
57）ジフテリア、破傷風と百日咳の症候、診断と予防を説明できる。
58）劇症溶連菌感染症を概説できる。
59）インフルエンザ桿菌と肺炎レンサ球菌感染症を概説できる。
60）新生児Ｂ群レンサ球菌感染症を概説できる。

【方略】
パッシブラーニング：講義（オンライン）・視聴覚教材（スライド並びにハンドアウト）による授業
アクティブラーニング：ケースメソッドによるグループディスカッション（遠隔授業となった場合はメールやオンラインミーティング）、シミュレーション、学生同士の実技演習

【評価】
1）合格点　100 点法により、評価点が 60 点以上を合格とする。
2）評価点の算出・内訳：筆記試験の素点に、授業への参加態度を加味して評価する（遠隔授業となった場合は課題レポート提出ならびに moodle の授業スライド聴講状況、moodle での小テスト提出状況で評価する）
3）評価の形態：試験→記述式およびマークシート
4）再試験：本試験に準じる。
5）追試験：本試験に準じる。
6）課題に対するフィードバック（遠隔授業となった場合）：課題に対するレポートや小テストについてはコメントでフィードバックする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
New 小児科学　改定第 2 版：南江堂
標準小児科学　第 8 版：医学書院
小児科学　改訂第 10 版：文光堂
シンプル小児科学：南江堂
Nelson Textbook of Pediatrics, 20th edition：Saunders

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：岸　勘太
内線・PHS：2356
E-mail：kanta.kishi@ompu.ac.jp
開始時間：11:00
終了時間：11:50
内容：曜日：木曜日
場所：3 号館 3 階　小児科医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：山岡　繁夫
内線・PHS：2376
E-mail：shigeo.yamaoka@ompu.ac.jp
開始時間：11:00
終了時間：11:50
内容：曜日：水曜日
場所：研究棟 10 階　小児科研究室

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：黒柳　裕一
内線・PHS：2356
E-mail：yuichi.kuroyanagi@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：15:00
内容：曜日：火曜日
場所：3 号館 3 階　小児科医局

【医師実務経験のある教員】
芦田　明、瀧谷　公隆、島川　修一、黒柳　裕一、山岡　繁夫、岸　勘太、尾崎　智康、梶　恵美里、小田中　豊、大関　ゆか、田中　智子、高谷　竜三、福井　美保

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-60)	

思春期・ホルモン

【ナンバリングコード】　M-06-18-D

【PBL コース責任者】
瀧谷　公隆

【PBL コース主任】
伊藤　隆英、恒遠　啓示、黒柳　裕一、吉田　誠司、辻野　拓也

【PBL 指導教員】
(専任教員)
岸　勘太、吉田　誠司、丸岡　寛、劉　昌恵、林　正美
(非常勤講師)
高谷　竜三、岡本　奈美
(特別講師)
七里　元督

【科目の概要】
思春期特有の病態および精神発達を理解する。また移行期医療に関する基本的知識を修得する。また男性、女性および加齢におけるホルモンが関与する疾患および病態生理について理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
【思春期の発達】
2）思春期発現の機序、性徴、身体的特徴とその異常を説明できる。
3）思春期と関連した精神保健上の問題を列挙できる。
【移行期医療】
4）思春期における移行期医療に関する問題を理解し、基本的知識を習得する。
【女性とホルモン】
5）生殖内分泌の基礎　主な性ホルモンの作用を説明できる。
6）生殖内分泌の臨床　女性内分泌と基本を理解し、性周期を概説できる。
7）無月経の原因と病態を説明できる。
8）無月経患者の診断の要点を説明できる。
9）無月経乳汁漏出症候群の原因、病態、治療について説明できる。
10）多嚢胞性卵巣症候群の病態、所見、治療について説明できる。
11）黄体機能不全の病態、治療について説明できる。
12）Sheehan 症候群の発生機序、症状について説明できる。
13）神経性食欲不振症の病態、治療について説明できる。
14）女性予防医学　更年期障害の症状、治療について説明できる。
【男性とホルモン】
15）男性の更年期障害を説明できる。
【加齢とホルモン】
16）加齢に伴う内分泌・代謝変動を説明できる。
17）高齢者における甲状腺機能低下症の特徴と治療の注意点を説明できる。
18）高齢者における糖尿病の特徴と治療の注意点を説明できる。

【方略】
授業態度、レポート、および筆記試験の結果を参考にして総合的に評価する。

【評価】
1）合格点　100 点法により、評価点が 60 点以上を合格とする。
2）評価点の算出・内訳：試験およびレポート 70％、授業への参加態度 30％
3）評価の形態：試験→記述式およびマークシート、提出物→レポート
4）再試験：本試験に準じる。
5）追試験：本試験に準じる。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
移行期医療支援情報共有サイト {https://transition-support.jp/,https://transition-support.jp/}
標準小児科学　第 8 版：医学書院
小児科学　改訂第 10 版：文光堂
小児期発症慢性疾患患者のための移行支援ガイド：じほう
老年医学テキスト
Berek and Novak's Gynecology

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：伊藤　隆英
内線・PHS：56646
E-mail：takahide.ito@ompu.ac.jp
内容：事前にアポをとること
場所：内科学医局

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：瀧谷　公隆
内線・PHS：56458
E-mail：kimitaka.takitani@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：14:00
内容：曜日：木曜、金曜
場所：総合研究棟　10F　1006

【医師実務経験のある教員】
瀧谷　公隆、黒柳　裕一、伊藤　隆英、恒遠　啓示、辻野　拓也、岸　勘太、吉田　誠司、林　正美、丸岡　寛、劉　昌恵、高谷　竜三、岡本　奈美、七里　元督

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	

学習アウトカム	科目達成レベル
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-18)	

加　齢　・　高　齢　者

【ナンバリングコード】　M-06-19-D

【PBL コース責任者】
森　龍彦

【PBL 指導教員】
(専任教員)
矢野　貴人、馬場　一郎、池田　宗一郎、大槻　周平、松村　洋子、植野　高章、辻　明里、小野　富三人、
稲中　優子、津田　晃司、樋上　容子、荒若　繁樹、中島　世市郎
(特別講師)
七里　元督

【科目の概要】
老化に伴う生理的変化、老年者に特有な疾患および障害の概念と介護に関わる問題を学ぶ。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）高齢者の心理・精神の変化を理解し、対応する手法を説明できる。
3）加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。
4）高齢者における病態・症候・治療の特異性を説明できる。
5）高齢者における治療上の留意点を説明できる。
6）高齢者の栄養摂取の特殊性を説明できる。
7）老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）の病態、治療と予防を説明できる。
8）高齢者における総合機能評価法（CGA）を説明できる。
9）高齢者の生活支援リハビリテーションの要点を概説できる。
10）医療保険と公費医療や介護保険を説明できる。
11）高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
12）地域保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）を概説できる。
13）介護の定義と種類を説明できる。
14）日常生活動作（排泄、摂食、入浴）の介護と環境整備の要点を概説できる。
15）在宅医療（酸素療法、栄養療法、透析療法）を概説できる。
16）国民医療費の収支と将来予測を概説できる。
17）医師法と医療法以外の医療関係法規を概説できる。
18）生と死に関わる倫理的問題を列挙できる。
19）医の倫理と生命倫理に関する規範、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言などを概説できる。
20）患者の基本権利の内容を説明できる。
21）患者の自己決定権の意義を説明できる。
22）患者が自己決定ができない場合の対処法を説明できる。
23）死の概念と定義や生物学的な個体の死を説明できる。
24）死生学の基本的な考え方を概説できる。
25）死に伴う家族のケアを説明できる。
26）尊厳死と安楽死の概念を説明できる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：規程の評価基準に基づく。
③ 評価の形態：試験、授業への参加態度、レポート。
④ 再試験：上記評価点が 60 点未満の場合再試験を行う。評価点が 60 点以上を合格とする。
⑤ 追試験：正規評価が正当な事由により施行できなかった場合追試験を行うことがある。評価点が 60 点以上を合格とする。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
老年医学テキスト：日本老年医学会編、メディカルビュー社
改訂第 5 版　救急蘇生法の指針 2015 医療従事者用：ヘルス出版
標準整形外科：医学書院
高血圧治療ガイドライン 2014

【オフィスアワー】
担当教員氏名：森　龍彦
内線・PHS：56719
E-mail：tatsuhiko.mori@ompu.ac.jp
開始時間：9:20
終了時間：10:05
内容：曜日：火曜日
場所：新講義実習棟 4 階教員室

【医師実務経験のある教員】
森　龍彦、辻　明里、植野　高章、小野　富三人、松村　洋子、大槻　周平、馬場　一郎、荒若　繁樹、稲中　優子、池田　宗一郎、中島　世市郎、七里　元督

【SDGs との関連】
1、3、8

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 17) 19)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 5) 7) 9) 11)-13) 15)-17) 19)-22)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 23) 24)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 20)-22)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 3)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 7)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 4)-6)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 12) 13) 15)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 8)-15)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 10) 17)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 10) 16)	

麻　　酔

【ナンバリングコード】　M-06-20-D

【PBL コース責任者】
南　敏明

【PBL コース主任】
佐野　博昭

【PBL 指導教員】
（専任教員）
門野　紀子、下山　雄一郎、中野　祥子、日下　裕介、間嶋　望、藤澤　貴信、藤原　淳、上野　健史、長峯　達成、北埜　学、山崎　紘幸、野田　祐一、鳥井　理那、三井　寛明、徳永　友里
（非常勤講師）
桒村　歩

【科目の概要】
麻酔科学は、手術麻酔分野、集中治療分野、ペインクリニック分野に大別される。腫瘍や病原微生物を治療により除去するというより、生体恒常性やバイタルサインの維持により生体への負担を最小限にするアプローチである。医療のあらゆる分野において、麻酔科学の考え方は、患者の医療安全維持のために有効である。さらに、疾患そのものではなく、痛みという症状を治療するペインクリニック領域の病態生理・症候・診断・治療に関する知識を習得し、様々な痛みを始めとする徴候に対して自ら学習できる能力を養う。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）患者評価を行い、各麻酔法の特徴を理解し、適切な麻酔方法を選択できる。
　1. 全身麻酔について説明できる。
　2. 局所麻酔について説明できる。
　3. 術前、術後診察の概要を理解する。
　4. 麻酔時の気道管理、気管挿管、輸液管理について説明できる。
　5. 周術期管理を理解し麻酔合併症について説明できる。
　6. 各科特殊麻酔について理解し、説明できる。
3）集中治療室における管理について理解し、説明できる。
　1. 重症患者の集中治療について説明できる。
　2. 重症患者の循環管理について説明できる
　3. 重症患者の呼吸管理について説明できる。
　4. 重症患者の急性腎障害と急性血液浄化について説明できる。
　5. 重症患者の代謝・栄養管理について説明できる。
　6. 感染症による炎症反応、SIRS の全身管理について説明できる。
　7. 重傷病態における凝固線溶、DIC について説明できる。
4）ペインクリニック（痛みの診療）について理解し、説明できる。
　1. 痛みの概念について説明できる。
　2. 痛みのしくみ・伝わり方について説明できる。
　3. 痛みの評価法について説明できる。
　4. 痛みの分類について説明できる。
　5. ペインクリニックで扱われる疾患の診察・診断・治療法について学習し、理解する。

【方略】
講義形式の授業を主として行う。

【評価】
① 合格点　100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳　試験 90％、授業態度 10％として算出する。
③ 評価形態　試験はマークシート形式で行う。
④ 再試験　本試験後の評価点で 60 点未満の者に対して実施する。ただし、出席率が極度に低い場合行わない。
⑤ 追試験　理由があり、本試験または再試験を欠席した者に対して試験を実施する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
標準麻酔科学　第 7 版：編 稲田　英一・森﨑　浩・西脇　公俊、医学書院
ペインクリニック治療指針：日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会、真興公益医書出版部
ICU ブック 第 4 版：稲田　英一 訳、メディカルサイエンスインターナショナル

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　祥子
内線・PHS：56630
E-mail：shoko.nakano@ompu.ac.jp
開始時間：8:00
終了時間：16:00
内容：事前に連絡しアポイントメントをとること

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：佐野　博昭
内線・PHS：58032
E-mail：hiroaki.sano@ompu.ac.jp
開始時間：8:00
終了時間：16:00
内容：事前に連絡しアポイントメントをとること

【医師実務経験のある教員】
南　敏明、門野　紀子、下山　雄一郎、中野　祥子、日下　裕介、間嶋　望、藤澤　貴信、藤原　淳、上野　健史、長峯　達成、北埜　学、佐野　博昭、山崎　紘幸、野田　祐一、鳥井　理那、三井　寛明、徳永　友里、桒村　歩

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	B
【学習アウトカム】 2)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	B
【学習アウトカム】 2)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 1)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	B
【学習アウトカム】 2)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	C
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	C
【学習アウトカム】 2)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	B
【学習アウトカム】 2)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	B
【学習アウトカム】 2)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 2)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	B
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 2)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	C
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 2)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 2)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	C
【学習アウトカム】 2)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	C
【学習アウトカム】 2)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	C
【学習アウトカム】 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	B
【学習アウトカム】 1)2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

救　　急

【ナンバリングコード】　M-06-21-D

【PBL コース責任者】
高須　朗

【PBL コース主任】
山川　一馬

【PBL 指導教員】
（専任教員）
太田　孝志、望月　勝徳、畠山　淳司、田中　克、林　淳一朗、雨宮　優、本田　浩太郎
（非常勤講師）
三嶋　隆之、林田　敬

【科目の概要】
外傷や内因性救急疾患について緊急度と重症度を把握して、適切な初期治療や集中治療などの診療指針がたてられるように、救急システム、災害・救急医療、重症外傷診療アプローチ、そして救急終末期医療を理解する。さらに、幅広く救急疾患に対応できるように、意識障害や循環器救急の初期診療、二次救命処置の実際、心停止後症候群、敗血症の集中管理、そして環境障害、熱傷や中毒などの病態や診療などについて理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）我が国の救急医療の歴史を理解し、救急医療システムや救急医療に関する法的諸問題（脳死を含む）を説明できる。
3）重症外傷の診療について説明できる。
　i）初期外傷診療の手順（ABCDE アプローチ）が説明できる。
　ii）外傷の重症度および緊急度の把握ができる。
　iii）外傷診療の Primary syrvey と Secondary survey について説明できる。
　iii）外傷の Secondary survey における画像診断ができ、治療方針の決定について説明できる。
　iv）代表的な胸部外傷の診療について説明できる。
　v）代表的な腹部外傷の診療について説明できる。
　vi）代表的な四肢外傷の診療について説明できる。
4）災害医療について説明できる。
5）ER 診療の実際を説明できる。
6）一次救命処置（BLS）および二次救命処置（ALS）を知り、心停止後症候群、特に低酸素性能障害について理解する。
7）キラーシンプトムを呈する救急疾患（脳血管障害、虚血性心疾患、急性腹症など）の徴候や初期診療手順について説明できる。
8）熱傷、中毒、環境障害など特色ある救急疾患について診療の概説ができる。
9）敗血症の病態と治療について説明できる。
10）全身管理で必要な人工呼吸器の仕組みや使用について説明できる。

【方略】

① アクティブラーニング

・TBL（課題解決型学習）

・反転授業

・ディスカッション、ディベート

② ICT（Moodle）を活用した双方向授業や自主学習支援の導入

【評価】

1）合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。

2）評価点の算出・内訳：試験（70％）、授業への参加態度（30％）

3）評価の形態：試験の実施（マークシート、および記述）

4）再試験：評価点が 60 点以下のもの。

5）追試験：特別な理由で試験を受験できなかったものに試問を行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】

JRC 蘇生ガイドライン 2020：監修 日本蘇生協議会・日本救急医療財団、へるす出版

大阪医科大学臨床テキストブック（Web 版）

標準救急医学（第 5 版）2014：医学書院

脳死判定・臓器移植マニュアル {http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/noushi-hantei,http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/noushi-hantei}

改訂第 6 版　外傷初期診療ガイドライン JATEC 2021：監修 日本外傷学会・日本救急医学会、へるす出版

救急診療指針 改訂第 5 版 2018：監修 日本救急医学会、へるす出版

熱傷診療ガイドライン {http://jsbi-burn.org/members/guideline/pdf/guideline2.pdf,http://jsbi-burn.org/members/guideline/pdf/guideline2.pdf}

PALS プロバイダーマニュアル

日本版敗血症診療ガイドライン 2020 {http://www.wiley.co.jp/journals/sepsis-guidelines/pdf/jja2s0024.pdf,http://www.wiley.co.jp/journals/sepsis-guidelines/pdf/jja2s0024.pdf}

【オフィスアワー①】

担当教員氏名：高須　朗

内線・PHS：56855

E-mail：akira.takasu@ompu.ac.jp

内容：事前に連絡しアポイントメントをとること

場所：講義室および教授室

【オフィスアワー②】

担当教員氏名：太田　孝志

内線・PHS：56322

E-mail：koshi.ota@ompu.ac.jp

内容：メールで随時連絡をとる

場所：救急医療部医局

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：山川　一馬
内線・PHS：56322
E-mail：kazuma.yamakawa@ompu.ac.jp
内容：メールで随時連絡をとる
場所：救急医療部医局

【医師実務経験のある教員】
高須　朗、山川　一馬、太田　孝志、小畑　仁司、望月　勝徳、畠山　淳司、田中　克、林　淳一朗、雨宮　優、本田　浩太郎、三嶋　隆之、林田　敬

【SDGs との関連】
1、3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 2)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	D
【学習アウトカム】 1)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 3) 6)-10)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 2)-10)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 3)6)-8)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 3)5)-9)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 3)5)-10)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 5)6)10)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 2)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 4)	

リハビリテーション

【ナンバリングコード】　M-06-22-D

【PBL コース責任者】
佐浦　隆一

【PBL コース主任】
仲野　春樹

【PBL 指導教員】
（専任教員）
小金丸　聡子、土井　あかね
（非常勤講師）
加藤　洋、村尾　浩、鉄村　信治、富永　正吾、冨岡　正雄、和田　浩

【科目の概要】
リハビリテーション医学は、臓器別や疾患別に構成された従来の医学体系とは異なり、疾病や外傷、加齢、発達遅滞、廃用などに起因する「障害」に重点を置いた新しい医学体系（障害科学）である。その実践であるリハビリテーション診療では、障害者（児）や高齢者の日常活動（activity）と社会参加（participation）の自立ならびに QOL の向上を目標として、急性期から回復期、生活期、終末期にわたって、多職種による包括的なチームアプローチ（multidisciplinary ～ transdisciplinary team approach）や地域の保健・医療・福祉サービスとの連携が実施される。
本コースでは、講義と演習を通じて、全ての医師に必要なリハビリテーション医学・医療に関する知識、技能、態度、理念（rehabilitation mind）を習得するとともに、チーム医療の重要性を理解することを目標とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）リハビリテーション医学の特徴と障害の定義について説明できる。
3）リハビリテーション関連職種とそれらの役割について説明できる。
4）中枢・末梢神経、運動器、その他諸器官の構造と機能、それらの障害について説明できる。
5）疾患別にリハビリテーション治療の適応とそのリスク管理が説明できる。
6）各種障害の診断と評価、帰結（機能予後）予測について説明できる。
7）リハビリテーション治療の目標設定と計画策定について説明できる。
8）リハビリテーション関連機器・設備、補装具、社会資源について説明できる。
9）関節可動域検査、徒手筋力検査、松葉杖歩行、車椅子移動について説明できる。
10）チーム医療の重要性を理解し、rehabilitation mind を習得する。

【方略】
系統講義を行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：試験　100％
③ 評価の形態：試験の実施　→　マークシート
④ 再試験　原則として実施しない。
⑤ 追試験　病気などやむをえない理由で試験が受けられなかったものを対象に実施する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
リハビリテーション医学・医療コアテキスト（第 2 版）：医学書院

【オフィスアワー】
担当教員氏名：仲野　春樹
内線・PHS：56433
E-mail：haruki.nakano@ompu.ac.jp
内容：場所：リハビリテーション医学・医局

【医師実務経験のある教員】
佐浦　隆一、仲野　春樹、冨岡　正雄、土井　あかね、鉄村　信治、村尾　浩、加藤　洋、富永　正吾、小金丸　聡子、和田　浩

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 7)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 2) 3) 6) 7)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 10)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4) 5)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4) 5)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 5)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 2) 4) 5)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 6) 7)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 4) 5)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	D
【学習アウトカム】 5)-7)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 10)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	D
【学習アウトカム】 8)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 5)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 5)-7)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 5)-7)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 5)6)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 5)-7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 5)-7)	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。	D
【学習アウトカム】 8)	
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	D
【学習アウトカム】 5)-7)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	D
【学習アウトカム】 10)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	D
【学習アウトカム】 1) 2)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 3) 9) 10)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 10)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	D
【学習アウトカム】 3) 8) 10)	
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	D
【学習アウトカム】 3) 10)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	D
【学習アウトカム】 3) 7) 8) 10)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	D
【学習アウトカム】 3) 8) 10)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	D
【学習アウトカム】 3) 8) 10)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 7) 8)	
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	D
【学習アウトカム】 7) 8)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	D
【学習アウトカム】 7) 8)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	D
【学習アウトカム】 7)	

放射線治療・放射線障害

【ナンバリングコード】　M-06-23-D

【PBL コース責任者】
二瓶　圭二

【PBL コース主任】
吉岡　裕人

【PBL 指導教員】
（専任教員）
新保　大樹、武野　慧、中田　美緒、堀　章裕、呼　尚徳、添田　文彦
（非常勤講師）
吉田　謙

【科目の概要】
放射線腫瘍学の基本を学ぶ。
医学・医療の分野に広く応用されている放射線や放射線以外の電磁波などの医学への応用について理解する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）放射線と放射能の種類、性質と単位を説明できる。
3）種々の正常組織の放射線感受性の違いを説明できる。
4）放射線の細胞への作用と放射線による細胞死の機序を説明できる。
5）治療による副作用と障害を説明できる。
6）放射線の人体への急性効果と晩発効果を列挙できる。
7）放射線治療の原理を説明し、主な放射線治療法を列挙できる。
8）他の治療法と比較して放射線治療の有用性を説明できる。
9）頭蓋内の放射線治療について説明できる。
10）頭頸部の放射線治療について説明できる。
11）胸部の放射線治療について説明できる。
12）腹部の放射線治療について説明できる。
13）骨盤部の放射線治療について説明できる。
14）婦人科癌の放射線治療について説明できる。
15）密封小線源治療について説明できる。
16）緩和医療としての放射線治療について説明できる。

【方略】
事前予習項目を事前に済ませ、教室で知識確認などを行う。
一部講義は Moodle でのビデオ講義など、遠隔で行う。
（状況により講義形態、内容は変更する可能性がある）

【評価】
① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：試験（100 点）で判定とする。

③ 評価の形態：試験の実施→マークシート式とする。
④ 再試験：上記にて評価点が 60 点未満のものを対象に行う。評価方法はマークシート形式、レポート形式など適宜行う。
⑤ 追試験：上記試験を諸事情で試験を欠席したものを対象に行う。評価方法はマークシート形式、レポート形式など適宜行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
放射線医学 放射線腫瘍学 第 1 版（平成 24 年 4 月）：監修 楢林　勇（監修）・杉村　和朗（監修）・猪俣　泰典（編集）・上杉　康夫（著）・高橋正嗣（著）、金芳堂、やさしくわかる放射線治療学 改訂第 2 版（令和 6 年 2 月）：監修　公益社団法人日本放射線腫瘍学会、Gakken

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：吉岡　裕人
内線・PHS：6873・56873
E-mail：hiroto.yoshioka@ompu.ac.jp
開始時間：16:30
終了時間：17:00
内容：曜日：火曜
場所：6 号館地下放射線治療室
＊事前にアポイントメントを取ること

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：二瓶　圭二
内線・PHS：53396
E-mail：keiji.nihei@ompu.ac.jp
開始時間：16:30
終了時間：17:00
内容：曜日：火曜・木曜
場所：6 号館地下放射線治療室
＊事前にアポイントメントを取ること

【医師実務経験のある教員】
二瓶　圭二、吉田　謙、新保　大樹、吉岡　裕人、中田　美緒、添田　文彦、武野　慧、堀　章裕

【SDGs との関連】
3

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-16)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	D
【学習アウトカム】 1)-16)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)2)5)6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6)11)12)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-5)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 9)-16)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 9)-16)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 9)-16)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 9)-16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 9)-16)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	D
【学習アウトカム】 9)-16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)-7)	

腫　　瘍

【ナンバリングコード】　M-06-24-D

【PBL コース責任者】
藤阪　保仁

【PBL コース主任】
鶴岡　健二郎、浅石　健

【PBL 指導教員】
（専任教員）
岩本　充彦、李　相雄、大須賀　慶悟、佐浦　隆一、伊藤　ゆり、山口　敏史、由上　博喜
（非常勤講師）
田村　研治、川畑　茂

【科目の概要】

がんの疫学・予防・政策、腫瘍生物学、病態、診断の基本的知識からがん遺伝子パネル検査、最新の治療まで総合的に講義する。具体的事例を通じて、がん薬物療法や外科療法、支持療法、緩和療法に関する知識を習得することで、がん医療の基本的な知識と技術を身につけることが出来る。癌の疼痛コントロールを含め、がん患者の社会的、精神的苦痛も理解し、苦痛に対応する緩和ケアを実践できる。また、告知、インフォームド・コンセントなどを含めた、がん患者とのより良いコミュニケーションとは何か、具体的事例を通じて討論する。

各論としては、胃癌、大腸癌、肺癌、乳癌などの頻度の多い癌種を中心に現在の標準的治療法について説明し、原発不明癌、AYA 世代の腫瘍、希少がん等に関しても理解を深める。

腫瘍随伴症候群や Oncologic Emergency を理解することで、様々な症候を呈するがん患者への対応を可能とする講義を行う。また、長期生存が希求できるようになったがん診療において、がん関連学際領域との連携、チーム医療の構築などの重要性も学ぶ。

これまで臓器別・領域別に学ぶことの多かった悪性腫瘍だが、臓器横断的な本コースの講義を通じて臨床腫瘍学の重要性を説明する。

【科目のゴール】

1．専門科目内教養事項について説明できる。
2．腫瘍性疾患発症の遺伝的素因・基礎疾患・感染症・環境生活習慣等のリスク因子を説明できる。
3．がん対策の動向、予防・検診、医療の充実（がん医療の提供制度・がん登録）、がんとの共生（緩和ケアの推進、就労支援を含めた相談支援）、について理解している。
4．腫瘍の定義とその特性について、ゲノム異常や分子機構を理解している。
5．腫瘍の生検・細胞診や病理検査とその所見について概要を理解している。
6．がん治療（がん薬物療法、外科療法、支持・緩和療法など）の考え方を説明できる。
7．主な腫瘍の薬物療法（細胞障害性抗癌薬、分子標的治療薬）、がん免疫に関する治療法について概要を理解している。
8．がんの診断（画像診断、TNM 病期分類、腫瘍マーカー、がん遺伝子パネル検査など）を説明できる。
9．肺癌、消化器癌、乳癌などの各癌種の標準的治療を説明できる。
10．原発不明癌、AYA 世代の腫瘍、希少がんの種類、症候、診断、治療について概要を理解している。
11．がん患者における緩和医療とは何か、癌性疼痛の機序、治療方法を説明できる。
12．がん患者とのより良いコミュニケーションとは何か、を理解している。
13．がん患者が直面する社会的・精神的な課題について理解している。

14. がんの画像誘導下治療（IVR：interventional radiology : IVR）とは何か、説明することができる。
15. がん治療における臨床試験の重要性、倫理性、その方法論を説明できる。
16. がんの症候、腫瘍随伴症候群に関して説明することができる
17. がんの Oncologic Emergency（脊髄圧迫、腫瘍崩壊、上大静脈症候群、代謝障害、治療の有害事象等）の起こりやすいがん、病態生理、症候と対応について概要を理解して説明することが出来る。
18. がんサポーティブケア（支持療法）、がんのリハビリテーションとは何か、その内容を説明できる。
19. がん関連学際領域との連携（腫瘍循環器病学、腫瘍糖尿病学、腫瘍運動学など）、がんチーム医療とは何か、その内容を説明できる。
20. がん対策基本法の理念を理解し、たとえがんに罹患しても健康であり続けたいと願う患者の権利を尊重していくことの大切さを理解する。

【方略】

講義形式の授業で理解を深め、個々の事例への対応などをディスカッションすることで、理解を深める。また、必要に応じて Google Form を用い、双方向授業を展開する。
授業への参加態度の評価、コース試験の成績等を総合的に勘案して評価する。

【評価】

① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上で合格とする。
② 評価点の算出・内訳：試験 80％、授業態度 20％
③ 評価の形態：マークシート試験
④ 再試験：本試験評価点 59 点以下
⑤ 追試験：追試験に関しては学則等を準用する。
⑥ 試験に対するフィードバック：試験後に解説する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】

【講義で使用：予習・復習にも活用】
入門腫瘍内科学　改定第 3 版：日本臨床腫瘍学会編集、南江堂
（さらに深く学びたい学生さんに）
新臨床腫瘍学　がん薬物療法専門医のために　改訂第 6 版：日本臨床腫瘍学会編、南江堂

【参考文献】

図解 腫瘍薬学：南山堂
がんがみえる（第 1 版）：メディックメディア
がん診療レジデントマニュアル 第 9 版：医学書院
がんゲノム医療・遺伝子パネル検査 実践ガイド：医学書院
がん支持医療テキストブック：日本がんサポーティブケア学会編、金原出版

【オフィスアワー】

担当教員氏名：藤阪　保仁
内線・PHS：56598
E-mail：yasuhito.fujisaka@ompu.ac.jp
開始時間：16:00
終了時間：17:00
内容：曜日：水曜日
場所：がん医療総合センター（12F）カンファレンスルーム

【医師実務経験のある教員】

藤阪　保仁、浅石　健、岩本　充彦、李　相雄、川畑　茂、鶴岡　健二郎、田村　研治
佐浦　隆一、山口　敏史、由上　博喜

【SDGs との関連】

3、4、8、9、11、16、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 12) 13)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	C
【学習アウトカム】 12) 13) 15)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 12) 13) 15)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 12) 13)	
5. 至誠仁術を学是とする大阪医薬大人として誇りを持ち、大学の発展に直接的または間接的に貢献できる。	C
【学習アウトカム】 1)-20)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-3) 18-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	C
【学習アウトカム】 1)-12) 17)	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-12) 17)	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	C
【学習アウトカム】 12) 13)	
4. 人体の正常構造と機能を熟知し、臨床に応用できる。	C
【学習アウトカム】 2)-8)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	C
【学習アウトカム】 2-20)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 2-20)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	C
【学習アウトカム】 9)-19)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 6)-18)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	C
【学習アウトカム】 2-20)	
10. ICT を活用し、EBM を重視して、質の高い、適切かつ効果的な医療を実践できる。	C
【学習アウトカム】 15)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	C
【学習アウトカム】 2) 20)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	
14. 個々の医療機関の特徴や特殊性を理解し、状況に応じた最適の医療を提案できる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	C
【学習アウトカム】 10)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	C
【学習アウトカム】 2)-18)	
6. 患者の心理的、社会的因子を考慮しながら、患者中心の適切な治療計画を立てられる。	D
【学習アウトカム】 11)-14)	
7. 診断、治療及び全身管理に参加できる。	C
【学習アウトカム】 2)-18)	
8. 病状説明、患者教育及び退院計画策定に参加し、監督または指導のもとで実施できる。	C
【学習アウトカム】 9)	
9. 診療録や要約などの医療文書を適切に作成、管理し、伝達やプレゼンテーションができる。	C
【学習アウトカム】 9) 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	C
【学習アウトカム】 2)-20)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	C
【学習アウトカム】 15)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	C
【学習アウトカム】 15)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	C
【学習アウトカム】 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
3. 他の医療職の職能と役割及び立場を理解し、尊重することができる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
4. 医療従事者すべてのメンバーと、敬意を払って効果的な意見交換ができる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
5. 多職種連携医療に係わる地域医療と福祉制度を理解し、多面的な観点から健康課題に取り組むことができる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
コミュニケーション： 1. 患者及び患者家族と、常に患者と家族を支持する誠実、高潔、かつ公平な姿勢を保ちながら、敬意を払って接することができる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
3. 医師あるいは他の医療職よりなる医療チームのメンバーとの意志疎通を円滑に行い、医療現場における良好な人間関係を構築できる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	C
【学習アウトカム】 18)-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 2-20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
2. 地域保健、福祉及び介護システムを理解し、分野間連携を図りながら効果的に活用できる。	C
【学習アウトカム】 2-20)	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	C
【学習アウトカム】 1) 20)	
4. 医療経済の背景と現状を理解し、効率性と公平性のバランスにも配慮した医療を判断し提供できる。	C
【学習アウトカム】 2) 3)	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	C
【学習アウトカム】 2) 3)	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	C
【学習アウトカム】 2) 3)	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 2) 3)	

感　　染　　症

【ナンバリングコード】　M-06-25-D

【PBL コース責任者】
中野　隆史

【PBL コース主任】
小川　拓

【PBL 指導教員】
(専任教員)
河野　武弘、田中　智子
(非常勤講師)
横山　勲、駒野　淳、中村（内山）ふくみ
(特別講師)
小川　吉彦

【科目の概要】
病原微生物による疾患が感染症である。感染症は人から人へ伝播する点で他の疾患とはとくに区別される。医師は感染症の患者を適切に診断・治療するとともに、その伝播を予防しなければならない。本コースでは、おもな全身感染症の原因・病態生理・症候・診断・治療や感染制御に関する知識を習得し、未だ知られていない新興感染症を含めた他の感染症への対応について自ら学習できる能力を養う。

【科目のゴール】
1）感染症診療の原則について概説することができる。
2）病原体に対する生体の反応を説明できる。
3）菌交代現象・菌交代症を概説できる。
4）日和見感染症を説明できる。
5）新興・再興感染症を列挙できる。
6）人獣共通感染症を概説できる。
(感染症の診断・検査・治療の基本)
7）主な感染症の原因となる病原体を分類できる。
8）微生物学的診断と血清学的診断を概説できる。
9）感染症の化学療法を概説できる。
(全身感染症の病態と疾患)
10）HIV 感染症の感染経路、自然経過、症候、診断、治療と感染対策を説明できる。
(感染制御と院内感染対策)
11）院内感染の原因となる病原体を列挙し、院内感染を防ぐ方法を説明できる。
12）主な薬剤耐性菌の種類や特徴、病院内での対応の方法を説明できる。
13）経路別予防策の必要性を説明し、実行できる。
14）多職種よりなるチーム医療の意義を理解し実践できる。
(生涯学習への準備)
15）エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。
16）生涯学習の重要性を説明でき、生涯教育に結びつく公開講演会等に自主的に参加できる。

17）感染症を予防するワクチンの種類、効果、有害事象と副反応について概説できる。
18）感染症に関する差別や偏見の歴史的背景を理解し、医療者として適切な患者対応と社会啓発の方法を考察できる。

【方略】
大教室での PBL 演習、講義、グループ発表・討議を、全体に相互に関連し行う。
学生は科目のゴールを達成する為に自学予習復習を行い工夫する。

【評価】
①「合格点」：評価点が 60 点以上を合格とする。
②「評価点の算出・内訳」：本試験の成績を 100％として評価点の算出を行う。
③「評価の形態」：本試験問題は医師国家試験形式に準じた選択式問題と記述式問題の併用とし、概ね前者が 60％、後者が 40％程度の配点とする。
④「再試験」：本試験の成績が 60 点未満の場合に再試験を受験する。評価の方法は本試験と同様である。
⑤「追試」：本試験を何らかの正当な理由により受験できず、やむを得ないとコース責任者が認める場合に再試験受験者と一緒に受験することが出来る。
⑥「課題に関するフィードバック」：「相互学習評価シート」を使用したフィードバックを実施する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
特に指定しない。
参考資料：
厚生労働省ホームページ：感染症法に基づく医師の届出のお願い
{https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html,https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-kansenshou11/01.html}

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2647
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
開始時間：11:45
終了時間：13:00
内容：場所：総合研究棟 6 階・微生物学・感染制御学教室
※事前に連絡しアポイントメントをとること

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：小川　拓
内線・PHS：2780/56080
E-mail：taku.ogawa@ompu.ac.jp
開始時間：13:00
終了時間：17:00
内容：大阪医科薬科大学病院 感染対策室（2 号館と 3 号館の間の 4 階）
※事前に連絡しアポイントメントを取ってください。
※時間：火曜日・水曜日（13:00 ～ 17:00）

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史、河野　武弘、小川　拓、駒野　淳、中村（内山）ふくみ、田中　智子、横山　勲（獣医師）

【SDGs との関連】

3、5、10

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
1. 生命現象の理解に必要な科学的知識を有し、関連する法則や理論を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1) 2) 7)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 1)-6) 8) 10) 11)	
6. 代表的な疾患の診断と治療に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 3)-6) 8)-10)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 1) 11)-13)	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	D
【学習アウトカム】 10) 12) 13) 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	C
【学習アウトカム】 11)-13) 18)	
12. 主要な疾患の予防計画を策定し、実施できる。	C
【学習アウトカム】 10)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	D
【学習アウトカム】 8)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	D
【学習アウトカム】 11)-13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 1) 5) 14) 15)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	C
【学習アウトカム】 1) 14) 15)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 12) 13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
7. 代表的な疾患に関する予防医学（一次、二次、三次予防）を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1) 13)	
国際性： 1. 検疫体制を含めた国際保健を理解し、必要に応じてグローバルな疾病の説明あるいは対応ができる。	D
【学習アウトカム】 1) 5)	

診　　断　　学

【ナンバリングコード】　M-06-26-C

【PBL コース責任者】
伊藤　隆英

【PBL コース主任】
森　龍彦

【PBL 指導教員】
（専任教員）
中野　隆史、矢野　貴人、田邊　由美、神吉　佐智子、藤阪　保仁、式見　良博、岩田　敏代、立花　せり、
髙井　真司、廣瀬　善信、小野　富三人、鈴木　富雄、橋本　忠幸、近藤　洋一、新田　雅彦
（特別講師）
大澤　仲昭、佐々木　一郎、吉田　麻美、下村　裕章

【科目の概要】
診断学の基盤をなす基礎医学、診断学の拠り所・原点となる病理解剖について学び、症候や検査所見から TBL 形式の模擬演習を行うことで、実践的な診断能力を習得する。また、東洋医学の診断・治療体系についても学び、実践的な東洋医学の診療能力を習得する。

（東洋医学入門の概要）
現代医療で使用される漢方薬（和漢薬）について、東洋医学の概念や診察法、漢方薬の作用や適応を理解し、患者のための最良の治療法を選択できる能力を習得することを目標とする。

（診断学の基盤の概要）
診断学の基盤をなす基礎医学をレヴューし、診断学の拠り所・原点となる病理解剖の概要を学ぶことで、基礎と臨床を俯瞰しながら科学的に病態・疾患を把握する思考を身につけ、現状の自己知識を客観的に評価する態度を涵養することを目標とする。

（診療の基礎とケア 1（臨床研究）の概要）
診療の基礎とケア 1 は、医療現場で重要な様々の事項を学習する。すなわち医療倫理、臨床研究、栄養管理などを通じて診療の基礎を学ぶ。
臨床研究を適切に実践するため、高い倫理性と科学的な視点を持つ医療者となるための基本を習得する。臨床研究法が施行され我が国の研究環境は大きくかわろうとしているが、人を対象とする研究の重要性は普遍であり、特に研究者倫理にも重点を置く。

（診療の基礎とケア 1（栄養管理）の概要）
栄養管理と食事の基本を学ぶ。

（TBL の概要）
大教室での TBL 形式の学習方略で、提示された症例のシナリオを用いて、症候学的な鑑別診断に力点を置き、実践的な臨床診断能力を高める。

【科目のゴール】

1）専門科目内教養事項について説明できる。

(東洋医学入門のゴール)

2）東洋医学の特徴・基本的概念を概説できる。

3）東洋医学と西洋医学の違いを説明できる。

4）漢方医学的診断の方法を説明・実践できる。

5）漢方医学の「証」について説明できる。

6）漢方方剤の構成、作用、適応症について説明できる。

7）漢方処方の有効性や副作用について説明できる。

(診断学の基盤のゴール)

8）診断学の基盤となる組織学的、発生学的、生理学的、生化学的、微生物学的、病理学的、薬理学的知識を涵養する。

9）病理解剖の臨床的・社会的意義を、関連する法律・法令等も列挙しながら述べることができる。

10）死戦期の病理（多臓器不全・ショック等）の特徴を述べることができる。

11）病理解剖結果から主病変、副病変、直接死因を適切に抽出することができる。

12）病理解剖結果を CPC 報告書形式でまとめることができる。

(診療の基礎とケア 1（臨床研究）のゴール)

13）臨床研究について理解する。

14）被験者保護や患者の権利、科学者の責任を理解する。

15）医薬品等の開発・育成について理解する。

16）科学性について理解する。

17）倫理性について理解する（利益相反を含む)。

18）臨床研究に関わる人的資源や必要な組織について理解する。

(診療の基礎とケア 1（栄養管理）のゴール)

19）栄養状態の評価判定を概説できる。

20）必要栄養量が計算できる。

21）栄養療法の種類と分類を述べることができる。

22）経静脈栄養と経腸栄養の適応・方法を説明できる。

23）疾患別食事療法を概説できる。

(TBL のゴール)

24）医療面接での適切な問診項目を症例に応じて具体的に列挙することができる。

25）病歴から想起できる重要な鑑別診断を列挙することができる。

26）想起した鑑別診断の事後確率を変え得る身体診察項目を列挙することができる。

27）病歴と身体診察の結果から鑑別診断を絞り込むことができる。

28）基本的な検査結果の解釈を臨床的に説明することができる。

29）最終診断に至るプロセスを理解し、疑問点を質問することができる。

30）グループで症例を討議し、結果を発表することができる。

【方略】

診断学の基盤の方略）病理解剖関連に関しては、最初に概略についての講義が行われ、実際の症例を通じて臨床病理学的検討を行い、CPC レポート形式でまとめを行う。

診断の土台となる基礎医学に関しては、それぞれの分野について系統的レヴューが行われ、ポイントとなる知識事項をＱ＆Ａ方式で肉付けする。

【評価】

① 合格点：100 点法により評価を行い、評価点が 60 点以上を合格とする。

② 評価点の算出・内訳：規程の評価基準に基づく。

③ 評価の形態：試験、授業への参加態度、レポート。

④ 再試験：上記評価点が 60 点未満の場合再試験を行う。評価点が 60 点以上を合格とする。
⑤ 追試験：正規評価が正当な事由により施行できなかった場合追試験を行うことがある。評価点が 60 点以上を合格とする。

【単位】　5.0

【教科書・参考書】
（東洋医学入門）
【教科書】
学生のための漢方医学テキスト：日本東洋医学会学術教育委員会編、南江堂
【参考書】
症例から学ぶ和漢診療学：医学書院
カラダを考える東洋医学：朝日新聞出版

（診断学の基盤）
【病理解剖演習の参考書】
臨床病理検討会の進め方・活かし方・CPC の作法：青笹　克之（監）、中山書店
CPC レポート作成マニュアル：田村　浩一、南江堂
臨床医・初期研修医のための病理検査室利用ガイド：笹野　公伸ら（編）、文光堂
【診断学の基盤となるシリーズの参考資料】
二年次に既習の「人体の構造」「人体の機能（生理）」「人体の機能（生化）」「病原体・生体防御 1，2」「病気の成り立ち 1」「薬物療法 1」の講義資料等

（診療の基礎とケア 1（臨床研究））
【教科書】
NIH 臨床研究の基本と実際 原書 3 版：丸善出版
【参考書】
米国 SWOG に学ぶ がん臨床試験の実践 第 2 版（原書第 3 版）：医学書院
WMA 医の倫理マニュアル（原著第 3 版）：日本医事新報社
臨床試験の進め方：大橋　靖雄 著、南江堂
リサーチ・クエスチョンの作り方 第 3 版：特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針：厚生労働省 平成 29 年 2 月 28 日一部改正
臨床研究法：平成 29 年法律第 16 号
医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン：日本医学会
科学者の行動規範：日本学術会議 平成 25 年 1 月 25 日

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：神吉　佐智子
内線・PHS：56614
E-mail：sachiko.kanki@ompu.ac.jp
内容：※事前に連絡しアポイントメントをとること。

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：廣瀬　善信
内線・PHS：2635
E-mail：yoshinobu.hirose@ompu.ac.jp
内容：場所：総合研究棟 5F　病理学教室
※事前にメール等で連絡し、アポイントメントをとること。

【オフィスアワー③】
担当教員氏名：鈴木　富雄
内線・PHS：2158
E-mail：tomio.suzuki@ompu.ac.jp
内容：※事前に連絡しアポイントメントをとること。

【医師実務経験のある教員】
伊藤　隆英、森　龍彦、藤阪　保仁、鈴木　富雄、廣瀬　善信、近藤　洋一、小野　富三人、中野　隆史、神吉　佐智子、大澤　仲昭、佐々木　一郎、下村　裕章、吉田　麻美、新田　雅彦、橋本　忠幸

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 14)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	C
【学習アウトカム】 30)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 2)-4) 9)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)-3) 8) 10) 13) 19)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 24)-29)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 28)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	C
【学習アウトカム】 16)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	C
【学習アウトカム】 16)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
5. 健康及び疾病に影響する環境因子を理解し、必要に応じて産業保健を活用し、あるいは災害医療を実践できる。	C
【学習アウトカム】 3) 4)	

臨　床　技　能　2

【ナンバリングコード】　M-06-28-B

【教員名】
瀧谷　公隆（医学教育センター）
伊藤　隆英（医学教育センター）
亀田　雅博（脳神経外科学）
横田　淳司（整形外科学）
宮嵜　孝子（内科学Ⅱ）
乾　崇樹（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）
藤田　修一（内科学Ⅲ）
神吉　佐智子（胸部外科学）

【科目の概要】
診療参加型臨床実習のさらなる活性化のため、医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）が実施するCBT（Computer Based Testing）と臨床実習前OSCE（Objective Structured Clinical Examination）が令和5年度から公的化された。臨床現場で適切かつ責任ある医行為を行うためには、臨床実習前の徹底的な習得が必要である。臨床技能の習得においては知識・技能・態度全ての統合が必要である。本科目では、臨床技能に関する講義を行った後に、臨床技能に関連した知識を確実に獲得するため、実習前確認試験を行う。そして、その後、臨床を模したシミュレーション環境において、神経・四肢脊柱、胸部、腹部、頭頸部診察の徹底的な訓練を行う。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）医行為としての臨床技能の意義を説明できる。
3）基本的な胸部診察・バイタルサイン測定を実践できる。
4）基本的な腹部診察を実践できる。
5）基本的な神経・四肢脊柱診察を実践できる。
6）基本的な頭頸部診察を実践できる。
7）診察にあたり、患者を尊重したコミュニケーションが実践できる。
8）医行為にあたり、適切な安全確保、感染対策が実践できる。

【方略】
1）遠隔形式での臨床技能に関する知識の獲得
2）実習前筆記試験による知識の確認
3）シミュレータもしくは学生相互による診察・検査手技の獲得
4）技能・態度に関するレポート作成と省察による理解の深化

【評価】
実習前筆記試験40％、受講態度30％、レポート30％　臨床技能を学び侵襲性を伴うため、遅刻は出席とは認めない。実習前筆記試験が不十分な場合、実習を認めない。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
ベイツ診察法　第 2 版　Bates'Guide to Physical Examination and History Taking
診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学修（学習）・評価項目（臨床実習前 OSCE）第 4.2 版：公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
診察と手技がみえる Vol1, Vol2：メディックメディア
OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技：診断と治療社
BLS プロバイダーマニュアル AHA ガイドライン 2020 準拠：American Heart Association（AHA:アメリカ心臓協会）

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：藤田　修一
E-mail：shuichi.fujita@ompu.ac.jp
内容：授業終了後 30 分。授業終了 30 分後以降は、メールアドレスでアポイントメントを取って訪問すること。

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：亀田　雅博
E-mail：masahiro.kameda@ompu.ac.jp
内容：授業終了後 30 分。授業終了 30 分後以降は、メールアドレスでアポイントメントを取って訪問すること。

【医師実務経験のある教員】
瀧谷　公隆、伊藤　隆英、亀田　雅博、横田　淳司、藤田　修一、神吉　佐智子

【SDGs との関連】
4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1) 2) 7) 8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
1. 患者の主要な病歴を、心理的、社会的背景を含め、正確かつ適切に聴取し記録できる。	C
【学習アウトカム】 2) 7) 8)	
11. 医療のリスク、医療安全、感染対策及び個人情報保護を理解し、遵守、実践、管理ができる。	B
【学習アウトカム】 8)	
13. 状況に応じて指導医や上級医にコンサルトする必要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 7)	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	B
【学習アウトカム】 2)	
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	C
【学習アウトカム】 2)	
4. 重要な疾患（頻度、緊急性、重症度の高い疾患）の診断と治療に必要な検査を選択し、主な検査所見を適切に解釈できる。	C
【学習アウトカム】 3)-6)	
5. 基本的臨床手技（緊急処置を含む）を安全かつ適切に実施できる。	B
【学習アウトカム】 8)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
2. 患者及び家族の心理的、社会的背景に配慮し双方向的で良好な人間関係が構築できる。	B
【学習アウトカム】 7)	
4. 医療チームの一員として、報告、連絡及び相談を適時かつ的確に行うことができる。	C
【学習アウトカム】 7)	

地　域　・　産　業　保　健

【ナンバリングコード】　M-08-02-C

【PBL コース責任者】
玉置　淳子

【PBL コース主任】
玉置　淳子

【PBL 指導教員】
（専任教員）
久藤　麻子、田中　美帆、津田　晃司、小川　拓
（非常勤講師）
辻　洋志、林　江美、倭　正也

【科目の概要】
医師法第一条に、「医師は、医療および保健活動を掌ることによって、公衆衛生の向上および増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と示してある。
公衆衛生学実習は、本学学生が実社会において与えられた、医療、保健、福祉に関する課題を体験し、自らの力でそれらの社会的役割や問題点を明らかにすることによって、その使命を担いうる医師（Public health minded doctor）に成長することを目標としている。またこの実習を進める間に、学生が学内外の実習指導者、地域住民、行政、地域団体あるいは学生同士と直接かつ密接にふれあうことによって、チームアプローチの重要性を体得する。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）地域における健康増進と疾病予防の対策について理解し説明できる。
3）わが国の高齢化の進行状況を理解し高齢者のケアの実態を説明できる。
4）高齢者を対象とした介護予防事業について説明できる。
5）少子化対策に対する法律や公的支援について説明できる。
6）わが国の検疫体制について理解し、海外における最新の感染症発症状況について説明できる。
7）事業所における産業保健の役割と作業者の健康管理について理解し説明できる。
8）地域における生活廃棄物の処理システムについて体験し、その果たすべき役割を説明できる。
9）公害の要因と影響について概要を理解し説明できる。
10）自殺対策について現状を理解し、公衆衛生が果たす役割を考える。

【方略】
各グループに分かれての実習フィールドワーク
①グループワーク
②ディスカッション
③ディベート
④反転授業 等を行う。
実習のまとめとしてプレゼンテーションを行う。
報告書作成

【評価】
① 成績の評価は医学部規定第 9 条により 100 点法によって行い、評価点が 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳　実習態度・技能により算出する。
③ 評価の形態　実習態度（倫理とプロフェッショナリズム、自律的探究能力）50％・技能（多職種連携とコミュニケーション）50％により算出する。
ただし評価の対象は大阪医科薬科大学　医学部規程第 7 条による。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】
公衆衛生がみえる：メディックメディア
国民衛生の動向：一般財団法人　厚生労働統計協会
国民の福祉と介護の動向：一般財団法人　厚生労働統計協会
労働衛生のしおり：中央労働災害防止協会
レビューブック　公衆衛生：メディックメディア
クエスチョン・バンク　公衆衛生：メディックメディア

【オフィスアワー】
担当教員氏名：玉置　淳子
内線・PHS：2650
E-mail：jtamaki@ompu.ac.jp
開始時間：16:30
終了時間：17:30
内容：月～金　総合研究棟 7F 衛生学・公衆衛生学

【医師実務経験のある教員】
玉置　淳子、小川　拓、辻　洋志、林　江美、倭　正也

【SDGs との関連】
3、4、5、7、8、11、12、13、16

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	B
【学習アウトカム】 1)-12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	A
【学習アウトカム】 1)-12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
社会性： 1. 地域医療の体制、機能及び現状を理解したうえで、最適の医療を判断し提供できる。	E
【学習アウトカム】 1)-12)	

死　と　科　学

【ナンバリングコード】　M-08-03-D

【PBL コース責任者】
佐藤　貴子

【PBL コース主任】
森　一也

【PBL 指導教員】
(専任教員)
片木　宗弘、森岡　郁哉、齊藤　高志
(嘱託教員)
鈴木　廣一

【科目の概要】
日本は近い将来「多死社会」に突入するといわれている。「人の死」を扱う事は、医師の重要な責務のひとつである。日本における法医解剖を取り巻く社会的現状、法制度について理解し、基本的な法医学的知識を得ることを目標とする。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）法医解剖の種類と根拠法令を説明できる。
3）我が国の法医学を取り巻く環境の問題点を説明できる。
4）死亡診断書の意義を説明し、作成できる。
5）死後の身体的変化を経時的に説明できる。
6）窒息を原因別に分類できる。
7）損傷を分類してその発生機序を説明できる。
8）異常環境下での死亡の機序とそれぞれの診断根拠となる所見を挙げることができる。
9）虐待について説明し、法的に正しく対処できる。
10）代表的な血液型形質について、それぞれの遺伝的な面と臨床的な面での特徴を挙げることができる。
11）DNA 多型の概要を説明できる。
12）種々の薬毒物について、その概要や臨床所見を説明できる。
13）血液型検査や簡易薬毒物検査を 1 人ででき、その仕組みを説明できる。
14）法医学に関する研究の種類やその方法を説明することができる。
15）法医解剖における術式やその流れについて説明することができる。
16）矯正医療について、存在意義や制度について説明できる。
17）法歯学について、その概要と法医学の中で果たす役割について説明できる。

【方略】
各項目について、プリント、スライド等を用いて講義を行い、適宜、質疑応答を行う。

【評価】
① 合格点：100 点法により総合評価を行い、総合評価点 60 点以上を合格とする。
② 評価点の算出・内訳：実習レポートに 10％、試験に 90％を配分する。
③ 評価の形態：授業態度、筆記試験（マークシート式)、記述式で行う。

④ 再試験：総合評価点 60 点未満の者は再試験の対象となる。
再試験は状況に応じて、マークシート式、記述式、口頭試問式をとる。
⑤ 追試験：しかるべき理由があった者に対して、再試験のタイミングで実施する。評価などは、本試験とほぼ同様とする。
⑥ 試験後解説を行い、質問があればオフィスアワーを設けて個別で質問を受けることによりフィードバックを行う。

【単位】 4.0

【教科書・参考書】
特に指定しない。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：佐藤　貴子
内線・PHS：2642
E-mail：takako.sato@ompu.ac.jp
開始時間：16:30
終了時間：17:00
内容：※事前に連絡しアポイントメントをとること

【医師実務経験のある教員】
佐藤　貴子、森岡　郁哉、鈴木　廣一

【SDGs との関連】
3、10、16

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	D
【学習アウトカム】 1)-13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	D
【学習アウトカム】 1)-13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
2. 医学研究や診療に必要な情報に関する基礎知識を有し、情報の適切な取り扱いに活用できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	
5. 代表的な疾患の病因、病態及び病的状態の成立機序を説明できる。	D
【学習アウトカム】 3)-4) 6) 9)-10)	
7. 外来診療やベッドサイドで求められる基本的な診療手技及び診療技術に関する知識を有し、活用できる。	D
【学習アウトカム】 12)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 実践的診療能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 統合された科学的知識、技能、態度及び倫理的判断に基づいて、疾病及び治療に関する専門知識や技術を効果的に活用しながら、患者に敬意と思いやりをもちつつ、個人を尊重した、全人的で安全かつ適切な診療を実践できる。	
2. 成人及び小児患者の身体診察を適切に実施し、所見を正確に記録できる。	D
【学習アウトカム】 1)-13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
3. 臨床推論により、鑑別診断を挙げながら、系統立てて主要疾患を診断できる。	D
【学習アウトカム】 1)-13)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 医師法、医療法及び医療関連法規を理解し、遵守しながら行動できる。	D
【学習アウトカム】 1)-3)	

医　学　英　語　3

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
教　授：藤枝　美穂
准教授：浅野　元子
非常勤講師：FUSTING Bjorn

【科目の概要】
3 年次までに学習した内容を踏まえ、専門的な内容の論文や臨床会話の教材を用いて、医学・医療に関する情報収集、情報発信、対人コミュニケーションを英語で実践できるようになることを目標とする（日本医学英語教育学会ガイドライン＊の要件等）。4 年次では引き続き、オーラルコミュニケーション、リーディング、リスニングに焦点をあてた演習を技能別に行う（C, R, W）。E- ラーニング教材を利用した医学・医療語彙学習を継続する（V）。
＊「医学教育分野別評価基準日本版（グローバルスタンダード）に対応するための医学英語教育ガイドライン」（日本医学英語教育学会 , 2015）V: Vocabulary, R: Reading, W: Writing, C: Communication.
{URL: https://jasmee.jp/wp-content/uploads/2017/07/Guidelines_Jpn.pdf,https://jasmee.jp/wp-content/uploads/2017/07/Guidelines_Jpn.pdf}

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）医学英語論文に特有の論理展開を理解し、素早く正確に必要な情報を把握することができる。
3）医師と患者との間の英語による臨床会話のパターンを理解し、それを応用して自ら臨床会話を実践することができる。
4）英語による症例報告を聴解し、正確に内容や論理展開を把握することができる。

【方略】
講義及びグループまたは個人による演習。教材の配布、課題の提出とフィードバックに Moodle、語彙学習に ALC NetAcademy NEXT 等、ICT を積極的に活用する。英語の総合的な運用能力を継続的に測定するために外部試験（TOEFL-ITP）を実施する。

【評価】
「演習」科目であるので，全出席を原則とする。
① 合格点：60 点
② 評価の内訳：
・授業参加度 10％
・課題・小テスト 30％
・最終試験 60％
③ 評価の形態
・課題には授業中のアクティビティ及び授業外の課題が含まれる（提出期限厳守）。
・最終試験は記述式とする。
・オーラルコミュニケーションでは，記述式の最終試験のほかに，授業時間内にスピーキングテストを実施する。
・TOEFL-ITP は授業の一環として行い、未受験の場合 3 回欠席扱いとなる。
TOEFL-ITP のスコアは最終成績に反映する（550 点以上＋ 5 点、500 ～ 549 点＋ 3 点、390 点未満－ 3 点）。
④ 再試験
授業参加度、課題・小テスト、最終試験の総合成績で判断する。再試験対象の基準は 60％未満。

⑤ 追試験
最終試験がやむを得ない事情で受験できず、当日までにその事情を報告した場合に限り、受験を認める。
⑥ 課題に対するアセスメントとフィードバック
各技能を担当する教員が、そのつどワークシート等の課題の採点やコメントを通じて全体または個別にフィードバックを行う。生成型 AI のみによる成果物と判断される場合は評価対象外となる。TOEFL-ITP については、技能別スコアおよび前年度とのスコア比較等により、自己の英語運用能力を客観的に把握し学習計画を立てるよう適宜アドバイスを与える。

【単位】 0.5

【教科書・参考書】
教科書：授業前・授業時に資料を配布する
参考書：高橋玲（監修・執筆）『キクタンメディカル　3. 診療と臨床検査編』アルク　2010 年

E ラーニング：アルク NetAcademy NEXT 英単語パワーアップコース　医学・医療編
{URL: https://nanext.alcnanext.jp/anetn/student/stlogin/index/omc-gogaku,https://nanext.alcnanext.jp/anetn/student/stlogin/index/omc-gogaku}

【オフィスアワー①】
担当教員氏名：藤枝　美穂
内線・PHS：2954
E-mail：miho.fujieda@ompu.ac.jp
内容：※内線・メールにて適宜アポイントメントを取ってください。
場所：総合研究棟 6 階 605

【オフィスアワー②】
担当教員氏名：浅野　元子
内線・PHS：2958
E-mail：motoko.asano@ompu.ac.jp
内容：※内線・メールにて適宜アポイントメントを取ってください。
場所：総合研究棟 6 階 605

【SDGs との関連】
4

【備考】
リーディングは課題の実施に Moodle などを活用するためサイトにアクセスして英文を適切に入力できるデバイス（なるべく PC）が必要。
リスニングの授業時は、音声を聞くためのデバイス（スマホ可）とイヤホンを持参すること。

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
3. 海外の医学生を含む医療者と積極的に交流し、情報交換できる。	C
【学習アウトカム】 1)-4)	
2. 医学情報発信に必要な外国語表現力を養い、実践できる。	C
【学習アウトカム】 1)-4)	

学　生　研　究　3

【ナンバリングコード】　M-07-03-A

【教員名】
中野　隆史（微生物学・感染制御学教室、医学教育センター）
瀧谷　公隆（医学教育センター）
伊藤　ゆり（医療統計室）
各配属教室責任者・担当者

【科目の概要】
本科目は、大阪医科薬科大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに含まれる。
平成 29 年度より施行される新カリキュラムでは、6 年間の統合的な講義シリーズとして「学生研究プログラム」が新設された。これは学生がリサーチマインドを醸成し、自ら課題を発見し、それを解決する、という姿勢を身につけるとともに、医師として EBM（evidence-based medicine）を実践できることを目的にしている。
「学生研究プログラム」の中心は、第 3 学年に設定している学生研究コア期間（研究室配属期間）である。
第 4 学年では、学生研究コア期間で得られたデータをまとめ、研究成果を社会に還元する方法である発表法を実践することで、医学研究全体について学ぶことを目的としている。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
2）医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。
3）基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。
4）自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。
5）自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。
6）基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。
7）研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。
8）研究における倫理的問題への配慮ができる。

【方略】
下記に評価とともに示す。

【評価】
授業態度、発表内容の審査委員およびピアレビューによる評価を総合的に勘案して評価する。

配属先の各教室担当教員と研究プロトコル、実験結果等について毎回ディスカッションすることでフィードバックを行う。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
とくに指定しない。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：中野　隆史
内線・PHS：2646
E-mail：tnakano@ompu.ac.jp
内容：質問・相談等あれば上記メールアドレスにご連絡ください。

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、瀧谷　公隆

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
1. 医学や科学の広い範囲を、探究心や豊かな感性を持って学ぶことができる。	A
【学習アウトカム】 1) 2)	
2. 基礎と臨床を総合して、科学的な思考に基づいて、疑問を発しつつ学ぶことができる。	A
【学習アウトカム】 3)	
3. 自己の現在の知識や技能を的確に評価して、さらに向上するための計画を立てて実行することができる。	A
【学習アウトカム】 4)	
4. 自己を生涯に渡って向上させ続ける動機を形成し、その姿勢をもつことができる。	A
【学習アウトカム】 5)	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	A
【学習アウトカム】 6)	

学習アウトカム	科目達成レベル
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	A
【学習アウトカム】 7)	
7. 研究における倫理的問題への配慮ができる。	A
【学習アウトカム】 8)	

医療プロフェッショナリズム・コア 2

【ナンバリングコード】　M-05-09-B

【コース責任者】
森　龍彦（医学教育センター）

【コース主任】
伊藤　隆英（医学教育センター）

【指導教員】
(専任教員)
藤阪　保仁（腫瘍内科学）
浅石　健（緩和ケアセンター）

【科目の概要】
医療職に必要なプロフェッショナリズムについて学ぶ。日常臨床に必要とされるコミュニケーションの確率方法、患者さんの気持ちの受け取り方、医療と倫理、医療関連法規、さらに、臨床技能の涵養を目標としている。

5 月 26 日（月）に、看護学部、薬学部との多職種連携教育の一貫として、事例ベースでの『多職種連携論？医療倫理』演習を行う。
実施要項は後日配布する。必ず出席すること。

【科目のゴール】
1）専門科目内教養事項について説明できる。
(医学・医療と倫理)
2）患者に分かりやすい言葉で対話できる。
3）医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。
4）医の倫理と生命倫理に関する規範、ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言などを概説できる。
5）医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。
6）医療行為が患者と医師との契約的な信頼関係にもとづいていることを説明できる。
7）インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。
8）説明を受ける患者の心理状態は理解度について配慮できる。
9）患者の質問に適切に答え、拒否的反応にも柔軟に対応できる。
10）患者のプライバシーに配慮できる。
11）患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱ができる。
12）患者の基本的権利の内容を説明できる。
13）患者の自己決定権の意義を説明できる。
14）患者が自己決定できない場合の対処法を説明できる。
15）患者の個人的、社会的背景等が異なってもわけへだてなく対応できる。
16）患者やその家族の持つ価値観が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。
17）生と死に関わる倫理的問題を自分の問題として考えることができる。
18）コミュニケーションが態度あるいは行動に及ぼす影響を概説できる。
19）患者やその家族と信頼関係を築くことができる。
20）患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。
21）コミュニケーションを通じて良好な人間関係を築くことができる。

（ライフステージと医療）
22）ライフステージに応じた医療の必要性について説明できる。
23）ヒトのライフステージを概説できる。
24）ライフステージの違いと疾患の特徴について説明できる。
25）ライフステージに応じた地域医療資源について説明できる。
26）各ライフステージに適した社会資源について説明できる。
27）人口動態、ライフステージと医療経済について説明できる。
28）ライフステージの異なる患者と適切なコミュニケーションをとることができる。
29）ライフステージの異なる患者と良好な人間関係を構築することができる。

【方略】
講義及び実習により行う。

【評価】
授業態度、レポート、ペーパーテストによる。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
・授業中に資料を配布する。
・外部公開資料として「ユネスコ生命倫理ケースブック」翻訳版
{http://jsme.umin.ac.jp/com/pro/report_unesco2020.html,http://jsme.umin.ac.jp/com/pro/report_unesco2020.html} の自主学習を推奨する。

【オフィスアワー】
担当教員氏名：森　龍彦
内線・PHS：56719
E-mail：tatsuhiko.mori@ompu.ac.jp
開始時間：9:30
終了時間：11:30
内容：曜日：火曜日
場所：医学教育センター

【医師実務経験のある教員】
森　龍彦、伊藤　隆英、藤阪　保仁、浅石　健

【SDGs との関連】
3、4

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1)-21)	
2. 医師の法的責任、規範、所属機関の内規等を遵守するとともに、倫理的責任にまで配慮し、行動できる。	C
【学習アウトカム】 4)11)	
3. 高度専門職に必要な社会への説明責任を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 2)3)7)-9)	
4. 患者情報などの個人情報を守秘する責務を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 4)11)	
6. 医療従事者としての自己管理を実践できる。	C
【学習アウトカム】 4)	
7. 多様性を受容する人間性をもち、自立と指導監督との適切なバランスを常に保つことができる。	C
【学習アウトカム】 16)20)28)29)	
8. 医学や医療の発展、人類の福祉や公衆衛生の向上に貢献することの重要性を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 4)21)-29)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
3. ヒトの行動や心理の変化を理解する基礎知識を有し、医学、医療に活用できる。	D
【学習アウトカム】 8) 18) 20)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 　多職種連携とコミュニケーション	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 　他の医療職の多様な立場や考え方を理解し、尊重し、傾聴と共感力をもって相手と接することができる。また、自分の考えをわかりやすく正確に説明し伝えることができる。それにより患者中心の多職種連携医療を実践するために、チーム医療の場において主体性を持って広く良好な人間関係を構築することができる。	
多職種連携： 1. 多職種よりなるチーム医療の意義を理解し、実践できる。	C
【学習アウトカム】 21)	
2. 医師の役割を理解し、医師としての責務を果たすことができる。	C
【学習アウトカム】 21)	

臨床実習前客観的臨床能力試験（Pre-CC OSCE）

(Pre Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination)

【教員名】

医学系 OSCE 実行委員会、医学系 OSCE 担当教員

【試験の概要】

国家資格を持たない医学生が、初期臨床研修医に連続するレベルの医行為を行うためには、患者の安全性担保と医学生の能力評価による質保証を行う必要がある。2005 年から参加型臨床実習開始前に医学的知識を問う共用試験 Computer Based Test（CBT）と、主に技能および態度評価である客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）が導入された。これらの試験は、医療系大学間共用試験実施評価機構（Common Achievement Tests Organization: CATO）により提供され、臨床実習（Clinical Clerkship: CC）前に行われる OSCE は一般的に Pre-CC OSCE と呼称される。試験は外部評価者が来訪し、厳正に評価を行う。医学生は、CBT と Pre-CC OSCE に合格することで、医療系大学間共用試験実施評価機構から、「臨床実習生（医学）」として認証され、医行為を行うことが許容される。

いわゆる「技能」と「態度」を評価する試験であり、OSCE 前実習を含めた臨床技能に関する実習の成果を評価する。

【試験の内容】

医療面接は 10 分、腹部、胸部、全身状態とバイタルサイン、頭頸部、神経、救急、四肢と脊柱、基本的臨床手技、感染対策は 5 分ごとの試験時間を設ける。詳細は、http://www.cato.umin.jp/index.html に従って施行する。

【日時】

2025 年 11 月 8 日（土）に本学構内で行う。

【評価】

最低 2 名の評価者による客観的評価を行う。臨床実習生（医学）認定に必須の総括的試験である。不合格の場合は再試験を行うことがある。

【備考】

オリエンテーション以外にも説明会を実施予定。

【医師実務経験のある教員】

瀧谷　公隆、森　龍彦、伊藤　隆英

多職種連携論３ - 医療倫理【５月26日 月曜日】

【教員名】
中野　隆史、瀧谷　公隆（医学教育センター）

【科目の概要】
継続的な変化を続ける医療環境の中で医療安全を担保し、患者予後を改善するためには、多職種協働に基づいた良質なチーム医療が必要である。そして、多職種協働を推進するための多職種連携教育は、職種間コミュニケーションやガバナンス課題解決法として期待されている。
全人的・包括的医療を提供するために、医療安全や倫理的判断等に関して討議し、各専門職の協働のあり方について考えを深める。

【科目のゴール】
１）協働する各々の専門職としての役割と責任に関して理解を深める。
２）事例を通して、医療倫理に関する判断についての専門職として考え方を明確にする。
３）事例に応じて、他の専門職者の役割を考える。
４）医療チームとしてそれぞれの立場を尊重できる。
５）チームメンバーの様々な考えや意見を共有し、調整できる。
６）患者・家族によりよい医療を提供するために、チームの方針を提案できる。

【方略】
2025 年 5 月 26 日（月）10：00 ～ 17：00 に集合型演習を行う。事前事後学修課題やテーマ、及び開催形式に関しては後日配信する。グループワークによる演習と自己省察で多職種連携教育に関する理解を深め実践に結び付ける。

【評価】
評価：レポートと GW2 のプロダクト、受講態度（GW の参加態度をファシリテーター教員が評価する）
事後フィードバック：プロダクトを pdf 資料として 3 学部に共有する。

【単位】
医療プロフェッショナリズム・コア 2 における必修演習である。

【備考】
外部公開資料：「ユネスコ生命倫理ケースブック」翻訳版
http://jsme.umin.ac.jp/com/pro/report_unesco2020.html　を適宜参照すること

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、瀧谷　公隆

インタラクティブ・イングリッシュⅠ

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションを基に、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聴くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢を獲得することができる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）身近なトピック（学生生活、趣味など）について、簡単な英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。
4）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc.
World Voices 3, ABAX ELT Publishing

【SDGsとの関連】
3、4、10

インタラクティブ・イングリッシュⅡ

【ナンバリングコード】　M-02-06-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）医療場面において、英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoom を使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージラーニング株式会社
参考書等は学習の進行に合わせて随時紹介する。

【SDGs との関連】
3、4、10

医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都

【ナンバリングコード】　M-01-04-D

【教員名】
永井　純也、倉田　純一、山本　健、中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦、堀池　諒、芝野　真喜雄、國澤　研大、宮本　勝城、池田　勝彦、田和　正志、細身　亮太、内山　博雅、平野　義明

【科目の概要】
近年、生命科学分野の各学問領域が拡大し、医学、工学、薬学、看護学の学術交流が、益々、盛んになりつつあります。また、医療現場では、医師、薬剤師、看護師だけでなく、臨床工学技士など新しい資格を持った専門家が活躍の場を広げています。

関西大学と大阪医科薬科大学は、このような状況に対応すべく、医学、薬学だけでなく看護学や福祉に関するテクノロジーにも精通した優れた人材の育成をめざし、両大学がそれぞれの特長を活かし、両大学共通講義科目「医工薬連環科学」を開設しています。独自の基礎教育科目である本講義は、各学問分野の概略を鳥瞰し、それぞれの分野の特性を理解するとともに、各学問分野の融合によって発展できる学際領域についての知識を修得および醸成することを目的とします。

講義は、関西大学（システム理工学部、化学生命工学部）、大阪医科薬科大学（医学部、薬学部、看護学部）の教員が分担で担当し、ある家族が遭遇する生死、病気、治療等についてストーリー仕立てのオムニバス形式で、医学・工学・薬学・看護学の各分野を体系的に学習できるよう、講義します。

医学部・看護学部の担当講義では、本講義の導入として、人の誕生から旅立ち（死）に至るまでに、医学や看護学が病気の治療、健康やQOL（Quality Of Life）の維持・向上にどのように関与しているかについて解説します。

また、薬学部の担当講義では、薬のシードの発見から医薬品という製品ができるまでのプロセスを、生理活性分子の創製、薬理学、薬剤学・製剤学を専門とする教員によって順を追って解説します。

さらに、関西大学の担当講義では、医療を支える福祉・介護技術、再生医療、医療機器や食品技術に関して、それぞれの分野を専門とする教員によって順を追って解説します。

【科目のゴール】
医療を医学・工学・薬学・看護学のそれぞれの立場から理解するために、これらの学問分野の融合によって発展しうる新しい学際領域に関する基本的知識を修得します。

【方略】
各大学の講義担当者により作成された資料集とパワーポイントを用いて、遠隔講義またはDVDによる講義で行います。今後の講義の参考にするため、毎回アンケートを実施します。

【評価】
大阪医科薬科大学医学部：授業態度（50％）とレポート（50％）によって総合的に評価します。
大阪医科薬科大学薬学部：レポート内容によって総合的に評価します（100％）。
大阪医科薬科大学看護学部：レポート（80％）と受講態度（20％）によって総合的に評価します。
関西大学：レポート（80％）及び受講態度（20％）によって総合的に評価します。

【単位】　2.0

【教科書・参考書】

参考書：「医工薬連環科学が果たす役割と可能性　高槻家の成長に寄り添う医療」関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学　医工薬連環科学教育研究機構　編著、ライフサイエンス出版

【医師実務経験のある教員】

中野　隆史、伊藤　隆英、森　龍彦

【SDGs との関連】

4

第　5　学　年

2025年度　第５学年授業時間割

※日々の時間割は変更する場合があります。①担当教員からの連絡 ②UNIPA を常に確認するようにしてください。

（講義場所：原則としてＰ 101 教室）

時間割表		１限目	２限目	３限目	４限目	休	５限目	６限目	７限目	８限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	3/29(土)	11:00 ～　オリエンテーション								
第13週	3/31(月)	コア CC					コア CC			
	4/1(火)	コア CC					コア CC			
	4/2(水)	コア CC					コア CC			
	4/3(木)	コア CC					コア CC			
	4/4(金)	コア CC					コア CC			
第14週	4/7(月)	コア CC					コア CC			
	4/8(火)	コア CC					コア CC			
	4/9(水)	コア CC					コア CC			
	4/10(木)	コア CC					コア CC			
	4/11(金)	コア CC					コア CC			
第15週	4/14(月)	コア CC					コア CC			
	4/15(火)	コア CC					コア CC			
	4/16(水)	コア CC					健康診断			
	4/17(木)	コア CC					コア CC			
	4/18(金)	コア CC					コア CC			
第16週	4/21(月)	コア CC					コア CC			
	4/22(火)	コア CC					コア CC			
	4/23(水)	コア CC					コア CC			
	4/24(木)	コア CC					コア CC			
	4/25(金)	コア CC					コア CC			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第17週	4/28(月)	コア CC					コア CC			
	4/29(火)祝	昭和の日								
	4/30(水)	コア CC					コア CC			
	5/1(木)	コア CC					コア CC			
	5/2(金)	コア CC					コア CC			
	5/5(月)祝	こどもの日								
	5/6(火)祝	こどもの日振替休日								
	5/10(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ オリエンテーション								
第18週	5/12(月)	コア CC					コア CC			
	5/13(火)	コア CC					コア CC			
	5/14(水)	コア CC					コア CC			
	5/15(木)	コア CC					コア CC			
	5/16(金)	コア CC					コア CC			
第19週	5/19(月)	コア CC					コア CC			
	5/20(火)	コア CC					コア CC			
	5/21(水)	コア CC					コア CC			
	5/22(木)	コア CC					コア CC			
	5/23(金)	コア CC					コア CC			
	5/24(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第20週	5/26(月)	コア CC					コア CC			
	5/27(火)	コア CC					コア CC			
	5/28(水)	コア CC					コア CC			
	5/29(木)	コア CC					コア CC			
	5/30(金)	コア CC					コア CC			
	5/31(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第21週	6/2(月)	コア CC					コア CC			
	6/3(火)	コア CC					コア CC			
	6/4(水)	コア CC					コア CC			
	6/5(木)	コア CC					コア CC			
	6/6(金)	コア CC					コア CC			
第22週	6/9(月)	コア CC					コア CC			
	6/10(火)	コア CC					コア CC			
	6/11(水)	コア CC					コア CC			
	6/12(木)	コア CC					コア CC			
	6/13(金)	コア CC					コア CC			
第23週	6/16(月)	コア CC					コア CC			
	6/17(火)	コア CC					コア CC			
	6/18(水)	コア CC					コア CC			
	6/19(木)	コア CC					コア CC			
	6/20(金)	コア CC					コア CC			
	6/21(土)	炎祭								
第24週	6/23(月)	コア CC					コア CC			
	6/24(火)	コア CC					コア CC			
	6/25(水)	コア CC					コア CC			
	6/26(木)	コア CC					コア CC			
	6/27(金)	コア CC					コア CC			
	6/28(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第25週	6/30(月)	多職種連携論－医療安全					多職種連携論－医療安全			
	7/1(火)	コア CC					コア CC			
	7/2(水)	コア CC					コア CC			
	7/3(木)	コア CC					コア CC			
	7/4(金)	コア CC					コア CC			
	7/5(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第26週	7/7(月)	コア CC					コア CC			
	7/8(火)	コア CC					コア CC			
	7/9(水)	コア CC					コア CC			
	7/10(木)	コア CC					コア CC			
	7/11(金)	コア CC					コア CC			
第27週	7/14(月)	コア CC					コア CC			
	7/15(火)	コア CC					コア CC			
	7/16(水)	コア CC					コア CC			
	7/17(木)	コア CC					コア CC			
	7/18(金)	コア CC					コア CC			
第28週	7/21(月)祝	海の日								
	7/22(火)	コア CC					コア CC			
	7/23(水)	コア CC					コア CC			
	7/24(木)	コア CC					コア CC			
	7/25(金)	コア CC					コア CC			
	8/22(金)	臨床実習履修評価試験①					臨床実習履修評価試験①			
第29週	8/25(月)	コア CC					コア CC			
	8/26(火)	コア CC					コア CC			
	8/27(水)	コア CC					コア CC			
	8/28(木)	コア CC					コア CC			
	8/29(金)	コア CC					コア CC			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第30週	9/1(月)	コア CC					コア CC			
	9/2(火)	コア CC					コア CC			
	9/3(水)	コア CC					コア CC			
	9/4(木)	コア CC					コア CC			
	9/5(金)	コア CC					コア CC			
第31週	9/8(月)	コア CC					コア CC			
	9/9(火)	コア CC					コア CC			
	9/10(水)	コア CC					コア CC			
	9/11(木)	コア CC					コア CC			
	9/12(金)	コア CC					コア CC			
第32週	9/15(月)祝	敬老の日								
	9/16(火)	コア CC					コア CC			
	9/17(水)	コア CC					コア CC			
	9/18(木)	コア CC					コア CC			
	9/19(金)	コア CC					コア CC			
	9/20(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ オリエンテーション								
第33週	9/22(月)	コア CC					コア CC			
	9/23(火)祝	秋分の日								
	9/24(水)	コア CC					コア CC			
	9/25(木)	コア CC					コア CC			
	9/26(金)	コア CC					コア CC			
第34週	9/29(月)	コア CC					コア CC			
	9/30(火)	コア CC					コア CC			
	10/1(水)	コア CC					コア CC			
	10/2(木)	コア CC					コア CC			
	10/3(金)	コア CC					コア CC			
	10/4(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第35週	10/6(月)	コア CC					コア CC			
	10/7(火)	コア CC					コア CC			
	10/8(水)	コア CC					コア CC			
	10/9(木)	コア CC					コア CC			
	10/10(金)	コア CC					コア CC			
	10/11(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第36週	10/13(月)祝	スポーツの日								
	10/14(火)	コア CC					コア CC			
	10/15(水)	コア CC					コア CC			
	10/16(木)	コア CC					コア CC			
	10/17(金)	コア CC					コア CC			
第37週	10/20(月)	コア CC					コア CC			
	10/21(火)	コア CC					コア CC			
	10/22(水)	コア CC					コア CC			
	10/23(木)	コア CC					コア CC			
	10/24(金)	コア CC					コア CC			
	10/25(土)	学園祭								
第38週	10/27(月)	コア CC					コア CC			
	10/28(火)	コア CC					コア CC			
	10/29(水)	コア CC					コア CC			
	10/30(木)	コア CC					コア CC			
	10/31(金)	コア CC					コア CC			
第39週	11/3(月)祝	文化の日								
	11/4(火)	コア CC					コア CC			
	11/5(水)	コア CC					コア CC			
	11/6(木)	コア CC					コア CC			
	11/7(金)	コア CC					コア CC			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第40週	11/10(月)	コア CC					コア CC			
	11/11(火)	コア CC					コア CC			
	11/12(水)	コア CC					コア CC			
	11/13(木)	コア CC					コア CC			
	11/14(金)	コア CC					コア CC			
	11/15(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第41週	11/17(月)	コア CC					コア CC			
	11/18(火)	コア CC					コア CC			
	11/19(水)	コア CC					コア CC			
	11/20(木)	コア CC					コア CC			
	11/21(金)	コア CC					コア CC			
	11/22(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
第42週	11/24(月)祝	勤労感謝の日振替休日								
	11/25(火)	コア CC					コア CC			
	11/26(水)	コア CC					コア CC			
	11/27(木)	コア CC					コア CC			
	11/28(金)	コア CC					コア CC			
第43週	12/1(月)	コア CC					コア CC			
	12/2(火)	コア CC					コア CC			
	12/3(水)	コア CC					コア CC			
	12/4(木)	コア CC					コア CC			
	12/5(金)	コア CC					コア CC			
第44週	12/8(月)	コア CC					コア CC			
	12/9(火)	コア CC					コア CC			
	12/10(水)	コア CC					コア CC			
	12/11(木)	コア CC					コア CC			
	12/12(金)	コア CC					コア CC			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	1/7(水)	臨床実習履修評価試験②					臨床実習履修評価試験②			
	1/21(水)	進級判定(発表時間は未定)					進級判定(発表時間は未定)			
アドバンストCC第1週	2/2(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/3(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/4(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/5(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/6(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
アドバンストCC第2週	2/9(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/10(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/11(水)祝	建国記念日								
	2/12(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/13(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
アドバンストCC第3週	2/16(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/17(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/18(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/19(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/20(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
アドバンストCC第4週	2/23(月)祝	天皇誕生日								
	2/24(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/25(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/26(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	2/27(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
アドバンストCC第5週	3/2(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/3(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/4(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/5(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/6(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
アドバンストCC第6週	3/9(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/10(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/11(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/12(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/13(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
アドバンストCC第7週	3/16(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/17(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/18(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/19(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/20(金)祝	春分の日								
	3/21(土)	オリエンテーション								
アドバンストCC第8週	3/23(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/24(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/25(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/26(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/27(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
アドバンストCC第9週	3/30(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	3/31(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			

多職種連携論４ - 医療安全【６月30日 月曜日】

【教員名】
中野　隆史、瀧谷　公隆（医学教育センター）
新田　雅彦（医療安全推進室）

【科目の概要】
継続的な変化を続ける医療環境の中で医療安全を担保し、患者予後を改善するためには、多職種協働に基づいた良質なチーム医療が必要である。そして、多職種協働を推進するための多職種連携教育は、職種間コミュニケーションやガバナンス課題解決法として期待されている。
全人的・包括的医療を提供するために、医療安全や倫理的判断等に関して討議し、各専門職の協働のあり方について考えを深める。

【科目のゴール】
1）協働する各々の専門職としての役割と責任に関して理解を深める。
2）事例を通して、医療倫理に関する判断についての専門職として考え方を明確にする。
3）事例に応じて、他の専門職者の役割を考える。
4）医療チームとしてそれぞれの立場を尊重できる。
5）チームメンバーの様々な考えや意見を共有し、調整できる。
6）患者・家族によりよい医療を提供するために、チームの方針を提案できる。

【方略】
2025 年 6 月 30 日（月）9：30 ～ 16：00 に集合型演習を行う。事前事後学修課題やテーマ、及び開催形式に関しては後日配信する。グループワークによる演習と自己省察で多職種連携教育に関する理解を深め実践に結び付ける。
「医療安全課題解決のために必要な多職種連携とは何か？そのために自分は今から何をすべきか？」

【評価】
評価：レポート 60％、受講態度 40％
事後フィードバック：各グループが作成したプロダクトを PDF 資料として 3 学部に共有する。

【単位】
コア・クリニカルクラークシップにおける必修演習である。

【備考】
「医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”」https://kyodokodo.jp/
の行動目標や支援ツールを適宜参照すること。

【医師実務経験のある教員】
中野　隆史、瀧谷　公隆、新田　雅彦

データサイエンス 3

【ナンバリングコード】　M-10-03-C

【教員名】
伊藤　ゆり

【科目の概要】
この科目では、実際に医療統計に関するデータを検索・収集し、統計的手法を適用し分析したものを研究発表することまでを行う。３，４学年時学生研究において学習した医療統計学の知識に基づき、研究デザインを吟味・検討する。また、データの検索・収集したデータを用いて、統計ソフト JMP 等により、分析を行う。得られた分析結果に対し、適切な文献等を引用し、解釈を行い、研究発表を行う。受講生同士で、研究発表に対し、科学的に Discussion を行う場を提供する。

【科目のゴール】
１）根拠をつくるデータを検索する：統計の知識の復習し、データの検索方法を学ぶ
２）データを元に分析する：統計ソフトを用いたデータ分析方法を習得する
３）分析結果をまとめる：統計ソフトを用いた分析、結果のまとめ方について学ぶ
４）分析結果を発表する：統計解析の結果を元にした考察、発表と質疑応答を行う

【方略】
講義・演習の内容について提示された予習・復習項目を元に自ら理解度の省察を行う。必要に応じて、書籍やオンライン教材などによる学習を行う。

【評価】
出席および毎回のミニレポート（50％）と研究発表内容と他者への質疑応答（50％）

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
佐藤俊哉：宇宙怪人しまりす統計よりも重要なことを学ぶ（朝倉書店）、ヘルスデータサイエンス―健康科学のための統計解析―（共立出版）、FACTFULNESS（ファクトフルネス）10 の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣

【オフィスアワー】
担当教員氏名：伊藤　ゆり
E-mail：yuri.ito@ompu.ac.jp
内容：メールでアポイントメントを取った後、医療統計室で施行

【SDGs との関連】
1、3、4、5、10、11、17

【学習アウトカムと科目達成レベル】

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 倫理とプロフェッショナリズム	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 高度専門職人としての高い自律性と、大阪医薬大人としての誇りをもとに、自己管理能力とリーダーシップをもちながら、患者を含めた他者に敬意をもって接することができ、生涯にわたって学び続け、社会に貢献することができる。	
1. 高度専門職にあるものとして相応しい身なり、態度、言葉遣い、行動を、職務遂行時または非遂行時にかかわらず自ら進んで行うことができる。	C
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医学科学的知識	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 医学、医療及びそれらの基礎となる科学的知識を十分に理解し、学修した知識を実践的知識として臨床や研究に有効に活用できる。	
8. エビデンスに基づく医療（EBM）を十分に理解し、経験に基づく医療との違いを説明でき、常に最新のエビデンスを検索収集して EBM 実践に活用できる。	C
【学習アウトカム】 1)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 自律的探求能力	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 基礎と臨床を総合して、科学的思考に基づいて批判的に学習することができる。医師や医学者としての自己を生涯に渡って向上させ続ける姿勢をもつことができる。基礎や臨床の興味ある領域を研究することができる。	
5. 基礎や臨床の興味ある領域の研究を、方法を学び過程を記録しつつ、推し進めることができる。	C
【学習アウトカム】 2)	
6. 研究成果を学内あるいは学外に向けて、口演、ポスターまたは論文によって、発表することができる。	B
【学習アウトカム】 4)	

学習アウトカム	科目達成レベル
【該当コンピテンス項目】 医療の社会性と国際性	
【該当コンピテンス内容】 大阪医科薬科大学学生は、卒業時に： 本邦の医療経済、法規、環境、疫学及び予防の側面、ならびに国際保健を深く理解したうえで、地域の特性を考慮した適切な判断に基づく医療を提供できる。医学情報発信に必要な外国語表現力を身につけ、海外の医療者と積極的に情報交換できる。	
6. 疫学及び統計の概念と諸指標の意義及び現状について理解し、提供する医療の科学的背景及び根拠として示すことができる。	B
【学習アウトカム】 3)	

インタラクティブ・イングリッシュⅠ

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションを基に、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聴くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢を獲得することができる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）身近なトピック（学生生活、趣味など）について、簡単な英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。
4）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc.
World Voices 3, ABAX ELT Publishing

【SDGsとの関連】
3、4、10

インタラクティブ・イングリッシュⅡ

【ナンバリングコード】　M-02-06-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看３学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
１）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
２）英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。
３）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
４）医療場面において、英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
５）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoom を使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
１）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
２）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
３）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージラーニング株式会社
参考書等は学習の進行に合わせて随時紹介する。

【SDGs との関連】
3、4、10

第　6　学　年

2025年度　第 6 学年授業時間割

※日々の時間割は変更する場合があります。①担当教員からの連絡 ②UNIPA を常に確認するようにしてください。

（講義場所：原則としてＰ 101 教室）

時間割表		1 限目	2 限目	3 限目	4 限目	休	5 限目	6 限目	7 限目	8 限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	3/29（土）	9:30 ～　オリエンテーション								
第9週	3/31（月）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/1（火）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/2（水）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/3（木）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/4（金）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
第10週	4/7（月）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/8（火）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/9（水）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/10（木）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/11（金）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
第11週	4/14（月）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/15（火）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/16（水）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/17（木）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/18（金）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/19（土）	健康診断								
第12週	4/21（月）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/22（火）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/23（水）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/24（木）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/25（金）	アドバンスト CC					アドバンスト CC			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第13週	4/28(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	4/29(火)祝	昭和の日								
	4/30(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/1(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/2(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/5(月)祝	こどもの日								
	5/6(火)祝	こどもの日振替休日								
	5/10(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ オリエンテーション								
第14週	5/12(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/13(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/14(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/15(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/16(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
第15週	5/19(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/20(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/21(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/22(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/23(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/24(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
第16週	5/26(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/27(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/28(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/29(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/30(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	5/31(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
第17週	6/2(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/3(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/4(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/5(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/6(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
第18週	6/9(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/10(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/11(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/12(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/13(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
第19週	6/16(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/17(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/18(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/19(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/20(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/21(土)	炎祭								
第20週	6/23(月)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/24(火)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/25(水)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/26(木)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/27(金)	アドバンスト CC					アドバンスト CC			
	6/28(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅠ								
	6/30(月)	自学実習					自学実習			
	7/1(火)	自学実習					自学実習			
	7/2(水)	自学実習					自学実習			
	7/3(木)	自学実習					自学実習			
	7/4(金)	自学実習					自学実習			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	7/7(月)	自学実習					自学実習			
	7/8(火)	自学実習					自学実習			
	7/9(水)	自学実習					自学実習			
	7/10(木)	自学実習					自学実習			
	7/11(金)	自学実習					自学実習			
	7/14(月)	自学実習					自学実習			
	7/15(火)	自学実習					自学実習			
	7/16(水)	自学実習					自学実習			
	7/17(木)	自学実習					自学実習			
	7/18(金)	自学実習					自学実習			
	7/21(月)祝	海の日								
	7/22(火)	自学実習					自学実習			
	7/23(水)	自学実習					自学実習			
	7/24(木)	自学実習					自学実習			
	7/25(金)	自学実習					自学実習			
	7/26(土)	Post-CC　OSCE					Post-CC　OSCE			
	7/28(月)	卒業試験①					卒業試験①			
	8/19(火)	Post-CC　OSCE 追・再試験					Post-CC　OSCE 追・再試験			
	8/20(水)	Post-CC　OSCE 追・再試験					Post-CC　OSCE 追・再試験			
	8/23(土)	Post-CC　OSCE 予備日					Post-CC　OSCE 予備日			
	8/25(月)	自学実習					自学実習			
	8/26(火)	自学実習					自学実習			
	8/27(水)	自学実習					自学実習			
	8/28(木)	卒業試験②					卒業試験②			
	8/29(金)	自学実習					自学実習			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	9/1(月)	自学実習					自学実習			
	9/2(火)	自学実習					自学実習			
	9/3(水)	自学実習					自学実習			
	9/4(木)	自学実習					自学実習			
	9/5(金)	自学実習					自学実習			
	9/8(月)	自学実習					自学実習			
	9/9(火)	自学実習					自学実習			
	9/10(水)	自学実習					自学実習			
	9/11(木)	自学実習					自学実習			
	9/12(金)	自学実習					自学実習			
	9/15(月)祝	敬老の日								
	9/16(火)	自学実習					自学実習			
	9/17(水)	自学実習					自学実習			
	9/18(木)	自学実習					自学実習			
	9/19(金)	自学実習					自学実習			
	9/20(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ オリエンテーション								
	9/22(月)	自学実習					自学実習			
	9/23(火)祝	秋分の日								
	9/24(水)	自学実習					自学実習			
	9/25(木)	自学実習					自学実習			
	9/26(金)	自学実習					自学実習			
	9/29(月)	自学実習					自学実習			
	9/30(火)	自学実習					自学実習			
	10/1(水)	自学実習					自学実習			
	10/2(木)	自学実習					自学実習			
	10/3(金)	自学実習					自学実習			
	10/4(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	10/6(月)	自学実習					自学実習			
	10/7(火)	自学実習					自学実習			
	10/8(水)	自学実習					自学実習			
	10/9(木)	自学実習					自学実習			
	10/10(金)	自学実習					自学実習			
	10/11(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
	10/13(月)祝	スポーツの日								
	10/14(火)	自学実習					自学実習			
	10/15(水)	関西公立私立共通試験　1日目(予定)					関西公立私立共通試験　1日目(予定)			
	10/16(木)	関西公立私立共通試験　2日目(予定)					関西公立私立共通試験　2日目(予定)			
	10/17(金)	自学実習					自学実習			
	10/20(月)	自学実習					自学実習			
	10/21(火)	自学実習					自学実習			
	10/22(水)	自学実習					自学実習			
	10/23(木)	自学実習					自学実習			
	10/24(金)	自学実習					自学実習			
	10/25(土)	学園祭								
	10/27(月)	自学実習					自学実習			
	10/28(火)	自学実習					自学実習			
	10/29(水)	自学実習					自学実習			
	10/30(木)	自学実習					自学実習			
	10/31(金)	自学実習					自学実習			
	11/3(月)祝	文化の日								
	11/4(火)	自学実習					自学実習			
	11/5(水)	自学実習					自学実習			
	11/6(木)	自学実習					自学実習			
	11/7(金)	自学実習					自学実習			

時間割表		1限目	2限目	3限目	4限目	休	5限目	6限目	7限目	8限目
		8:30～9:15	9:20～10:05	10:10～10:55	11:00～11:45	11:45～13:00	13:00～13:45	13:50～14:35	14:40～15:25	15:30～16:15
	11/10(月)	自学実習					自学実習			
	11/11(火)	自学実習					自学実習			
	11/12(水)	総合試験　1日目					総合試験　1日目			
	11/13(木)	総合試験　2日目					総合試験　2日目			
	11/14(金)	自学実習					自学実習			
	11/15(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
	11/17(月)	自学実習					自学実習			
	11/18(火)	自学実習					自学実習			
	11/19(水)	自学実習					自学実習			
	11/20(木)	自学実習					自学実習			
	11/21(金)	自学実習					自学実習			
	11/22(土)	インタラクティブ・イングリッシュⅡ								
	11/24(月)祝	勤労感謝の日振替休日								
	11/25(火)	自学実習					自学実習			
	11/26(水)	自学実習					自学実習			
	11/27(木)	自学実習					自学実習			
	11/28(金)	自学実習					自学実習			
	12/1(月)	自学実習					自学実習			
	12/2(火)	自学実習					自学実習			
	12/3(水)	卒業判定・卒業保留学生決定					卒業判定・卒業保留学生決定			
	1/19(月)	卒業判定最終試験					卒業判定最終試験			
	1/21(水)	最終卒業判定(発表時間は未定)					最終卒業判定(発表時間は未定)			
	3/5(木)	卒業証書・学位記授与式(予定)								

診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC OSCE）

（Post Clinical Clerkship Objective Structured Clinical Examination）

【教員名】

医学部 OSCE 実行委員会、医学系 OSCE 担当教員

【試験の概要】

臨床実習の成果を評価するための必須試験である。医療系大学間共用試験実施評価機構（Common Achievement Tests Organization: CATO）から提供される機構課題 3 題と、本学が作成する独自課題 3 題で行う。試験は外部評価者が来訪し、厳正に評価を行う。機構課題は 1 題 16 分（12 分で医療面接＋身体診察、4 分でプレゼンテーション（上級医への報告））が基本となる。臨床実習における技能・態度を客観的に評価する試験である。独自課題はオリエンテーションおよび事前説明会で説明する。

【試験のゴール】

(1) 医療面接

各種疾患を有する患者と良好な人間関係を保ちながら、医療面接を行い、的確な医療情報を入手できる。

(2) 診察法・検査・手技

①基本的な身体診察法

神経、頭頸部、胸部、腹部等の診察を行い、診断することができる。

上記診察に基づき検査計画を立案し、治療法を述べることができる。

②基本的な臨床検査

血液検査、生化学検査の解釈ができる。

心電図について、不整脈・心筋虚血・梗塞等の判読・解釈ができ、治療法を述べることができる。

胸部 X 線、腹部単純 X 線、CT 等の判読ができる。

(3) 医療記録とプレゼンテーション

診察録（退院時サマリーを含む）を整理して記載し発表（上級医に報告）できる。

【日時】

2025 年 7 月 26 日（土）に本学構内で行う。

【評価】

最低 2 名の評価者による客観的評価を行う。卒業に必須の総括的試験である。

不合格の場合は再試験を行うことがある。

【備考】

オリエンテーション以外にも説明会を実施予定。

【医師実務経験のある教員】

瀧谷　公隆、森　龍彦、伊藤　隆英

インタラクティブ・イングリッシュⅠ

【ナンバリングコード】　M-02-05-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションを基に、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聴くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となるinteractionの基本的な姿勢を獲得することができる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）身近なトピック（学生生活、趣味など）について、簡単な英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoomを使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）クラスごとに所定のテキストを使用して授業を行うため、クラスごとに授業計画等は多少異なる。詳細はガイダンスで示すが、Class1の授業計画を参考として記載する。
4）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％）、授業内課題（復習課題を含む：40％）、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Viewpoints: Intermediate Book 1, ALC Press Inc.
World Voices 3, ABAX ELT Publishing

【SDGsとの関連】
3、4、10

インタラクティブ・イングリッシュⅡ

【ナンバリングコード】　M-02-06-C

【教員名】
藤枝　美穂（オーガナイザー）、スミス　朋子、小林　道太郎

【科目の概要】
この科目では、少人数のクラスでネイティブスピーカー講師との英語を用いたコミュニケーションをもとに、異文化や多様性を理解することを目的とする。具体的には、英語を聞くことと話すことに重点を置き、特に相手と英語で「やりとり（interaction)」するためのコミュニケーション能力を伸ばすことを目指す。また、医・薬・看3学部の学生が同じクラスで受講し、少人数でグループワークを行うことにより、医療従事者にとって必要なチームワークの重要性を認識する。

【科目のゴール】
1）我が国における多文化共生について説明できる。（専門科目内教養事項について説明できる。）
2）英語でのコミュニケーションの基礎となる interaction の基本的な姿勢を獲得できる。
3）聞き取れない場合の対処やあいづちなど、必要に応じて会話を継続するための方略を適切に使うことができる。
4）医療場面において、英語を使って意見を表明し、情報を交換することができる。
5）医療従事者にとって必要なチームワークを認識することができる。

【方略】
ネイティブスピーカー講師による少人数授業で、Zoom を使ったリアルタイムのオンライン授業とする。
ペアワークなどのアクティブラーニング活動を行う。
1）少人数授業のため、多数の受講希望者があった場合は抽選により受講者を決定する。
2）受講生をレベル分けしてクラスを編成するため、受講前に英語スピーキングテスト（TSST: Telephone Standard Speaking Test）を実施する。
3）各講義前に提示された課題を行ってから講義に臨むこと。

【評価】
事前課題（30％)、授業内課題（復習課題を含む：40％)、レポート（30％）
課題のフィードバック等は、原則授業内に行う。レポート評価に関しては希望者に開示する。

【単位】　1.0

【教科書・参考書】
Medical English Clinic，西原俊明，西原真弓，Tony Brown，センゲージラーニング株式会社
参考書等は学習の進行に合わせて随時紹介する。

【SDGs との関連】
3、4、10

大阪医科薬科大学　学則

（昭和２７年２月２０日施行）

第１章　総　則

（理　念）

第１条　大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人を育成する。

（目　的）

第２条　本学は、前条の理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた次の人材を育成することを目的とする。

(1)　人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材

(2)　変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材

(3)　地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材

（自己点検及び評価）

第３条　本学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

２　前項の点検及び評価の方法等については、別に定める。

（学部及び大学院）

第４条　本学に、医学部医学科、薬学部薬学科及び看護学部看護学科を置く。

２　医学部医学科の入学定員は１１０名、収容定員は６６０名とする。

３　薬学部薬学科の入学定員は２９４名、収容定員は１，７６４名とする。

４　看護学部看護学科の入学定員は８５名、収容定員は３４０名とする。

第４条の２　この学則に定めるもののほか、各学部の必要な事項は、本学医学部規程、薬学部規程及び看護学部規程（以下、「学部規程」という。）に定める。

第５条　本学に、大学院を置く。

２　大学院に関し必要な事項は、大阪医科薬科大学大学院学則の定めるところによる。

（修業年限）

第６条　医学部医学科の修業年限は、６年とする。

２　薬学部薬学科の修業年限は、６年とする。
３　看護学部看護学科の修業年限は、４年とする。

（在学年限）
第７条　医学部医学科の在学年限は、第１・２学年次、第３・４学年次、第５・６学年次に区分し、各区分において４年を超えることはできず、通算して１２年以内とする。
２　薬学部薬学科の在学年限は、第１学年次から第４学年次までは、同一年次に２年を超えて在学することはできず、通算して１２年以内とする。ただし、同一年次の在学年数が年度の途中で２年を超えることとなる者については、その年度が終了するまで当該学年に在学することができる。
３　看護学部看護学科の在学年限は、通算８年以内とする。ただし、同一年次に２年を超えて在学することはできない。

（学　年）
第８条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終る。

（学　期）
第９条　学年を、次の２学期に分ける。
前期　　４月１日から９月３０日まで
後期　１０月１日から翌年３月３１日まで

（休業日）
第１０条　定期休業日は、次のとおりとする。
(1)　土曜日及び日曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日
(3)　本学創立記念日
(4)　春季休業
(5)　夏季休業
(6)　冬季休業
２　学長は、前項に定めるもののほか臨時の休業日を定めることができる。また、教育上必要と認めた場合は、定期休業日であっても授業及び試験を行うことができる。

第２章　入学、再入学及び転入学

（入学等の時期）
第１１条　入学、再入学及び転入学の時期は、学年の始めとする。

（入学資格）
第１２条　本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1)　高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を卒業した者

(2)　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
(3)　外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文科学大臣の指定した者
(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣の指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
(6)　文部科学大臣の指定した者
(7)　大学入学資格検定規程（昭和２６年文部省令第１３号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者又は高等学校卒業程度認定試験に合格した者
(8)　本学の個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、１８歳に達した者

（入学志願手続）
第１３条　入学志願者は、所定の入学願書及び学部規程に定める入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

（合格者の選考）
第１４条　入学志願者に対しては試験を行い、その成績により合格者を選考する。

（入学手続及び入学許可）
第１５条　前条に定める選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに必要書類を学長に提出するとともに、別表に定める入学金及び学費の一部を納入しなければならない。
２　保証人は、両親又はこれに代る成年に達した親族とする。
３　保証人は、学生の在学中に係る一切の事項について、責任を負うものとする。

第１６条　学長は、前条に定める入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（再入学）
第１７条　本学を退学した者又は第３０条第４号により除籍された者で、再入学を志願する者については、選考の上、相当の学年次に入学を許可することがある。
２　再入学に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（転入学）
第１７条の２　他の大学の学生で、当該大学長又は学部長の承認を得て転入学を志願する者については、学長が入学を許可することができる。

（転学部）
第１７条の３　転学部を願い出る者があるときは、選考の上、許可することがある。
２　転学部の取扱いについては、別に定める。

第３章　教育課程及び履修等

（教育課程及び履修方法）
第１８条　学生が履修すべき授業科目、単位数及び年次配当は、学部規程に定める。
２　総合的な学力等を判定する試験（統合的な試験）を所定の課程に加えることができる。
３　本学則に定めるもののほか、履修方法の細目については、学部規程に定める。

（単位の計算方法）
第１９条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、次の基準により計算するものとする。
(1)　講義、チュートリアル及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって１単位とする。
(2)　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲で学部規程に定める時間の授業をもって１単位とする。

（１年間の授業期間）
第２０条　１年間の授業を行う期間は、３５週にわたることを原則とする。

（成績の評価）
第２１条　授業科目の成績は、試験その他の評価により行う。
２　評価は原則として１００点法によって行い、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とし、９０点以上を秀(S)、８０点以上８９点以下を優(A)、７０点以上７９点以下を良(B)、６０点以上６９点以下を可(C)、５９点以下を不可(D)と表示する。
３　不合格となった授業科目については、再試験を行うことがある。
４　試験及び成績の評価の実施に関し必要な事項は、学部規程に定める。

第２１条の２　前条の評価に対してグレード・ポイント（以下、「ＧＰ」という。）を設定し、ＧＰの平均値であるグレード・ポイント・アベレージ（以下、「ＧＰＡ」という。）を算出する。
２　ＧＰ及びＧＰＡの取扱いについては、学部規程に定める。

（追試験）
第２２条　病気その他やむを得ない理由により、試験を受けられなかった者については、追試験を行うことがある。
２　追試験の実施に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（単位の認定）
第２３条　授業科目の成績の評価を行い、合格とされた学生に対し、所定の単位を与える。
２　前項の単位認定は、学部長が当該教授会の議を経て学長に報告し、学長が決定する。

（既修得単位の認定）
第２４条　他の大学を卒業し、又は中途退学し、新たに本学の第１学年次に入学した学生の既修得単位については、教育上有益と認めるときは、その学力を確認した上で本学において修得したものとして認定することができる。
２　前項の定めにより認定することができる単位は、合計３０単位を限度とする。
３　前２項の取扱いについては、学部長が当該教授会の議を経て学長に報告し、学長が決定する。

（他学部及び他大学等における授業科目等の履修）
第２５条　本学が、教育上有益と認めるときは、本学の他学部及び他の大学等（外国の大学等を含む。）との協議に基づき、学生に当該学部及び当該大学等の授業科目等を履修させることができる。
２　前項の取扱いについては、学部長が当該教授会の議を経て学長に報告し、学長が決定する。

第４章　休学、復学、転学、退学及び除籍

（休　学）
第２６条　病気その他やむを得ない理由により、休学しようとする者は、医師の診断書又は詳細な理由書を添えて、保証人連署のうえ学長に願い出て、学期単位を原則として休学することができる。
２　病気その他の理由により修学することが不適当と認められる者については、学長は休学を命ずることができる。
３　休学に関する取扱いは、学部規程に定める。

（復　学）
第２７条　休学期間中に、その理由がなくなったときは、学長の許可を得て復学することができる。
２　復学は、原則として学年又は学期の始めでなければならない。
３　第１項の規定により復学が許可された場合には、休学前の既修得単位及び成績はそのまま認める。

（転　学）
第２８条　他の大学へ、入学又は転入学を志願しようとする者は、保証人連署の上、学長に所定の退学願を提出しなければならない。

（退　学）

第２９条　病気その他やむを得ない理由により、退学しようとする者は、保証人連署の上、学長に所定の退学願を提出しなければならない。なお、必要に応じその他書類の提出を求める場合がある。

２　学業成績の不振が一定期間続く学生に対しては、退学を命ずることがある。

（除　籍）

第３０条　次の各号のいずれかに該当する者は、当該教授会の意見を踏まえ、学長が決定し、除籍する。

(1)　第７条に定める在学年限を超えた者

(2)　在学年限内に所定の単位を修得できないことが明らかな者

(3)　学部規程に定める休学年限を超えてなお復学できない者

(4)　第３５条に定める学費について、納入期限経過後督促してもなお未納の者

(5)　長期間にわたり行方不明の者

(6)　死亡した者

第５章　進級及び卒業

（進　級）

第３１条　当該学年次又は当該学期の所定の課程を修了した者については、当該教授会の議を経て、学部長が単位及び進級を認定し、学長が決定する。

（卒　業）

第３２条　第６条に定める修業年限以上在学し、医学部医学科においては学部規程に定める所定の単位を修得し、かつ、総合試験に合格した者には、医学部教授会の議を経て、医学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（医学）の学位を授与する。

２　前項の総合試験に関しては、医学部教授会の議を経て、医学部長が別に定め、学長が決定する。

３　第６条に定める修業年限以上在学し、薬学部薬学科においては学部規程に定める所定の単位を修得した者には、薬学部教授会の議を経て、薬学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（薬学）の学位を授与する。

４　第６条に定める修業年限以上在学し、看護学部看護学科においては学部規程に定める所定の単位を修得した者には、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が卒業を認定し、学長が決定のうえ卒業証書及び学士（看護学）の学位を授与する。

第６章　賞　罰

（褒　章）

第３３条　成績優秀操行善良で他の模範であると学長が認めるときは、教授会の議を経て、

学生を褒賞することができる。

（懲　戒）
第３４条　教育上必要があると学長が認めるときは、当該教授会の意見を踏まえ、学生に懲戒を加えることができる。なお、懲戒に関し必要な事項は、大阪医科薬科大学学生等懲戒規程に定める。

第７章　入学金及び学費

（入学金及び学費）
第３５条　入学金及び学費の額は、別表に定める。
２　入学金及び学費は、原則として返還しない。
３　入学金及び学費は、経済事情の変化によりその金額を変更することがある。
４　第１項にかかわらず、入学時特待生制度等適用者の入学金及び学費については、別に定める。
５　学費の納入に関する取扱いについては、学部規程に定める。

（休学の場合における学費）
第３６条　休学する者は、指定した期限までに学費のうち在籍料を納入しなければならない。ただし、学期途中に復学した者は、当該学費を納入しなければならない。
２　在籍料の額は、学部規程に定める。

第８章　研究生

（研究生）
第３７条　本学開設の授業科目のうち特定分野に関し、研究を行おうとする者があるときは、選考の上研究生として許可することができる。
２　研究生に関し必要な事項は、学部規程に定める。

第９章　委託生、聴講生等

（委託生及び聴講生）
第３８条　本学に委託生を託された場合は、その学歴を選考して許可することがある。
２　本学開設の授業科目の中から聴講することを希望する者があるときは、聴講生として許可することがある。
３　委託生及び聴講生に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（単位互換履修生及び科目等履修生）
第３９条　他の大学又は短期大学との協議に基づき、当該他の大学等に在学中の者を単位互換履修生として、本学における授業科目を履修させることができる。

２　特定の授業科目のうち１科目又は数科目を選んで履修し、単位を修得しようとする者があるときは、科目等履修生として許可することがある。
３　単位互換履修生及び科目等履修生に関し必要な事項は、学部規程に定める。

（外国人留学生）
第４０条　第１２条に定める入学資格を有する外国人が本学に入学を志願するときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。
２　外国人留学生については別に定める。

第１０章　公開講座

（公開講座）
第４１条　本学に公開講座を設けることがある。

第１１章　学生の福利・厚生

（学生の福利・厚生）
第４２条　本学に福利・厚生施設を置く。その規則は、別に定める。

第１２章　職員組織

（職員組織）
第４３条　本学に学長、学部長、大学病院長、図書館長その他の職員を置く。その規則は、別に定める。
２　前項に定めるもののほか、本学に副学長、学長補佐を置くことができる。
３　学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
４　副学長及び学長補佐は、学長の統督の下で教育及び研究に関する校務をつかさどる。
５　学部長は、学長の統督の下で学部に関する校務をつかさどる。

第４４条　本学に教育及び研究のための教授、准教授、講師、助教、助手、技術職員等を置く。これらの定員及び資格については、別に定める。

第４５条　本学の事務を処理するため、一定数の事務職員を置く。

第４６条　本学の教職員を専任兼任に区別し、その勤務規則は、別に定める。

第１３章　教授会

（教授会）
第４７条　教育研究に関する事項の審議機関として、各学部に教授会を置く。

２　教授会に関し、必要な事項は、別に定める。

第１４章　附属施設

（附属施設）
第４８条　本学に大学図書館、その他の附属施設を設ける。その規則は、別に定める。

第４９条　本学に大学病院を設ける。その規則は、別に定める。

第１５章　その他の組織

（その他の組織）
第５０条　本学に教育研究に必要なその他の組織を設ける。
２　個々の組織の使命・構成等は、別に定める。

第１６章　その他

（改　廃）
第５１条　この学則の改廃は、各学部の教授会及び法人運営会議の議を経て、理事会が行う。

附　則（昭和４９年９月３０日）
この改正は、昭和５０年４月１日から施行する。
ただし、経過措置として第４５条の総定員は昭和５０に限り５００名、昭和５１年度に限り５２０名、昭和５２年度に限り５４０名、昭和５３年度に限り５６０名、昭和５４年度に限り５８０名とする。

附　則
この改正は、昭和５２年４月１日から施行する。
ただし、昭和５１年度以前より在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この改正は、昭和５３年４月１日より施行する。
ただし、昭和５２年度以前より在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則
この改正は、昭和５３年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、昭和５４年４月１日より施行する。

附　則

この改正は、昭和５８年４月１日より施行する。

附　則

この改正は、昭和５９年４月１日より施行する。

ただし、昭和５８年度以前より在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、昭和５９年４月１日より施行する。

ただし、昭和５８年度以前より在学する者については、改正後の第８条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、昭和６２年４月１日より施行する。

ただし、昭和６１年度以前より在学する者については、改正後の第７条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成元年４月１日より施行する。

ただし、昭和５８年度以前より在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、次の通りとする。

期　間	納入期限	納　入　金　額			計
		授 業 料	実 習 料	施設拡充費	
第　１　期	４月１５日	２０万円	１０万円	２０万６千円	５０万６千円
第　２　期	９月１５日	２０万円	１０万円	２０万６千円	５０万６千円
第　３　期	１月１５日	２０万円	１０万円	２０万６千円	５０万６千円
合　　計		６０万円	３０万円	６１万８千円	１５１万８千円

附　則

この改正は、平成元年１０月１日より施行する。

附　則

この改正は、平成２年４月１日より施行する。

附　則

この改正は、平成３年４月１日より施行する。

附　則

この改正は、平成３年１０月１日より施行する。

附　則

この改正は、平成４年３月１日より施行する。

附　則

この改正は、平成７年４月１日から施行する。

ただし、平成６年度以前から在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成８年４月１日から施行する。

ただし、平成７年度以前から在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成９年４月１日から施行する。

ただし、平成８年度以前から在学する者については、改正後の第４０条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成９年４月１日から施行する。

ただし、平成８年度以前から在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１０年４月１日から施行する。

ただし、平成９年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１１年４月１日から施行する。

ただし、平成１０年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１１年４月１日から施行する。

ただし、平成１０年度以前から在学する者については、改正後の第３３条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１２年４月１日から施行する。

ただし、平成１１年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１２年４月１日から施行する。

ただし、平成８年度以前から在学する者については、改正後の第３２条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１２年４月１日から施行する。

ただし、平成１１年度以前から在学する者については、改正後の第１８条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１３年４月１日から施行する。

ただし、平成１２年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１３年４月１日から施行する。

ただし、平成１２年度以前から在学する者については、改正後の第１８条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１４年４月１日から施行する。

ただし、平成１３年度以前から在学する者については、改正後の第１８条、第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１５年４月１日から施行する。

ただし、平成１４年度以前から在学する者については、各学年次の前年度までの履修科目単位について改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１５年４月１日から施行する。

ただし、平成１４年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成１６年４月１日から施行する。

ただし、平成１５年度以前から在学する者については各学年次の前年度までの履修科目単位について改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成１７年４月１日から施行する

附　則

この改正は、平成１７年１２月１３日から施行する

附　則

この改正は、平成１８年２月１４日から施行する

附　則

この改正は、平成１８年４月１日から施行する

附　則

この改正は、平成１９年２月１３日から施行する。

附　則

この改正は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２０年４月１日から施行する。

ただし、平成１９年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成２１年３月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２１年４月１日から施行する。

ただし、平成２０年度以前から在学する者については、改正後の第７条の規定にかか

わらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、文部科学大臣の認可（平成２１年１０月３０日）を得て、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２２年４月１日から施行する。

ただし、平成２１年度以前から在学する者については、改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２４年４月１日から施行する。

ただし、平成２３年度以前から在学する者については、改正後の別表２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成２４年４月１日から施行する。

ただし、平成２２年度及び２３年度入学生に限る。

附　則

この改正は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２４年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２５年４月１日から施行する。

ただし、平成２４年度以前から在学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成２８年４月１日から施行する。

ただし、平成２７年度以前から在学する看護学部学生に係る学費については、別表及び改正後の第３６条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成２９年４月１日から施行する。

ただし、平成２８年度以前の入学生については、改正後の第２１条及び第２１条の２の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成２９年４月１日から施行する。

ただし、平成２８年度以前の入学生については、改正後の第１８条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則

この改正は、平成３０年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、令和２年４月１日から施行する。

ただし、第３条第２項の規定にかかわらず、令和２年度から令和３年度までの医学部医学科の定員は、地域枠の臨時定員２名を加え、入学定員１１２名、収容定員６７２名とする。

附　則

１　この改正は、令和３年４月１日から施行する。

２　改正後の第４条第３項の規定にかかわらず、薬学部薬学科の収容定員は令和３年度１，７２１名、令和４年度１，７４０名とする。

３　改正後の第４条第１項及び第３項、第６条第２項、第７条第２項、第３２条第３項の規定にかかわらず、令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成２９年度以前の入学生が第４学年次進級時に選択可能な学科として、薬学部に薬科学科（４年制）を置く。なお、同学科は大阪薬科大学において学生募集を停止していたことを受け、新規の学生募集は行わず、令和３年度における第４学年次の収容定員を２名、令和４年度以降の収容定員を０名とし、在籍学生がいなくなった時点で廃止するものとし、同学科の取扱いは薬学部規程及び薬科学科規程に定める。

４　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生の大阪薬科大学に

おける修業年数及び在学年数については、改正後の第６条第２項及び第７条第２項に規定する修業年限及び在学年限に継承する。

５　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成２６年度以前の入学生については、改正後の第７条第２項中の「２年」を「３年」に読み替える。

６　薬学部規程に定めることとする取扱いのうち、改正後の第３章及び第５章に関する事項の令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生への適用については、薬学部規程細則に大阪薬科大学の入学年度に応じた個別の取扱いを定める。

附　則

この改正は、令和３年７月１日から施行する。

ただし、令和３年度以前から在学する看護学部学生に係る学費については、別表及び改正後の第３５条にかかわらず、大阪医科薬科大学医学部及び看護学部における学費納入に関する取扱規程に定める。

附　則

この改正は、令和４年４月１日から施行する。

ただし、第４条第２項の規定にかかわらず、令和４年度の医学部医学科の定員は、地域枠の臨時定員２名を加え、入学定員１１２名、収容定員６７２名とする。令和４年度から令和１０年度までの入学定員及び収容定員は下表のとおりとする。

年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度
入学定員	１１２名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名
収容定員	６７２名	６７０名	６６８名	６６６名	６６４名	６６２名	６６０名

附　則

１　この改正は、令和５年４月１日から施行する。

ただし、第４条第２項の規定にかかわらず、令和５年度の医学部医学科の定員は、地域枠の臨時定員２名を加え、入学定員１１２名、収容定員６７２名とする。令和５年度から令和１１年度までの入学定員及び収容定員は下表のとおりとする。

年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度
入学定員	１１２名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名
収容定員	６７２名	６７０名	６６８名	６６６名	６６４名	６６２名	６６０名

２　この改正の施行に伴い、大阪医科薬科大学医学部特待生（入学時）規程は廃止する。

３　この改正は令和５年度以降に入学する者に適用し、令和４年度以前に入学した医学部学生に係る学費については、別表にかかわらず、大阪医科薬科大学医学部及び看護学部における学費納入に関する取扱規程に定める。

附　則

１　この改正は、令和６年４月１日から施行する。

ただし、第４条第２項の規定にかかわらず、令和６年度の医学部医学科の定員は、地域枠の臨時定員２名を加え、入学定員１１２名、収容定員６７２名とする。令和６年度から令和１２年度までの入学定員及び収容定員は下表のとおりとする。

年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度	令和１２年度
入学定員	１１２名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名
収容定員	６７２名	６７０名	６６８名	６６６名	６６４名	６６２名	６６０名

２　令和３年４月１日に大阪薬科大学から薬学部に転入学した学生のうち、平成２９年度以前の入学生が第４学年次進級時に選択可能な学科として薬学部に設置していた薬科学科（４年制）については、学科選択権を持つ在籍学生がいなくなったため、令和５年３月３１日付で廃止する。

附　則

１　この改正は、令和７年４月１日から施行する。

ただし、第４条第２項の規定にかかわらず、令和７年度の医学部医学科の定員は、地域枠の臨時定員２名を加え、入学定員１１２名、収容定員６７２名とする。令和７年度から令和１３年度までの入学定員及び収容定員は下表のとおりとする。

年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度	令和１２年度	令和１３年度
入学定員	１１２名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名	１１０名
収容定員	６７２名	６７０名	６６８名	６６６名	６６４名	６６２名	６６０名

（別表）

（１）医学部医学科

項　目		金　額（年額）	備　考
入学金		１００万円	入学手続時
学費	授業料	１８８万円	
	実習料	３４万５千円	
	施設拡充費	１２６万円	
	教育充実費	１５０万円	入学年次
		１００万円	２年次以降

（２）薬学部薬学科

項　目		金　額（年額）	備　考
入学金		４０万円	入学手続時
学費	授業料	１２０万円	
	施設・設備費	６０万円	

（３）看護学部看護学科

項　目		金　額（年額）	備　考
入学金		２０万円	入学手続時
学費	授業料	１２０万円	
	実習料	２０万円	公衆衛生看護学実習Ⅱ受講者及び助産学実習受講者を除く
		３０万円	公衆衛生看護学実習Ⅱ受講者対象
		５０万円	助産学実習受講者対象
	施設拡充費	３０万円	

大阪医科薬科大学　医学部規程

（令和３年４月１日施行）

（趣　旨）

第１条　この規程は、大阪医科薬科大学（以下、「本学」という。）が設置する医学部において、本学学則（以下、「学則」という。）に基づく必要な事項を定める。

（目　的）

第２条　学則に定める本学の目的に基づき、医学部医学科の目的は、次の各号のとおりとする。

(1)　生命の尊厳と人権の尊重を基本に、人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。

(2)　多様な人材と共同し、医学や医療の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。

(3)　科学的知識と倫理的判断に基づき、疾病および治療に関する専門知識、情報や技術を効果的に活用した医療が実践できる能力を育成する。

(4)　医師として地域社会の特性を学び、多職種と連携し協働してさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。

(5)　医師として専門能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

（授業科目等）

第３条　医学部の授業科目、当該科目の配当年次及び単位数は、別表１に定めるとおりとする。

２　前項に定める医学部の授業は、講義、チュートリアル、演習、実験、実習及び実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

３　前項の授業は、多様なメディアを利用して、当該授業を行う本学の校舎及び附属施設等以外の場所で学生に履修させることができる。また、学生に海外において履修させる場合においても同様とする。

（履修届）

第４条　学生は、各学年次又は各学期の始めに、その学年次又は学期に開講される選択科目及び自由科目の中から、履修しようとする授業科目を定めて、学部長に届け出なければならない。

２　前項の届出は、当該授業科目の授業開始後１週間以内に学務部医学事務課に履修届（様式１号）を提出することにより行う。

（履修科目の変更・取消）

第５条　前条第１項の定めにより届け出た授業科目を変更し又は取消をしようとするとき

は、学部長に届け出なければならない。
２　前項の届出は、当該授業開始後２週間以内に、学務部医学事務課に履修科目変更・取消届（様式第２号）を提出することにより行う。

（履修の評価）
第６条　授業科目の履修の評価は、別表１の授業科目の細分に従って、当該授業科目の担当の教授、准教授、講師（以下、「担当教員」という。）が行う。
２　総合的な学力等の評価は、医学教育センター（以下、「教育センター」という。）が行う。

（履修の評価を受ける資格）
第７条　前条に定める授業科目の履修の評価を受けるためには、原則として講義については実授業時間の３分の２以上、実習、演習及び実技については全ての授業時間に出席していなければならない。

（単位算定の基準）
第８条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成するものとし、次の基準により計算する。
講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。
チュートリアルについては、２０時間の授業をもって１単位とする。
演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。
実験、実習及び実技については、４５時間の授業をもって１単位とする。
２　教育上必要があると認めたときは、前項の規定にかかわらず、講義、チュートリアル及び演習については１５時間から３０時間、実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲の時間の授業をもって１単位とすることができる。

（成績の評価）
第９条　授業科目の成績の評価は、別表１に掲げる授業科目ごとに当該担当教員が総合的に行う。
２　評価は１００点法によって行い、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とし、９０点以上を秀（Ｓ）、８０点以上８９点以下を優（Ａ）、７０点以上７９点以下を良（Ｂ）、６０点以上６９点以下を可（Ｃ）、５９点以下を不可（Ｄ）と表示する。

（単位の認定）
第１０条　前条の成績の評価により、合格とする者に所定の単位を認定する。

（ＧＰＡ）
第１１条　第９条の評価に対してグレード・ポイント（以下、「ＧＰ」という。）を設定し、下記の計算式によりＧＰの平均値であるグレード・ポイント・アベレージ（以下、「ＧＰＡ」という。）を算出する。

ＧＰＡ＝｛（評価を受けた科目のＧＰ）×（当該科目の単位数）｝の累計／履修単位数の合計（Ｄの単位数を含む。）

２　成績の評価に対するＧＰは、Ｓが４点、Ａが３点、Ｂが２点、Ｃが１点、Ｄが０点とする。

３　前項にかかわらず、次の各号に該当する授業科目はＧＰＡの算出対象外とする。

(1)　合否で判定し、成績の評点を表示しない授業科目

(2)　学則第２４条により本学における履修とみなし単位を与えるが、成績の評点を表示しない授業科目

（試　験）

第１２条　第６条に定める授業科目の履修の評価のための試験は定期試験及び臨時試験とし、総合的な学力等の評価のための試験は統合的な試験とする。

（定期試験）

第１３条　定期試験は、別表１にしたがい学年末又は学期末に、学長が一定の期間を定めて行う。

（臨時試験）

第１４条　臨時試験は、当該授業科目の担当教員、教育センターが必要と認めたとき、適宜行う。

（統合的な試験）

第１５条　統合的な試験は、別表１にしたがい学長が一定の期間を定めて行う。

２　統合的な試験には共用試験、臨床実習履修評価試験、総合試験などが含まれる。

（試験の実施方法）

第１６条　試験の実施方法は、定期試験及び臨時試験については当該授業科目の担当教員が、統合的な試験については教育センターが定める。

（追試験）

第１７条　試験を受けなかった者のうち、当該授業科目の担当教員、教育センターが、病気、災害その他やむを得ない理由によって試験を受けることができなかったと認定した者については、所定の様式（様式３号）による願い出に基づき追試験を行うことができる。

２　追試験は次の各号を満たしている場合に、受験することができる。

(1)　定期試験の受験資格を満たしていること。

(2)　病気その他やむを得ない理由により定期試験の欠席が認められていること。

(3)　定められた期間に受験手続きをしていること。

３　追試験の成績評価は１００点法によって評価し、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とする。

（再試験）

第１８条　試験において不合格となった場合は、当該授業科目の担当教員、教育センターが特に必要と認めた場合、再試験を行うことがある。再試験の受験を希望する者は定められた期間内に再試験受験願を提出しなければならない。

２　再試験は次の各号を満たしている場合に、受験を認めることがある。

(1)　定期試験の受験資格を満たしていること。

(2)　定められた期間に受験手続きをしていること。

３　再試験の成績評価は１００点法によって評価し、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とする。但し、６０点以上の得点であってもすべて６０点として評価する。

（受験料）

第１９条　再試験を受験する者は、受験料を納めなければならない。

２　受験料の額は、１科目あたり３千円とする。

（試験に関する不正行為）

第２０条　試験に関し不正な行為があったと認められた者については、当該授業科目の試験を無効とし、次の学年への進級若しくは卒業判定を受けることができない。

（進　級）

第２１条　各第１～第６学年次の学年末において、第１～第２学年次は単位未修得者、第３～４学年次及び第６学年次は単位未修得者、統合的な試験の不合格者、第５学年次は単位未修得者、統合的な試験の不合格者、クリニカルクラークシップ総合評価不合格者、以上の者は次の学年次に進級することができない。

２　前項の定めにより進級できなかった者が留め置かれる学年次及び学期は、次の各号のとおりとする。

(1)　第１学年次から第５学年次においては、当該学年次に留め置く。

(2)　第６学年次においては、第６学年次に留め置く。（卒業判定がなされた時から臨床実習に参加することができる。）

第２２条　前条第２項の規定によりそれぞれの年次に留め置かれた者は、第１～２学年次では、当該学年次でみとめられなかった授業科目を、第３～６学年次では、当該学年次に履修しなければならない全ての授業科目の授業科目を再履修し、合格しなければ次の学年次に進級することができない。

（休　学）

第２３条　病気その他やむを得ない理由により、休学しようとする者は、医師の診断書又は詳細な理由書を添えて、保証人連署のうえ学長に願い出て、学期単位を原則として休学することができる。

２　病気その他の理由により修学することが不適当と認められる者については、学長は休

学を命ずることができる。
３　休学中の在籍料については、授業料相当額を納付しなければならない。

（休学期間）
第２４条　休学期間は、引き続き２年を超えることができない。
２　休学期間は、通算して４年を超えることができない。
３　休学期間は、学則第７条に定める在学年限に算入しない。

（再入学）
第２５条　本学を退学した者で、再入学を志願する者については、欠員がある場合に限り、選考のうえ、相当の学年次に入学を許可することがある。再入学の願い出は、退学の日から４年以内に限り、学力等について審議のうえ再入学を許可することがある。
２　再入学を願い出る者は、所定の書類に入学検定料を添えて願い出なければならない。
３　再入学を許可された者は、学則第１５条の規定により入学手続きをしなければならない。
４　再入学を許可された者が退学前に修得した単位は認め、退学までの在学年数は学則第７条の在学年限に算入する。

（入学検定料）
第２６条　入学検定料は６万円、ただし大学入学共通テスト利用選抜は３万２千円とする。

（学費の納入に関する取扱い）
第２７条　医学部の学費の納入期日、その他納入に関する取扱いは別に定める。

（研究生）
第２８条　医学部において、学長が認めた場合に限り、研究生を受け入れることができる。
２　医学部の研究生を希望する者の中で、他大学の学生である場合は、当該大学との協定等に基づき特別研究生として受け入れることができる。
３　特別研究生の教育・研究指導に必要な経費負担は、原則として他大学と協議のうえ決定する。
４　学長が認めた場合、特別研究生の指導料、研究料を免除することができる。

（委託生）
第２９条　委託生を志望する者は、委託機関長からによる所定の願、その他必要書類を添えて願い出なければならない。
２　委託生及び聴講生に関し必要な事項は、医学部教授会の議を経て、学部長が別に定め、学長が決定する。

（聴講生）
第３０条　聴講生を志望する者は、所定の願、その他必要書類を添えて願い出なければな

らない。
２　開講する授業科目のうち科目を指定して聴講することができる。
３　聴講生に対しては、試験及び単位の授与を行わない。

（単位互換履修生及び科目等履修生）
第３１条　単位互換履修生及び科目等履修生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。
２　前項の試験に合格した単位互換履修生及び科目等履修生には、所定の単位を与える。
３　単位を修得した科目等履修生には、願い出により単位修得証明書を交付する。

（入学又は受入れ時期）
第３２条　研究生、委託生、聴講生、単位互換履修生及び科目等履修生の入学又は受入れ時期は学期の始めとする。ただし、特別の事情のあるときにはこの限りではない。

（納付金）
第３３条　研究生、委託生、聴講生及び科目等履修生の納付金は、別表２のとおりとする。ただし、研究生又は委託生の研究に要する特別の費用は、それぞれ研究生又は委託機関の負担とする。

（雑　則）
第３４条　この規程の施行に際して必要な事項は、医学部教授会の議を経て、学長が決定する。

（改　廃）
第３５条　この規程の改廃は、医学部教授会及び法人運営会議の議を経て、理事長が行う。

附　則
１　この規程は、令和３年４月１３日から施行し、令和３年４月１日から適用する。
２　本規定の施行に伴い、平成９年４月１日施行の大阪医科大学　医学部授業科目履修認定方法及び学習の評価・進級・卒業に関する細則は廃止する。

附　則
この改正は、令和３年１０月１３日から施行する。

附　則
この改正は、令和４年４月１日から施行する。

附　則
この改正は、令和５年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、令和６年４月１日から施行する。

附　則

この改正は、令和７年４月１日から施行する。

令和6（2024）年度以降入学者適用

（別表１）　　2025.4.1現在

教育課程		授業科目	受講学年次及び単位数							必修・選択・自由
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	
総合教育	教養教育	人間科学	1						1	必　修
		情報科学	1						1	必　修
		セミナーA	1						1	必　修＊1
		セミナーB								
		大学コンソーシアム京都・大阪	2						2	必　修＊2
		医工薬連環科学遠隔講座								
		スポーツ健康科学	1						1	必　修
		数理科学	4						4	必　修
		生命誌	1						1	必　修
	国際言語文化	国際言語文化１（英語）	3						3	必　修
		国際言語文化２（独語）	3						3	必　修
		医学英語１		1					1	必　修
		医学英語２			1				1	必　修
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ	1						1	自　由
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ	1						1	自　由
		グローバル・スタディーズ	1						1	自　由
	準備教育	生命科学１（物理学）	3						3	必　修
		生命科学２（化学）	3						3	必　修
		生命科学３（生物学）	3						3	必　修
		生命科学実習	2						2	必　修
		物理学（力学）初歩	1						1	自　由
		基礎物理学	1						1	自　由
		化学通論	1						1	自　由
		生物学入門	1						1	自　由
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学）	9						9	必　修
		人体の構造２（神経解剖学）	1						1	必　修
		人体の構造３（組織学）		6					6	必　修
		人体の構造４（人体発生学）		1					1	必　修
		人体の機能１（分子生物学）		2					2	必　修
		人体の機能２（生理学）		7					7	必　修
		人体の機能３（生化学）		7					7	必　修
		病気の成り立ち１		4					4	必　修
		病気の成り立ち２			1				1	必　修
		薬物療法１		6					6	必　修
		薬物療法２			1				1	必　修
		薬物療法３				1			1	必　修
		病原体・生体防御１		1					1	必　修
		病原体・生体防御２		2					2	必　修
		病原体・生体防御３		4					4	必　修
	臨床医学系	診断学入門		3					3	必　修
		循環器			3				3	必　修
		腎尿路・男性生殖器			1				1	必　修
		女性生殖器・婦人科腫瘍			2				2	必　修
		呼吸器			2				2	必　修
		消化器			2				2	必　修
		血液			1				1	必　修
		内分泌・代謝			2				2	必　修
		アレルギー・免疫			2				2	必　修
		皮膚			1				1	必　修
		運動器			1				1	必　修
		神経			2				2	必　修
		精神・行動			1				1	必　修
		妊娠・出産			1				1	必　修
		成長・発達			1				1	必　修
		思春期・ホルモン			1				1	必　修
		加齢・高齢者			1				1	必　修
		感覚器１（眼科）			1				1	必　修
		頭頸部・感覚器２（耳鼻科）			1				1	必　修
		麻酔				1			1	必　修
		救急			1				1	必　修
		リハビリテーション			1				1	必　修
		放射線治療・放射線障害				1			1	必　修
		腫瘍				1			1	必　修
		感染症				1			1	必　修
		診断学				3			3	必　修
		臨床技能				1			1	必　修
		臨床病理学演習					2		2	必　修
	社会医学系	医学・医療と社会Ⅰ			3				3	必　修
		医学・医療と社会Ⅱ			3				3	必　修
		地域・産業保健				2			2	必　修
		死と科学				4			4	必　修
	リサーチマインド	リサーチマインド					4		4	必　修
	データサイエンス	データサイエンス１	1						1	必　修
		データサイエンス２		1					1	必　修
		データサイエンス３					1		1	必　修
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学	1						1	必　修
		医学概論	1						1	必　修
		医学心理学・行動科学	3						3	必　修
		早期体験実習１	0.5						0.5	必　修
		早期体験実習２		0.5					0.5	必　修
		多職種連携論１-医療人マインド	1						1	必　修
		多職種連携論２-医療と専門職		1					1	必　修
		医療プロフェッショナリズム・ケアマインド				2			2	必　修
臨床実習	コア・CC	臨床実習［コア・CC］（特別演習/実習を含む）					33		33	必　修
	アドバンスト・CC	臨床実習［ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC］（特別演習/実習を含む）						19	19	必　修
合　計			43.5	46.5	37.0	19.0	40.0	19.0	212.0	

＊１については「セミナーA」、「セミナーB」のどちらか1単位修得。
＊２については「大学コンソーシアム京都」、「大学コンソーシアム大阪」、「医工薬連環科学遠隔講座」のうち2単位修得。
自由科目は、単位認定は行うが進級・卒業要件単位数には含まれない。

令和5（2023）年度入学者適用

（別表１）

2023. 4. 1現在

教育課程		授業科目	受講学年次及び単位数							必修・選択・自由
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	
総合教育	教養教育	人間科学	2						2	必　修
		情報科学	1						1	必　修
		セミナーA	2						2	必　修＊1
		セミナーB								
		大学コンソーシアム京都・大阪	2						2	必　修＊2
		医工薬連環科学遠隔講座								
		スポーツ健康科学	1						1	必　修
		数理科学	4						4	必　修
		生命誌	1						1	必　修
	国際言語文化	国際言語文化１(英語)	3						3	必　修
		国際言語文化２(独語)	3						3	必　修
		医学英語１		1					1	必　修
		医学英語２			1				1	必　修
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ	1						1	自　由
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ	1						1	自　由
	準備教育	生命科学１(物理学)	4						4	必　修
		生命科学２(化学)	3						3	必　修
		生命科学３(生物学)	3						3	必　修
		生命科学実習	2						2	必　修
		物理学（力学）初歩	1						1	自　由
		基礎物理学	1						1	自　由
		化学通論	1						1	自　由
		生物学入門	1						1	自　由
		人体構造入門コース１（人体発生学）	1						1	必　修
		人体構造入門コース２（細胞組織学）	2						2	必　修
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学）		9					9	必　修
		人体の構造２（組織学）		4					4	必　修
		人体の構造３（神経解剖学）		1					1	必　修
		人体の機能１(分子生物学)		2					2	必　修
		人体の機能２(生理学)		7					7	必　修
		人体の機能３(生化学)		7					7	必　修
		病気の成り立ち１		4					4	必　修
		病気の成り立ち２			1				1	必　修
		薬物療法１		6					6	必　修
		薬物療法２			1				1	必　修
		薬物療法３				1			1	必　修
		病原体・生体防御１		1					1	必　修
		病原体・生体防御２		2					2	必　修
		病原体・生体防御３			4				4	必　修
	臨床医学系	診断学入門			3				3	必　修
		循環器			3				3	必　修
		腎尿路・男性生殖器			1				1	必　修
		女性生殖器・婦人科腫瘍			2				2	必　修
		呼吸器			2				2	必　修
		消化器			2				2	必　修
		血液			1				1	必　修
		内分泌・代謝			2				2	必　修
		アレルギー・免疫			2				2	必　修
		皮膚			1				1	必　修
		運動器			1				1	必　修
		神経			2				2	必　修
		精神・行動			1				1	必　修
		妊娠・出産			1				1	必　修
		成長・発達			1				1	必　修
		思春期・ホルモン			1				1	必　修
		加齢・高齢者			1				1	必　修
		感覚器１(眼科)				1			1	必　修
		頭頸部・感覚器２(耳鼻科)				1			1	必　修
		麻酔				1			1	必　修
		救急				1			1	必　修
		リハビリテーション				1			1	必　修
		放射線治療・放射線障害				1			1	必　修
		腫瘍				1			1	必　修
		感染症				1			1	必　修
		診断学				5			5	必　修
		臨床技能１			1				1	必　修
		臨床技能２				1			1	必　修
	社会医学系	医学・医療と社会Ⅰ			3				3	必　修
		医学・医療と社会Ⅱ			3				3	必　修
		地域・産業保健				2			2	必　修
		死と科学				4			4	必　修
	リサーチマインド	リサーチマインド					4		4	必　修
	データサイエンス	データサイエンス１	1						1	必　修
		データサイエンス２		1					1	必　修
		データサイエンス３					1		1	必　修
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学	1						1	必　修
		医学概論	1						1	必　修
		医学心理学・行動科学	3						3	必　修
		早期体験実習１	0.5						0.5	必　修
		早期体験実習２		0.5					0.5	必　修
		多職種連携論１-医療人マインド	1						1	必　修
		多職種連携論２-医療と専門職		1					1	必　修
		医療プロフェッショナリズム・コア１			2				2	必　修
		医療プロフェッショナリズム・コア２				1			1	必　修
臨床実習	コア･CC	臨床実習[コア･CC](特別演習/実習を含む)					33		33	必　修
	アドバンスト･CC	臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･CC](特別演習/実習を含む)						19	19	必　修
合　計			39.5	46.5	43.0	24.0	38.0	19.0	216.0	

＊１については「セミナーA」、「セミナーB」のどちらか2単位修得。
＊２については「大学コンソーシアム京都」、「大学コンソーシアム大阪」、「医工薬連環科学遠隔講座」のうち2単位修得。
自由科目は、単位認定は行うが進級・卒業要件単位数には含まれない。

令和4（2022）年度入学者適用

（別表１）　　2023.4.1現在

教育課程		授業科目	受講学年次及び単位数							必修・選択・自由
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	
総合教育	一般教養	人間科学	2						2	必　修
		情報科学	0.5						0.5	〃
		セミナー１	2						2	〃
		セミナー２	2						2	〃
		大学コンソーシアム京都・大阪	2						2	必　修＊
		医工薬連環科学遠隔講座								
	準備教育	生命科学１(物理学)	6						6	必　修
		生命科学２(化学)	4						4	〃
		生命科学３(生物学)	4						4	〃
		生命科学１実習(物理学)	1						1	〃
		生命科学２実習(化学)	1						1	〃
		生命科学３実習(生物学)	1						1	〃
		スポーツ健康科学	1						1	〃
		数理科学	6						6	〃
		生命誌	1						1	〃
		人体構造入門コース１（人体発生学）	2						2	〃
		人体構造入門コース２（細胞組織学）	2.5						2.5	〃
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学）		9					9	〃
		人体の構造２（組織学）		4					4	〃
		人体の構造３（神経解剖学）		1					1	〃
		人体の機能１(分子生物学)		2					2	〃
		人体の機能２(生理学)		7					7	〃
		人体の機能３(生化学)		5.5					5.5	〃
		人体の機能２実習(生理学)		0.5					0.5	〃
		人体の機能３実習(生化学)		1					1	〃
		病気の成り立ち１		4					4	〃
		病気の成り立ち２			1				1	〃
		薬物療法１		6.5					6.5	〃
		薬物療法２			1				1	〃
		薬物療法３				1			1	〃
		病原体・生体防御１		1					1	〃
		病原体・生体防御２		2					2	〃
		病原体・生体防御３			4				4	〃
	臨床医学系	診断学入門			3				3	〃
		循環器			3				3	〃
		腎尿路・男性生殖器			1				1	〃
		女性生殖器・婦人科腫瘍			2				2	〃
		呼吸器			2				2	〃
		消化器			2				2	〃
		血液			1				1	〃
		内分泌・代謝			2				2	〃
		アレルギー・免疫			2				2	〃
		皮膚			1				1	〃
		運動器			1				1	〃
		神経			2				2	〃
		精神・行動			1				1	〃
		感覚器１(眼科)				1			1	〃
		頭頸部・感覚器２(耳鼻科)				1			1	〃
		妊娠・出産				1			1	〃
		成長・発達				1			1	〃
		思春期・ホルモン				1			1	〃
		加齢・高齢者				1			1	〃
		麻酔				1			1	〃
		救急				1			1	〃
		リハビリテーション				1			1	〃
		放射線治療・放射線障害				1			1	〃
		腫瘍				1			1	〃
		感染症				1			1	〃
		診断学				5			5	〃
		臨床技能１			1				1	〃
		臨床技能２				1			1	〃
	社会医学系	医学・医療と社会			8				8	〃
		地域・産業保健				2			2	〃
		死と科学				4			4	〃
	国際言語文化	国際言語文化１(英語)	4						4	〃
		国際言語文化２(独語)	4						4	〃
		医学英語１		1					1	〃
		医学英語２			1				1	〃
		医学英語３				0.5			0.5	〃
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ	1						1	自　由
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ	1						1	自　由
	学生研究	学生研究１	1						1	必　修
		学生研究２			4				4	〃
		学生研究３				1			1	〃
	データサイエンス	データサイエンス１	1.5						1.5	〃
		データサイエンス２		1					1	〃
		データサイエンス３					1		1	〃
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学	2						2	〃
		医学概論	1						1	〃
		医学心理学・行動科学	3.5						3.5	〃
		早期体験実習１	0.5						0.5	〃
		早期体験実習２		0.5					0.5	〃
		多職種連携論１-医療人マインド	1						1	〃
		多職種連携論２-医療と専門職		1					1	〃
		医療プロフェッショナリズム・コア１			2				2	〃
		医療プロフェッショナリズム・コア２				1			1	〃
臨床実習	コア・CC	臨床実習［コア・CC］(特別演習/実習を含む)					33		33	〃
	アドバンスト・CC	臨床実習［ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC］(特別演習/実習を含む)						19	19	〃
合　計			54.5	47.0	45.0	29.5	34.0	19.0	231.0	

＊については大学コンソーシアム京都、大学コンソーシアム大阪、医工薬連環科学遠隔講座のうち2単位修得。
自由科目は、単位認定は行うが進級・卒業要件単位数には含まれない。

令和3（2021）年度入学者適用

（別表１）　　2023.4.1現在

教育課程		授業科目	受講学年次及び単位数							必修・選択・自由
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	
総合教育	一般教養	人間科学	2						2	必　修
		情報科学	0.5						0.5	〃
		セミナー１	2						2	〃
		セミナー２	2						2	〃
		大学コンソーシアム京都・大阪	2						2	必　修＊
		医工薬連環科学遠隔講座								
	準備教育	生命科学１(物理学)	6						6	必　修
		生命科学２(化学)	4						4	〃
		生命科学３(生物学)	4						4	〃
		生命科学１実習(物理学)	1						1	〃
		生命科学２実習(化学)	1						1	〃
		生命科学３実習(生物学)	1						1	〃
		スポーツ健康科学	1						1	〃
		数理科学	6						6	〃
		生命誌	1						1	〃
		人体構造入門コース１（人体発生学）	2						2	〃
		人体構造入門コース２（細胞組織学）	2.5						2.5	〃
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学）		9					9	〃
		人体の構造２（組織学）		4					4	〃
		人体の構造３（神経解剖学）		1					1	〃
		人体の機能１(分子生物学)		2					2	〃
		人体の機能２(生理学)		7					7	〃
		人体の機能３(生化学)		5.5					5.5	〃
		人体の機能２実習(生理学)		0.5					0.5	〃
		人体の機能３実習(生化学)		1					1	〃
		病気の成り立ち１		4					4	〃
		病気の成り立ち２			1				1	〃
		薬物療法１		6.5					6.5	〃
		薬物療法２			1				1	〃
		薬物療法３				1			1	〃
		病原体・生体防御１		1					1	〃
		病原体・生体防御２		2					2	〃
		病原体・生体防御３			4				4	〃
	臨床医学系	診断学入門			3				3	〃
		循環器			3				3	〃
		腎尿路・男性生殖器			1				1	〃
		女性生殖器・婦人科腫瘍			2				2	〃
		呼吸器			2				2	〃
		消化器			2				2	〃
		血液			1				1	〃
		内分泌・代謝			2				2	〃
		アレルギー・免疫			2				2	〃
		皮膚			1				1	〃
		運動器			1				1	〃
		神経			2				2	〃
		精神・行動			1				1	〃
		感覚器１(眼科)				1			1	〃
		頭頸部・感覚器２(耳鼻科)				1			1	〃
		妊娠・出産				1			1	〃
		成長・発達				1			1	〃
		思春期・ホルモン				1			1	〃
		加齢・高齢者				1			1	〃
		麻酔				1			1	〃
		救急				1			1	〃
		リハビリテーション				1			1	〃
		放射線治療・放射線障害				1			1	〃
		腫瘍				1			1	〃
		感染症				1			1	〃
		診断学				5			5	〃
		臨床技能１			1				1	〃
		臨床技能２				1			1	〃
	社会医学系	医学・医療と社会			8				8	〃
		地域・産業保健				2			2	〃
		死と科学				4			4	〃
	国際言語文化	国際言語文化１(英語)	4						4	〃
		国際言語文化２(独語)	4						4	〃
		医学英語１		0.5					0.5	〃
		医学英語２			1				1	〃
		医学英語３				0.5			0.5	〃
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ	1						1	自　由
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ	1						1	自　由
	学生研究	学生研究１	1						1	必　修
		学生研究２			4				4	〃
		学生研究３				1			1	〃
	データサイエンス	データサイエンス１	1.5						1.5	〃
		データサイエンス２		1					1	〃
		データサイエンス３					1		1	〃
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学	2						2	〃
		医学概論	1						1	〃
		医学心理学・行動科学	3.5						3.5	〃
		早期体験実習１	0.5						0.5	〃
		早期体験実習２		0.5					0.5	〃
		多職種連携論１-医療人マインド	1						1	〃
		多職種連携論２-医療と専門職		1					1	〃
		医療プロフェッショナリズム・コア１			2				2	〃
		医療プロフェッショナリズム・コア２				1			1	〃
臨床実習	コア・CC	臨床実習［コア・CC］(特別演習/実習を含む)					33		33	〃
	アドバンスト・CC	臨床実習［ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC］(特別演習/実習を含む)						19	19	〃
合　計			54.5	46.5	45.0	29.5	34.0	19.0	230.5	

＊については大学コンソーシアム京都、大学コンソーシアム大阪、医工薬連環科学遠隔講座のうち2単位修得。
自由科目は、単位認定は行うが進級・卒業要件単位数には含まれない。

令和2（2020）年度入学者適用

（別表１）　　2023.4.1現在

教育課程		授業科目	受講学年次及び単位数							必修・選択・自由
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計	
総合教育	一般教養	人間科学	2						2	必　修
		情報科学	0.5						0.5	〃
		セミナー１	2						2	〃
		セミナー２	2						2	〃
		大学コンソーシアム京都・大阪	2						2	必　修＊
		医工薬連環科学遠隔講座								
	準備教育	生命科学１(物理学)	6						6	必　修
		生命科学２(化学)	4						4	〃
		生命科学３(生物学)	4						4	〃
		生命科学１実習(物理学)	1						1	〃
		生命科学２実習(化学)	1						1	〃
		生命科学３実習(生物学)	1						1	〃
		スポーツ健康科学	1						1	〃
		数理科学	6						6	〃
		生命誌	1						1	〃
		人体構造入門コース１（人体発生学）	2						2	〃
		人体構造入門コース２（細胞組織学）	2.5						2.5	〃
専門教育	基礎医学系	人体の構造１（肉眼解剖学）		9					9	〃
		人体の構造２（組織学）		4					4	〃
		人体の構造３（神経解剖学）		1					1	〃
		人体の機能１(分子生物学)		2					2	〃
		人体の機能２(生理学)		7					7	〃
		人体の機能３(生化学)		5.5					5.5	〃
		人体の機能２実習(生理学)		0.5					0.5	〃
		人体の機能３実習(生化学)		1					1	〃
		病気の成り立ち１		4					4	〃
		病気の成り立ち２			1				1	〃
		薬物療法１		6.5					6.5	〃
		薬物療法２			1				1	〃
		薬物療法３				1			1	〃
		病原体・生体防御１		1					1	〃
		病原体・生体防御２		2					2	〃
		病原体・生体防御３			4				4	〃
	臨床医学系	診断学入門			3				3	〃
		循環器			3				3	〃
		腎尿路・男性生殖器			1				1	〃
		女性生殖器・婦人科腫瘍			2				2	〃
		呼吸器			2				2	〃
		消化器			2				2	〃
		血液			1				1	〃
		内分泌・代謝			2				2	〃
		アレルギー・免疫			2				2	〃
		皮膚			1				1	〃
		運動器			1				1	〃
		神経			2				2	〃
		精神・行動			1				1	〃
		感覚器１(眼科)				1			1	〃
		頭頸部・感覚器２(耳鼻科)				1			1	〃
		妊娠・出産				1			1	〃
		成長・発達				1			1	〃
		思春期・ホルモン				1			1	〃
		加齢・高齢者				1			1	〃
		麻酔				1			1	〃
		救急				1			1	〃
		リハビリテーション				1			1	〃
		放射線治療・放射線障害				1			1	〃
		腫瘍				1			1	〃
		感染症				1			1	〃
		診断学				5			5	〃
		臨床技能１			1				1	〃
		臨床技能２				1			1	〃
	社会医学系	医学・医療と社会			8				8	〃
		地域・産業保健				2			2	〃
		死と科学				4			4	〃
	国際言語文化	国際言語文化１(英語)	4						4	〃
		国際言語文化２(独語)	4						4	〃
		医学英語１		0.5					0.5	〃
		医学英語２			0.5				0.5	〃
		医学英語３				0.5			0.5	〃
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ	1						1	自　由
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ	1						1	自　由
	学生研究	学生研究１	1						1	〃
		学生研究２			4.5				4.5	〃
		学生研究３				1			1	〃
	医療プロフェッショナリズム	コミュニケーション学	2						2	〃
		医学概論	1						1	〃
		医学心理学・行動科学	3.5						3.5	〃
		医療人マインド	1						1	〃
		早期体験実習１	0.5						0.5	〃
		早期体験実習２		0.5					0.5	〃
		専門職連携医療論		1					1	〃
		医療プロフェッショナリズム・コア１			2				2	〃
		医療プロフェッショナリズム・コア２				1			1	〃
臨床実習	コア・CC	臨床実習［コア・CC］(特別演習/実習を含む)					33		33	〃
	アドバンスト・CC	臨床実習［ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC］(特別演習/実習を含む)						19	19	〃
合　計			53.0	45.5	45.0	29.5	33.0	19.0	227.0	

＊については大学コンソーシアム京都、大学コンソーシアム大阪、医工薬連環科学遠隔講座のうち2単位修得。
自由科目は、単位認定は行うが進級・卒業要件単位数には含まれない。

（別表２）　研究生等納付金

＜医学部医学科＞

費　目		金　額	摘　要
研究生	指導料（月額）	10,000円	
	研究料（月額）	20,000円 10,000円	卒業生
委託生	指導料（月額）	20,000円	
	研究料（月額）	60,000円以上	金額は研究内容その他を考慮して定める。
聴講生	聴講料（１科目）	10,000円	
科目等履修生	授業料（１科目）	20,000円	
	授業料（１科目）	60,000円	

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">授業科目・統合的な試験と進級・卒業要件</th><th colspan="3">進級・卒業要件外の自由科目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第1学年次</td><td>【授業科目】
人間科学、情報科学、セミナーA、セミナーB、スポーツ健康科学、数理科学、生命誌、国際言語文化１(英語)、国際言語文化２(独語)、生命科学１(物理学)、生命科学２(化学)、生命科学３(生物学)、生命科学実習、人体の構造１（肉眼解剖学)、人体の構造２（神経解剖学)、データサイエンス１、コミュニケーション学、医学概論、医学心理学・行動科学、早期体験実習１、多職種連携論１-医療人マインド</td><td rowspan="7">大学コンソーシアム京都・大阪　医工薬連環科学遠隔講座</td><td rowspan="2">物理学（力学）初歩、基礎物理学、化学通論、生物学入門</td><td rowspan="7">「グローバル・スタディーズ」</td><td rowspan="7">「インタラクティブ・イングリッシュⅠ」「インタラクティブ・イングリッシュⅡ」</td></tr>
<tr><td>【進級要件】「セミナーA」、「セミナーB」のどちらか１単位修得、その他は全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第2学年次</td><td>【授業科目】
医学英語１、人体の構造３（組織学)、人体の構造４（人体発生学)、人体の機能１(分子生物学)、人体の機能２(生理学)、人体の機能３(生化学)、病気の成り立ち１、薬物療法１、病原体・生体防御１、病原体・生体防御２、病原体・生体防御３、診断学入門、データサイエンス２、早期体験実習２、多職種連携論２-医療と専門職</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第3学年次</td><td>【授業科目】
医学英語２、病気の成り立ち２、薬物療法２、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器、消化器、血液、内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚、運動器、神経、精神・行動、妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者、感覚器１(眼科)、頭頸部・感覚器２(耳鼻科)、救急、リハビリテーション、医学・医療と社会Ⅰ、医学・医療と社会Ⅱ
【統合的な試験】
総合試験</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第4学年次</td><td>【授業科目】
薬物療法３、麻酔、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症、診断学、臨床技能、地域・産業保健、死と科学、医療プロフェッショナリズム・ケアマインド、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
共用試験（CBT、Pre-CC OSCE)、総合試験</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第5学年次</td><td>【授業科目】
臨床病理学演習、リサーチマインド、データサイエンス３、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)、臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･CC](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
臨床実習履修評価試験①、②</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第6学年次</td><td>【授業科目】
臨床実習[アドバンスト・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
Post-CC OSCE、卒業試験①、卒業試験②、総合試験、関西公立私立共通試験</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【卒業要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">授業科目・統合的な試験と進級・卒業要件</th><th colspan="2">進級・卒業要件外の自由科目</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第1学年次</td><td>【授業科目】
人間科学、情報科学、セミナーA、セミナーB、スポーツ健康科学、数理科学、生命誌、国際言語文化１(英語)、国際言語文化２(独語) 、生命科学１(物理学)、生命科学２(化学)、生命科学３(生物学)、生命科学実習、人体構造入門コース１ (人体発生学)、人体構造入門コース２ (細胞組織学)、データサイエンス１、コミュニケーション学、医学概論、医学心理学・行動科学、早期体験実習１、多職種連携論-医療人マインド</td><td rowspan="6">大学コンソーシアム京都・大阪　医工薬連環科学遠隔講座</td><td rowspan="2">物理学（力学）初歩、基礎物理学、化学通論、生物学入門</td><td rowspan="9">「インタラクティブ・イングリッシュⅠ」「インタラクティブ・イングリッシュⅡ」</td></tr>
<tr><td>【進級要件】「セミナーA」、「セミナーB」のどちらか２単位修得、その他は全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第2学年次</td><td>【授業科目】
医学英語１、人体の構造１ (肉眼解剖学)、人体の構造２ (組織学)、人体の構造３ (神経解剖学)、人体の機能１(分子生物学)、人体の機能２(生理学)、人体の機能３(生化学)、病気の成り立ち１、薬物療法１、病原体・生体防御１、病原体・生体防御２、データサイエンス２、早期体験実習２、多職種連携論-医療と専門職</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第3学年次</td><td>【授業科目】
医学英語２、病気の成り立ち２、薬物療法２、病原体・生体防御３、診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器、消化器、血液、内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚、運動器、神経、精神・行動、妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者、臨床技能１、医学・医療と社会Ⅰ、医学・医療と社会Ⅱ、医療プロフェッショナリズム・コア１
【統合的な試験】
総合試験</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第4学年次</td><td>【授業科目】
薬物療法３、感覚器１(眼科)、頭頸部・感覚器２(耳鼻科)、麻酔、救急、リハビリテーション、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症、診断学、臨床技能２、地域・産業保健、死と科学、医療プロフェッショナリズム・コア２、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
共用試験 (CBT、PreCC-OSCE)、総合試験</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第5学年次</td><td colspan="2">【授業科目】
リサーチマインド、データサイエンス３、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)、臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･CC](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
臨床実習履修評価試験①、②</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第6学年次</td><td colspan="2">【授業科目】
臨床実習[アドバンスト・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
PostCC-OSCE、卒業試験①、卒業試験②、総合試験、関西公立私立共通試験</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">【卒業要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
</table>

2021年度・2022年度　入学者適用

<table>
<tr><th></th><th>授業科目・統合的な試験と進級・卒業要件</th><th></th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="2">第1学年次</td><td>【授業科目】
人間科学、情報科学、セミナー1～2、生命科学１(物理学)、生命科学２(化学)、生命科学３(生物学)、生命科学１実習(物理学)、生命科学２実習(化学)、生命科学３実習(生物学)、スポーツ健康科学、数理科学、生命誌、人体構造入門コース１（人体発生学)、人体構造入門コース２（細胞組織学)、国際言語文化１(英語)、国際言語文化２(独語）、学生研究１、データサイエンス１、コミュニケーション学、医学概論、医学心理学・行動科学、早期体験実習１、多職種連携論-医療人マインド</td><td rowspan="8">大学コンソーシアム京都・大阪　医工薬連環科学遠隔講座</td><td rowspan="11">「インタラクティブ・イングリッシュⅠ」「インタラクティブ・イングリッシュⅡ」（進級・卒業要件外の自由科目）</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第2学年次</td><td>【授業科目】
人体の構造１（肉眼解剖学)、人体の構造２（組織学)、人体の構造３（神経解剖学)、人体の機能１(分子生物学)、人体の機能２(生理学)、人体の機能３(生化学)、人体の機能２実習(生理学)、人体の機能３実習(生化学)、病気の成り立ち１、薬物療法１、病原体・生体防御１、病原体・生体防御２、医学英語１、データサイエンス２、早期体験実習２、多職種連携論-医療と専門職</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第3学年次</td><td>【授業科目】
病気の成り立ち２、薬物療法２、病原体・生体防御３、診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器、消化器、血液、内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚、運動器、神経、精神・行動、臨床技能１、医学・医療と社会、医学英語２、学生研究２、医療プロフェッショナリズム・コア１
【統合的な試験】
総合試験</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第4学年次</td><td>【授業科目】
薬物療法３、感覚器１(眼科)、頭頸部・感覚器２(耳鼻科)、妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者、麻酔、救急、リハビリテーション、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症、診断学、臨床技能２、地域・産業保健、死と科学、医学英語３、学生研究３、医療プロフェッショナリズム・コア２、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
共用試験（CBT、PreCC-OSCE)、総合試験</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第5学年次</td><td colspan="2">【授業科目】
データサイエンス３、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)、臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･CC](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
臨床実習履修評価試験 ①、②</td></tr>
<tr><td colspan="2">【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第6学年次</td><td colspan="2">【授業科目】
臨床実習[アドバンスト・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
PostCC-OSCE、卒業試験①、卒業試験②、総合試験、関西公立私立共通試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">【卒業要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
</table>

2020 年度入学者適用

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">授業科目・統合的な試験と進級・卒業要件</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="2">第1学年次</td><td>【授業科目】
人間科学、情報科学、セミナー1～2、生命科学１(物理学)、生命科学２(化学)、生命科学３(生物学)、生命科学１実習(物理学)、生命科学２実習(化学)、生命科学３実習(生物学)、スポーツ健康科学、数理科学、生命誌、人体構造入門コース１（人体発生学)、人体構造入門コース２（細胞組織学)、国際言語文化１(英語)、国際言語文化２(独語）、学生研究１、コミュニケーション学、医学概論、医学心理学・行動科学、医療人マインド、早期体験実習１</td><td rowspan="7">大学コンソーシアム京都・大阪　医工薬連環科学遠隔講座</td><td rowspan="7">「インタラクティブ・イングリッシュⅠ」「インタラクティブ・イングリッシュⅡ」（進級・卒業要件外の自由科目）</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第2学年次</td><td>【授業科目】
人体の構造１（肉眼解剖学)、人体の構造２（組織学)、人体の構造３（神経解剖学)、人体の機能１(分子生物学)、人体の機能２(生理学)、人体の機能３(生化学)、人体の機能２実習(生理学)、人体の機能３実習(生化学)、病気の成り立ち１、薬物療法１、病原体・生体防御１、病原体・生体防御２、医学英語１、早期体験実習２、専門職連携医療論</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得。単位未修得者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第3学年次</td><td>【授業科目】
病気の成り立ち２、薬物療法２、病原体・生体防御３、診断学入門、循環器、腎尿路・男性生殖器、女性生殖器・婦人科腫瘍、呼吸器、消化器、血液、内分泌・代謝、アレルギー・免疫、皮膚、運動器、神経、精神・行動、臨床技能１、医学・医療と社会、医学英語２、学生研究２、医療プロフェッショナリズム・コア１
【統合的な試験】
総合試験</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第4学年次</td><td>【授業科目】
薬物療法３、感覚器１(眼科)、頭頸部・感覚器２(耳鼻科)、妊娠・出産、成長・発達、思春期・ホルモン、加齢・高齢者、麻酔、救急、リハビリテーション、放射線治療・放射線障害、腫瘍、感染症、診断学、臨床技能２、地域・産業保健、死と科学、医学英語３、学生研究３、医療プロフェッショナリズム・コア２、臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
共用試験（CBT、PreCC-OSCE)</td></tr>
<tr><td>【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第5学年次</td><td colspan="2">【授業科目】
臨床実習[コア・ＣＣ](特別演習/実習を含む)、臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ･CC](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
臨床実習履修評価試験①、②</td></tr>
<tr><td colspan="2">【進級要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第6学年次</td><td colspan="2">【授業科目】
臨床実習[アドバンスト・ＣＣ](特別演習/実習を含む)
【統合的な試験】
PostCC-OSCE、卒業試験①、卒業試験②、総合試験、関西公立私立共通試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">【卒業要件】全単位修得かつ統合的な試験に合格。単位未修得者または統合的な試験不合格者は原級留置。</td></tr>
</table>

大阪医科薬科大学医学部2025年度開講科目（実務経験教員）一覧

配当学年	科目名	実務経験のある教員による授業*1	必修・選択・自由	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	計
1	人間科学		必　修	1						1
	情報科学		〃	1						1
	セミナーA		必　修*2	1						1
	セミナーB									
	スポーツ健康科学		〃	1						1
	数理科学		〃	4						4
	生命誌	●	〃	1						1
	国際言語文化1(英語)		〃	3						3
	国際言語文化2(独語)		〃	3						3
	生命科学1(物理学)		〃	3						3
	生命科学2(化学)		〃	3						3
	生命科学3(生物学)		〃	3						3
	生命科学実習		〃	2						2
	物理学（力学）初歩		自由	1						1
	基礎物理学		自由	1						1
	化学通論		自由	1						1
	生物学入門		自由	1						1
	人体の構造1(肉眼解剖学)	●	必修	9						9
	人体の構造2(神経解剖学)	●	〃	1						1
	データサイエンス1	●	〃	1						1
	コミュニケーション学	●	〃	1						1
	医学概論	●	〃	1						1
	医学心理学・行動科学	●	〃	3						3
	早期体験実習1	●	〃	0.5						0.5
	多職種連携論1-医療人マインド	●	〃	1						1
2	医学英語1		〃		1					1
	人体の構造3(組織学)	●	〃		6					6
	人体の構造4(人体発生学)	●	〃		1					1
	人体の機能1(分子生物学)		〃		2					2
	人体の機能2(生理学)	●	〃		7					7
	人体の機能3(生化学)		〃		7					7
	病気の成り立ち1	●	〃		4					4
	薬物療法1		〃		6					6
	病原体・生体防御1	●	〃		1					1
	病原体・生体防御2	●	〃		2					2
	病原体・生体防御3	●	〃		4					4
	診断学入門	●	〃		3					3
	データサイエンス2	●	〃		1					1
	早期体験実習2	●	〃		0.5					0.5
	多職種連携論2-医療と専門職	●	〃		1					1
3	医学英語2		〃			1				1
	病気の成り立ち2	●	〃			1				1
	薬物療法2		〃			1				1
	病原体・生体防御3	●	〃			4				4
	診断学入門	●	〃			3				3
	循環器	●	〃			3				3
	腎尿路・男性生殖器	●	〃			1				1
	女性生殖器・婦人科腫瘍	●	〃			2				2
	呼吸器	●	〃			2				2
	消化器	●	〃			2				2
	血液	●	〃			1				1
	内分泌・代謝	●	〃			2				2
	アレルギー・免疫	●	〃			2				2
	皮膚	●	〃			1				1
	運動器	●	〃			1				1
	神経	●	〃			2				2
	精神・行動	●	〃			1				1
	妊娠・出産	●	〃			1				1
	成長・発達	●	〃			1				1
	思春期・ホルモン	●	〃			1				1
	加齢・高齢者	●	〃			1				1
	臨床技能1	●	〃			1				1
	医学・医療と社会Ⅰ	●	〃			3				3
	医学・医療と社会Ⅱ	●	〃			3				3
	医療プロフェッショナリズム・コア1	●	〃			2				2
4（2025年4月～2025年12月）	薬物療法3		〃				1			1
	感覚器1（眼科）	●	〃				1			1
	頭頸部・感覚器2(耳鼻科)	●	〃				1			1
	妊娠・出産	●	〃				1			1
	成長・発達	●	〃				1			1
	思春期・ホルモン	●	〃				1			1
	加齢・高齢者	●	〃				1			1
	麻酔	●	〃				1			1
	救急	●	〃				1			1
	リハビリテーション	●	〃				1			1
	放射線治療・放射線障害	●	〃				1			1
	腫瘍	●	〃				1			1
	感染症	●	〃				1			1
	診断学	●	〃				5			5
	臨床技能2	●	〃				1			1
	地域・産業保健	●	〃				2			2
	死と科学	●	〃				4			4
	医学英語3		〃				0.5			0.5
	学生研究3	●	〃				1			1
	医療プロフェッショナリズム・コア2	●	〃				1			1
5	データサイエンス3		〃					1		1
	臨床実習[コア・CC](特別演習/実習を含む)	●	〃					33		33
6	臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC](特別演習/実習を含む)	●	〃						19	19
1・2	グローバル・スタディーズ		自由	1						1
1・4	医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都*3	●	必修		2					2
1・5・6	インタラクティブ・イングリッシュⅠ		自由			1				1
	インタラクティブ・イングリッシュⅡ		自由			1				1
合　計（自由科目を除く）				43.5	46.5	43.0	29.5	34.0	19.0	215.5

＊上記第4年生は2025年12月に進級判定し、2026年1月～2026年12月まで5年生として下記を履修する

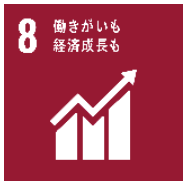
臨床実習[コア・CC](特別演習/実習を含む)	●						33	

＊上記第5年生は2026年1月に進級判定し、2026年1月～2026年6月まで6年生として下記を履修する

臨床実習[ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ・CC](特別演習/実習を含む)	●							19

*1 実務経験のある教員による授業科目…下記のいずれかに当てはまる科目
・医師として概ね5年以上の実務経験を有する教員が、その経験を十分に授業に活かしつつ実践的教育を行っている授業
・オムニバス形式で多様な企業、研究機関、将来連携・協働が見込まれる領域（多職種連携）等から講師を招き実施している授業
・臨床実習などを主として実践的医学教育から構成される授業
*2「セミナーA」、「セミナーB」のどちらか1単位修得。
*3「大学コンソーシアム京都」、「大学コンソーシアム大阪」、「医工薬連環科学遠隔講座」のうち2単位修得。

SDGSと学習アウトカム（国際連合広報センターサイトより）	
	目標 1 貧困をなくそう 目標 1 あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ 世界の貧困率は 2000 年以来、半分以下に低下したものの、開発途上地域では今でも 10 人に 1 人が、1 日1ドル 90 セントという国際貧困ライン未満で家族と暮らしています。また、さらに数百万人が、毎日この金額とほぼ変わらない水準で生活しています。東アジアと東南アジアの多くの国では、大幅な前進が見られているものの、サハラ以南アフリカでは依然として、この貧困ライン未満で暮らす人々の割合が 42%にも達しています。 貧困とは、単に持続可能な生計を確保するための所得と資源がないことではありません。貧困は飢餓や栄養不良、教育その他基本的サービスへのアクセスの制約、社会的差別と排除、さらには意思決定への不参加など、数多くの形を取って表れます。 経済成長を包摂的なものとすることで、持続可能な雇用を提供し、平等を促進しなければなりません。社会保障制度を導入し、災害が多い国での被害の軽減に役立てるとともに、大きな経済的リスクに対する支援を提供する必要があります。こうした制度は、災害時に予期せぬ経済的損失に見舞われた人々による対応の強化に資するほか、最終的には最貧地域で極度の貧困に終止符を打つことにも役立つでしょう。
	目標 2 飢餓をゼロに 私たちが食料の生産、共有、消費の方法を考え直す時が来ています。農林水産業は適切に機能すれば、すべての人に栄養豊富な食料を提供し、適正な所得を創出しつつ、人間中心の農村開発を支え、環境を守ることができます。 現状を見ると、私たちの土壌や淡水、海洋、森林、そして生物多様性は急激に劣化しています。気候変動は、私たちが依存する資源をさらに圧迫し、干ばつや洪水などの災害に関連するリスクを高めています。農村で暮らす多くの女性と男性は、その土地で生計を立てられなくなり、機会を求めて都市への移住を余儀なくされています。また、食料不安の結果、数百万人の子どもが深刻な栄養不良による発育不全や低身長症に陥っています。 現時点で空腹を抱える 8 億 1,500 万人に加え、さらに 2050 年までに増加が見込まれる 20 億人に食料を確保するためには、グローバルな食料と農業のシステムを根本的に変える必要があります。農業生産性を高める能力の強化には、農業への投資が欠かせないほか、飢餓の危険の緩和に資する持続可能な食料生産システムも必要です。
	目標 3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進することは、持続可能な開発に欠かせません。 平均寿命を延ばし、母子の死亡と関連づけられている一般的な死因のいくつかを減らすという点では、長足の進歩が見られています。しかし、2030 年までに生児出生 10 万人当たり 70 人未満という産婦死亡率のターゲットを達成するためには、熟練した分娩医療の改善が必要となります。 また、2030 年までに非伝染性疾病による早死を 3 分の 1 減らすというターゲットを達成するためには、調理に際するクリーン燃料使用に向けたさらに効率の高い技術と、たばこのリスクに関する教育も必要になるでしょう。 幅広い疾病を全面的に根絶させ、新旧の多種多様な健康問題に取り組むためには、さらに多くの取り組みが必要とされています。保険制度のより効率的な財源確保、衛生施設と衛生状態の改善、医療へのアクセス拡大、環境汚染の削減方法に関するより多くのヒントの提供に注力することで、数百万人の命を救うための支援を大幅に前進させることができます。
	目標 4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する 質の高い教育機会を得ることは、持続可能な開発を生み出すための基盤です。包摂的な教育へのアクセスは、生活の質を改善するだけでなく、世界の最も大きな課題に対する革新的な解決策を考案するために必要なツールを各地の人々に与えることにも役立ちます。 学校に通えていない子どもは現在 2 億 6,500 万人に上りますが、そのうち 22%は小学校就学年齢の子どもたちです。また、学校に通えている子どもでも、基本的な識字・算術能力が欠けています。過去 10 年間で、あらゆるレベルの教育へのアクセス改善と、特に女性と女児の就学率向上に向け、大きな前進が達成されました。基本的な読み書きの能力は大幅に向上しましたが、普遍的な教育目標を達成するためには、さらに長足の進歩が必要です。例えば、世界は初等教育で男女の平等を達成しましたが、すべての教育レベルでこのターゲットを達成した国はほとんどありません。 質の高い教育が欠けている理由としては、十分な訓練を受けた教員の不足、校舎の劣悪な状況、農村部の子どもに提供される機会に関連する公平性の問題が挙げられます。貧困家庭の子どもに質の高い教育を提供するためには、奨学金制度や教員養成ワークショップ、校舎の建設、学校への水道と電力の供給改善に投資する必要があります。
【学習アウトカム】	

	目標 5 ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る 世界は「ミレニアム開発目標（MDGs）」（初等教育への男女平等のアクセスを含む）のもとで、ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントを前進させましたが、女性と女児は依然として、世界各地で差別と暴力に苦しんでいます。 ジェンダーの平等は基本的人権であるだけでなく、平和かつ豊かで持続可能な世界に必要な基盤でもあります。残念ながら現時点で、15 歳から 49 歳の女性と女児の 5 人に 1 人は、最近の 12 カ月以内に親密なパートナーから身体的または性的な暴力を受けたと報告していますが、今でも 49 カ国には女性を家庭内暴力から守る法律がありません。児童婚や、最近の 10 年間で 30%減少した女性器切除術（FGM）など、有害な慣行については前進が見られるものの、このような慣行を全廃させるためには、さらに多くの取り組みが必要となります。 女性と女児に教育や医療、ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）への平等なアクセスを提供し、政治的・経済的意志決定プロセスへの参画を可能にすれば、持続可能な経済が促進され、社会と人類全体に利益が及ぶことでしょう。職場での男女平等と、女性に対する有害な慣行の根絶に関し、新たな法的枠組みを導入することは、全世界の多くの国で広く見られるジェンダーに基づく差別に終止符を打つうえで欠かせません。
	目標 6 すべての人々に水と衛生へのアクセスを確保する すべての人々がきれいな水を利用できるようにすることは、私たちが暮らしたいと望む世界に欠かせない要素で、地球上にはそれを達成するために十分な淡水があります。しかし、劣悪な経済情勢やインフラの不備により、数百万人が不適切な給水、衛生施設、衛生状態に関連する病気で命を落としています。 水不足や水質の悪化、不適切な衛生施設は、全世界の貧困家庭における食料の安定確保や生活手段の選択、教育機会に悪影響を及ぼしています。現時点で、淡水資源へのアクセス縮小のリスクを抱えて暮らす人々は、20 億人を超えており、2050 年までに少なくとも 4 人に 1 人が、慢性的または反復的な水不足状態にある国に暮らすことになると見られます。特に世界の最貧国の一部を襲っている干ばつは、飢餓と栄養不良を悪化させています。幸いなことに、過去 10 年間には、飲料水源と衛生施設に関する大きな前進が見られており、現在では世界人口の 90%を超える人々が、改良飲料水源を利用できるようになっています。 衛生施設と飲料水へのアクセスを改善するためには、サハラ以南アフリカ、中央アジア、南アジア、東アジア、東南アジアの開発途上数カ国のローカル・レベルで、陸水生態系と衛生施設の管理に対する投資を増額する必要があります。
	目標 7 手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する エネルギーは、世界がいま直面している主な課題と機会のほとんどすべてで中心的な位置を占めています。 雇用であれ、安全保障であれ、気候変動であれ、食料生産であれ、所得の増大であれ、すべての人がエネルギーを利用可能にすることは必須です。この目標はその他の持続可能な開発目標とも相互に結び付いているため、その達成に向けた取り組みは特に重要となります。エネルギーへの普遍的アクセス、エネルギー効率の改善、新たな経済と雇用の機会を通じた再生可能エネルギーの利用拡大に注力することは、より持続可能で包摂的なコミュニティーをつくり、気候変動をはじめとする環境問題に対するレジリエンスを高めるうえで欠かせません。 現時点で、およそ 30 億人がクリーンな調理法を利用できず、危険なレベルの空気汚染にさらされています。 また、電力を利用できない人々も 10 億人弱に上りますが、その 50%はサハラ以南アフリカで暮らしています。 幸いなことに、過去 10 年間には水力、太陽光、風力による再生可能電力の利用について前進が見られており、GDP1 単位当たりエネルギー使用量も改善しています。 しかし、課題の解決には程遠いため、クリーン燃料とクリーン技術へのアクセスを拡大するとともに、建物や輸送、産業における最終用途への再生可能エネルギーの統合をさらに前進させる必要があります。官民のエネルギー投資も増額する必要があるほか、世界のエネルギー・システムを転換するための規制枠組みや革新的ビジネスモデルにさらに注力することも必要です。
	**目標 8 すべての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進する** 世界人口のおよそ半数は、1 日当たり約 2 ドル相当の金額で暮らしていますが、世界全体の失業率は 5.7%であり、仕事があっても貧困から逃れられない状況が多くの場所で生じています。この遅々とした不公平な前進は私たちに対し、貧困根絶を目指すそれぞれの経済・社会政策を再考、刷新することを求めています。 ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の機会が継続的に欠如した状態や不十分な投資、過少消費は、すべての人々が前進を共有しなければならないという、民主主義的社会を下支えする基本的な社会契約の衰退をもたらします。世界全体の 1 人当たり実質 GDP の年平均成長率は対前年で上昇しているものの、開発途上地域には依然として、成長が減速し、2030 年の 7%という成長ターゲットから遠ざかっている国が多くあります。労働生産性が低下し、失業率が上昇する中、賃金の低下によって生活水準も悪化を始めています。 持続可能な経済成長を遂げるためには、経済を刺激し、かつ、環境に害を及ぼさない質の高い仕事に人々が就ける条件を整備することが必要になります。雇用機会とディーセントな雇用環境は、現役世代の人々すべてにとって重要です。所得を管理し、資産を蓄積し、生産的な投資を行うためには、金融サービスへのアクセスを拡大する必要があります。世界の最貧地域では、貿易や金融、農業インフラ整備へのコミットメントを強化することも、生産性の向上と失業の減少に役立つでしょう。

	目標 9 レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る 輸送や灌漑、エネルギー、情報通信技術といったインフラへの投資は、多くの国で持続可能な開発を達成し、コミュニティーのエンパワーメントを図るうえで欠かせません。生産性と所得の向上や、健康・教育面での成果改善にインフラへの投資が必要なことは、以前から認識されています。 製造業は経済開発と雇用の重要な牽引役です。しかし現時点で、製造業の 1 人当たり付加価値は欧米の4,500米ドルに対し、後発開発途上国ではわずか 100 米ドルに止まっています。検討すべきもう一つの重要要因として、製造工程中の二酸化炭素排出が挙げられます。排出量は過去 10 年間に多くの国で減少しましたが、減少のペースは全世界で一様ではありません。 技術の進歩は、資源効率と省エネの向上をはじめとする環境目標の達成に向けた取り組みの基盤となります。 技術とイノベーションがなければ、産業化は起こり得ず、産業化がなければ開発も実現しません。製造業の生産で大きな割合を占めるハイテク製品への投資を拡大し、効率を高めるとともに、人々のつながりを増やす移動・携帯通信サービスに注力する必要があります。
	目標 10 国内および国家間の不平等を是正する 国際社会は、人々の貧困脱出に向け、長足の進歩を遂げてきました。後発開発途上国、内陸開発途上国、小島嶼開発途上国など、最も脆弱な国々は引き続き、貧困の削減を進めています。しかし、不平等は根強く残り、保健や教育サービス、その他の資産へのアクセスという点では、大きな格差がなくなっていません。 経済成長が包摂的でなく、経済、社会、環境という持続可能な開発の 3 つの側面に波及しなければ、貧困を削減するには不十分だというコンセンサスができ上がりつつあります。幸いなことに、所得の不平等は国家間でも、国内でも縮小しています。現時点で、データが入手できる 94 カ国のうち 60 カ国の 1 人当たり所得は、国別平均を上回る伸びを示しています。後発開発途上国からの輸出品に有利なアクセス条件を設けることについても、ある程度の前進が見られます。 不平等を是正するためには、原則的に社会的弱者や疎外された人々のニーズに配慮しつつ、普遍的な政策を採用すべきです。国際通貨基金（IMF）で開発途上国が投じる票の割合を増やすことに加え、開発途上国からの輸出品に対する免税措置を広げ、優遇を続ける必要があります。最後に、技術革新は、移民労働者の送金コスト削減に資する可能性があります。
	目標 11 都市を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする 都市はアイディアや商取引、文化、科学、生産性、社会開発など、数多くの活動で拠点となります。都市の最もよい点は、人々の社会的、経済的な前進を可能にすることです。2030 年までに、都市住民の数は 50 億人に増えると予測される中で、都市化がもたらす課題に対処するため、効率的な都市計画・管理実践の導入が重要となっています。 雇用と豊かさを生み出しながら、土地や資源に負担をかけないように都市を維持するためには、多くの課題が存在します。共通に見られる都市問題としては、過密、基本的サービスを提供するための資金欠如、適切な住宅の不足、インフラの劣化、都市内部の大気汚染の悪化が挙げられます。 都市内部の固形廃棄物の安全な除去と管理など、急速な都市化がもたらす課題は、都市の繁栄と成長を継続しながら、資源利用を改善し、汚染と貧困を削減できる方法で克服できます。その一例として、都市ごみ収集の増大が挙げられます。都市が基本的サービスやエネルギー、住宅、交通機関その他へのアクセスを確保し、すべての人に機会を提供できる未来をつくる必要があります。
	目標 12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する 持続可能な消費と生産とは、資源効率と省エネの促進、持続可能なインフラの整備、そして、基本的サービスと、環境に優しく働きがいのある人間らしい仕事の提供、すべての人々の生活の質的改善を意味します。 その実現は、全般的な開発計画を達成し、将来の経済、環境、社会へのコストを低下させ、経済的競争力を高め、貧困を削減することに役立ちます。 現時点では、特に東アジアで天然資源の物的消費が増えています。各国は大気や水質、土壌の汚染に関する課題に引き続き取り組んでいます。 持続可能な消費と生産は「より少ないものでより多く、よりよく」を目指しているため、経済活動による正味の福 祉向上は、ライフサイクル全体を通じて資源の利用、劣化および汚染を減らす一方で、生活の質を高めることによって促進できます。また、生産者から最終消費者まで、あらゆる人を巻き込みながら、サプライチェーンの運用を大いに重視する必要もあります。その中には、持続可能な消費とライフスタイルについて消費者を教育すること、基準やラベルを通じて十分な情報を提供すること、持続可能な公的調達に参画することなども含まれます。

	目標 13 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る 気候変動は、あらゆる大陸のあらゆる国に影響を与えています。気候変動は国家経済を混乱させ、生活に影響を与えることで、人々やコミュニティー、国々に莫大なコストを及ぼしています。その影響は現在よりも将来において、さらに大きくなっていきます。気象パターンは変化し、海面は上昇し、異常気象はますます激しくなり、温室効果ガスの排出量は現在、史上最高水準に達しています。対策を取らなければ、世界の平均気温は 21 世紀全体を通じて上昇し続け、その上昇幅は今世紀中に摂氏 3 度に達する公算が高くなっています。最も大きな影響を受けているのは、最貧層と最も脆弱な立場にある人々です。 よりクリーンでレジリエント（強靭）な経済へと一気に歩を進められる手ごろで普及可能な解決策は、すでに利用できるようになっています。再生可能エネルギーを利用したり、排出量を削減し、適応への取り組みに資するその他幅広い措置を採用したりする人々が増える中で、変革のペースも速まってきます。しかし、気候変動は国境に関係のないグローバルな課題です。気候変動は、国際レベルでの調整を要する解決策と、開発途上国の低炭素経済への移行を支援するための国際協力をともに必要とする問題なのです。 気候変動の脅威へのグローバルな対応を強化するため、各国はパリで開かれた国連気候変動枠組条約第21 回締約国会議（COP 21）でパリ協定を採択しましたが、この協定は 2016 年 11 月に発効しています。すべての国はパリ協定で、地球の気温上昇を摂氏 2 度未満に抑えるよう努めることで合意しました。2018 年 4月現在、175 の締約国がパリ協定を批准していますが、気候変動対策のための第 1 回国内適応計画を提出した開発途上国も 10 カ国に上ります。
	目標 14 海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する 世界の海洋は、その温度、科学的性質、海流、生物を通じ、地球を人間が住める場所にしているグローバル・システムの原動力となっています。私たちの雨水、飲料水、気象、気候、海岸線、私たちの食物の多く、さらには私たちが吸い込む大気中の酸素でさえ、究極的にはすべて、海が提供、制御しています。海洋は有史以来、交易と輸送に欠かせないルートとなってきました。 この不可欠なグローバル資源を慎重に管理することは、持続可能な未来への鍵を握っています。しかし現時点では、汚染による沿岸水域の劣化が続いているほか、海洋の酸性化は、生態系と生物多様性の機能に悪い影響を与えています。これによって、小規模漁業にも悪影響が及んでいます。 海洋保護区を実効的に管理し、しっかりと資金を供給する必要があるほか、乱獲や海洋汚染、海洋の酸性化を抑えるための規制の導入も必要となっています。
	目標 15 森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る 地球の表面積の 30.7%を覆う森林は、食料の安定確保と住処の提供のほか、気候変動との闘いや、生物多様性と先住民の居住地の保護にも鍵を握る役割を果たします。私たちは森林を保護することにより、天然資源の管理を強化し、土地生産性を高めることもできます。 現在、毎年 1,300 万ヘクタールの森林が失われる一方で、乾燥地の劣化が続いていることにより 36 億ヘクタールが砂漠化しています。現時点で保護対象となっている陸地は、全体の 15%程度にまで達していますが、生物多様性は依然としてリスクにさらされています。人間の活動と気候変動に起因する森林破壊と砂漠化は、持続可能な開発に大きな課題を突き付けるとともに、貧困と闘う人々の生活と生計に影響を及ぼしています。 森林管理と砂漠化対策の取り組みが進められているところです。現在のところ、公平な資源利用を推進する 2 件の国際協定が実施に移されています。生物多様性を支援する財政投資も行われています。
	目標 16 公正、平和かつ包摂的な社会を推進する 持続可能な開発に向け、平和で包摂的な社会を推進するためには、国際的な殺人、子どもに対する暴力、人身取引や性的暴力の脅威に取り組むことが重要です。こうした取り組みは、すべての人に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルで実効的で責任ある制度を構築するための下支えとなるからです。 殺人や人身取引への取り組みについては、過去10年間で大きな進展が見られたものの、ラテンアメリカやサハラ以南アフリカ、そしてアジア全域では、依然として数千人が故意の殺人の犠牲となる大きなリスクを抱えています。暴行や性的暴力による子どもの権利の侵害は、特に過少報告やデータの欠如が問題を悪化させる中で、全世界の多くの国を蝕み続けています。 こうした課題に取り組み、より平和で包摂的な社会を構築するためには、さらに効率的で透明な規制と、包括的かつ現実的な政府予算を導入する必要があります。個人の権利保護に向けた第一歩なるのは、全世界で出生届を導入し、各国により独立性の高い人権機関を設けることです。
	目標 17 持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化する 持続可能な開発アジェンダを成功に導くためには、各国政府と民間セクター、市民社会のパートナーシップが必要です。原則と価値観、共有のビジョン、そして人間と地球を中心に据えた共有の目標に基づく包摂的なパートナーシップが、グローバル、地域、国内、地方の各レベルで必要とされています。 数兆ドルに上る民間資金の変革力を持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて動員、活用、解放するための緊急行動が必要です。外国直接投資を含む長期投資は、特に開発途上国の主力部門で必要とされています。具体的な分野としては、持続可能なエネルギー、インフラと輸送のほか、情報通信技術（ICT）が挙げられます。公共セクターは明確な方向性を定める必要があるでしょう。審査や監視の枠組み、規制、このような投資を可能にする誘因構造を改革することで、投資を誘い、持続可能な開発を補強しなければなりません。最高会計検査機関など国内の監督メカニズムや、立法府による監督機能を強化すべきです。

大阪医科薬科大学医学部2025年度開講科目一覧

配当学年	科目名	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界に	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
1	人間科学 文学入門				●													
1	人間科学 宗教学												●			●	●	
1	人間科学 哲学					●											●	
1	情報科学									●								
1	セミナーA 共同探求の方法としての哲学を学ぶ																●	
1	セミナーA 法学の世界を覗く																●	
1	セミナーA 医療における「日本」的特色を知る			●														
1	セミナーA 「宗教」を考える				●													
1	セミナーA 個人と社会	●			●	●			●		●						●	●
1	セミナーA 英語コーパスを使った言語分析				●													
1	セミナーA 遺伝子									●						●		●
1	セミナーA 市民が目にする現代医療				●													
1	セミナーA 生命科学の現状	●	●	●		●	●	●						●	●	●		
1	セミナーA 薬用植物から学ぶ生物学													●		●		
1	セミナーB 共同探求の方法としての哲学を学ぶ																●	
1	セミナーB 法学の世界を覗く																●	
1	セミナーB 医療における「日本」的特色を知る			●														
1	セミナーB 「宗教」を考える				●													
1	セミナーB カフカの『変身』を読む				●													
1	セミナーB アカデミックプレゼンテーションの基礎				●													
1	セミナーB 魚類の進化生物学														●	●		
1	セミナーB 細胞の環境応答				●													
1	セミナーB タンパク質の科学									●								
1	セミナーB 理科系作文・議論の基礎技術	●			●								●					
1	セミナーB 質問紙調査方法について学ぶ				●													
1	スポーツ健康科学				●													
1	数理科学				●													
1	生命誌			●										●	●	●		
1	国際言語文化1(英語)				●													
1	国際言語文化2(独語)				●													
1	生命科学1(物理学)							●										
1	生命科学2(化学)			●				●					●	●				
1	生命科学3(生物学)							●					●	●	●	●		
1	生命科学実習						●	●		●			●		●	●		
1	物理学（力学）初歩							●										
1	基礎物理学							●										
1	化学通論			●				●					●	●				
1	生物学入門							●							●	●		
1	人体の構造1(肉眼解剖学)			●														
1	人体の構造2(神経解剖学)			●														
1	データサイエンス1	●	●		●		●		●		●		●				●	●
1	コミュニケーション学					●												
1	医学概論			●						●	●							
1	医学心理学・行動科学	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●				●	●
1	早期体験実習1				●													
1	多職種連携論1-医療人マインド				●												●	
2	医学英語1				●													
2	人体の構造3(組織学)																	
2	人体の構造4(人体発生学)			●														
2	人体の機能1(分子生物学)									●			●			●		
2	人体の機能2(生理学)			●	●													
2	人体の機能3(生化学)		●	●														
2	病気の成り立ち1			●														
2	薬物療法1				●													
2	病原体・生体防御1			●	●													
2	病原体・生体防御2			●	●			●										
2	病原体・生体防御3	●		●	●	●	●				●	●		●		●		
2	診断学入門			●	●													
2	データサイエンス2	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●		●	●	●	●
2	早期体験実習2				●													
2	多職種連携論2-医療と専門職				●												●	
3	医学英語2				●													
3	病気の成り立ち2			●														
3	薬物療法2			●														
3	病原体・生体防御3	●		●	●	●	●				●	●		●		●		
3	診断学入門			●	●													
3	循環器				●													
3	腎尿路・男性生殖器				●													
3	女性生殖器・婦人科腫瘍				●													
3	呼吸器			●														
3	消化器				●													
3	血液		●				●				●				●			
3	内分泌・代謝			●														
3	アレルギー・免疫				●													
3	皮膚	●	●	●	●				●				●	●			●	●
3	運動器				●													
3	神経			●	●													
3	精神・行動	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	妊娠・出産			●														
3	成長・発達			●														
3	思春期・ホルモン			●														
3	加齢・高齢者	●		●					●									
3	臨床技能1				●													
3	医学・医療と社会Ⅰ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	医学・医療と社会Ⅱ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
3	医療プロフェッショナリズム・コア1			●	●												●	●
4（2025年4月～2025年12月）	薬物療法3			●														
4（2025年4月～2025年12月）	感覚器1（眼科）				●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●
4（2025年4月～2025年12月）	頭頸部・感覚器2(耳鼻科)			●	●													
4（2025年4月～2025年12月）	妊娠・出産			●														
4（2025年4月～2025年12月）	成長・発達			●														
4（2025年4月～2025年12月）	思春期・ホルモン			●														
4（2025年4月～2025年12月）	加齢・高齢者	●		●					●									
4（2025年4月～2025年12月）	麻酔			●														
4（2025年4月～2025年12月）	救急	●		●	●													
4（2025年4月～2025年12月）	リハビリテーション				●													
4（2025年4月～2025年12月）	放射線治療・放射線障害			●														
4（2025年4月～2025年12月）	腫瘍			●	●				●	●		●					●	●
4（2025年4月～2025年12月）	感染症			●		●					●							
4（2025年4月～2025年12月）	診断学				●													
4（2025年4月～2025年12月）	臨床技能2				●													
4（2025年4月～2025年12月）	地域・産業保健			●	●	●		●	●			●	●	●			●	
4（2025年4月～2025年12月）	死と科学			●							●						●	
4（2025年4月～2025年12月）	医学英語3				●													
4（2025年4月～2025年12月）	学生研究3			●	●													
4（2025年4月～2025年12月）	医療プロフェッショナリズム・コア2			●	●													
5	データサイエンス3	●		●	●	●					●	●						●
5	臨床実習[コア・CC](特別演習/実習を含む)			●	●													
6	臨床実習[アドバンスト・CC](特別演習/実習を含む)			●	●													
1～2	グローバル・スタディーズ			●							●						●	●
1～4	医工薬連環科学遠隔講座／コンソーシアム大阪・京都			●	●				●	●		●	●					●
1～5	インタラクティブ・イングリッシュⅠ			●	●						●							
1～6	インタラクティブ・イングリッシュⅡ			●	●						●							